

坂出市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 結果報告書

**令和8年8月
坂出市 かいご課**

目次

I	調査概要	1
1	調査目的	1
2	調査設計	1
3	報告書の見方	1
4	評価項目の判定について	1
II	回答者の属性	2
1	性別	2
2	年齢構成	2
3	日常生活圏域	3
4	記入者	3
III	調査結果	4
1	家族や生活状況について	4
	(1) 家族構成について	4
	(2) 介護・介助の状況について	7
	(3) 現在の経済状況	11
	(4) 現在の住まいについて	12
2	からだを動かすことについて	13
	(1) 運動器の機能について	13
	(2) 転倒について	14
	(3) 閉じこもり傾向について	15
3	食えることについて	20
	(1) BMI 算出	20
	(2) 口腔機能について	21
	(3) 体重減少について	24
	(4) 孤食の状況について	24
4	毎日の生活について	25
	(1) 認知機能について	25
	(2) < I A D L : 手段的日常生活動作 > について (老研式活動能力指標)	28
	(3) < 知的能動性 > について (老研式活動能力指標)	30
	(4) 社会的活動について	31
	(5) 趣味・生きがいについて	33
5	地域での活動について	36
	(1) 社会参加の状況	36
	(2) 地域づくりへの参加意向	44

6 就労について	46
(1) 就労状態について	46
7 たすけあいについて	47
(1) 心配事や愚痴（ぐち）について.....	47
(2) 看病や世話について	49
(3) 家族や友人・知人以外の相談相手.....	51
(4) 友人・知人との関係性.....	52
8 健康について	54
(1) 主観的健康感	54
(2) 主観的幸福感	54
(3) うつ傾向について	55
(4) 飲酒の習慣	56
(5) 喫煙の習慣	56
(6) 現在治療中、後遺症のある病気について.....	57
(7) 健康診断や医療機関の受診について.....	58
9 健康意識について	59
(1) 健康意識について	59
(2) 健康維持、健康投資について.....	61
10 認知症にかかる相談窓口の把握について	66
(1) 認知症の症状の有無について.....	66
(2) 認知症に関する相談窓口について.....	66
11 在宅医療・介護について	68
(1) 治療・ケアに関することについて.....	68
12 介護・福祉サービスについて	69
(1) 介護予防について	69
(2) 将来の住まいと介護サービスの利用について.....	72
(3) 高齢化社会において重要な方策.....	73
IV 前回調査との比較.....	74
1 家族や生活状況について	74
2 からだを動かすことについて.....	81
3 食べることにについて	95
4 毎日の生活について	105
5 地域での活動について.....	123
6 たすけあいについて	129
7 健康について	137
8 認知症にかかる相談窓口の把握について	145
9 在宅医療・介護について	149
10 介護・福祉サービスについて	151

V	生活機能評価等に関する分析	156
1	機能別リスク該当者割合の分析	156
	(1) 運動器の機能低下	157
	(2) 転倒リスク	159
	(3) 閉じこもり傾向	161
	(4) 低栄養状態	163
	(5) 口腔機能低下	165
	(6) 認知機能低下	167
	(7) うつ傾向	169
2	日常生活・社会参加	171
	(1) IADL－手段的日常生活動作.....	172
	(2) 知的能動性	174

I 調査概要

I 調査目的

本調査は「第10期坂出市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」の策定に向けて、高齢者の皆さまの日頃の生活や介護の状況などを把握し、基礎資料とするために実施するものです。

2 調査設計

- (1) 調査対象 65歳以上の坂出市在住の高齢者より無作為抽出（要介護1～5以外のかた）
- (2) 実施期間 令和8年2月13日～3月13日
- (3) 調査方法 郵送による配布・回収
- (4) 配布・回収状況

	配布数	有効回収数	有効回答率
一般高齢者・事業対象者	2,500	1,860	74.4%
要支援認定者	1,000	720	72.0%

3 報告書の見方

- (1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示し、各比率はすべてを100%として百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのために、百分率の合計が100%にならないことがあります。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は調査数を上回ることがあります。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。
- (4) クロス集計等での件数(母数)の少ない集計結果についても、参考までに記載しています。
- (5) 0%については表示を省略している場合があります。
- (6) 一般高齢者とは、「総合事業対象者」、「要支援1・2」に該当しないかたのことをいいます。

4 評価項目の判定について

評価項目別の判定結果については、国が配布した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」実施の手引き、及び老研式活動能力指標に基づき集計したものです。

各種リスク判定の「非該当」には判定不能の場合も含まれます。

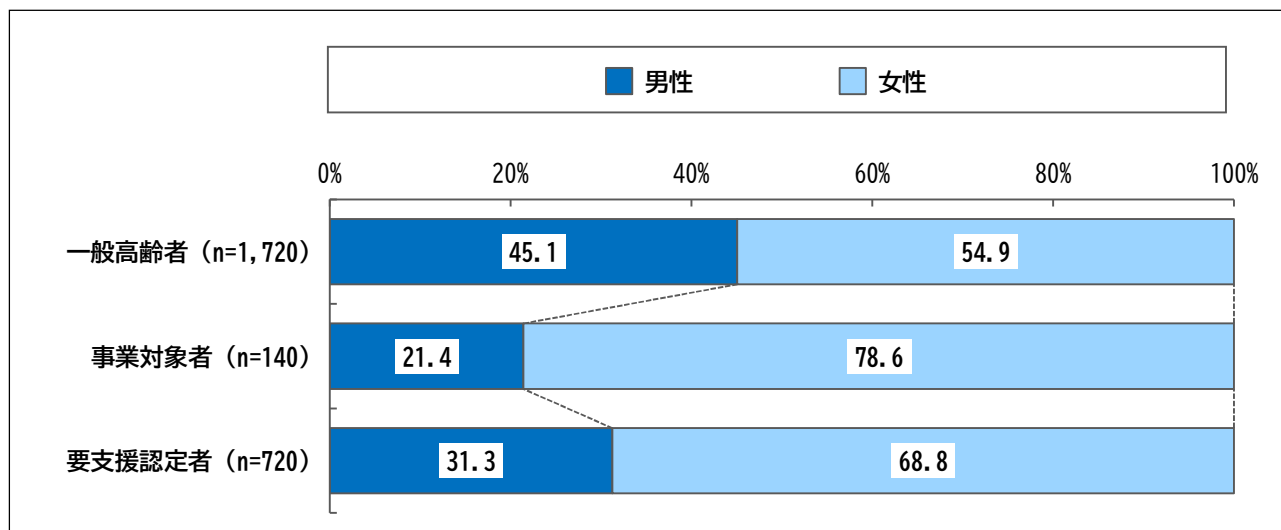
Ⅱ 回答者の属性

Ⅰ 性別

一般高齢者では、「男性」が45.1%、「女性」が54.9%となっています。

事業対象者では、「男性」が21.4%、「女性」が78.6%となっています。

要支援認定者では、「男性」が31.3%、「女性」が68.8%となっています。

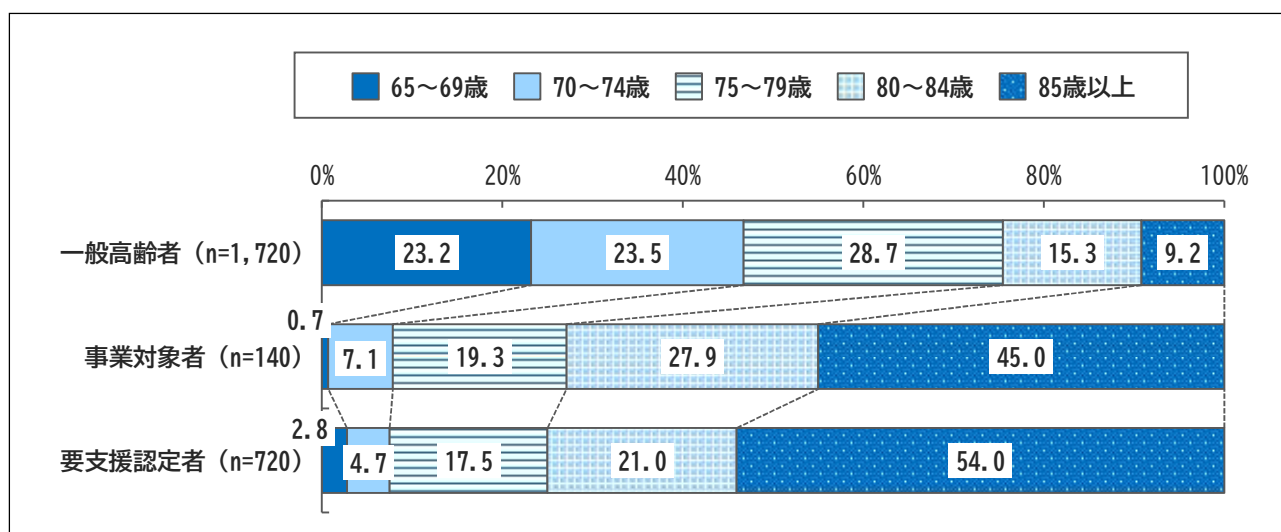


2 年齢構成

一般高齢者では、「75～79 歳」が 28.7%で最も高く、次いで「70～74 歳」が 23.5%、「65～69 歳」が 23.2%となっています。

事業対象者では、「85 歳以上」が 45.0%で最も高く、次いで「80～84 歳」が 27.9%、「75～79 歳」が 19.3%となっています。

要支援認定者では、「85 歳以上」が 54.0%で最も高く、次いで「80～84 歳」が 21.0%、「75～79 歳」が 17.5%となっています。

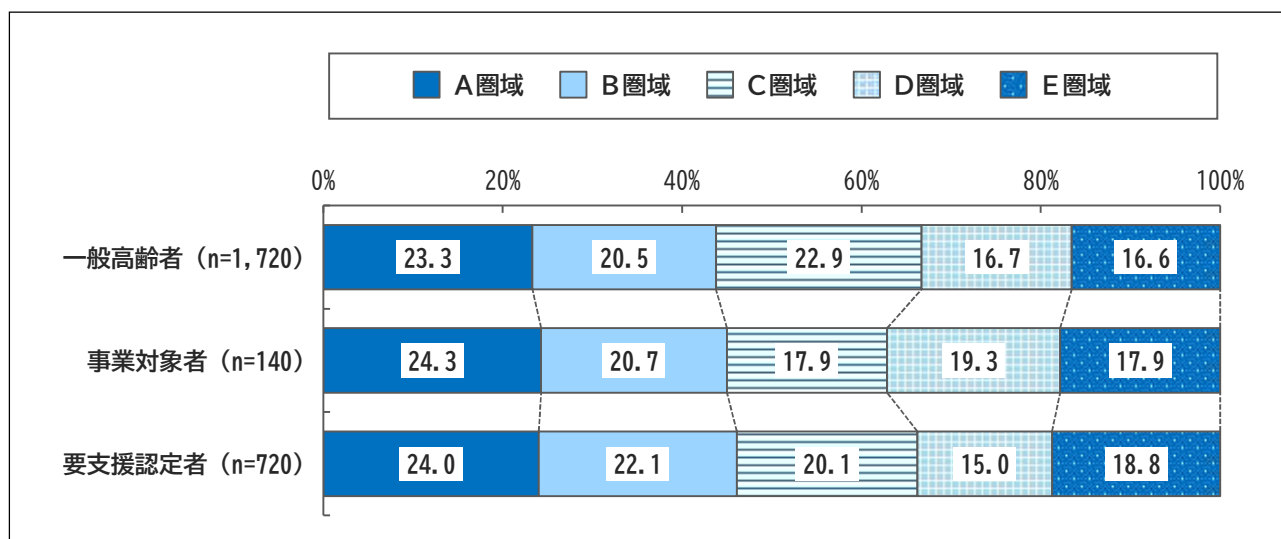


3 日常生活圏域

一般高齢者では、「A圏域」が23.3%で最も高く、次いで「C圏域」が22.9%、「B圏域」が20.5%となっています。

事業対象者では、「A圏域」が24.3%で最も高く、次いで「B圏域」が20.7%、「D圏域」が19.3%となっています。

要支援認定者では、「A圏域」が24.0%で最も高く、次いで「B圏域」が22.1%、「C圏域」が20.1%となっています。

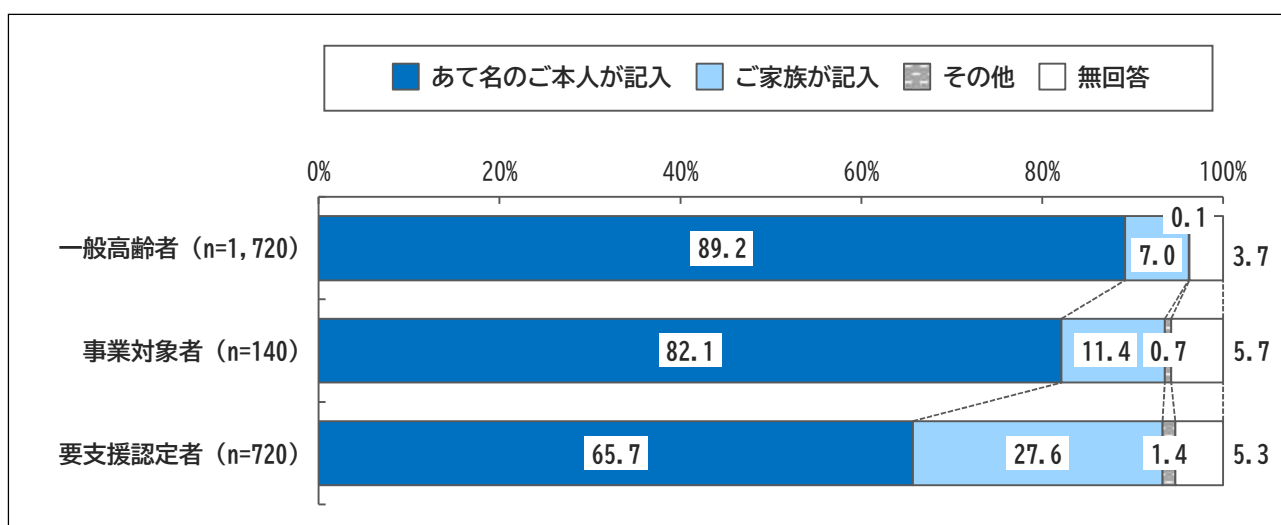


4 記入者

一般高齢者では、「あて名のご本人が記入」が89.2%、「ご家族が記入」が7.0%となっています。

事業対象者では、「あて名のご本人が記入」が82.1%、「ご家族が記入」が11.4%となっています。

要支援認定者では、「あて名のご本人が記入」が65.7%、「ご家族が記入」が27.6%となっています。



Ⅲ 調査結果

Ⅰ 家族や生活状況について

(Ⅰ) 家族構成について

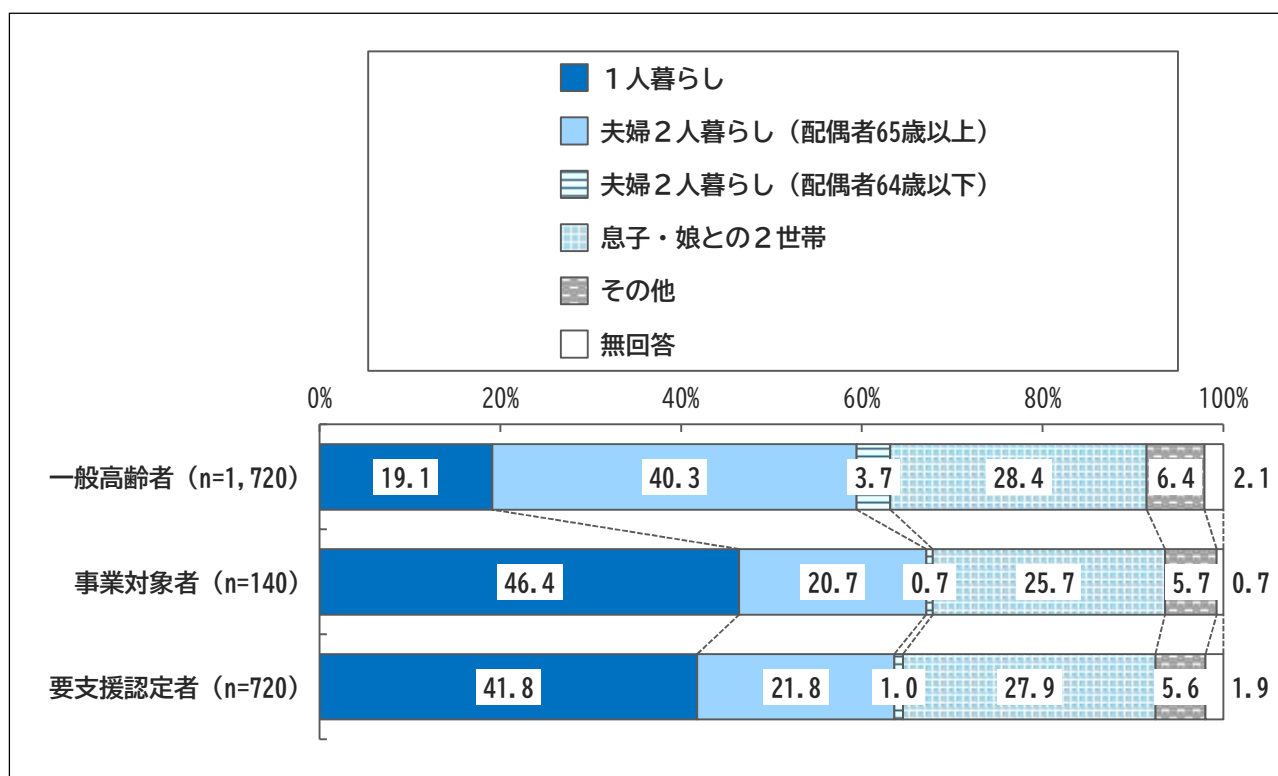
問1 (Ⅰ) 家族構成を教えてください。

家族構成をみると、一般高齢者では、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 40.3%で最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が 28.4%、「1人暮らし」が 19.1%となっています。

事業対象者では、「1人暮らし」が 46.4%で最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が 25.7%、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 20.7%となっています。

要支援認定者では、「1人暮らし」が 41.8%で最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が 27.9%、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 21.8%となっています。

図表 1 家族構成について

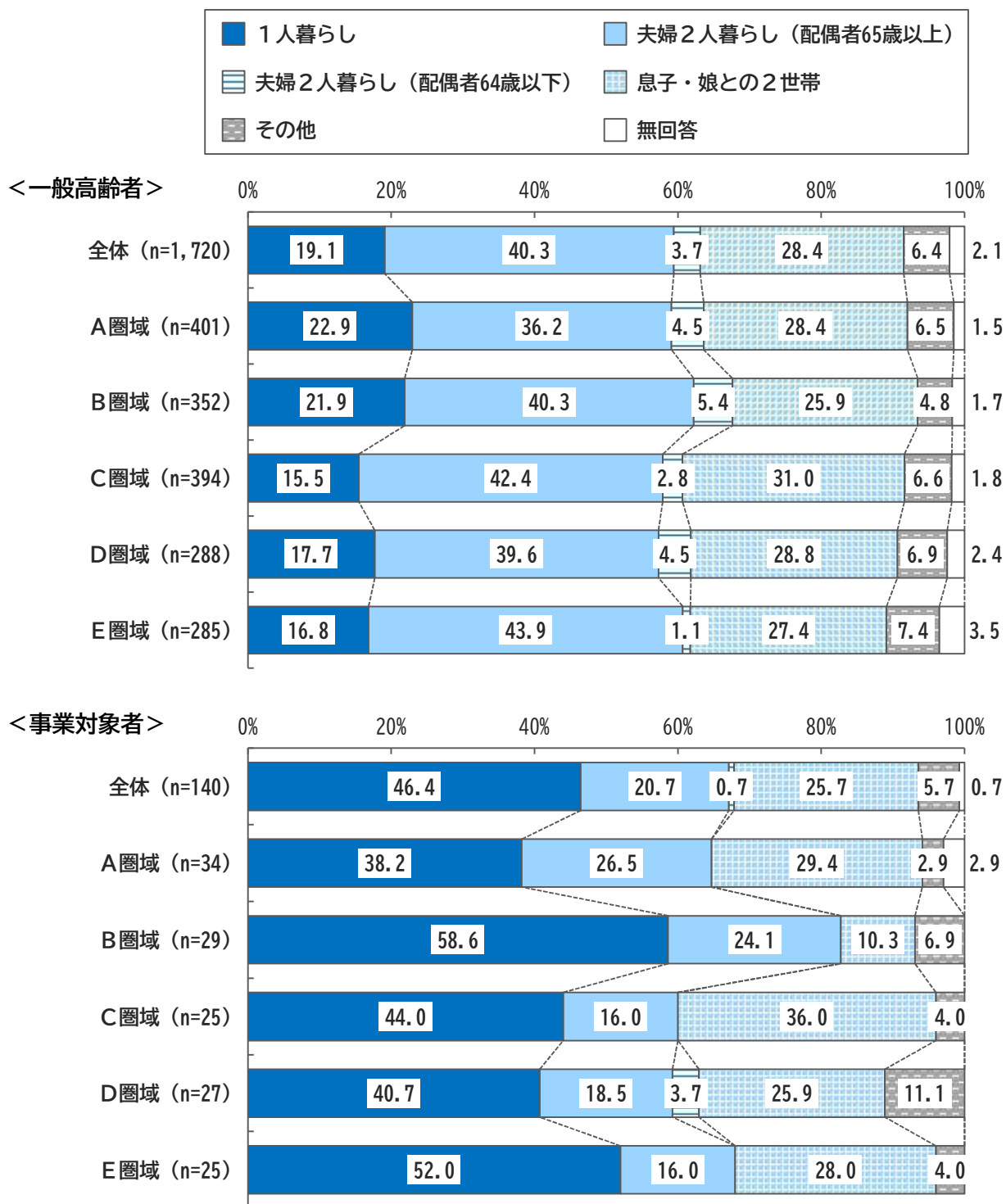


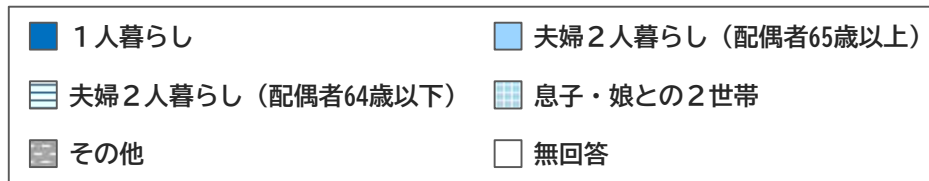
【日常生活圏域別】

圏域別にみると、一般高齢者では、いずれの圏域も「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が最も高くなっています。一方、事業対象者では、いずれの圏域も「1人暮らし」が最も高くなっています。

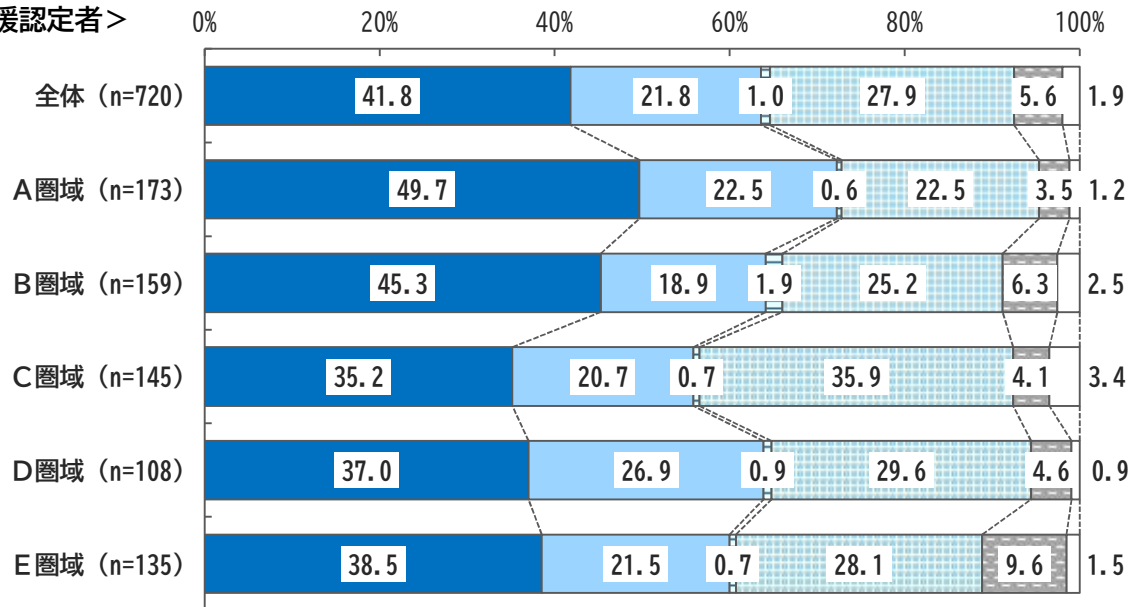
要支援認定者では、C圏域では「息子・娘との2世帯」、その他の地域では「1人暮らし」が最も高くなっています。

図表 2 家族構成について（日常生活圏域別）





<要支援認定者>



(2) 介護・介助の状況について

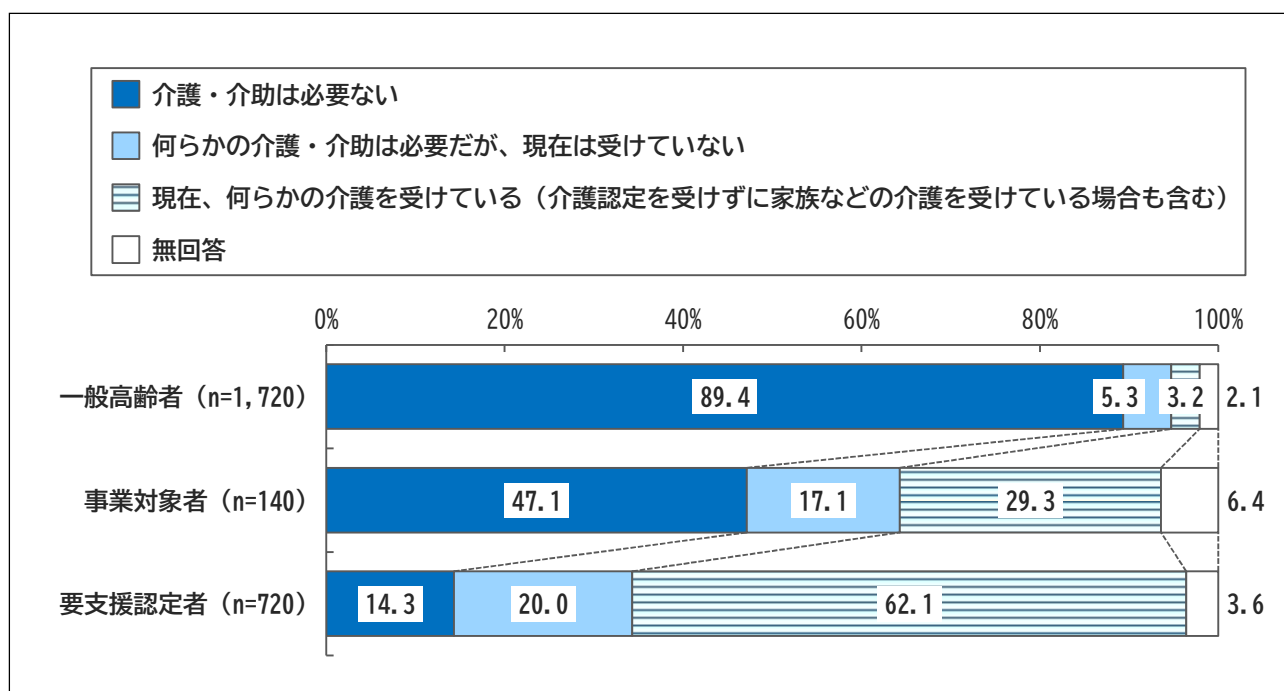
問1 (2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

介護・介助の必要性についてみると、一般高齢者では、「介護・介助は必要ない」が89.4%で最も高くなっています。

事業対象者では、「介護・介助は必要ない」が47.1%で最も高く、次いで「現在、何らかの介護を受けている」が29.3%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が17.1%となっています。

要支援認定者では、「現在、何らかの介護を受けている」が62.1%で最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が20.0%、「介護・介助は必要ない」が14.3%となっています。

図表 3 介護・介助の必要性



※問１（２）で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」と答えたかたのみ

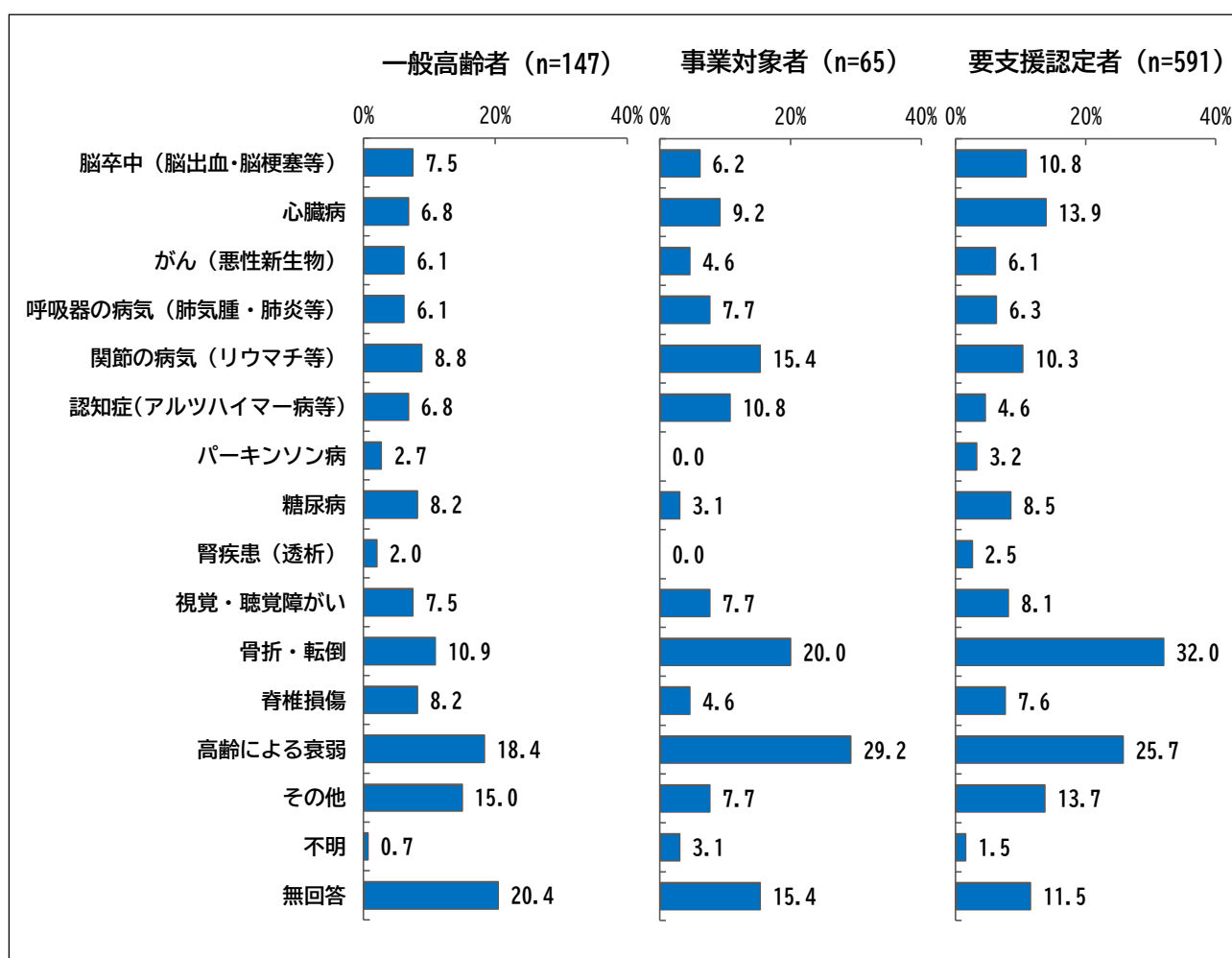
問１（２－１）介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。（いくつでも）

介護・介助が必要になった主な原因についてみると、一般高齢者では、「高齢による衰弱」（18.4％）が最も高く、次いで「骨折・転倒」（10.9％）、「関節の病気（リウマチ等）」（8.8％）となっています。

事業対象者では、「高齢による衰弱」（29.2％）が最も高く、次いで「骨折・転倒」（20.0％）、「関節の病気（リウマチ等）」（15.4％）となっています。

要支援認定者では、「骨折・転倒」（32.0％）が最も高く、次いで「高齢による衰弱」（25.7％）、「心臓病」（13.9％）となっています。

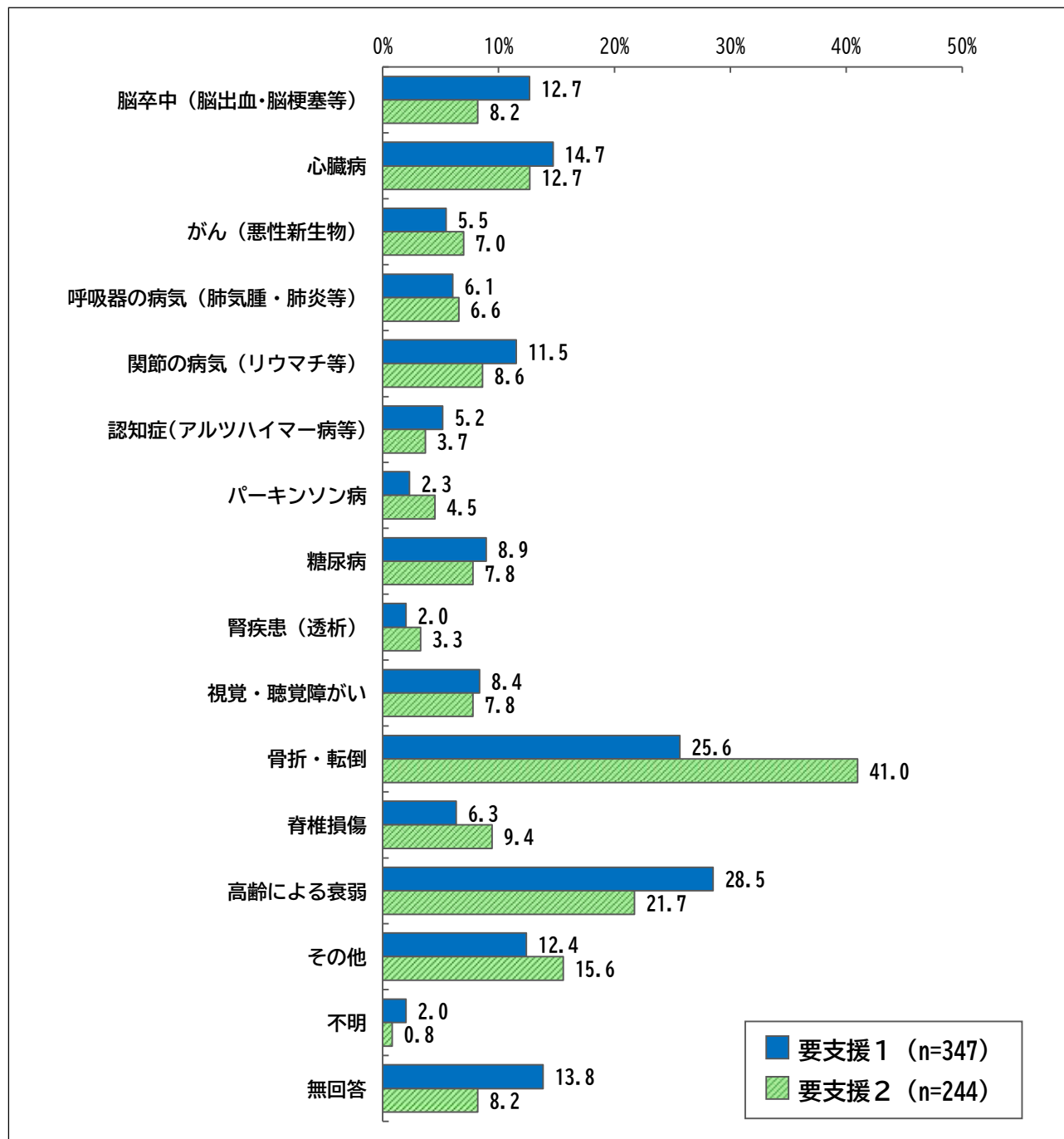
図表４ 介護・介助が必要になった主な原因（複数回答）



【介護度別】

介護・介助の主な原因を介護度別でみると、要支援1では「高齢による衰弱」が最も高く、要支援2では「骨折・転倒」が最も高くなっています。

図表 5 介護・介助が必要になった主な原因（介護度別／複数回答）



※問1（2）で「現在、何らかの介護を受けている」と答えたかたのみ

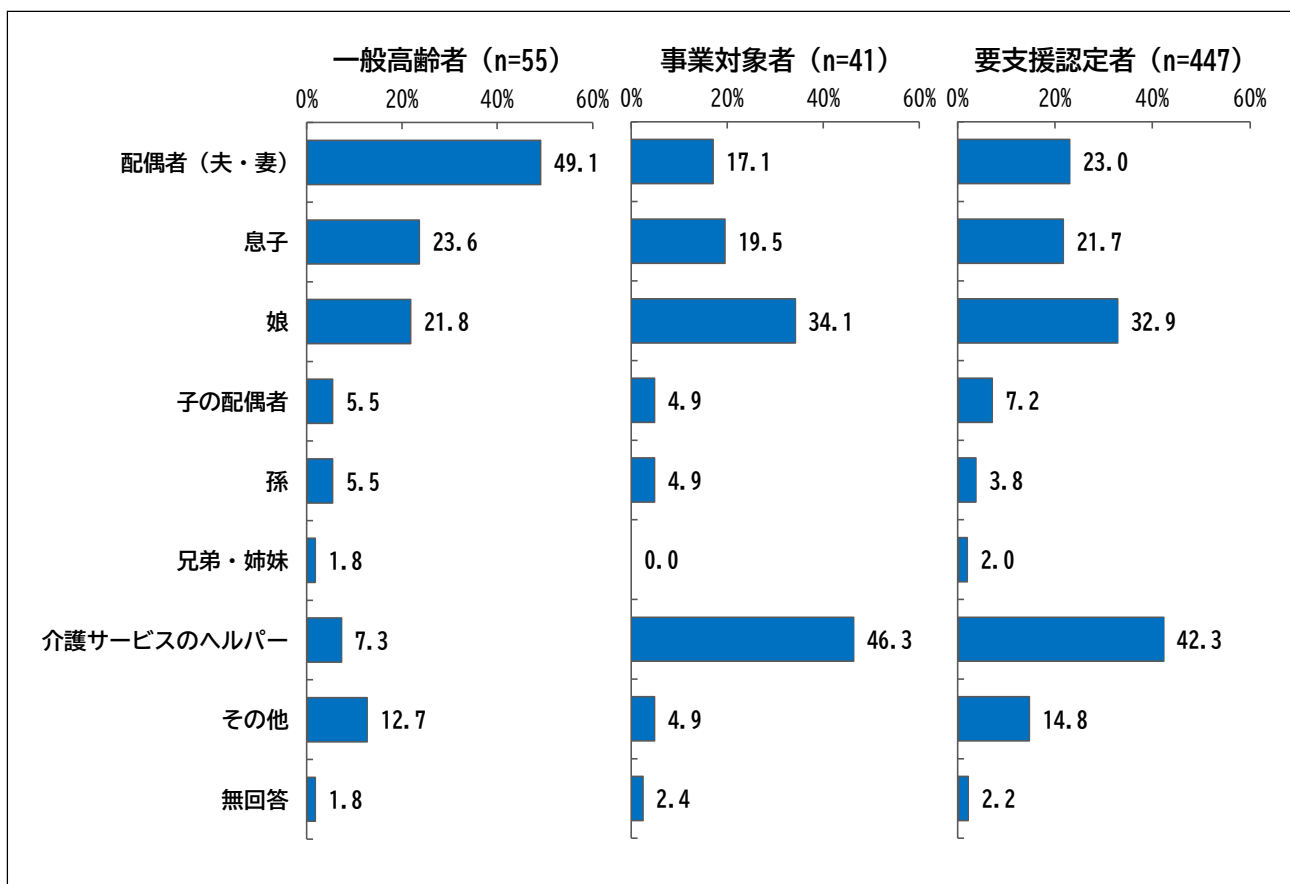
問1（2－2）主にどなたの介護、介助を受けていますか。（いくつでも）

主な介護者についてみると、一般高齢者では、「配偶者（夫・妻）」（49.1％）が最も高く、次いで「息子」（23.6％）、「娘」（21.8％）となっています。

事業対象者では、「介護サービスのヘルパー」（46.3％）が最も高く、次いで「娘」（34.1％）、「息子」（19.5％）となっています。

要支援認定者では、「介護サービスのヘルパー」（42.3％）が最も高く、次いで「娘」（32.9％）、「配偶者（夫・妻）」（23.0％）となっています。

図表 6 主な介護・介助者（複数回答）



(3) 現在の経済状況

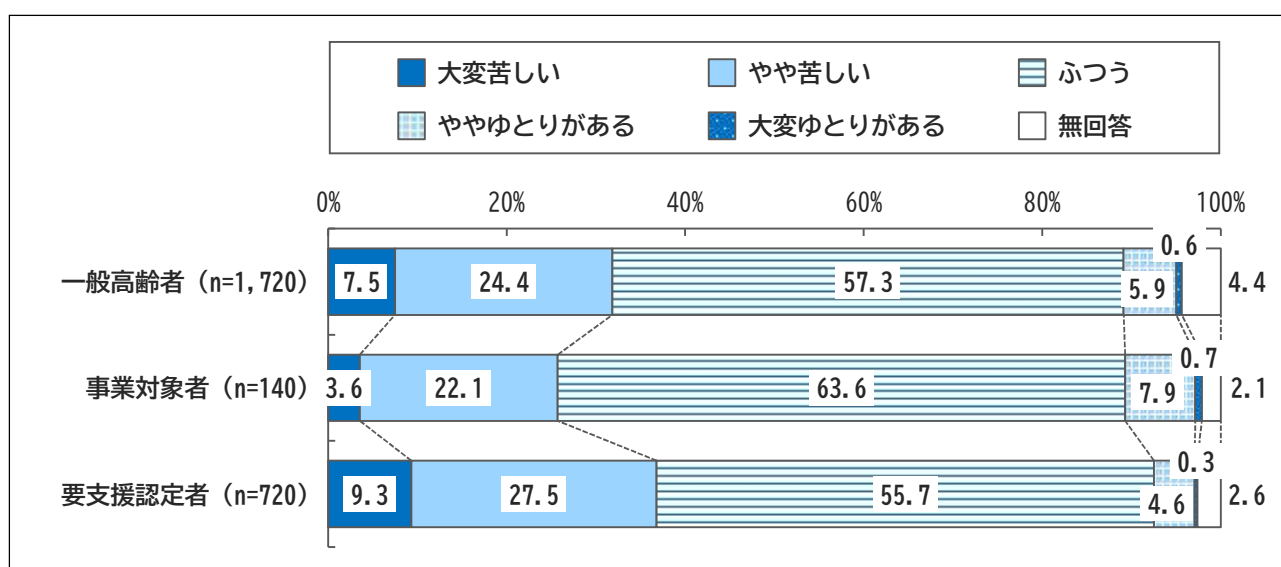
問1 (3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

現在の経済状況についてみると、一般高齢者では、「大変苦しい」と「やや苦しい」をあわせた『苦しい』の割合が31.9%、「ふつう」が57.3%、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」をあわせた『ゆとりがある』の割合が6.5%となっています。

事業対象者では、『苦しい』の割合が25.7%、「ふつう」が63.6%、『ゆとりがある』の割合が8.6%となっています。

要支援認定者では、『苦しい』の割合が36.8%、「ふつう」が55.7%、『ゆとりがある』の割合が4.9%となっています。

図表 7 現在の経済状況について

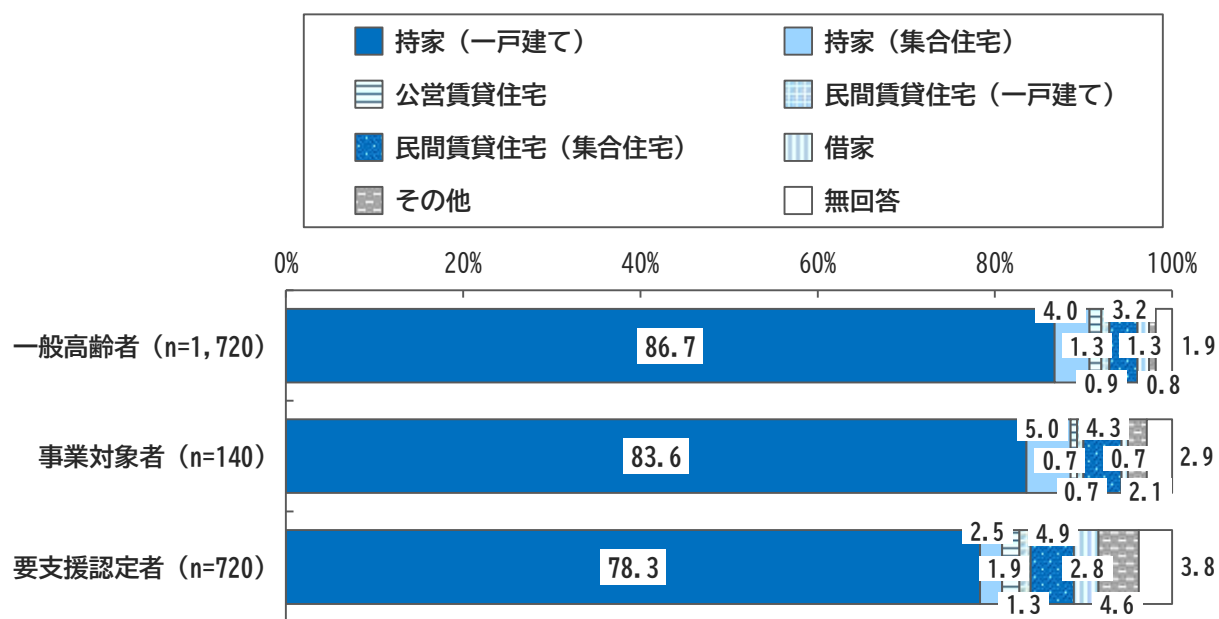


(4) 現在の住まいについて

問1 (4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

現在の住まいについてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者において「持家（一戸建て）」が7割以上を占めています。

図表 8 現在の住まいについて



その他の内容	件数
施設（特別養護老人ホームなど）	19
家族の家	7
サービス付高齢者住宅	5
その他（修道院など）	15
無回答	3
合計	49

2 からだを動かすことについて

(1) 運動器の機能について

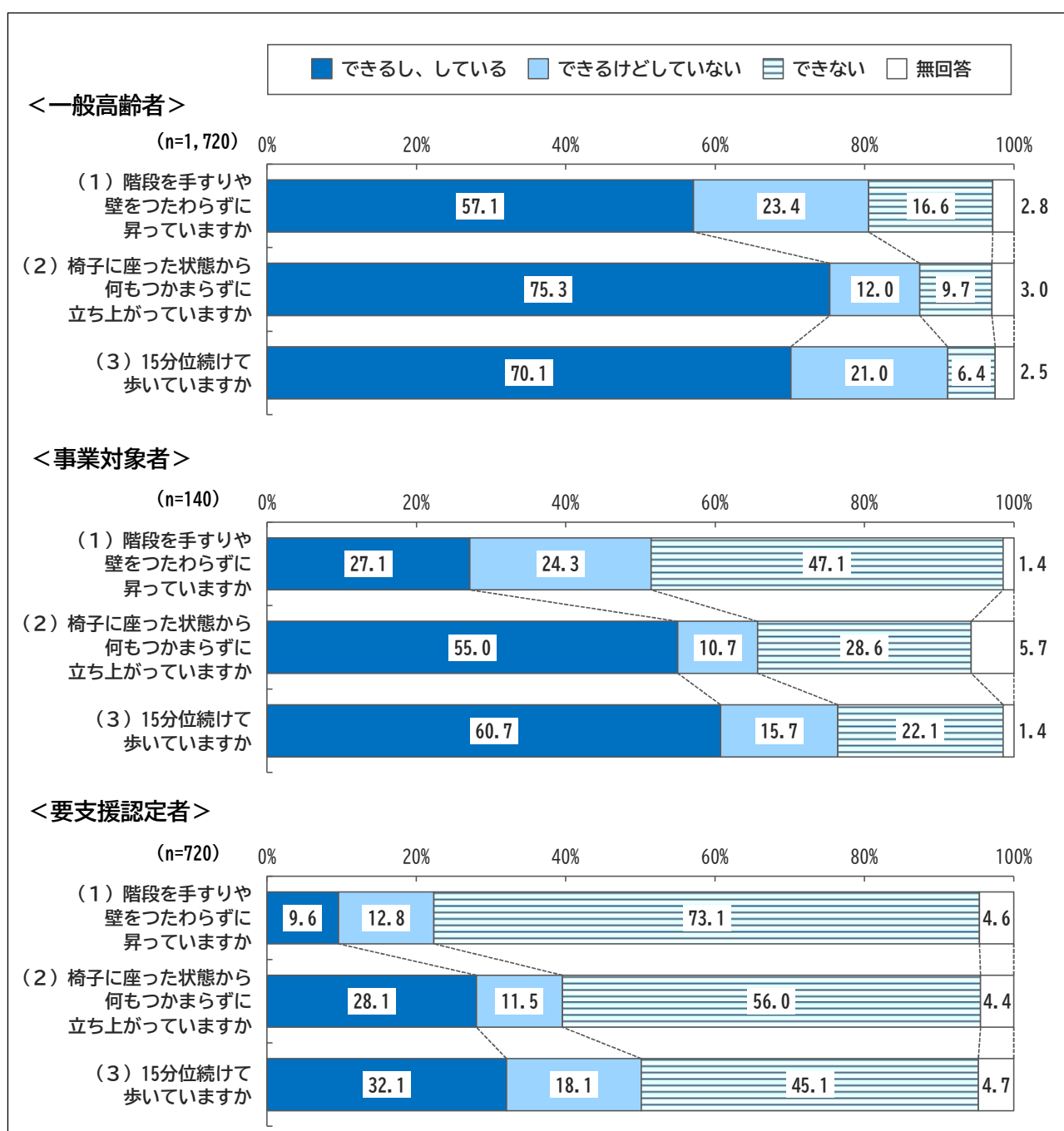
問2 (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。

問2 (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。

問2 (3) 15分位続けて歩いていますか。

運動器の機能についてみると、一般高齢者では「できるし、している」がいずれも5割以上を占めています。事業対象者、要支援認定者では、『(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか』について「できるし、している」の割合が低い傾向がみられます。

図表 9 運動器の機能について

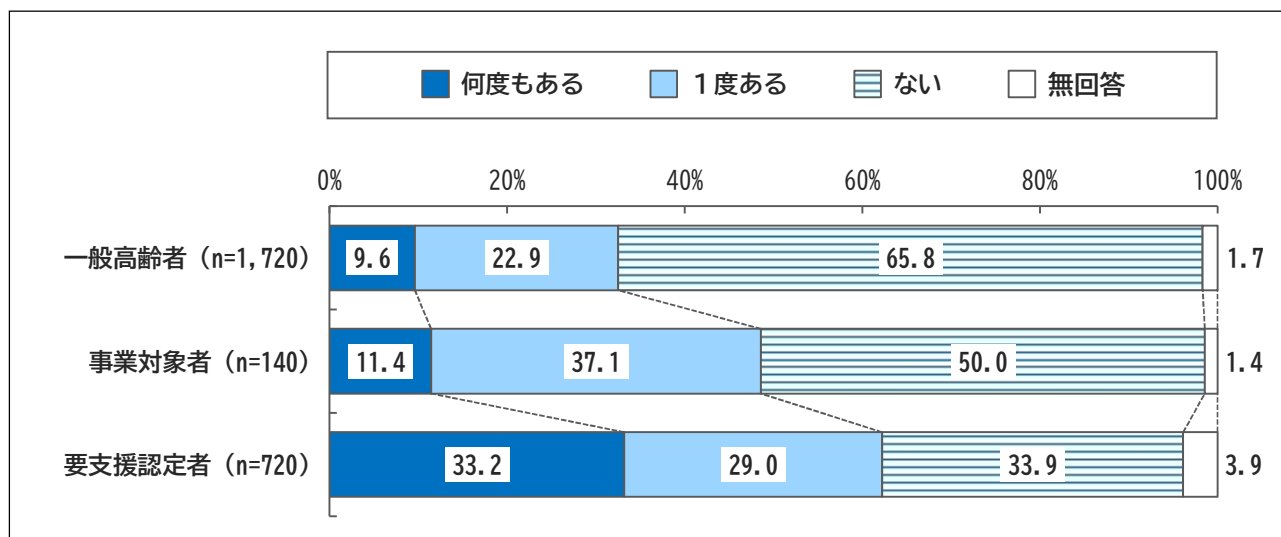


(2) 転倒について

問2 (4) 過去1年間に転んだ経験がありますか。

転倒経験の有無についてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者のいずれも「ない」が最も高くなっています。次いで一般高齢者では「1度ある」が22.9%、事業対象者では「1度ある」が37.1%、要支援認定者では「何度もある」が33.2%となっています。

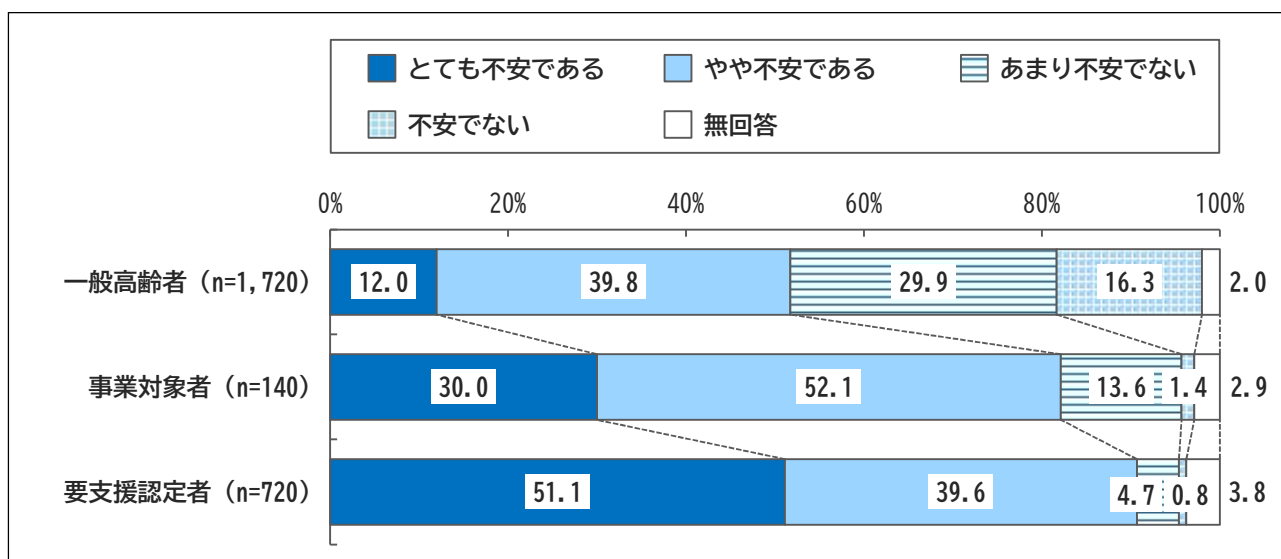
図表 10 転倒の経験



問2 (5) 転倒に対する不安は大きいですか。

転倒に対する不安についてみると、一般高齢者では「やや不安である」が39.8%、事業対象者では52.1%で最も高くなっています。要支援認定者では「とても不安である」が51.1%で最も高くなっています。

図表 11 転倒に対する不安

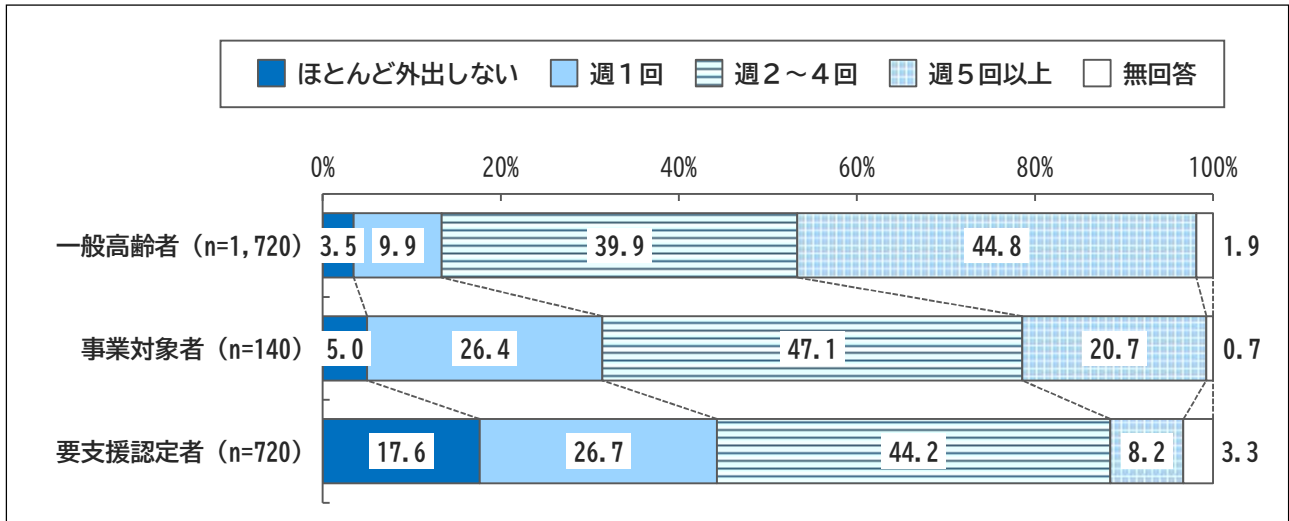


(3) 閉じこもり傾向について

問2（6）週に1回以上は外出していますか。

1週間当たりの外出回数についてみると、一般高齢者では「週5回以上」（44.8%）が最も高く、事業対象者と要支援認定者では「週2～4回」が最も高くなっています。また、「ほとんど外出しない」の割合は、一般高齢者（3.5%）、事業対象者（5.0%）、要支援認定者（17.6%）と順に高くなっています。

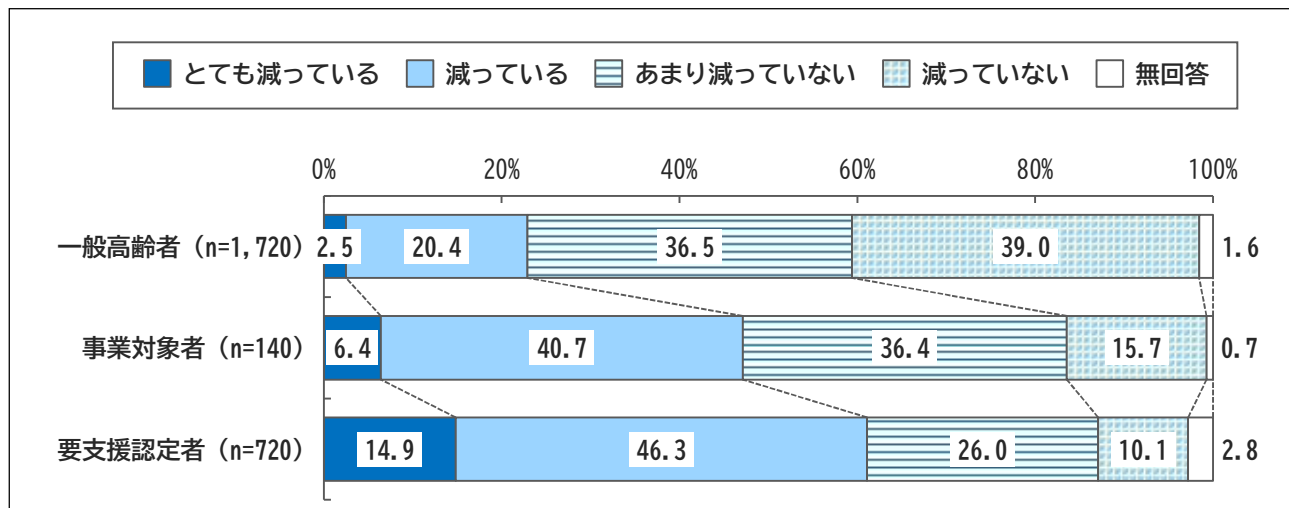
図表 12 1週間当たりの外出回数について



問2（7）昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

外出の回数が減っているかについてみると、一般高齢者では「減っていない」（39.0%）が最も高くなっています。事業対象者、要支援認定者では「減っている」が最も高く、その割合は要支援認定者（46.3%）が事業対象者（40.7%）を上回っています。

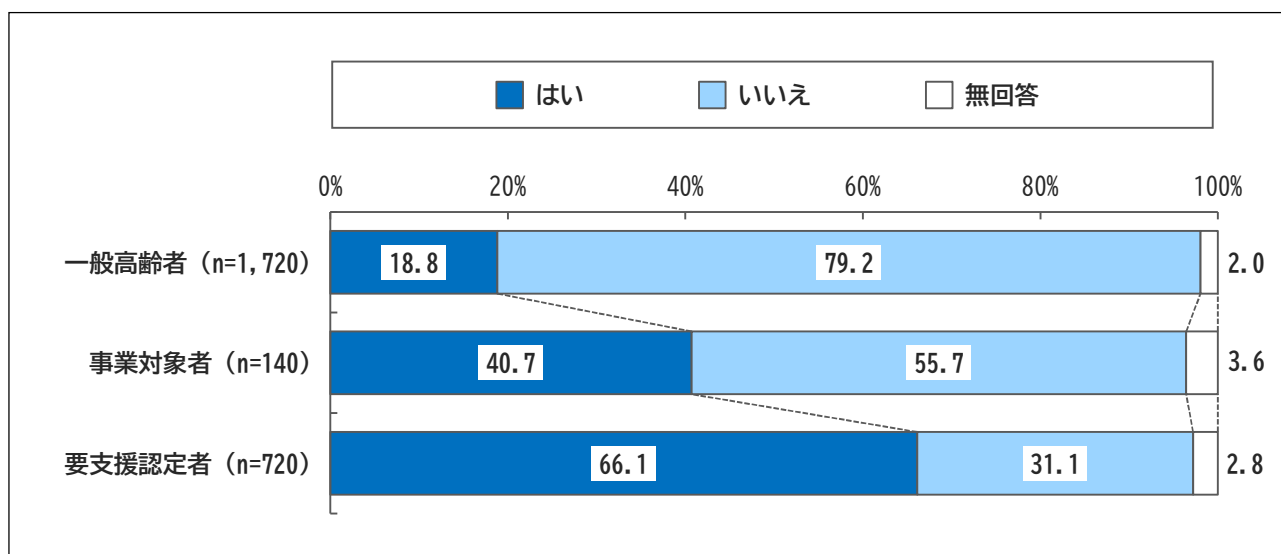
図表 13 昨年と比較した外出回数について



問2（8）外出を控えていますか。

外出を控えているかについてみると、一般高齢者では「いいえ」が79.2%、事業対象者では55.7%となっており、外出を控えていない人が5割を超えています。一方、要支援認定者では「はい」が66.1%となっており、外出を控えている人が6割を超えています。

図表 14 外出を控えているか



※問２（８）で「はい（外出を控えている）」と答えたかたのみ

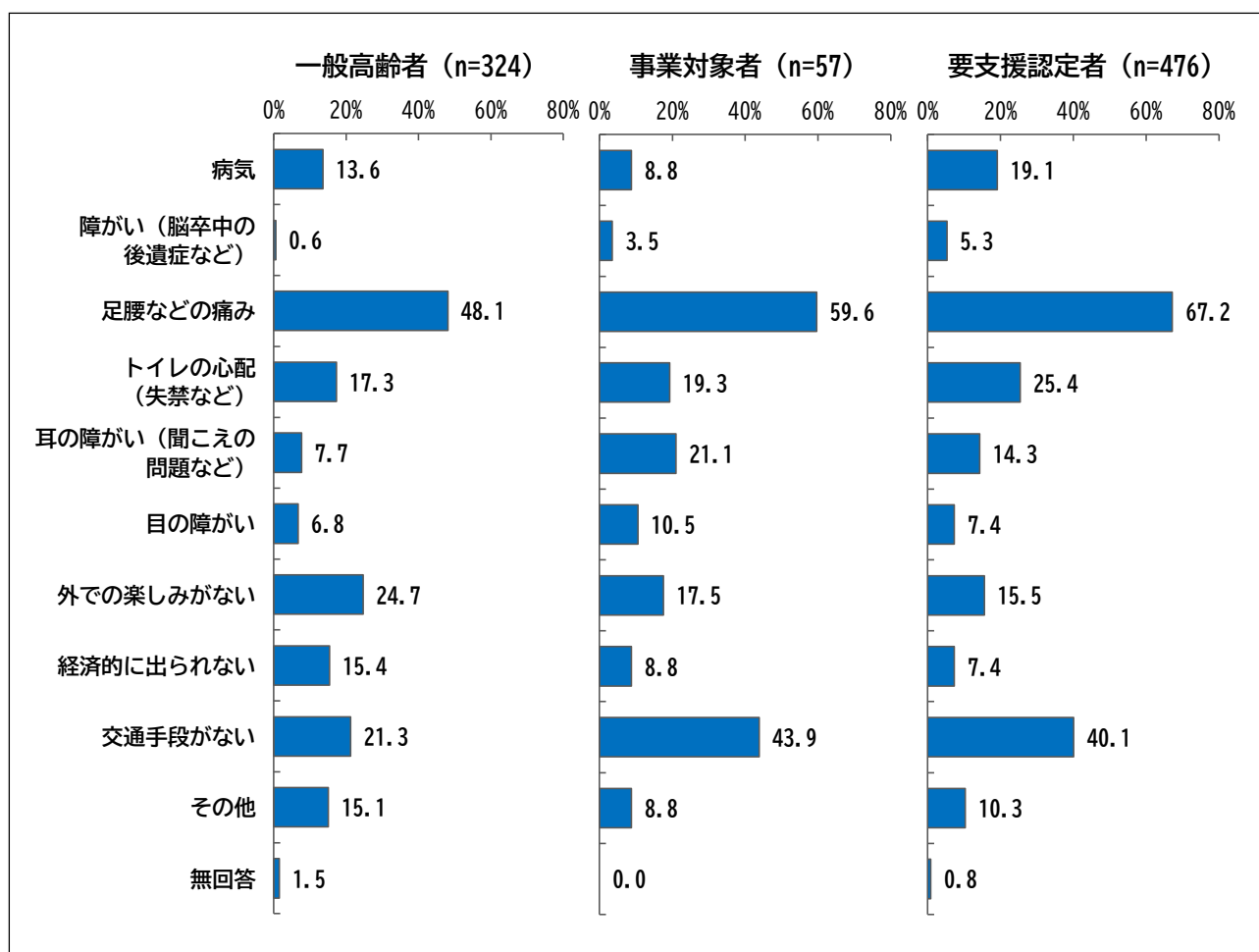
問２（８－１）外出を控えている理由は、次のどれですか。（いくつでも）

外出を控えている理由についてみると、一般高齢者では「足腰などの痛み」（48.1%）、「外での楽しみがない」（24.7%）、「交通手段がない」（21.3%）などとなっています。

事業対象者では「足腰などの痛み」（59.6%）が最も高く、次いで「交通手段がない」（43.9%）、「耳の障がい（聞こえの問題など）」（21.1%）などとなっています。

要支援認定者では「足腰などの痛み」（67.2%）が最も高く、次いで「交通手段がない」（40.1%）、「トイレの心配（失禁など）」（25.4%）などとなっています。

図表 15 外出を控えている理由（複数回答）



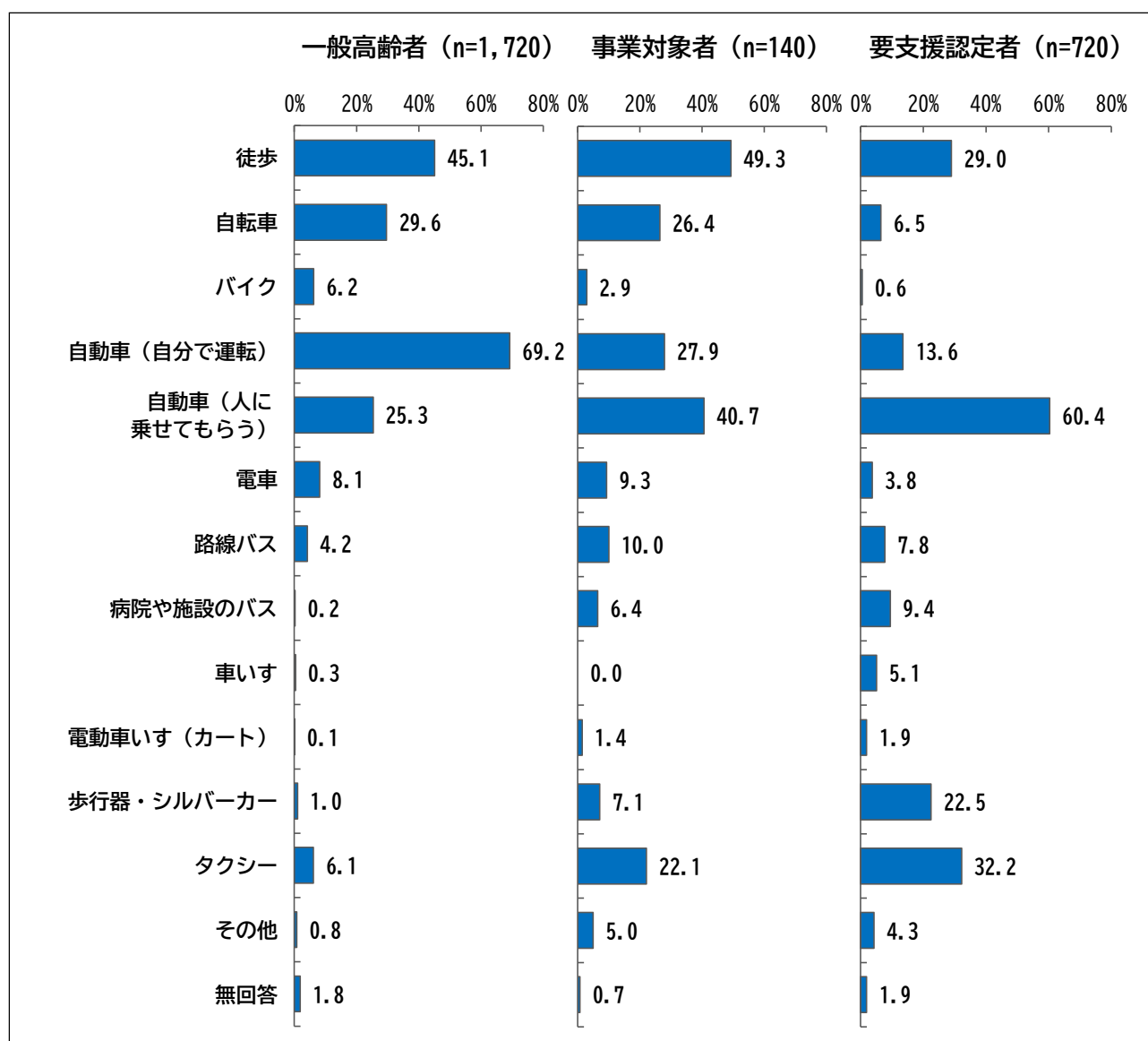
問2（9）外出する際の移動手段は何ですか。（いくつでも）

外出する際の移動手段についてみると、一般高齢者では「自動車（自分で運転）」（69.2％）が最も高く、次いで「徒歩」（45.1％）、「自転車」（29.6％）などとなっています。

事業対象者では「徒歩」（49.3％）が最も高く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」（40.7％）、「自動車（自分で運転）」（27.9％）などとなっています。

要支援認定者では「自動車（人に乗せてもらう）」（60.4％）が最も高く、次いで「タクシー」（32.2％）、「徒歩」（29.0％）などとなっています。

図表 16 外出する際の移動手段（複数回答）



問2（10）外出する際、困ることや不安なことを3つまで選んでください。

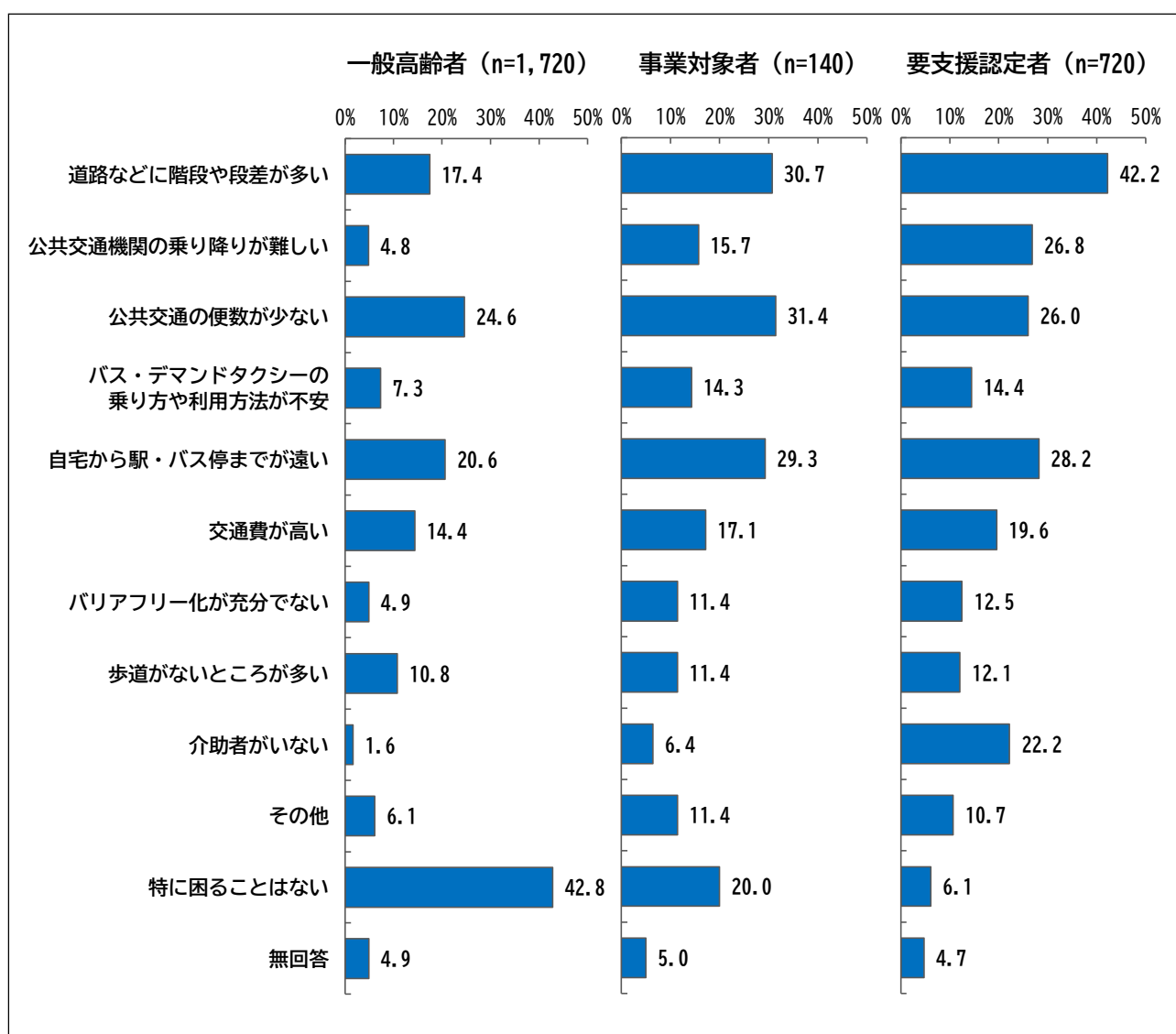
※4つ以上の回答が多かったため、(いくつでも)に変更して集計

外出する際困ることについてみると、一般高齢者では「特に困ることはない」(42.8%)が最も高く、次いで、「公共交通の便数が少ない」(24.6%)、「自宅から駅・バス停までが遠い」(20.6%)などとなっています。

事業対象者では「公共交通の便数が少ない」(31.4%)が最も高く、次いで「道路などに階段や段差が多い」(30.7%)、「自宅から駅・バス停までが遠い」(29.3%)などとなっています。

要支援認定者では「道路などに階段や段差が多い」(42.2%)が最も高く、次いで「自宅から駅・バス停までが遠い」(28.2%)、「公共交通機関の乗り降りが難しい」(26.8%)などとなっています。

図表 17 外出する際困ることや不安なこと（複数回答）



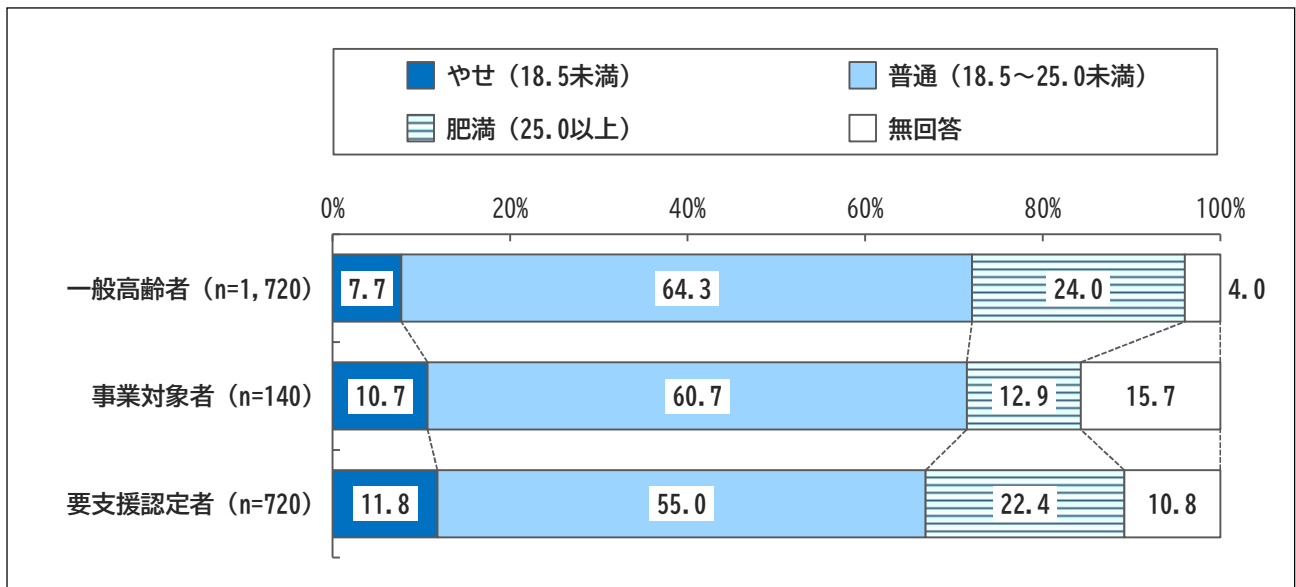
3 食べることについて

(1) BMI 算出

問3 (1) 身長・体重を教えてください。

身長及び体重の記載から算出したBMI値については、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「普通（18.5～25.0未満）」が最も高くなっています。

図表 18 BMI 値



(2) 口腔機能について

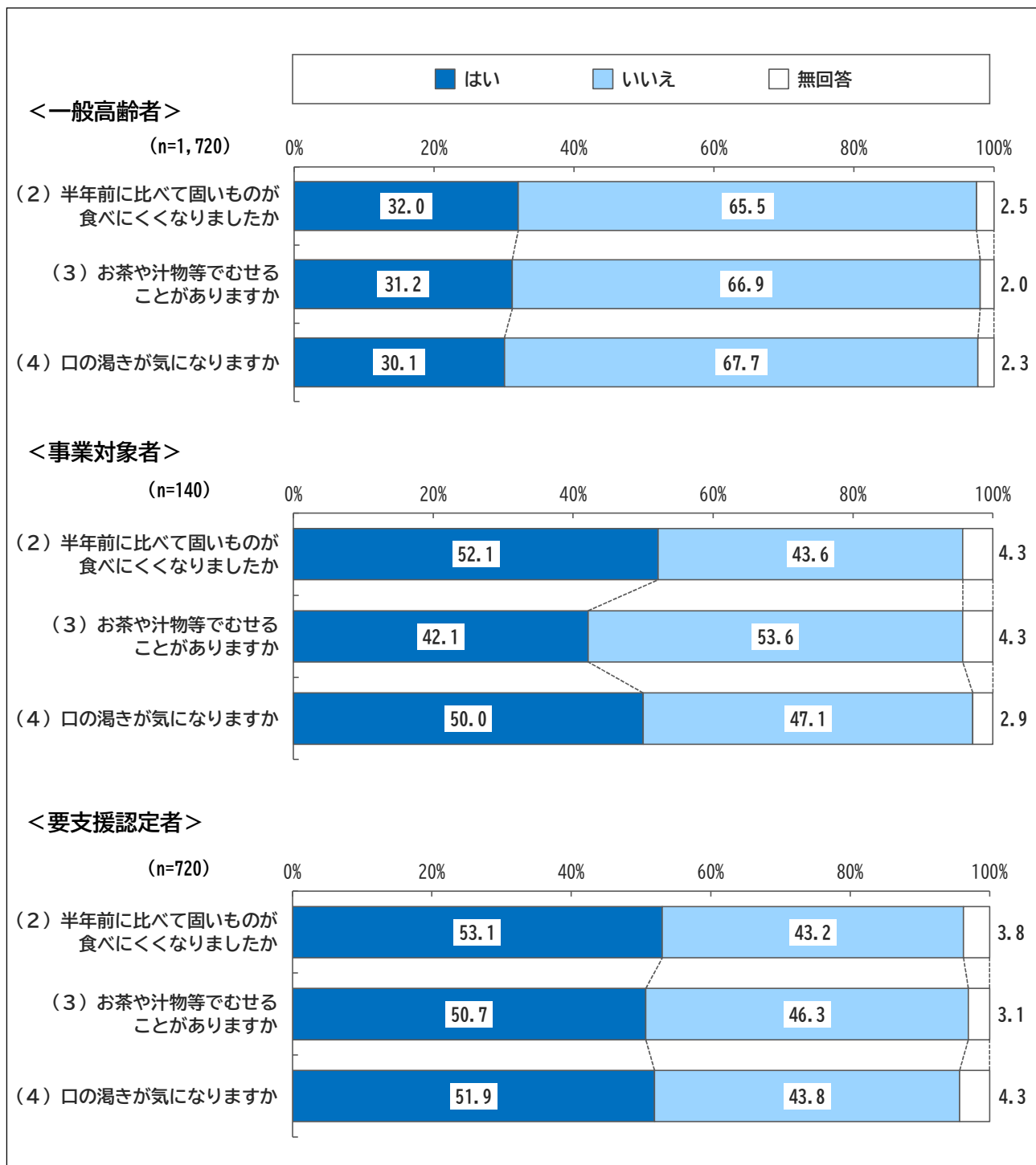
問3 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

問3 (3) お茶や汁物等でむせることがありますか。

問3 (4) 口の渇きが気になりますか。

口腔機能についてみると、一般高齢者では、いずれの機能についても「いいえ」の割合が6割を超えています。要支援認定者では「はい」の割合が5割を超えています。

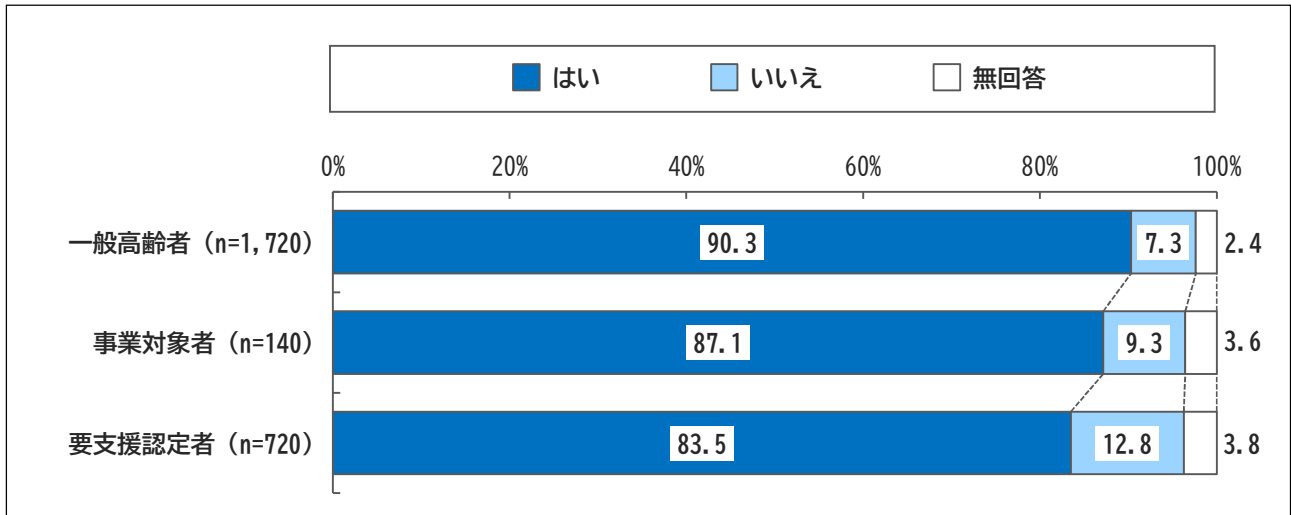
図表 19 口腔機能について



問3（5）歯磨き（人にやってもらう場合も含む。）を毎日していますか。

歯磨きを毎日しているかをみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「はい」が高くなっていますが、その割合は一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ低くなっています。

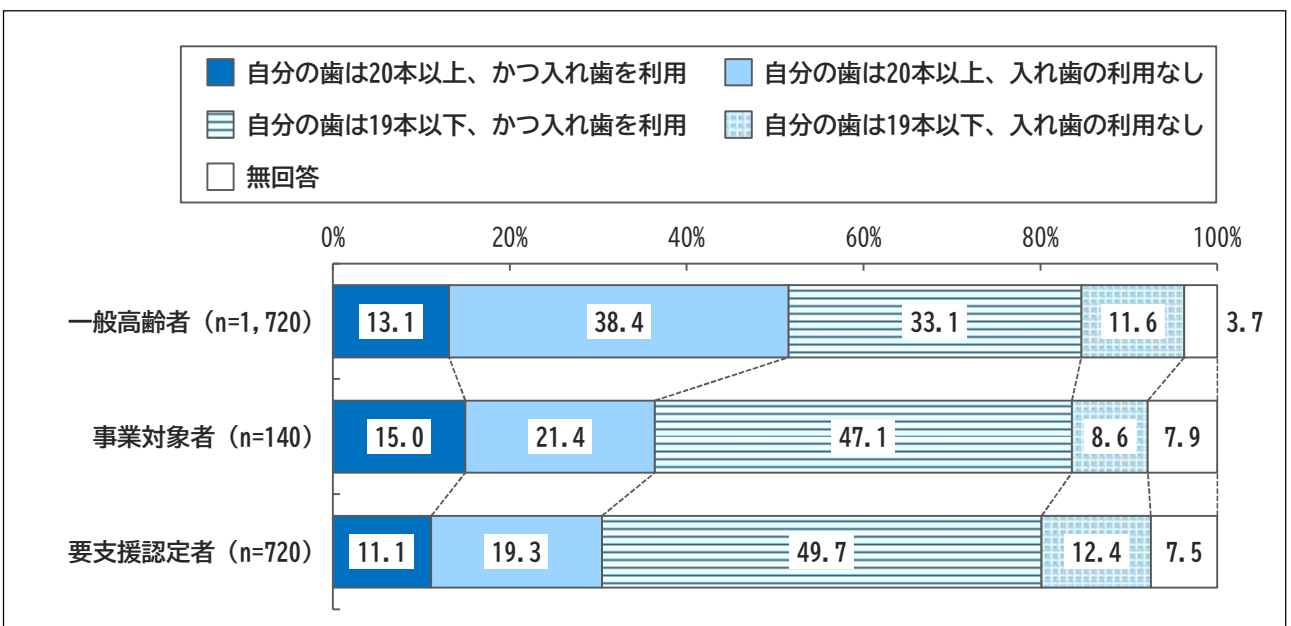
図表 20 歯磨きを毎日しているか



問3（6）歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。

歯の本数と、入れ歯の利用状況をみると、一般高齢者では「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が38.4%と最も高くなっています。一方、事業対象者、要支援認定者では「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が最も高く、約5割を占めています。

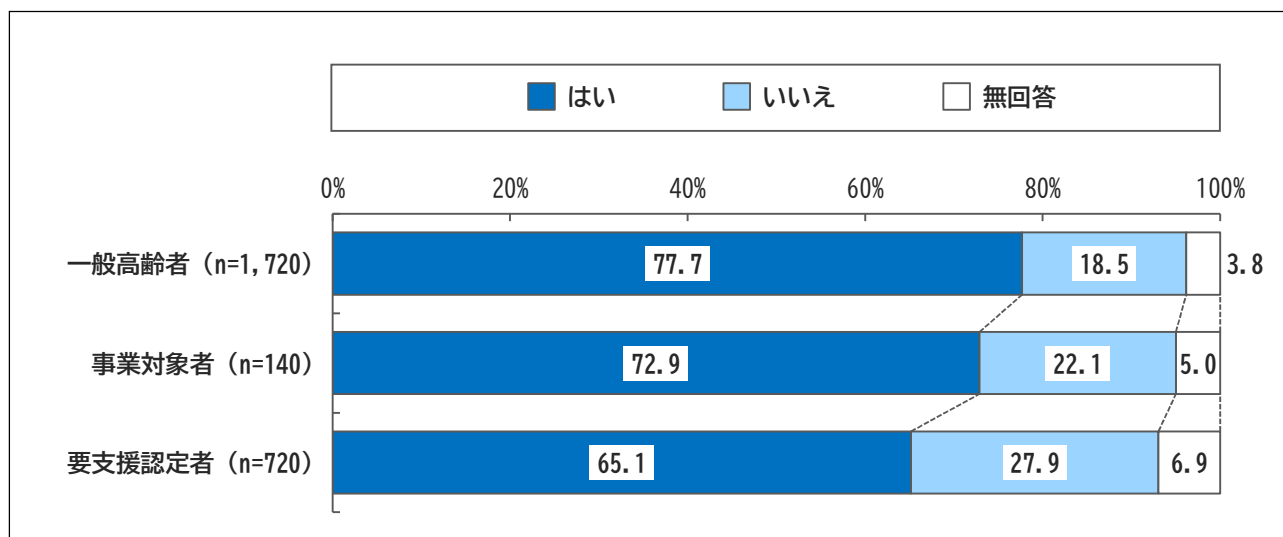
図表 21 歯の本数と入れ歯の利用状況



問3（6－1）噛み合わせは良いですか。

噛み合わせが良いかをみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「はい」が高くなっていますが、その割合は一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ低くなっています。

図表 22 噛み合わせが良いか

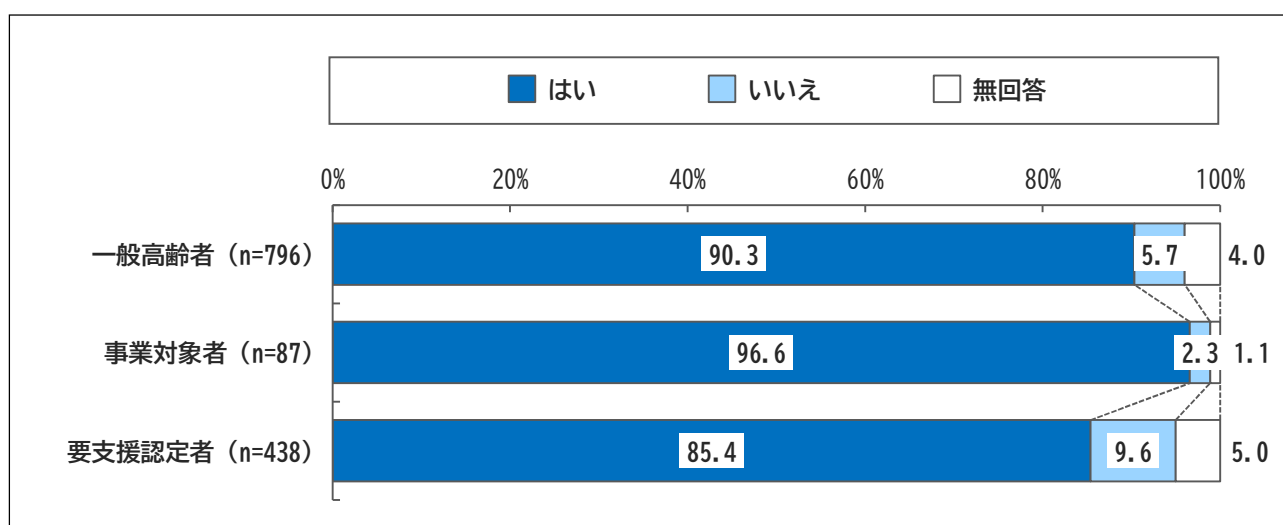


※問3（6）で「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と答えたかたのみ

問3（6－2）毎日入れ歯の手入れをしていますか。

毎日入れ歯の手入れをしているかについてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「はい」が最も高く、特に一般高齢者、事業対象者では9割を超えています。

図表 23 毎日入れ歯の手入れをしているか

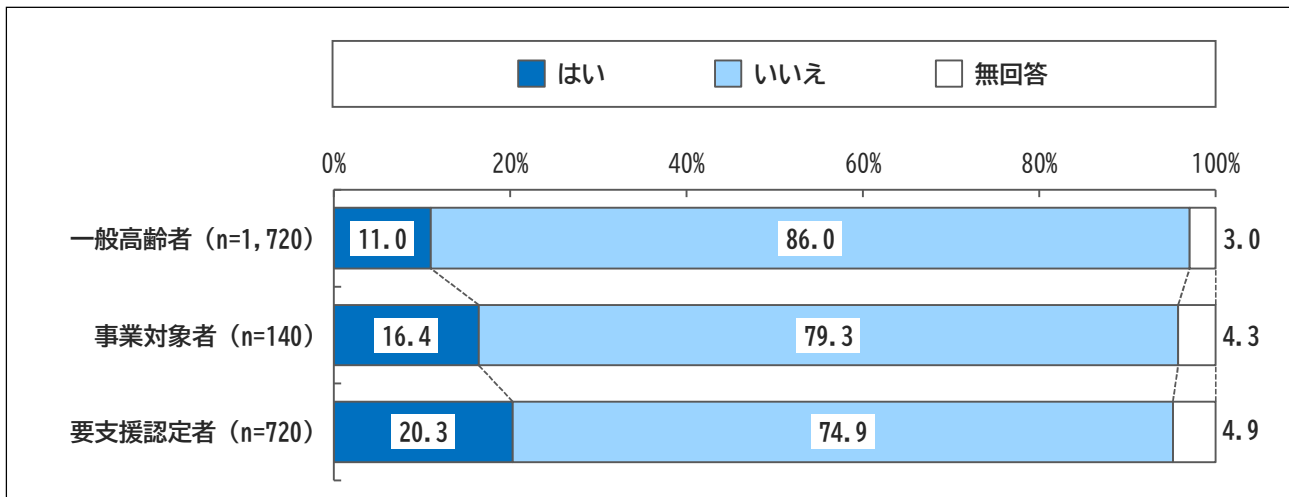


(3) 体重減少について

問3（7）6か月間で2～3 kg以上の体重減少がありましたか。

6か月間で体重減少があったかについてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「いいえ」が高くなっています。一方、「はい」の割合は、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ高くなっています。

図表 24 6か月間で2～3 kg以上の体重減少があったか

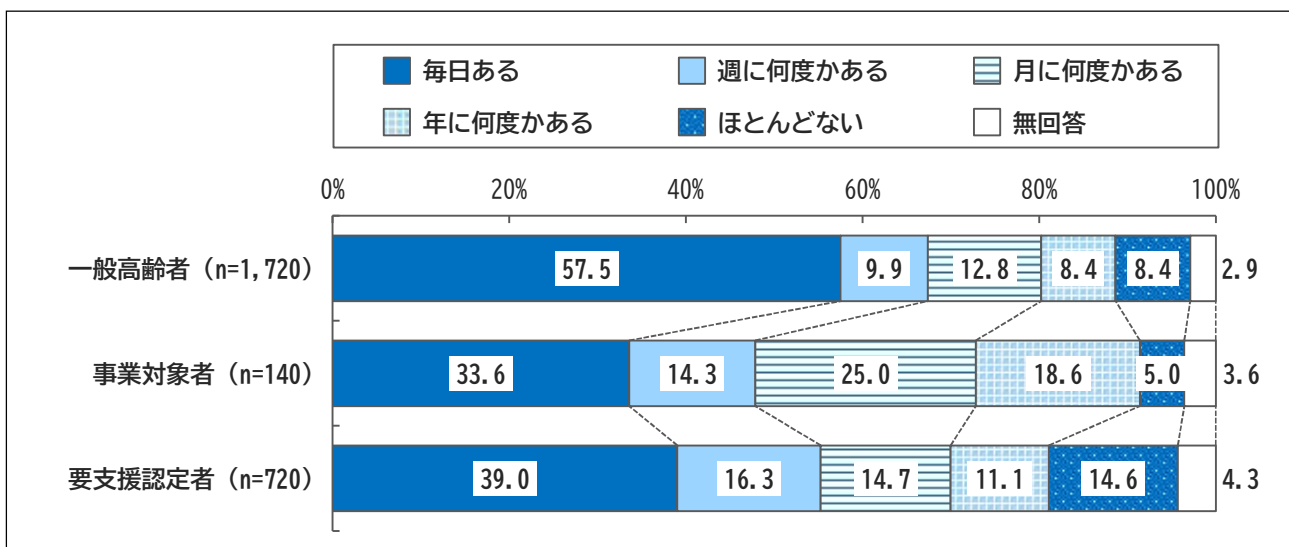


(4) 孤食の状況について

問3（8）どなたかと食事をとる機会がありますか。

誰かと食事をとる機会の有無についてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者のいずれも「毎日ある」が最も高くなっています。次いで一般高齢者では「月に何度かある」が12.8%、事業対象者でも「月に何度かある」が25.0%、要支援認定者では「週に何度かある」が16.3%となっています。

図表 25 誰かと食事をとる機会の有無について



4 毎日の生活について

(1) 認知機能について

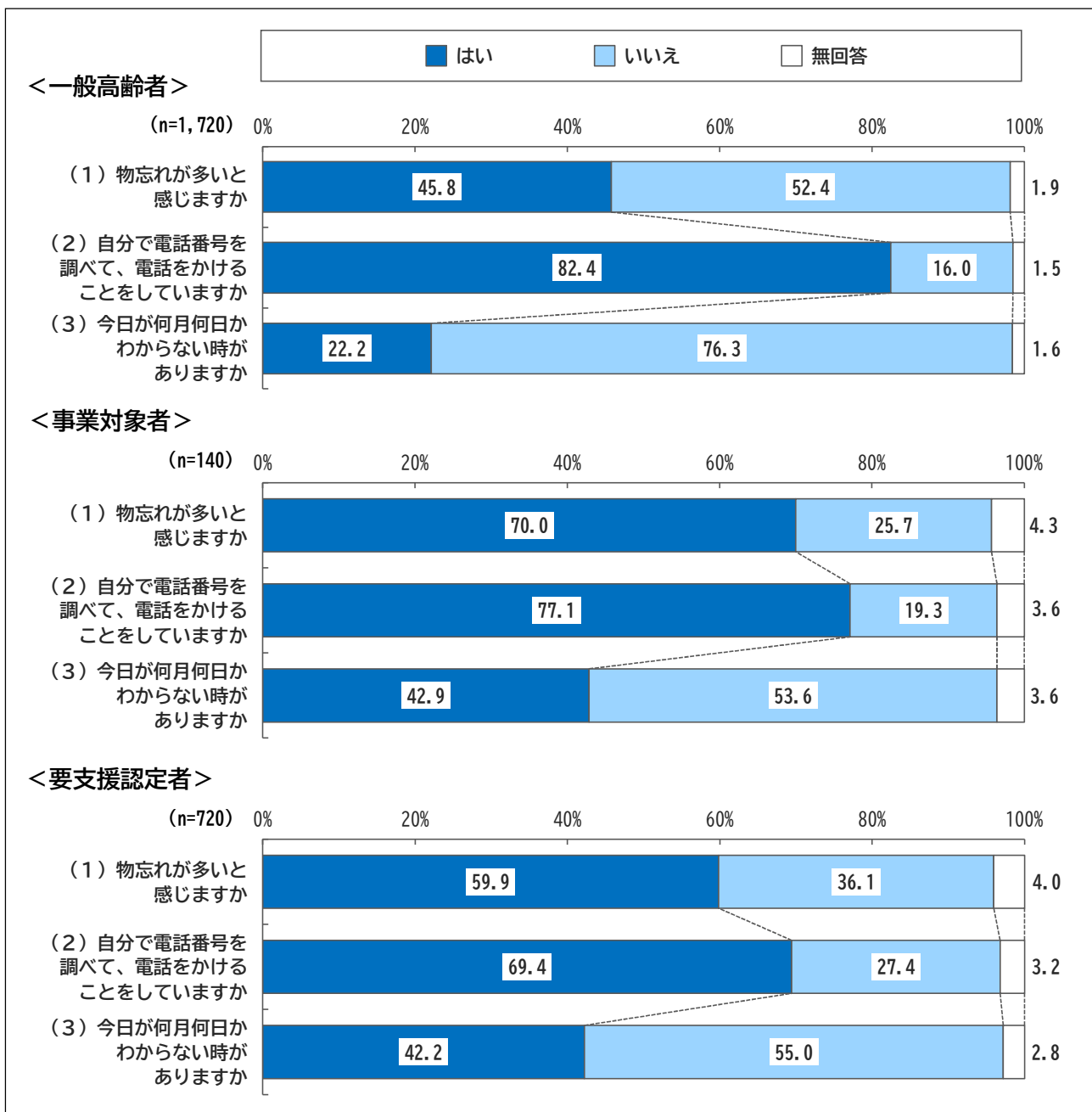
問4 (1) 物忘れが多いと感じますか。

問4 (2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。

問4 (3) 今日が何月何日かわからない時がありますか。

認知機能についてみると、『(1) 物忘れが多いと感じますか』については、一般高齢者では「いいえ」、事業対象者、要支援認定者では「はい」が高くなっています。『(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか』については、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「はい」が高くなっています。『(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか』については、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「いいえ」が高くなっています。

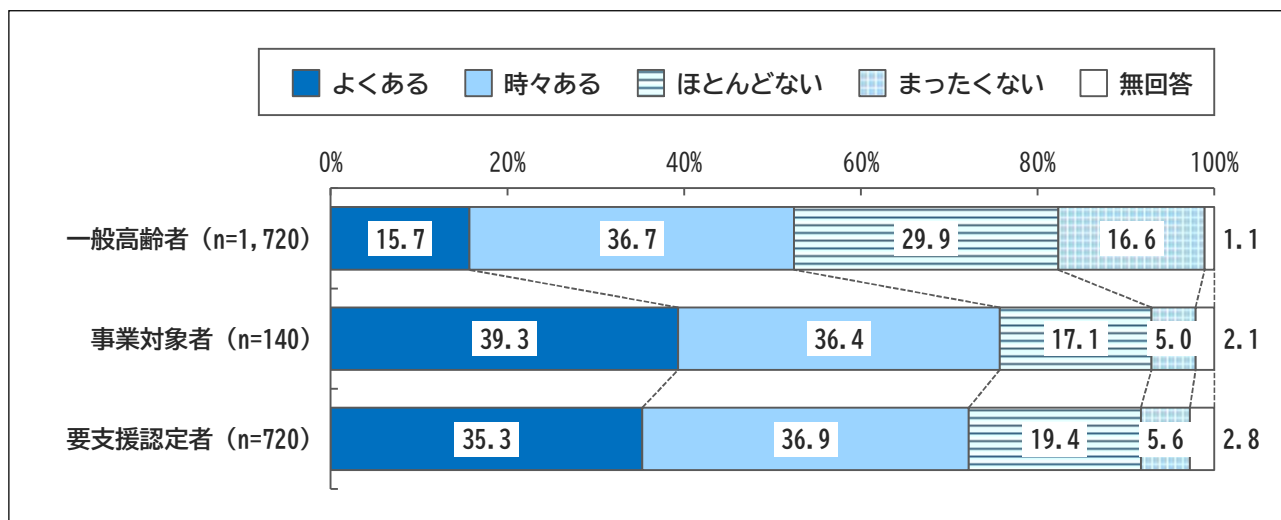
図表 26 認知機能について



問4（4）最近、聞こえにくさを感じることはありますか。

聞こえにくさを感じる可能性があるかについてみると、一般高齢者では「時々ある」が36.7%、要支援認定者では36.9%で最も高くなっています。事業対象者では「よくある」が39.3%で最も高くなっています。

図表 27 聞こえにくさを感じることもあるか

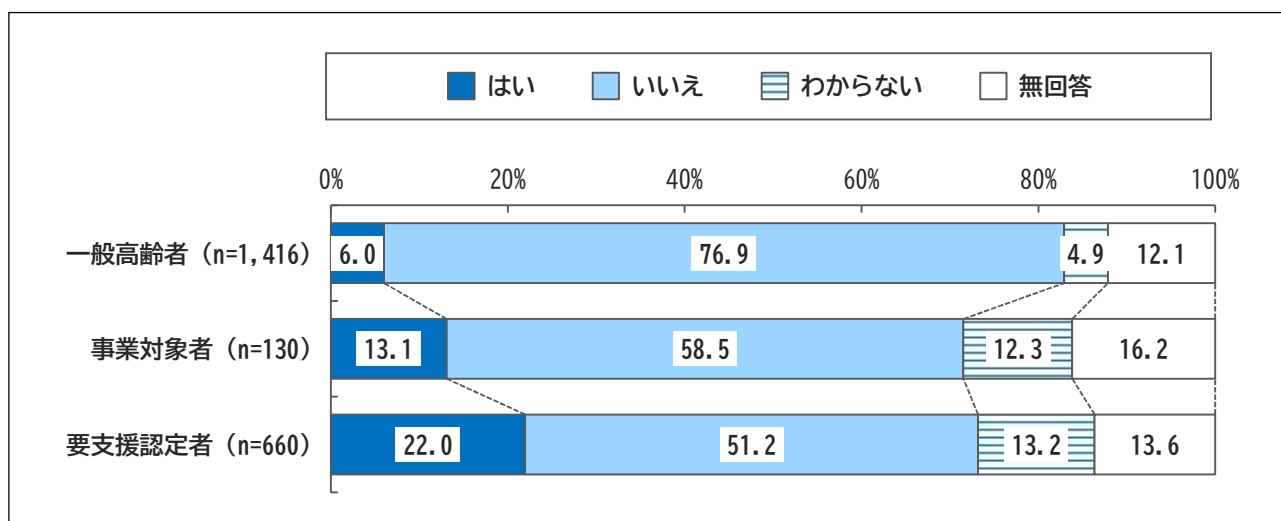


※問4（4）で「よくある」「時々ある」「ほとんどない」と答えたかたのみ

問4（4－1）聞こえにくさが原因で、外出や人との交流が減ったと感じますか。

聞こえにくさが原因で、外出や人との交流が減ったと感じるかについてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「いいえ」が高くなっています。一方、「はい」の割合は、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ高くなっています。

図表 28 聞こえにくさが原因で、外出や人との交流が減ったと感じるか

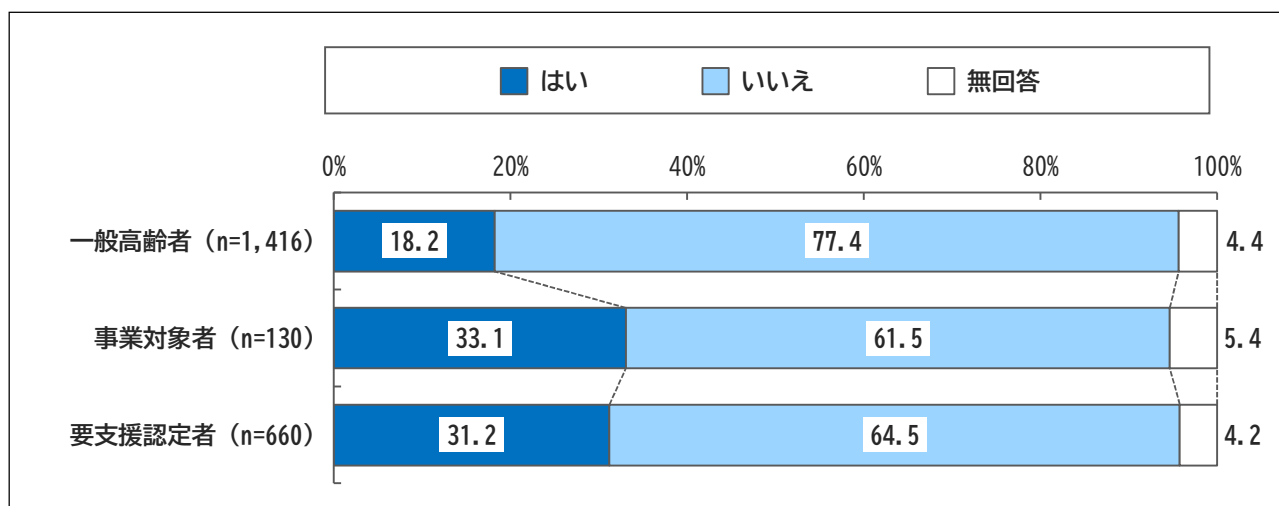


※問4（4）で「よくある」「時々ある」「ほとんどない」と答えたかたのみ

問4（4－2）聞こえにくさが原因で、医療機関を受診したことがありますか。

聞こえにくさが原因で、医療機関を受診したことがあるかについてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「いいえ」が最も高く、6割を超えています。

図表 29 聞こえにくさが原因で、医療機関を受診したことがあるか

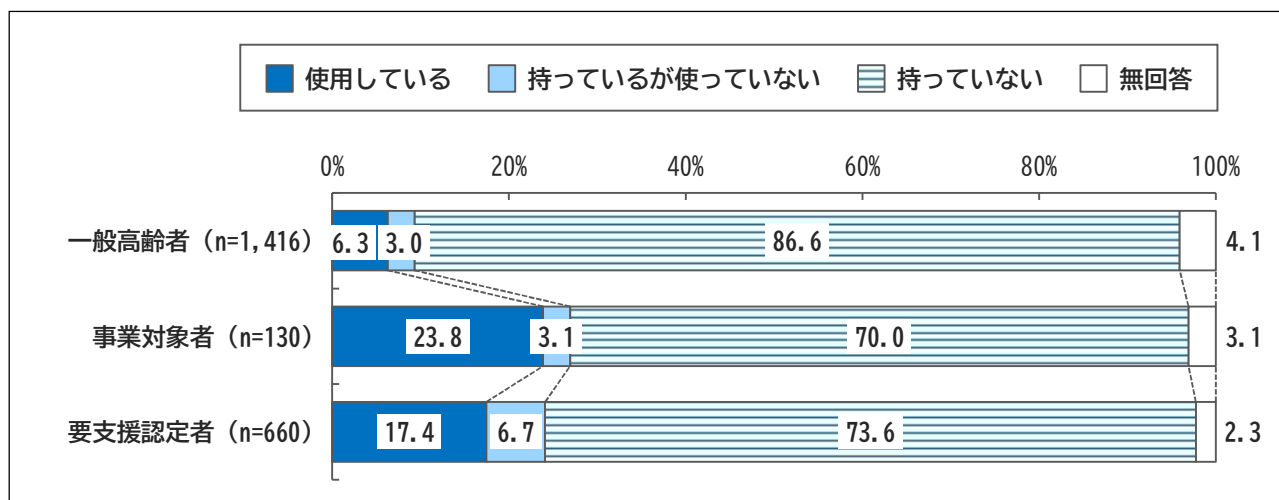


※問4（4）で「よくある」「時々ある」「ほとんどない」と答えたかたのみ

問4（4－3）補聴器を使用していますか。

補聴器の使用についてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「持っていない」が最も高く、7割を超えています。

図表 30 補聴器を使用しているか



(2) < I A D L : 手段的日常生活動作 > について (老研式活動能力指標)

問4 (5) バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)

問4 (6) 自分で食品・日用品の買物をしていますか。

問4 (7) 自分で食事の用意をしていますか。

問4 (8) 自分で請求書の支払いをしていますか。

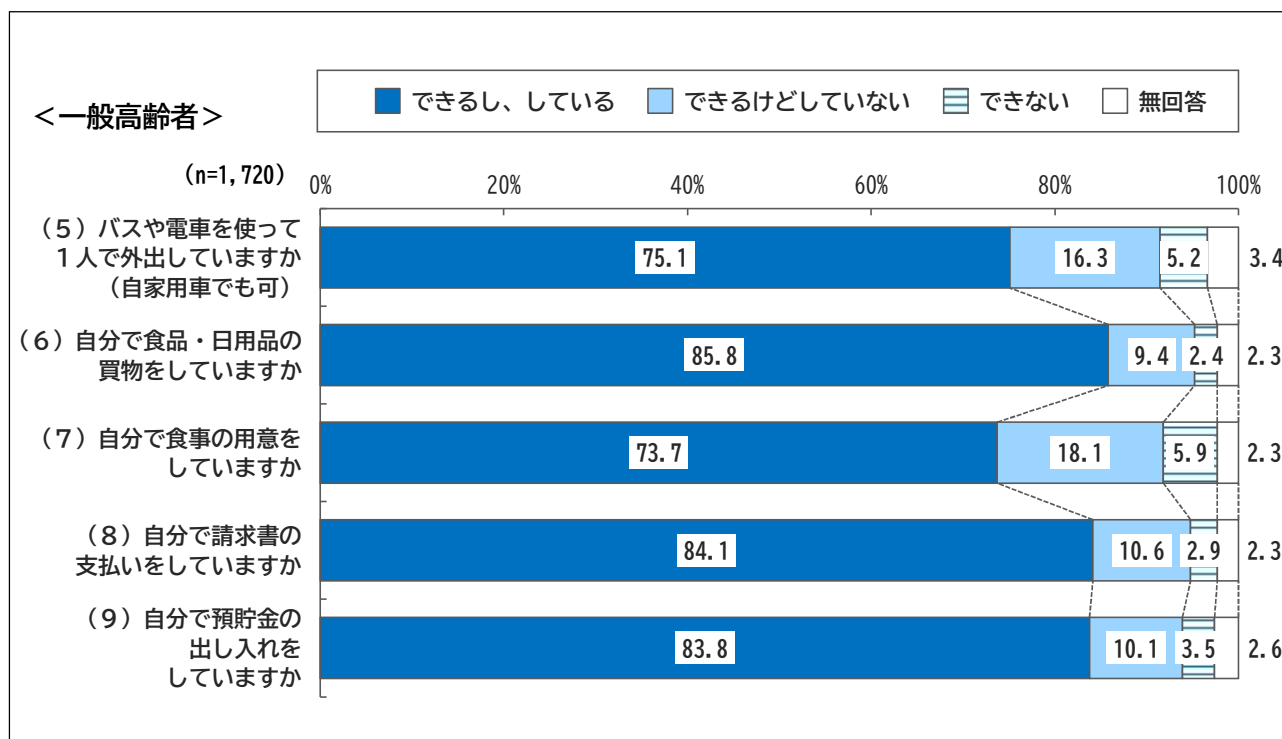
問4 (9) 自分で預貯金の出し入れをしていますか。

手段的日常生活動作についてみると、一般高齢者では、いずれの動作についても「できるし、している」が最も高く、7割を超えています。

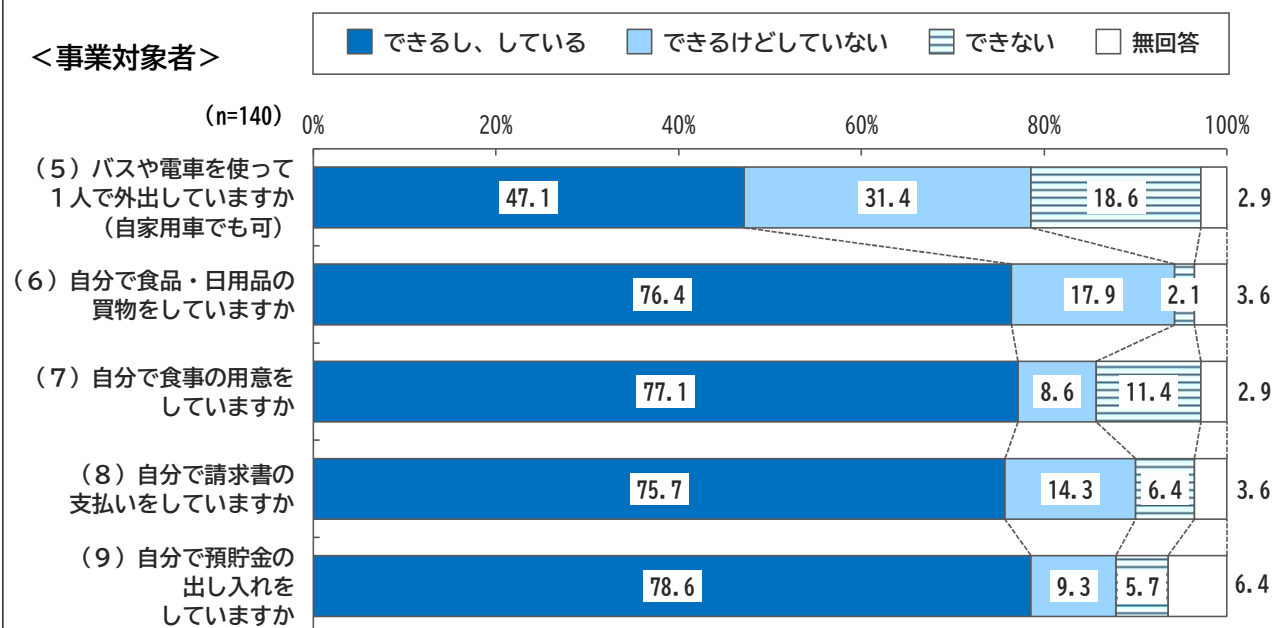
事業対象者でも同様に、いずれの動作についても「できるし、している」が最も高くなっていますが、『(5) バスや電車を使って1人で外出していますか』については、「できるし、している」が47.1%と5割を下回り、他の動作に比べてできる人の割合は低くなっています。

要支援認定者では、『(5) バスや電車を使って1人で外出していますか』については「できない」が50.3%と最も高くなっています。他の動作については、「できるし、している」の割合が最も高くなっていますが、その割合は、一般高齢者や事業対象者に比べて低くなっています。一方、いずれの動作についても、「できない」の割合は、一般高齢者や事業対象者に比べて高くなっています。

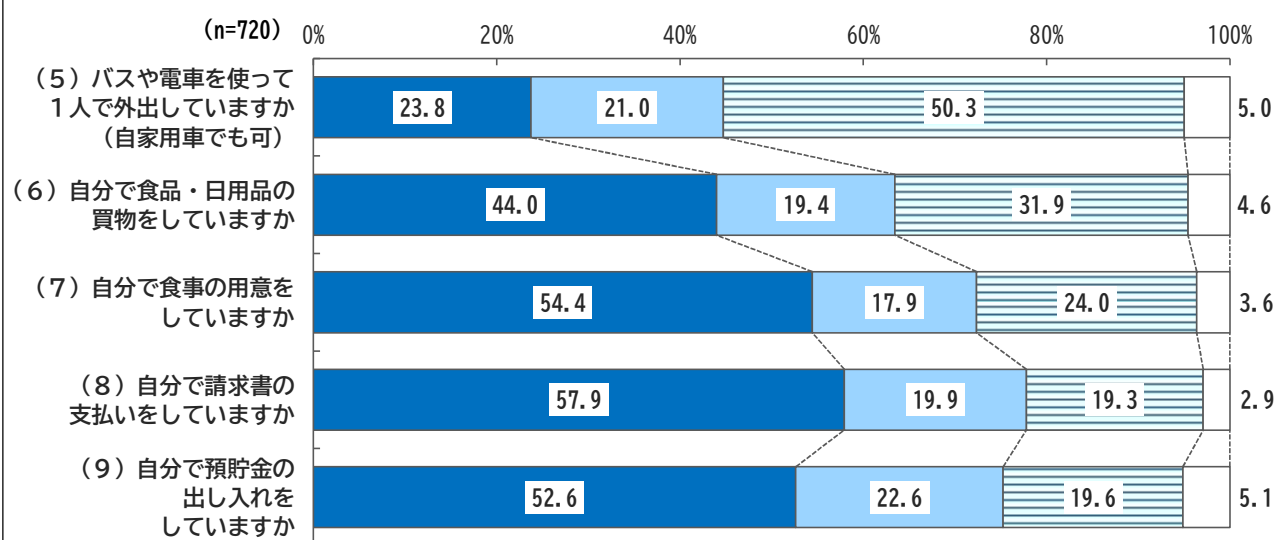
図表 31 I A D L : 手段的日常生活動作



<事業対象者>



<要支援認定者>



(3) <知的能動性>について（老研式活動能力指標）

問4（10）年金などの書類（役所や病院に出す書類）が書けますか。

問4（11）新聞を読んでいますか。

問4（12）本や雑誌を読んでいますか。

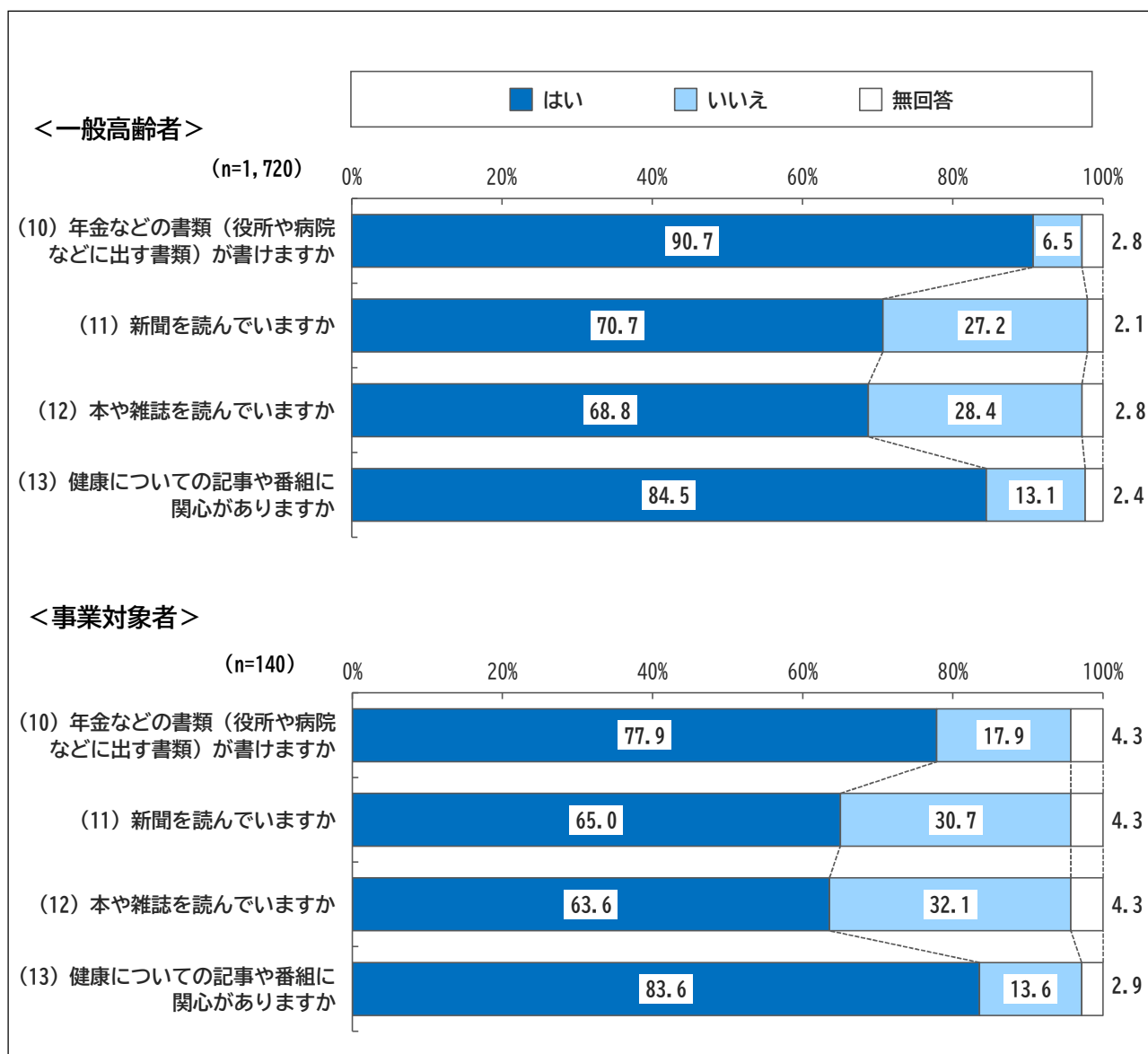
問4（13）健康についての記事や番組に関心がありますか。

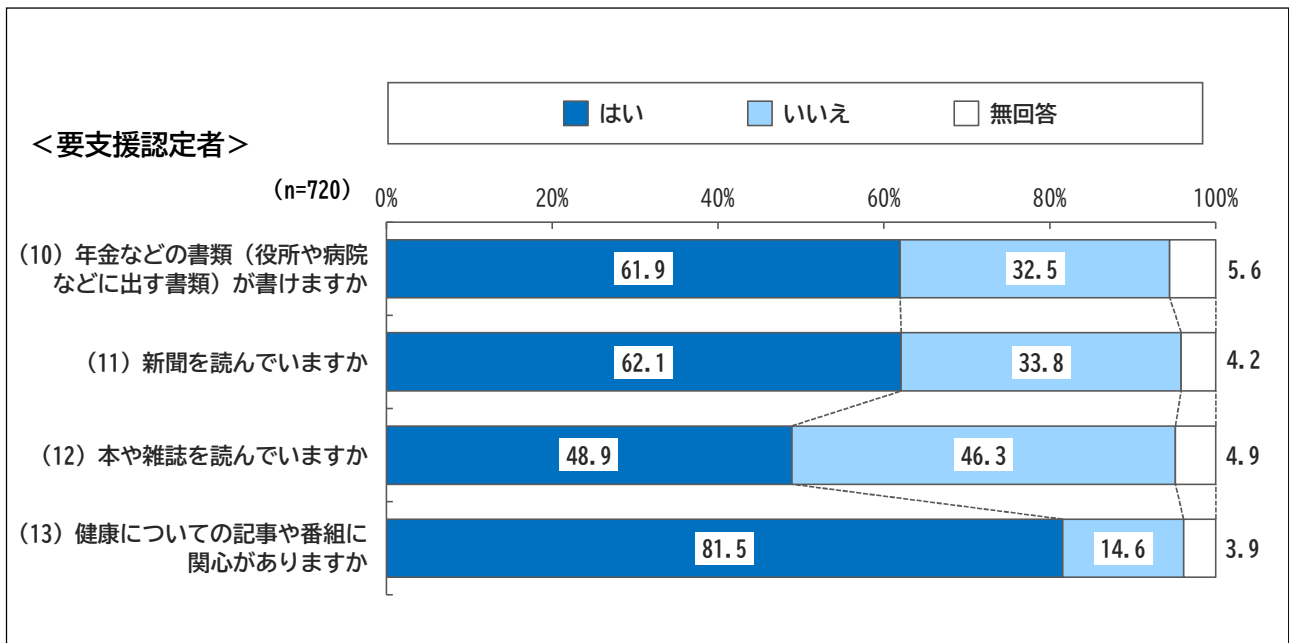
知的能動性についての活動能力をみると、一般高齢者ではいずれの活動についても「はい」が高く、6割を超えています。特に『(10) 年金などの書類が書けますか』については、「はい」が90.7%と大半を占めています。

事業対象者でも同様に、いずれの活動についても「はい」が高くなっていますが、その割合は一般高齢者に比べて低くなっています。

要支援認定者でも同様に、いずれの活動についても「はい」が高くなっていますが、その割合は一般高齢者、事業対象者に比べて低くなっています。また『(12) 本や雑誌を読んでいますか』については、「はい」が48.9%となっており、他の活動に比べて「はい」の割合は低くなっています。

図表 32 知的能動性



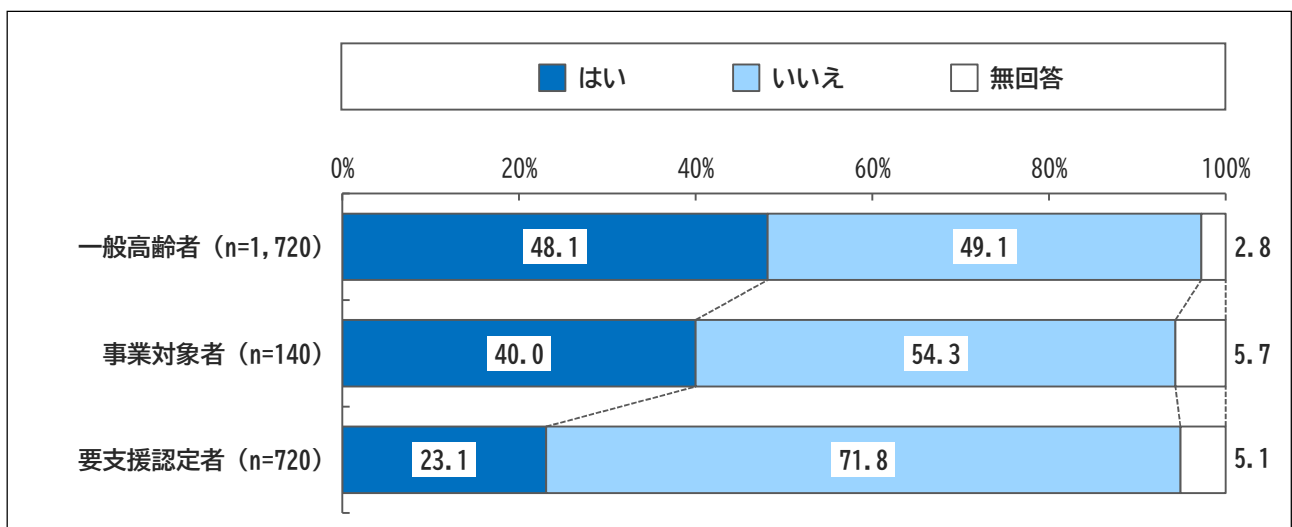


（４）社会的活動について

問４（１４）友人の家を訪ねていますか。

友人の家を訪ねているかどうかをみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「いいえ」が高くなっています。一方、「はい」の割合は、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ低くなっています。

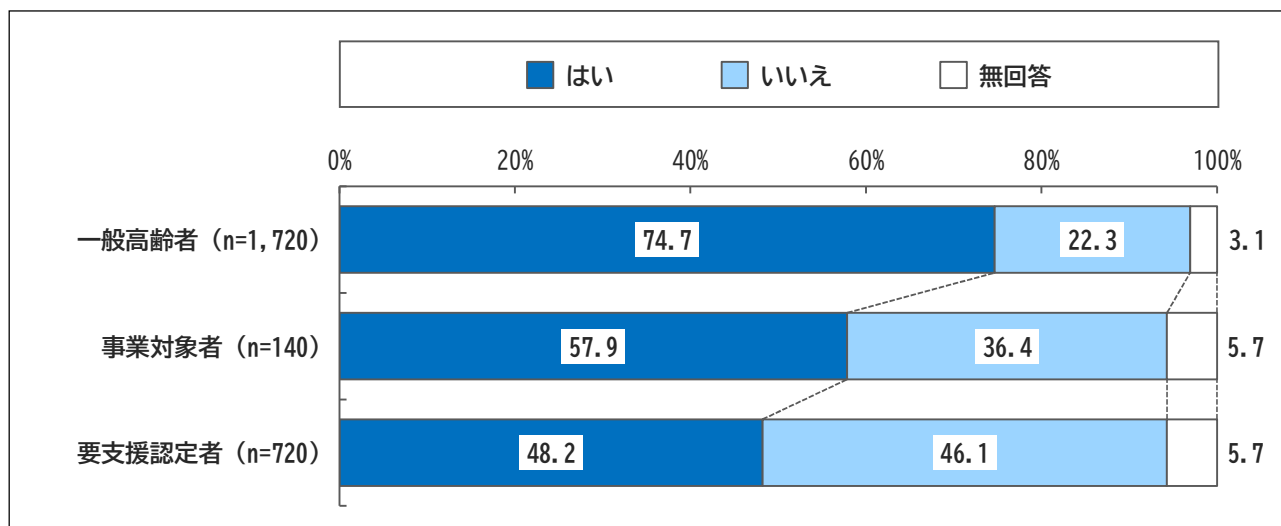
図表 33 友人の家を訪ねているか



問4（15）家族や友人の相談にのっていますか。

家族や友人の相談にのっているかどうかをみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「はい」が高くなっています。一方、「いいえ」の割合は、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ高くなっています。

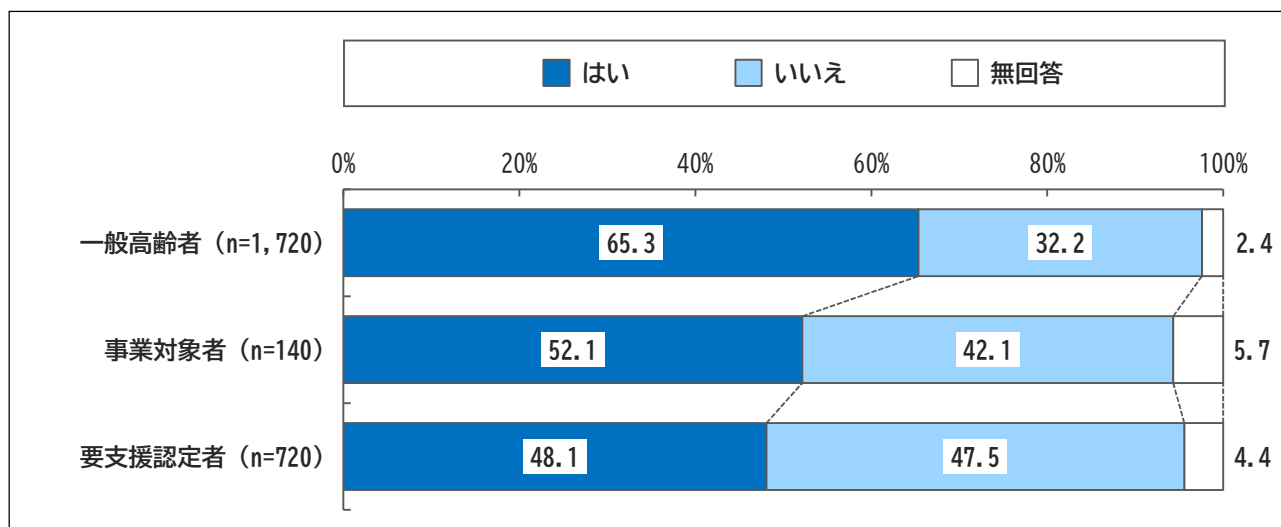
図表 34 家族や友人の相談にのっているか



問4（16）若い人に自分から話しかけることがありますか。

若い人に自分から話しかけることがあるかどうかをみると、一般高齢者、事業対象者では「はい」が5割以上を占めていますが、要支援認定者では48.1%となっています。

図表 35 若い人に自分から話しかけることがあるか



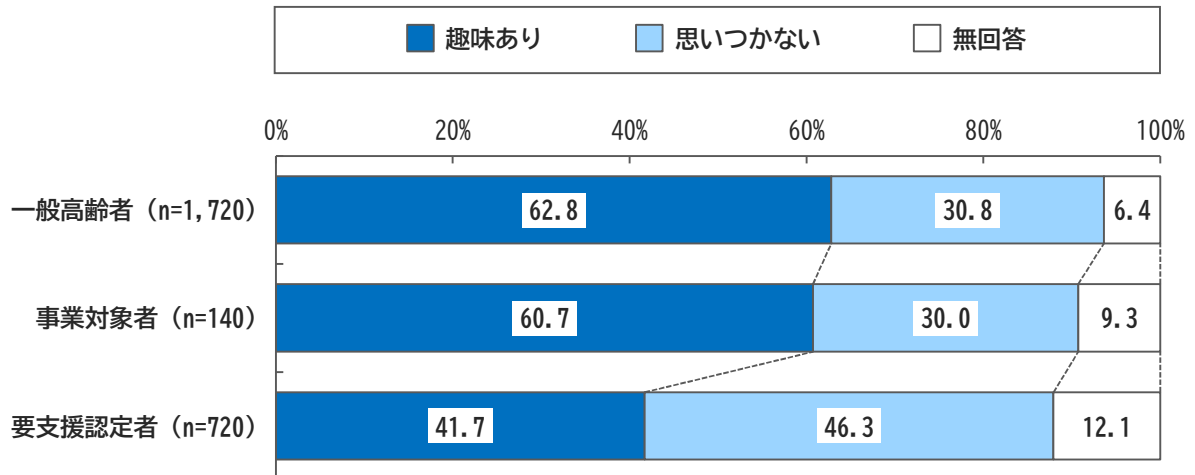
(5) 趣味・生きがいについて

問4 (17) 趣味はありますか。

趣味があるかどうかをみると「趣味あり」の割合は、一般高齢者が62.8%、事業対象者が60.7%、要支援認定者が41.7%となっており、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ低くなっています。

また、要支援認定者では「思いつかない」が46.3%となっており、「趣味あり」の割合を上回っています。

図表 36 趣味の有無

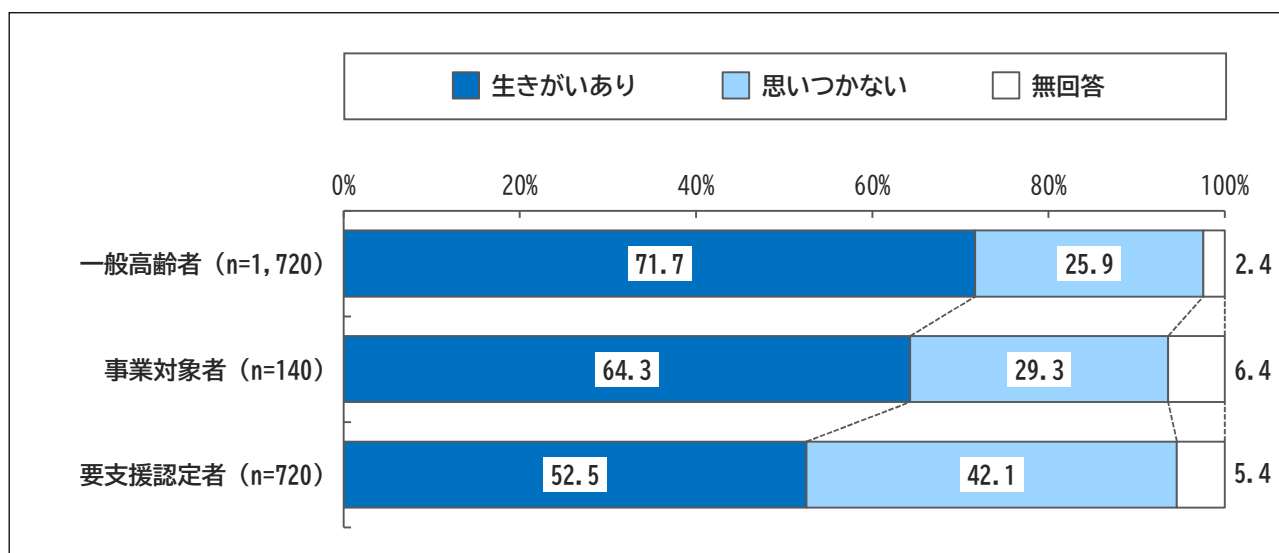


趣味の内容	件数
園芸、ガーデニング、草花の世話、家庭菜園、畑仕事	392
スポーツ（釣り、ゴルフ、テニス、散歩、運動、山登り、ダンスなど）	356
読書、新聞を読む	188
手芸（折り紙、裁縫、編み物）、陶芸	186
歌うこと、カラオケ、コーラス	120
音楽（演奏、鑑賞）、ラジオ	113
TV、ビデオ、DVD、映画鑑賞、スポーツ観戦	103
外出、旅行、ドライブ	97
囲碁、将棋、パズル、クイズ	87
絵画、塗り絵、書道（文字を書く）	83
料理、食事	51
ゲーム（スマホ・テレビ）、インターネット、パソコン	31
俳句、短歌、詩吟、川柳	29
ギャンブル	23
カメラ、写真	22
茶道	12
動物の世話	11
その他（買い物、いろいろ、英会話、仕事、ボランティアなど）	96
したいが出来ない（時間が無い、体が不自由などの理由）	16
無回答	30
合計	2,046

問4（18）生きがいがありますか。

生きがいの有無をみると、「生きがいあり」の割合は、一般高齢者が71.7%、事業対象者が64.3%、要支援認定者が52.5%となっており、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ低くなっています。

図表 37 生きがいの有無



※問4（18）で「生きがいあり」と答えたかたのみ

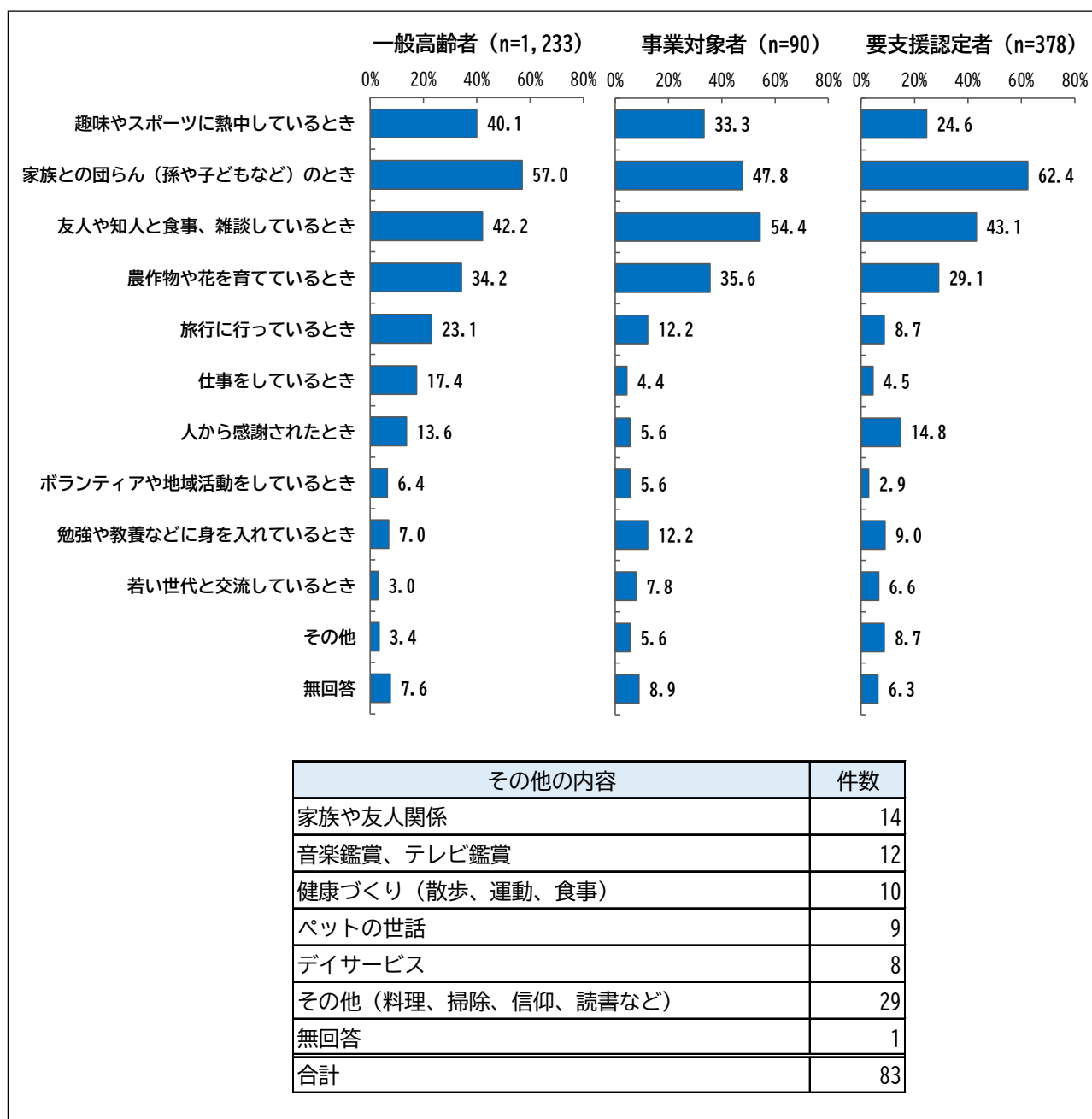
問4（18－1）日常の中で、生きがいや楽しみ、喜びを感じるときは、どんな時ですか。（3つまで）

日常の中で、生きがいや楽しみ、喜びを感じる時はどんなときかをみると、一般高齢者では「家族との団らん（孫や子どもなど）のとき」（57.0%）が最も高く、次いで「友人や知人と食事、雑談しているとき」（42.2%）、「趣味やスポーツに熱中しているとき」（40.1%）となっています。

事業対象者では、「友人や知人と食事、雑談しているとき」（54.4%）が最も高く、次いで「家族との団らん（孫や子どもなど）のとき」（47.8%）、「農作物や花を育てているとき」（35.6%）となっています。

要支援認定者では、「家族との団らん（孫や子どもなど）のとき」（62.4%）が最も高く、次いで「友人や知人と食事、雑談しているとき」（43.1%）、「農作物や花を育てているとき」（29.1%）となっています。

図表 38 生きがいや楽しみ、喜びを感じる時（複数回答：3つまで）



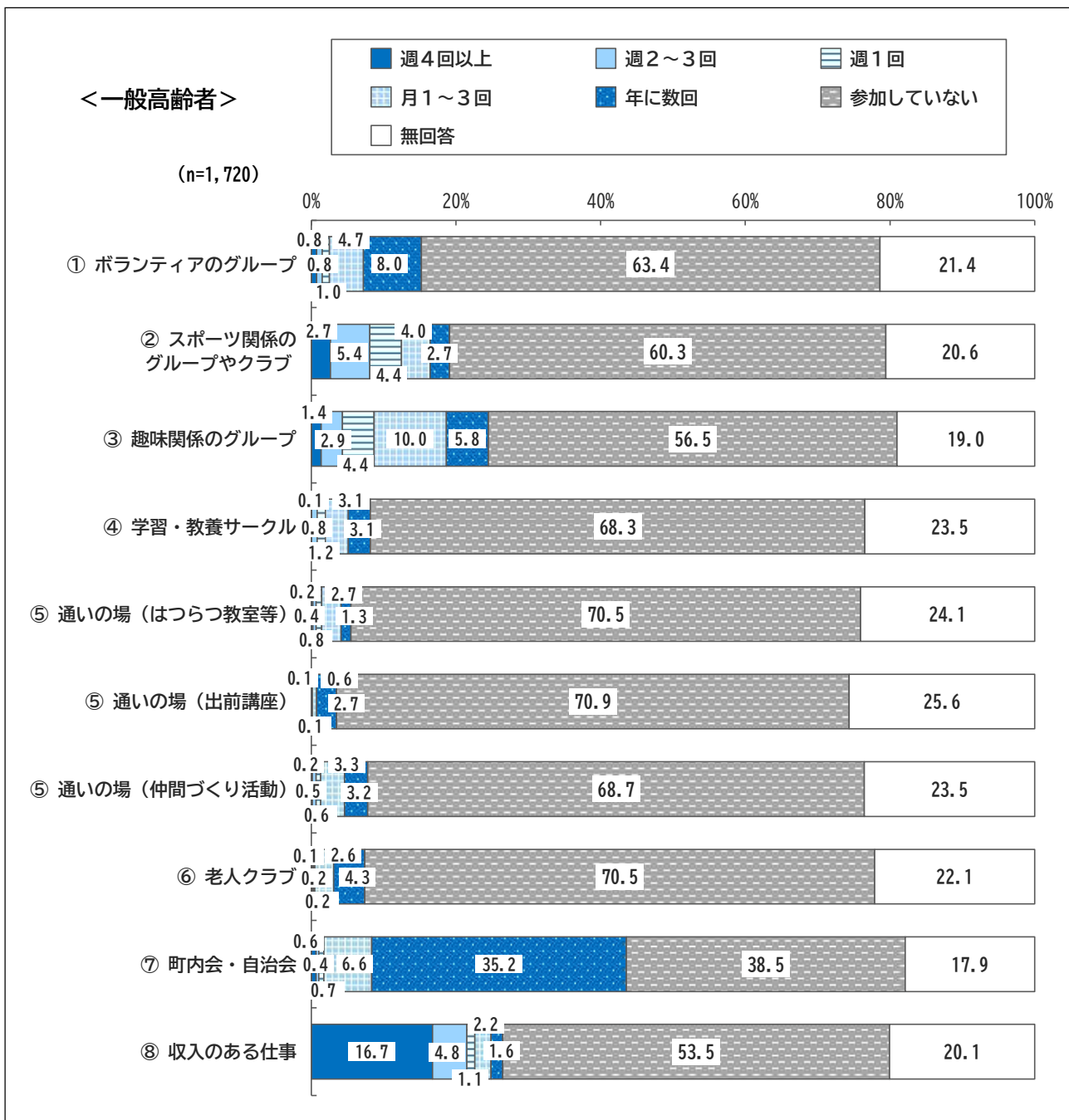
5 地域での活動について

(1) 社会参加の状況

問5 (1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

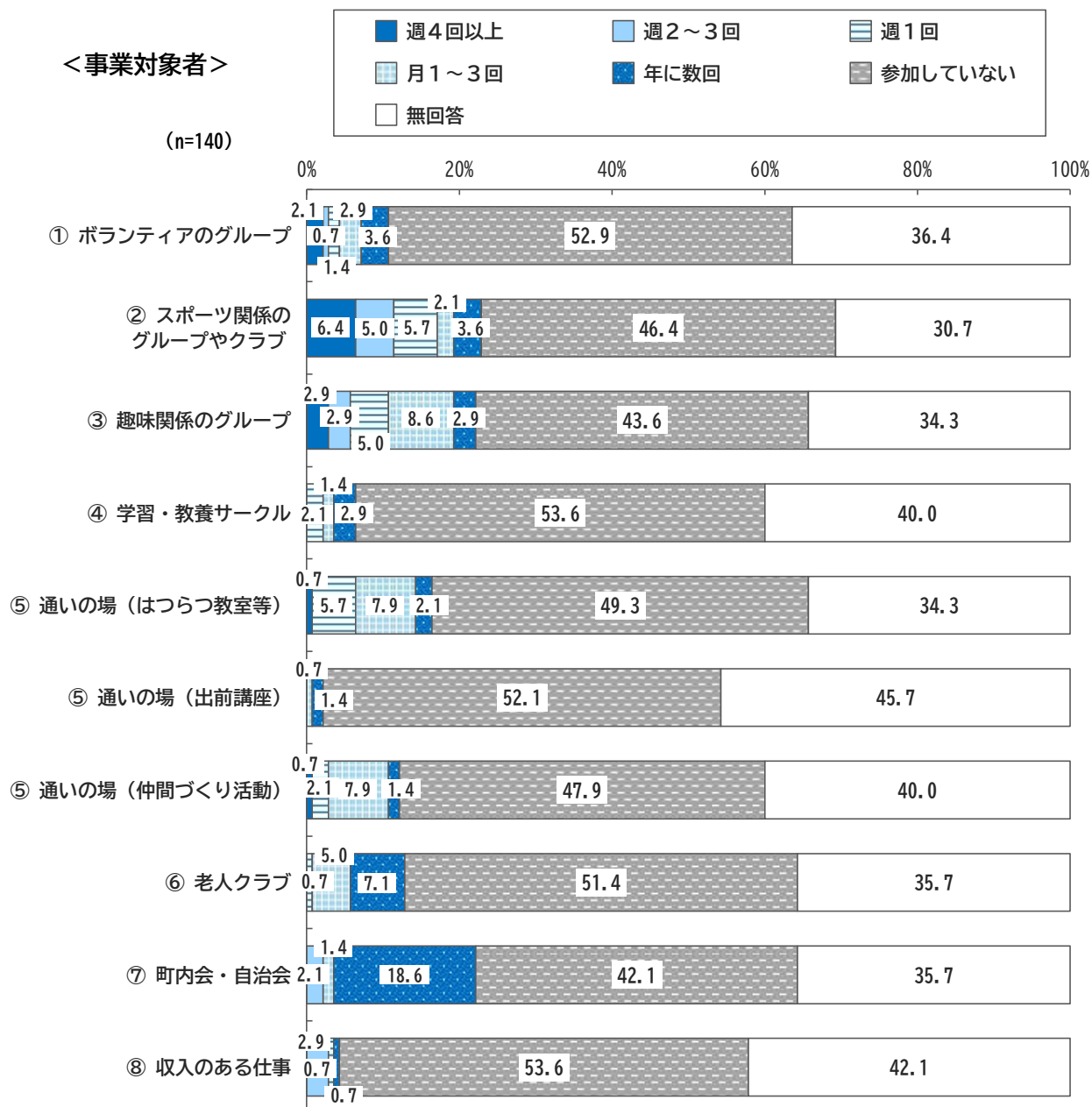
社会参加の頻度について、「週4回以上」から「年に数回」までを合計した『参加率』をみると、一般高齢者、要支援認定者では⑦町内会・自治会、事業対象者では②スポーツ関係のグループやクラブがそれぞれ最も高くなっています。

図表 39 社会参加の状況



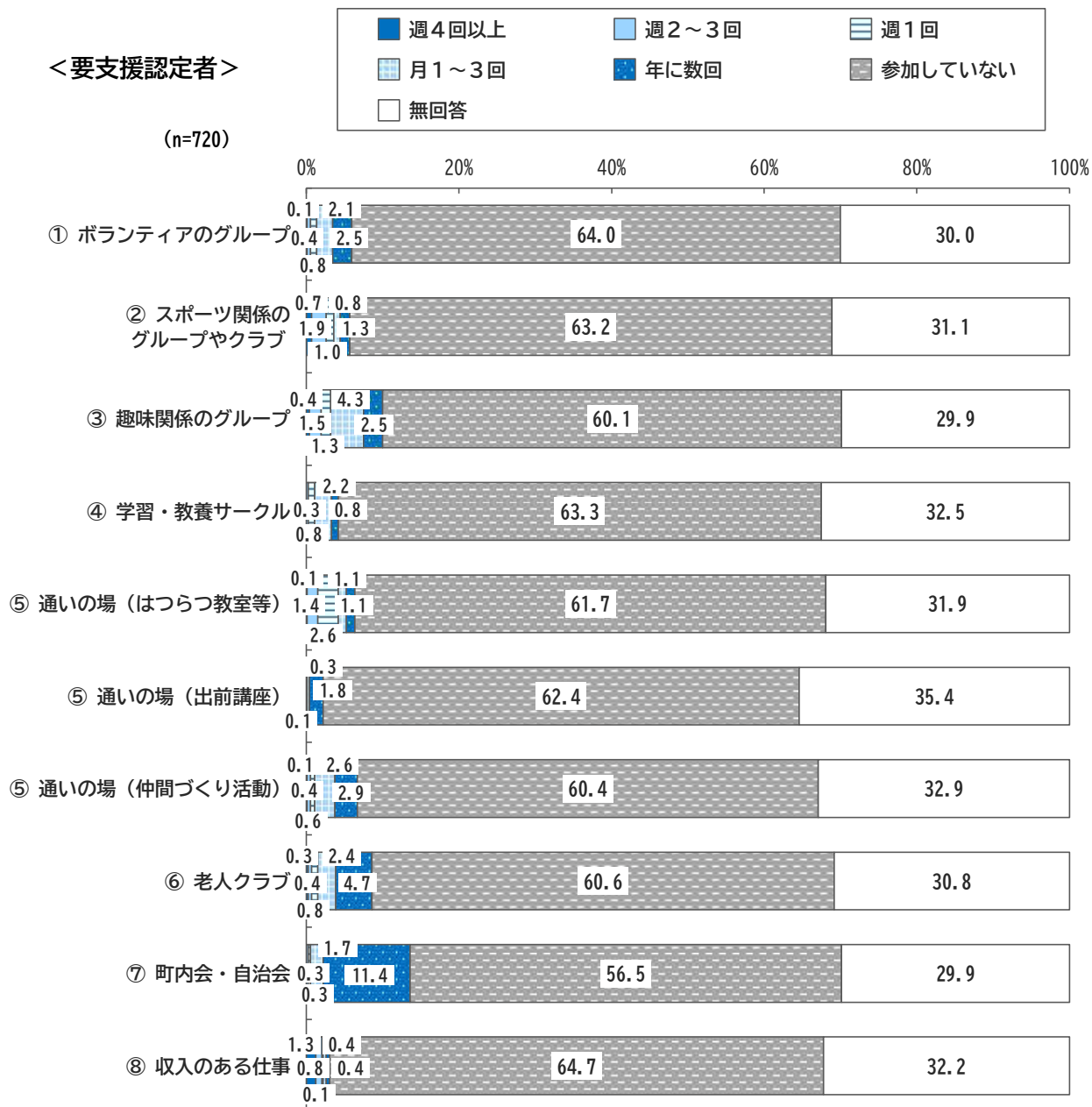
<事業対象者>

(n=140)



<要支援認定者>

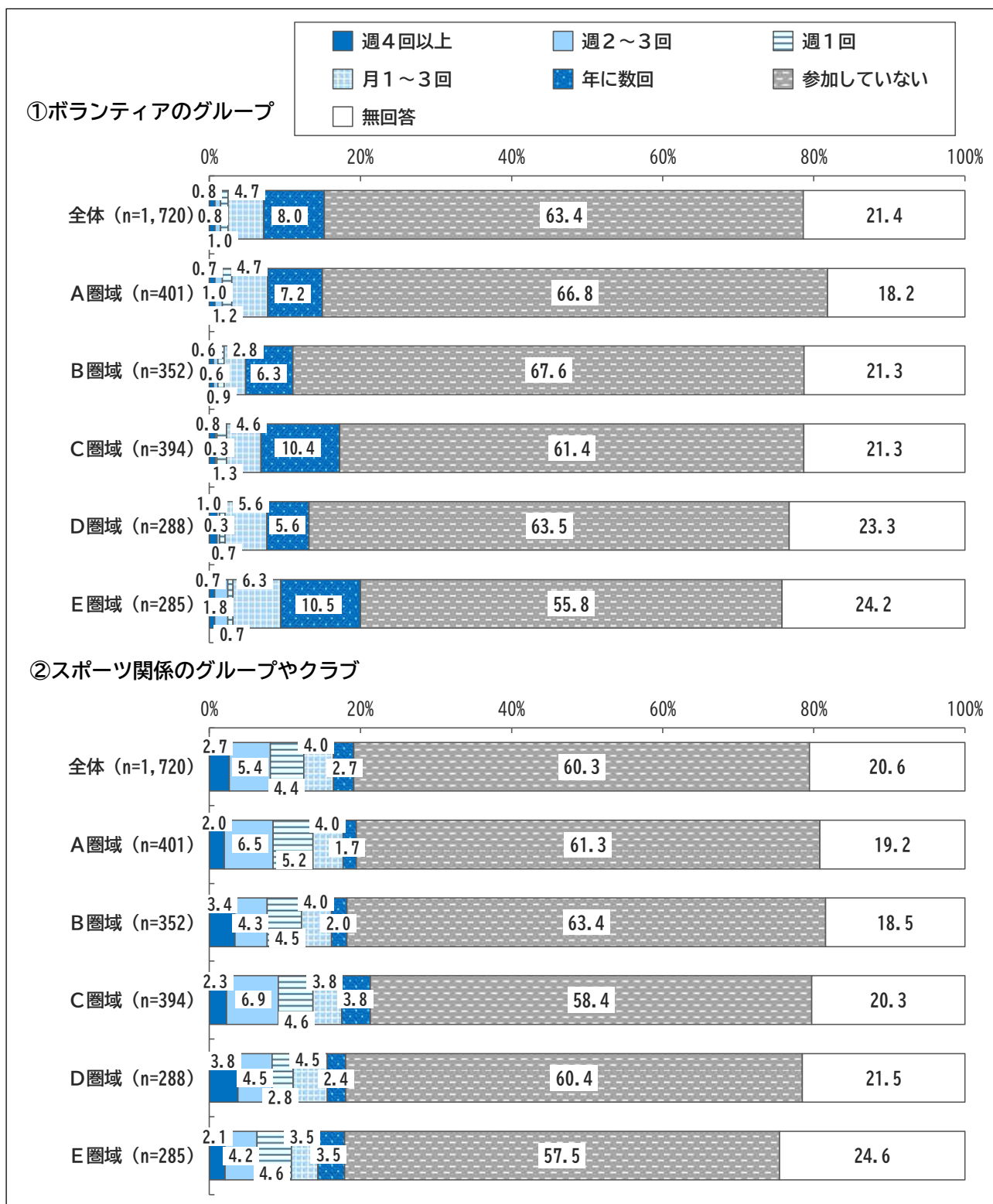
(n=720)



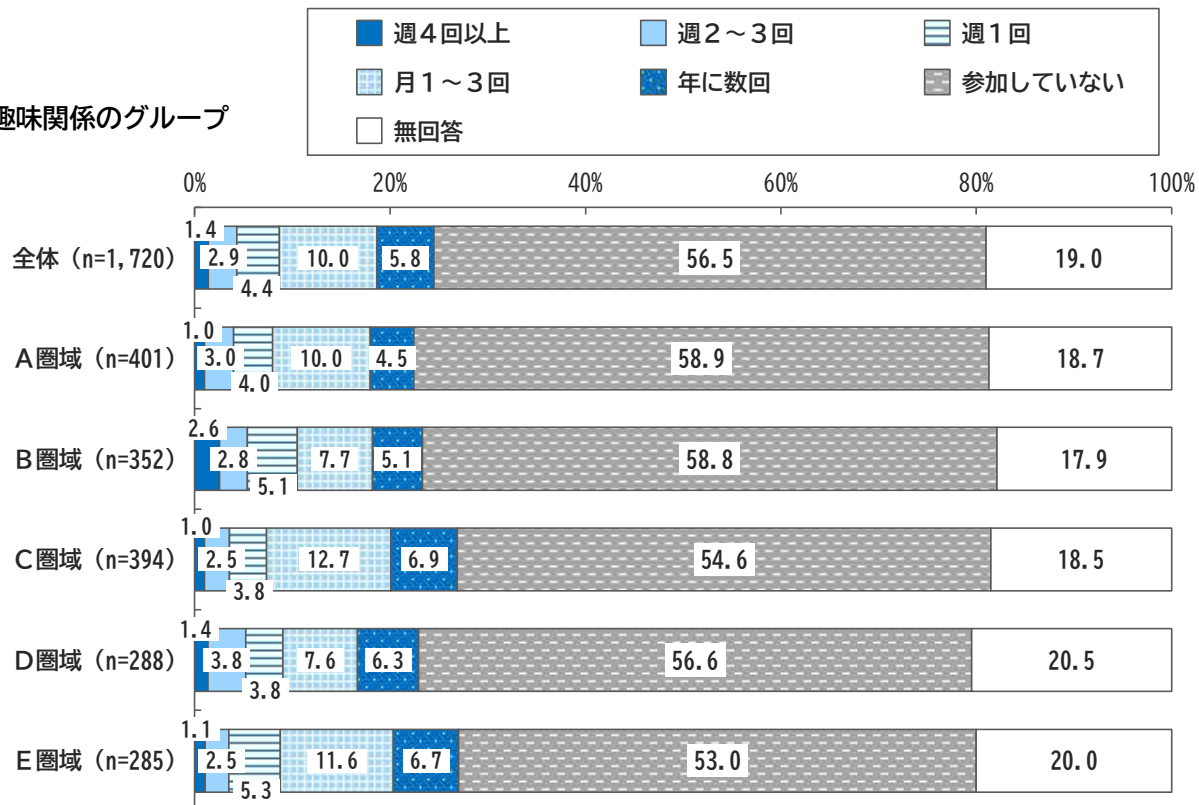
【日常生活圏域別：一般高齢者】

日常生活圏域別に一般高齢者の各活動への参加率をみると、①ボランティアのグループ、③趣味関係のグループ、⑤通いの場（出前講座）、⑤通いの場（仲間づくり活動）、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会とほとんどの活動においてE圏域が最も高くなっています。一方、④学習・教養サークル、⑤通いの場（はつらつ教室等）ではA圏域の『参加率』が最も高く、②スポーツ関係のグループやクラブ、⑧収入のある仕事ではC圏域の『参加率』が最も高くなっています。

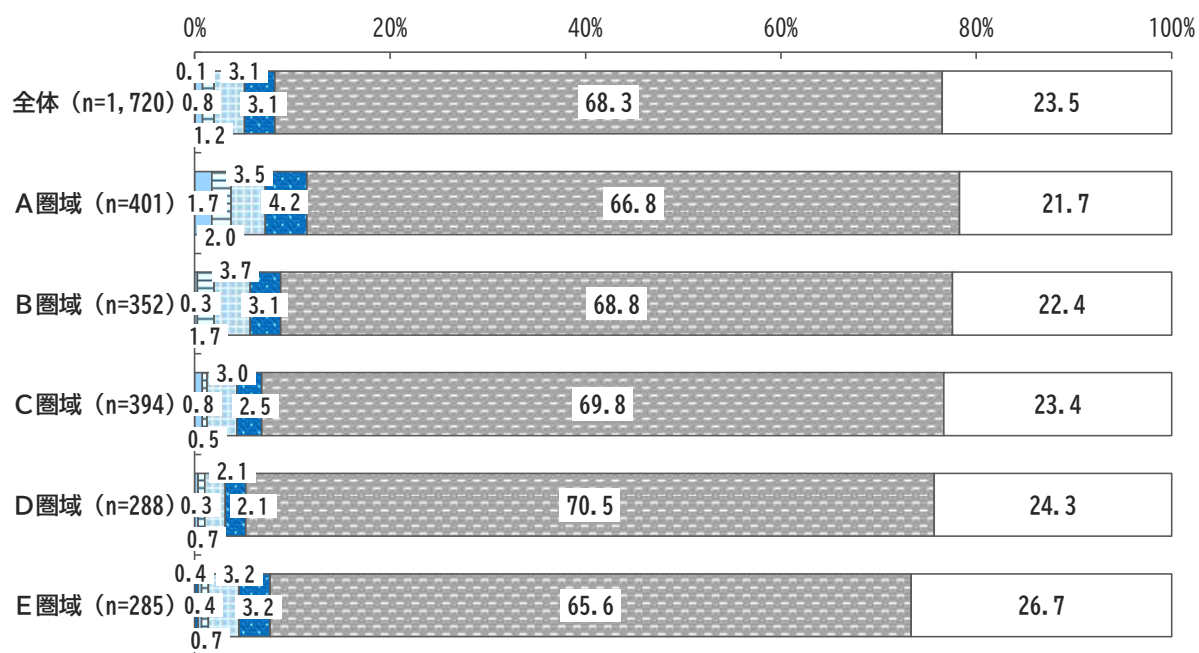
図表 40 社会参加の状況（日常生活圏域別：一般高齢者）



③趣味関係のグループ

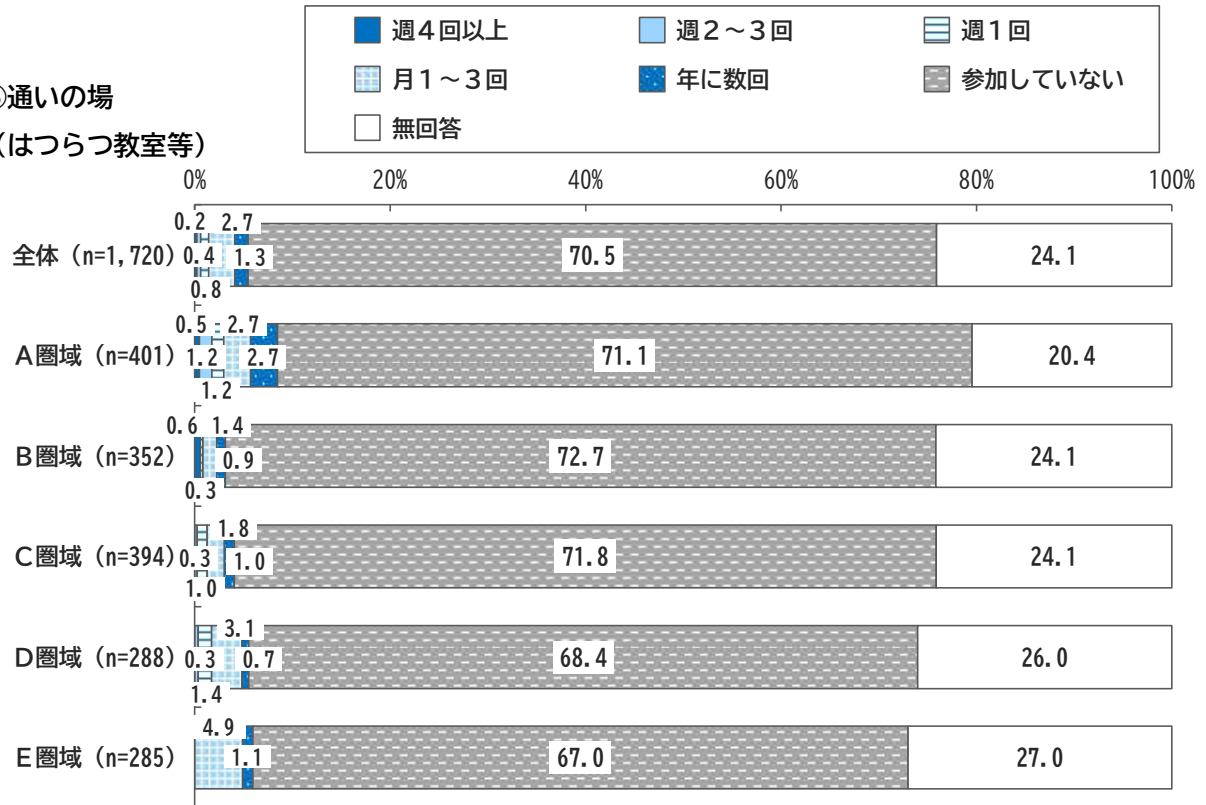


④学習・教養サークル

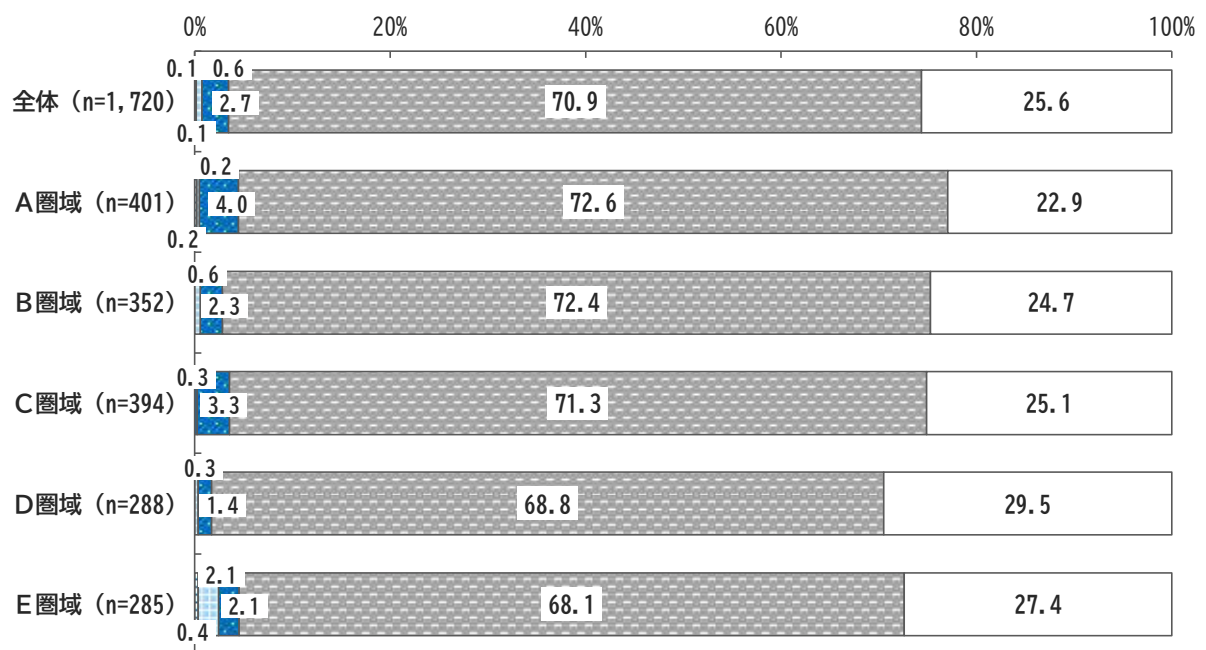


⑤通いの場

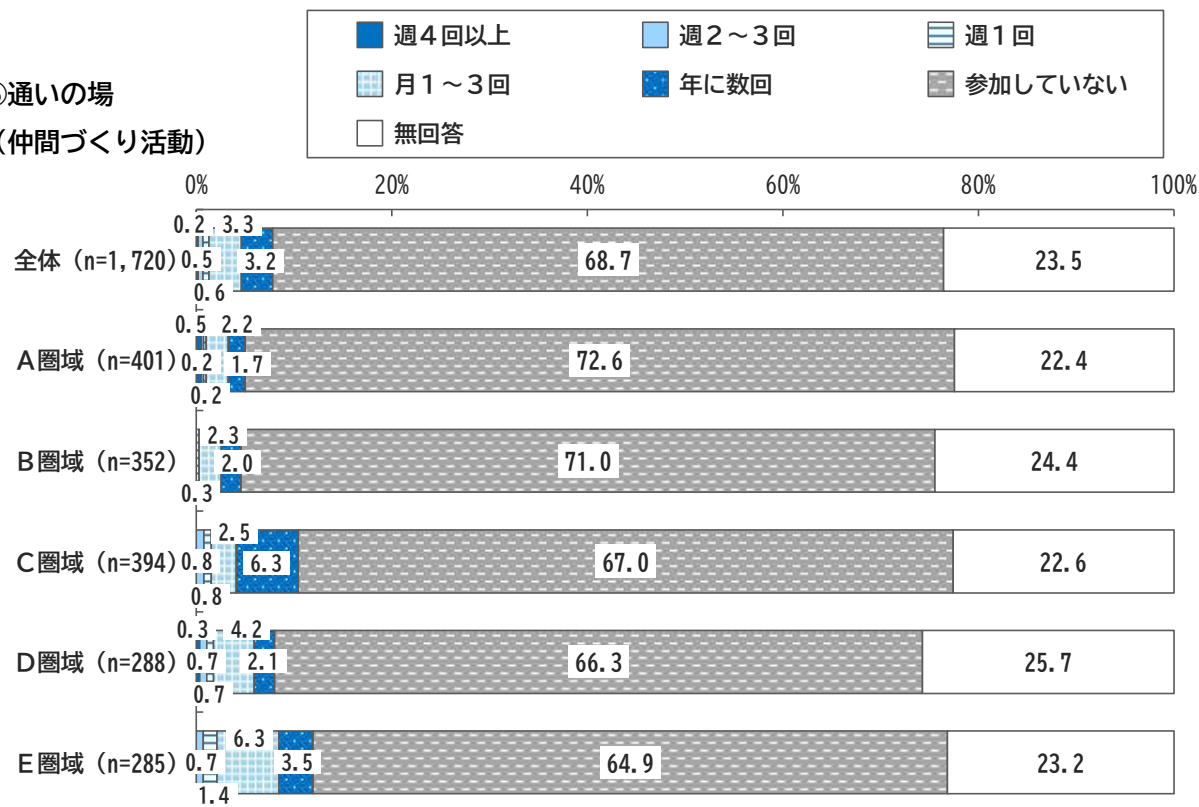
(はつらつ教室等)



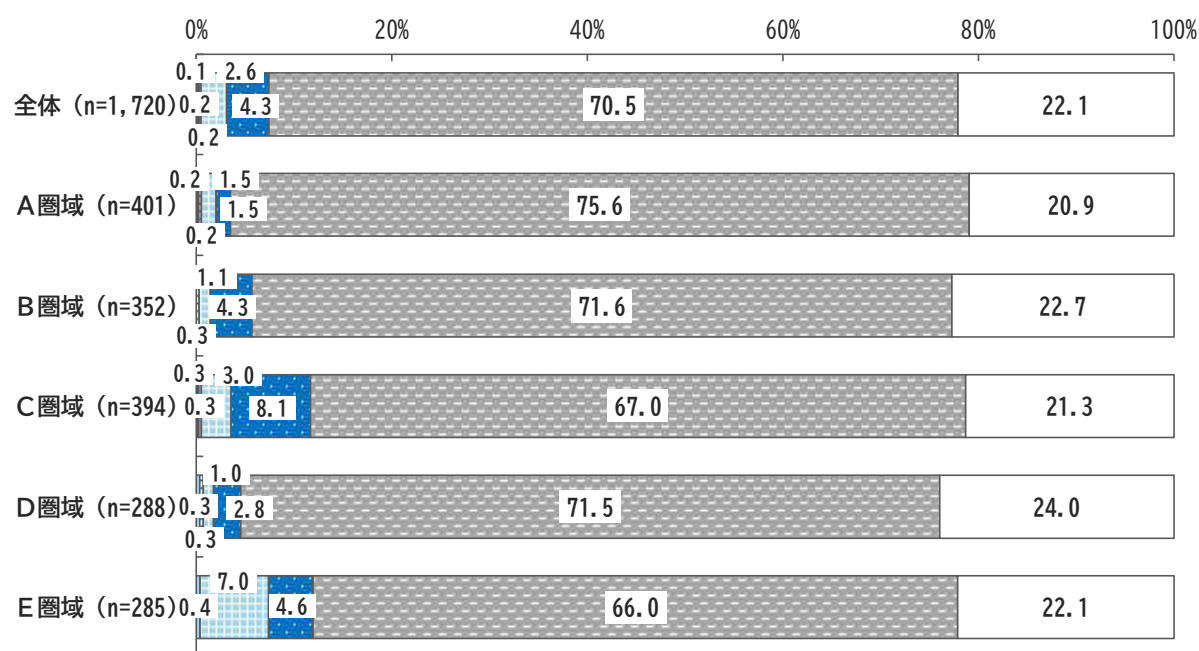
⑤通いの場 (出前講座)



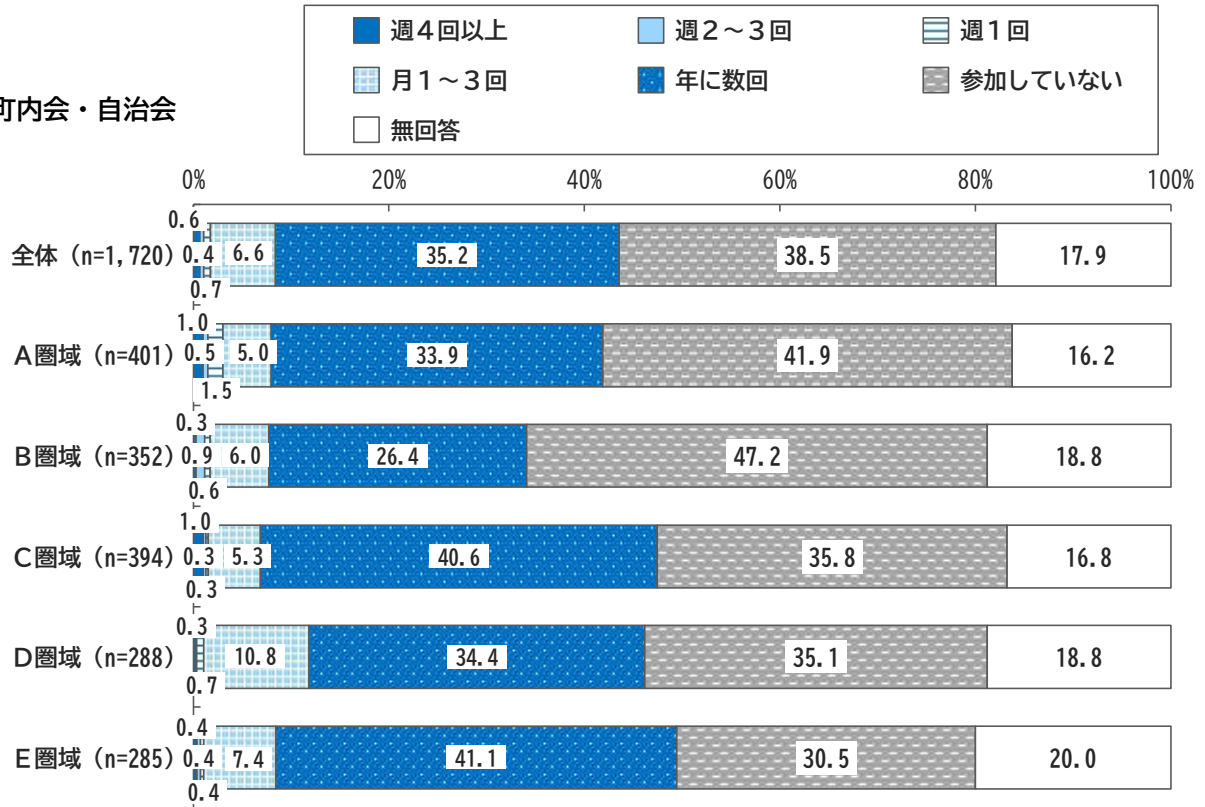
⑤通いの場
(仲間づくり活動)



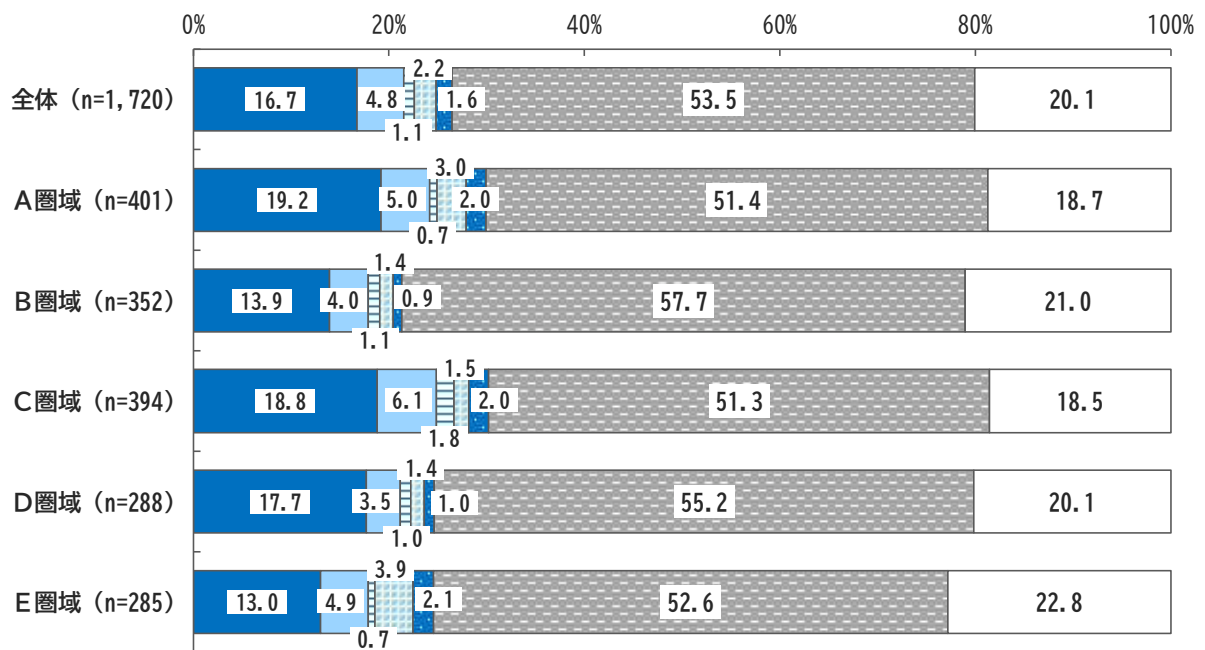
⑥老人クラブ



⑦町内会・自治会



⑧収入のある仕事

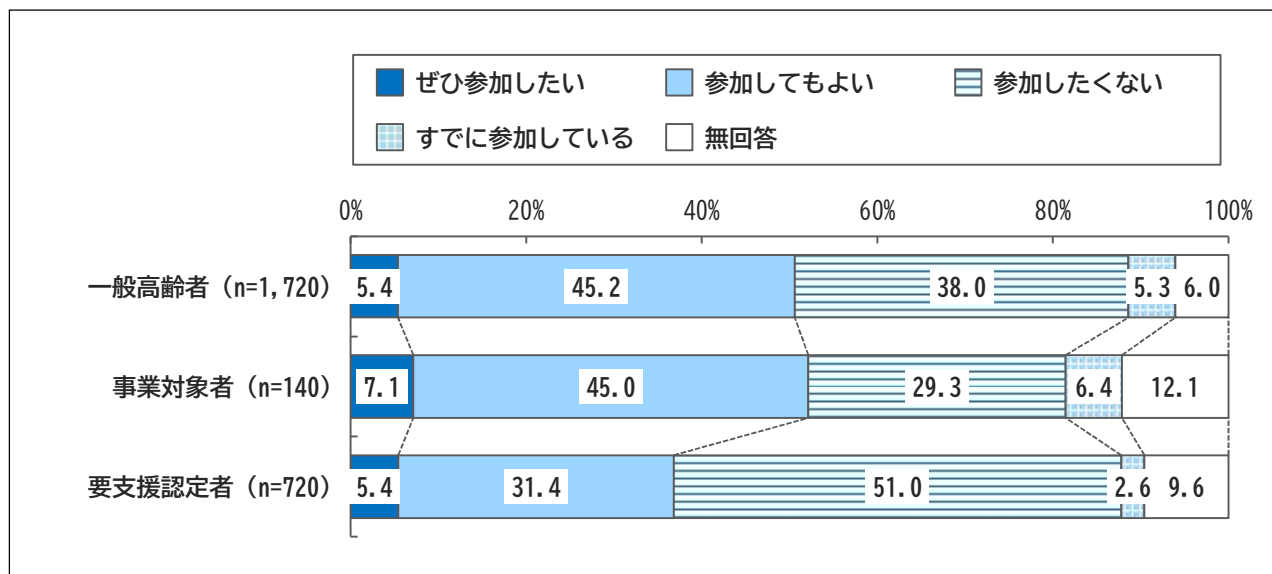


(2) 地域づくりへの参加意向

問5 (2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

地域づくり活動に参加者として参加してみたいかどうかをみると、「ぜひ参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『参加者として参加してもよい』割合は、一般高齢者が50.6%、事業対象者が52.1%と5割以上を占めているのに対し、要支援認定者は36.8%と低くなっています。

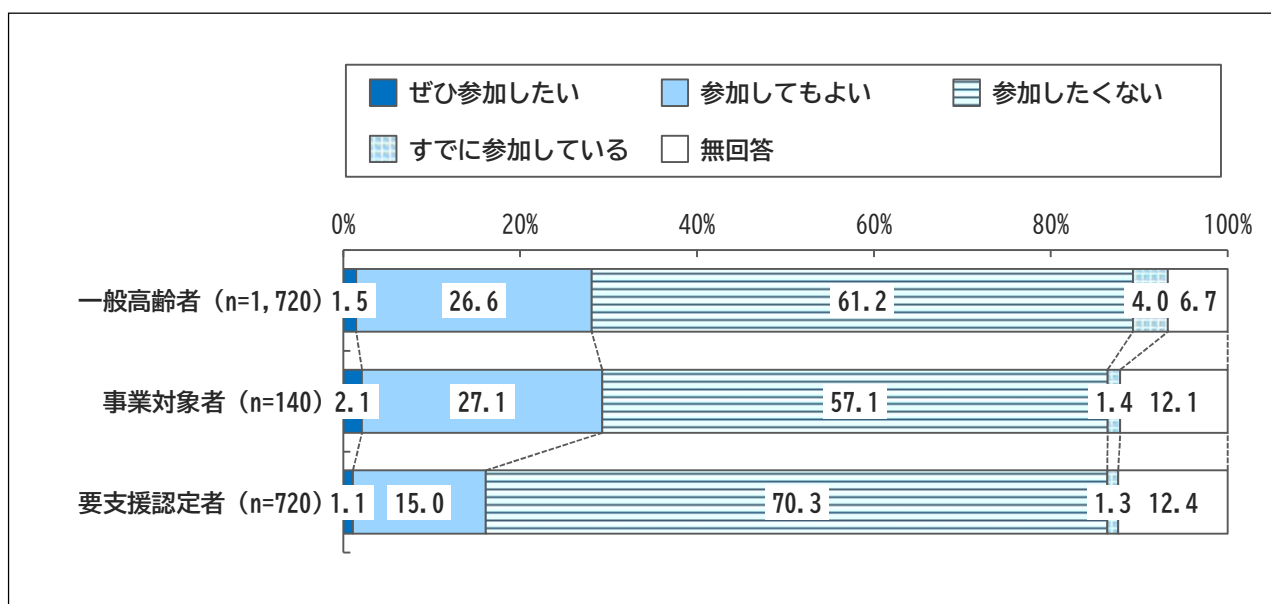
図表 41 地域づくりへの参加意向（参加者）



問5（3）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

地域づくり活動に企画・運営として参加してみたいかどうかをみると、いずれも「参加したくない」が半数以上を占めています。一方、「ぜひ参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『企画・運営として参加してもよい』は、一般高齢者が28.1%、事業対象者が29.2%、要支援認定者が16.1%となっています。

図表 42 地域づくりへの参加意向（企画・運営）



6 就労について

(1) 就労状態について

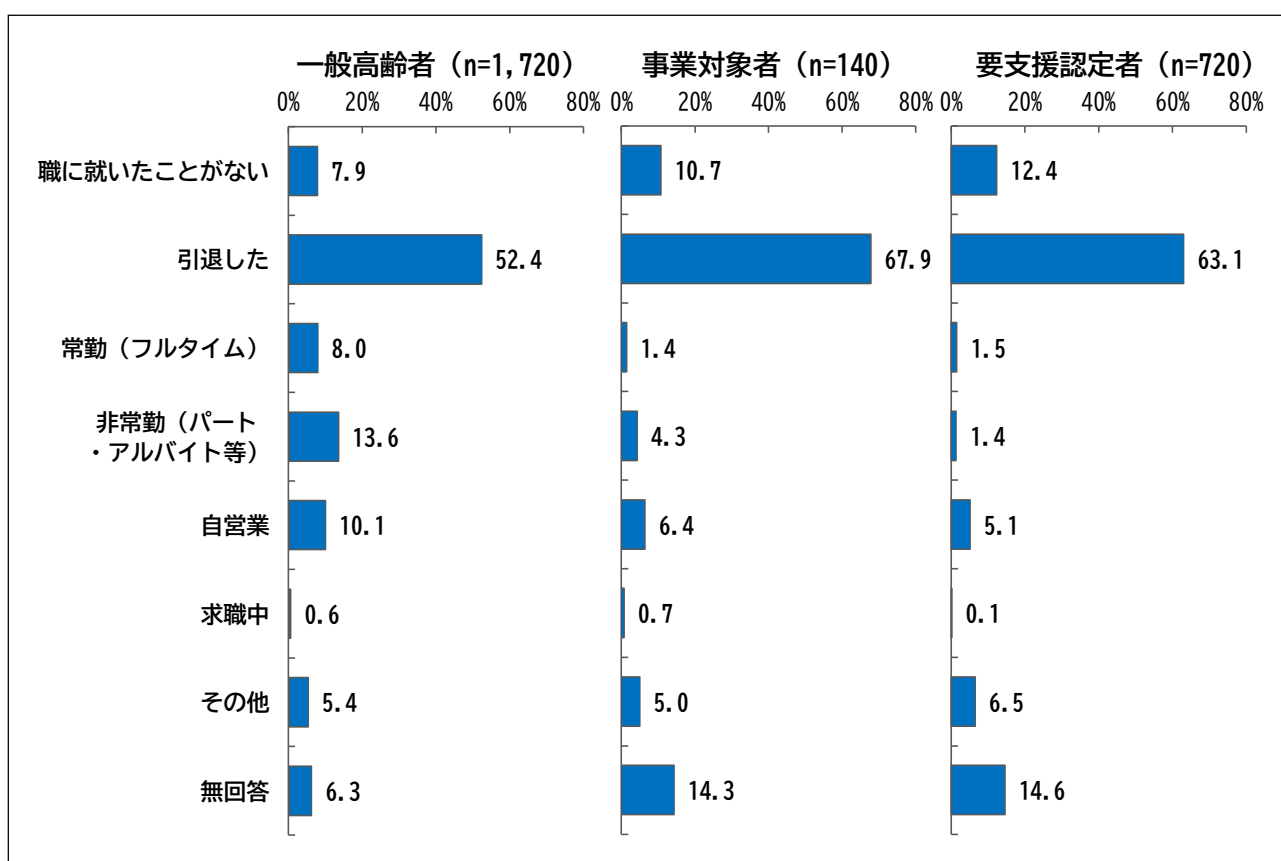
問6 (1) 現在のあなたの就労状態はどれですか。(いくつでも)

現在の就労状態についてみると、一般高齢者では「引退した」(52.4%)が最も高く、次いで「非常勤(パート・アルバイト等)」(13.6%)、「自営業」(10.1%)となっています。

事業対象者では「引退した」(67.9%)が最も高く、次いで「職に就いたことがない」(10.7%)、「自営業」(6.4%)となっています。

要支援認定者では「引退した」(63.1%)が最も高く、次いで「職に就いたことがない」(12.4%)、「自営業」(5.1%)となっています。

図表 43 現在の就労状態(複数回答)



7 たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴（ぐち）について

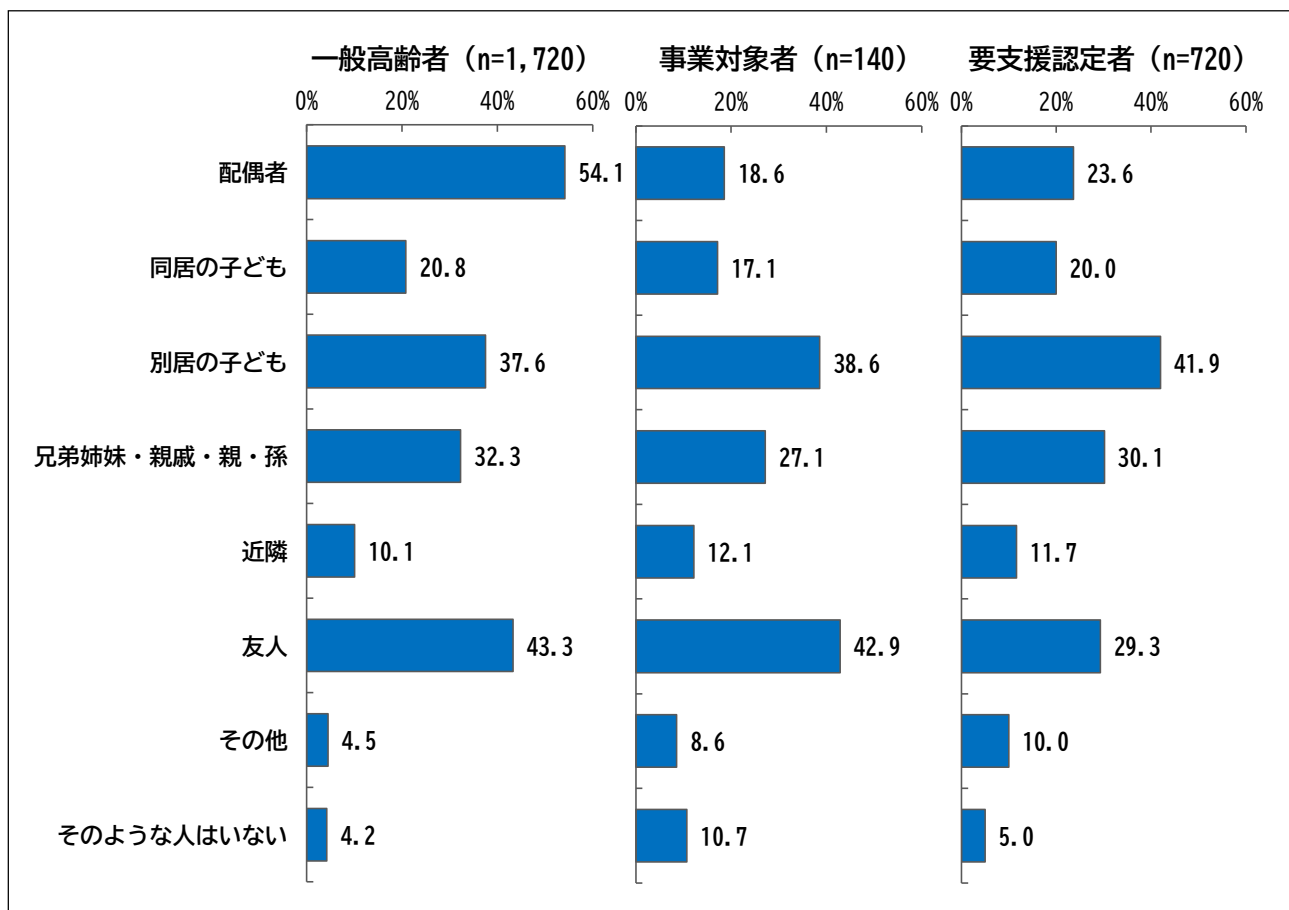
問7（1）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はいますか。（いくつでも）

心配事や愚痴を聞いてくれる相手についてみると、一般高齢者では「配偶者」（54.1%）が最も高く、次いで「友人」（43.3%）、「別居の子ども」（37.6%）となっています。

事業対象者では「友人」（42.9%）が最も高く、次いで「別居の子ども」（38.6%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（27.1%）となっています。

要支援認定者では「別居の子ども」（41.9%）が最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（30.1%）、「友人」（29.3%）となっています。

図表 44 心配事や愚痴を聞いてくれる人（複数回答）



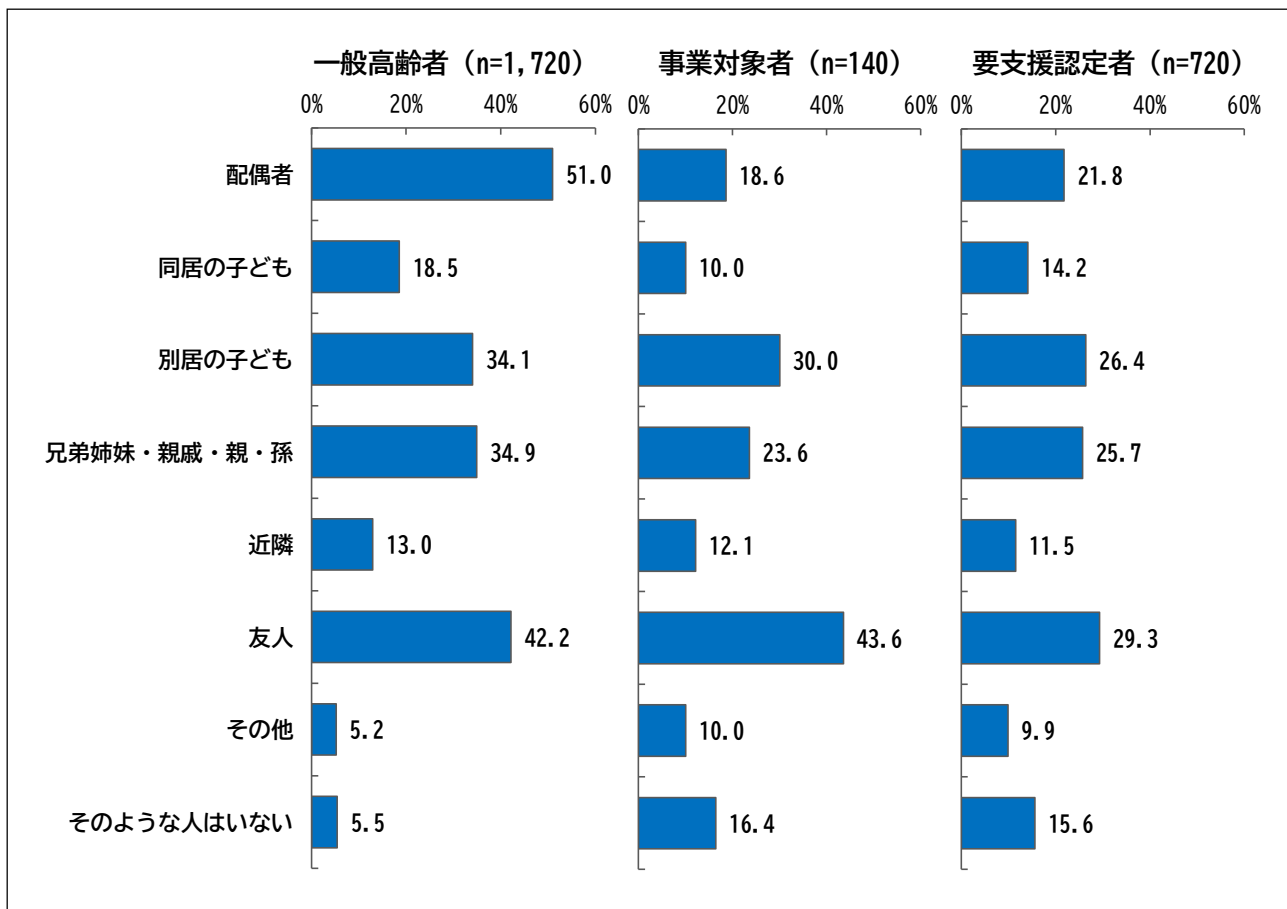
問7（2）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はいますか。（いくつでも）

心配事や愚痴を聞いてあげる人についてみると、一般高齢者では「配偶者」（51.0％）が最も高く、次いで「友人」（42.2％）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（34.9％）となっています。

事業対象者では「友人」（43.6％）が最も高く、次いで「別居の子ども」（30.0％）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」、「そのような人はいない」（23.6％）、となっています。

要支援認定者では「友人」（29.3％）が最も高く、次いで「別居の子ども」（26.4％）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（25.7％）となっています。

図表 45 心配事や愚痴を聞いてあげる人（複数回答）



(2) 看病や世話について

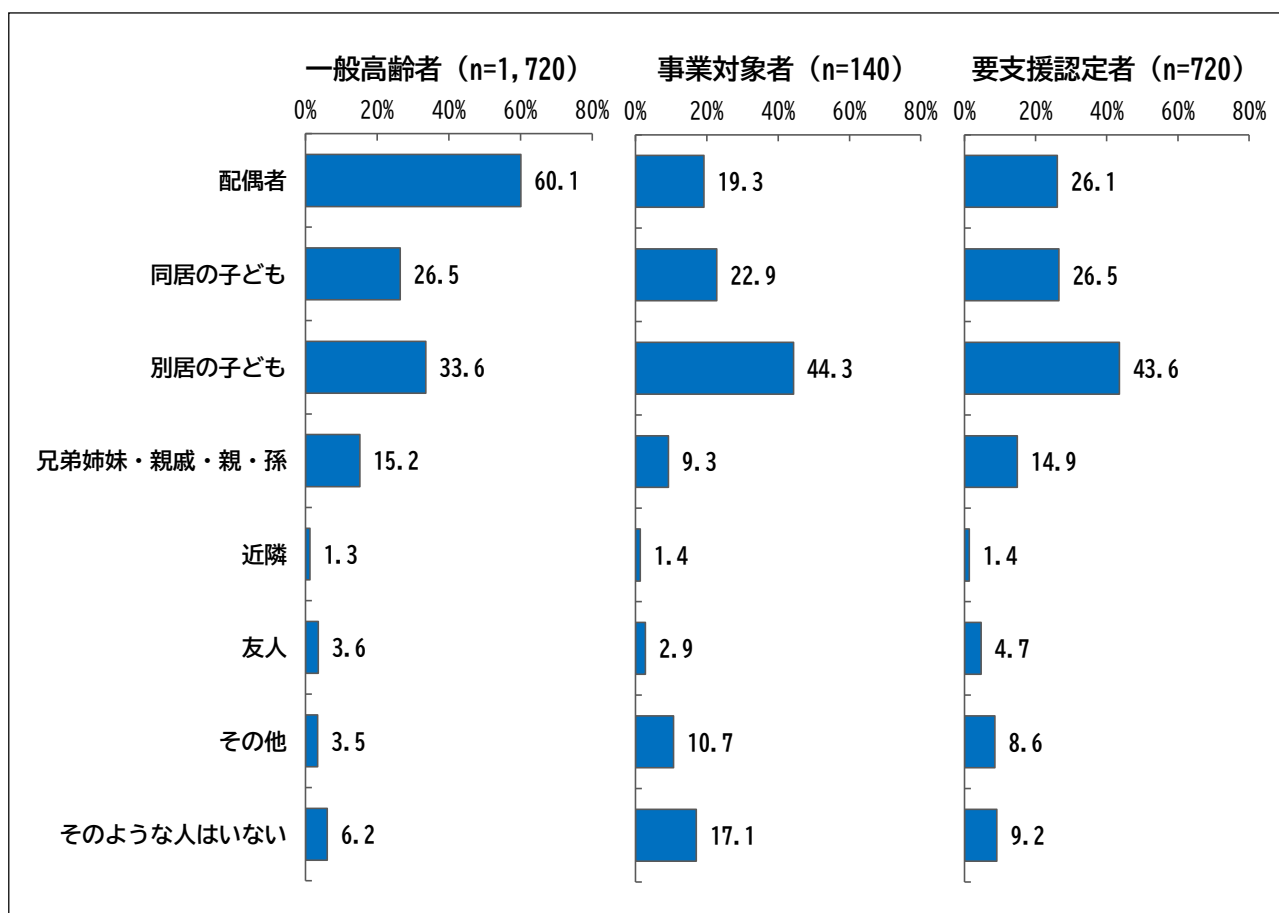
問7 (3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいますか。
(いくつでも)

病気で寝込んだ際に看病してくれる人についてみると、一般高齢者では「配偶者」(60.1%)が最も高く、次いで「別居の子ども」(33.6%)、「同居の子ども」(26.5%)となっています。

事業対象者では「別居の子ども」(44.3%)が最も高く、次いで「同居の子ども」(22.9%)、「配偶者」(19.3%)となっています。

要支援認定者では「別居の子ども」(43.6%)が最も高く、次いで「同居の子ども」(26.5%)、「配偶者」(26.1%)となっています。

図表 46 看病や世話をしてくれる人（複数回答）



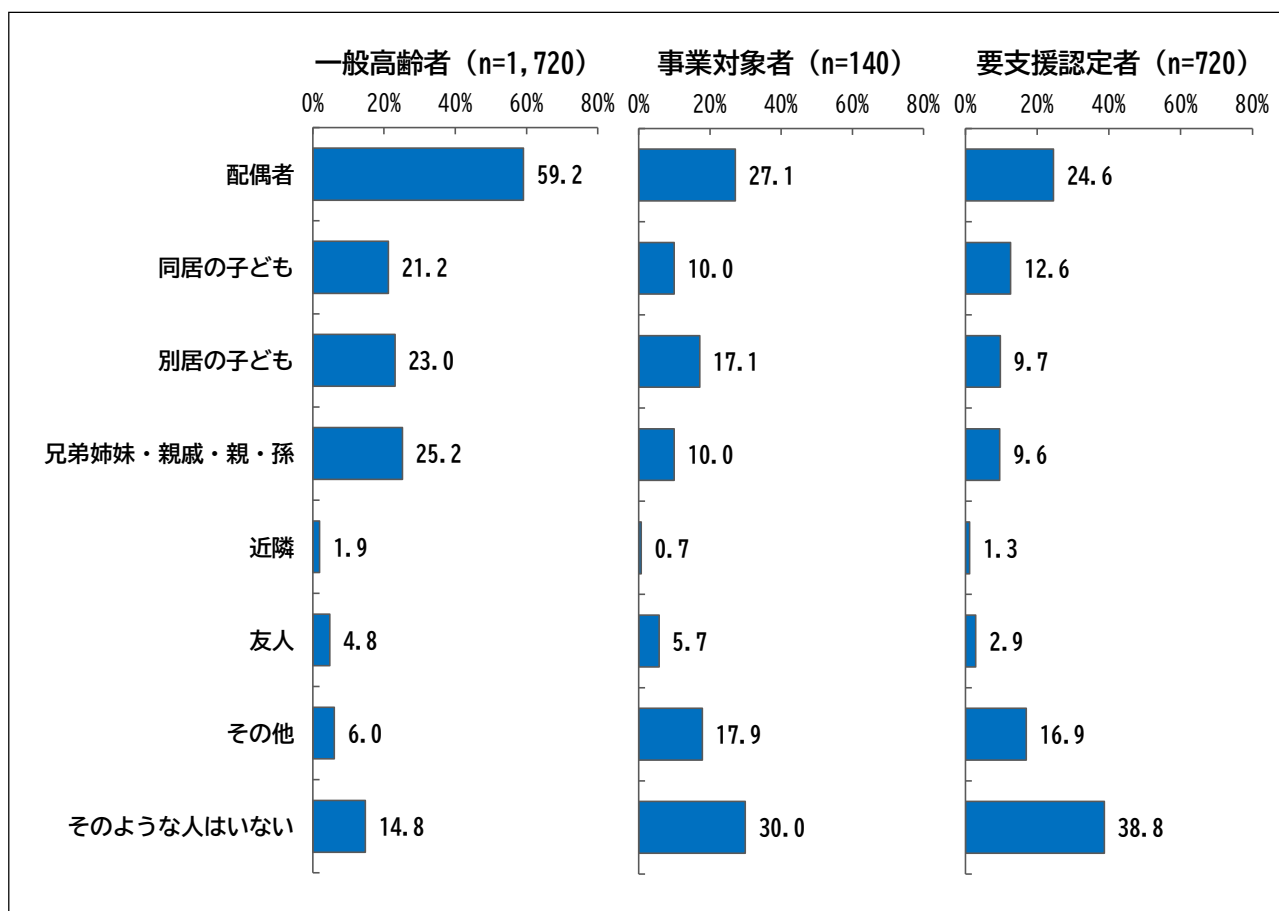
問7（4）反対に、看病や世話をししてあげる人はいますか。（いくつでも）

病気の際に看病や世話をししてあげる人についてみると、一般高齢者では「配偶者」（59.2％）が最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（25.2％）、「別居の子ども」（23.0％）となっています。

事業対象者では「そのような人はいない」（30.0％）が最も高く、次いで「配偶者」（27.1％）、「別居の子ども」（17.1％）となっています。

要支援認定者では「そのような人はいない」（38.8％）が最も高く、次いで「配偶者」（24.6％）、「同居の子ども」（12.6％）となっています。

図表 47 看病や世話をししてあげる人（複数回答）



(3) 家族や友人・知人以外の相談相手

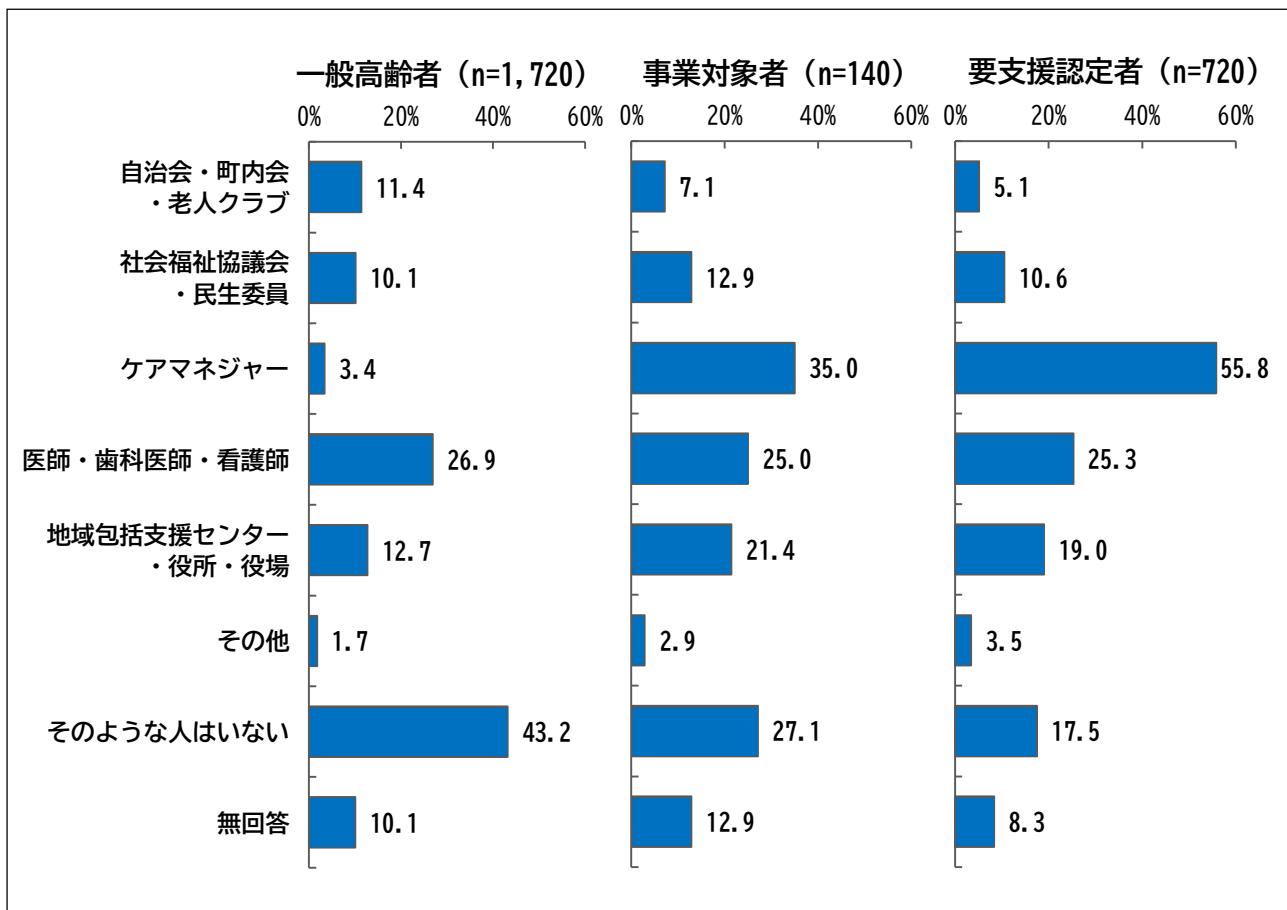
問7 (5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(いくつでも)

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手についてみると一般高齢者では「そのような人はいない」(43.2%)が最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」(26.9%)、「地域包括支援センター・役所・役場」(12.7%)となっています。

事業対象者では「ケアマネジャー」(35.0%)が最も高く、次いで「そのような人はいない」(27.1%)、「医師・歯科医師・看護師」(25.0%)となっています。

要支援認定者では「ケアマネジャー」(55.8%)が最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」(25.3%)、「地域包括支援センター・役所・役場」(19.0%)となっています。

図表 48 家族や友人・知人以外の相談相手（複数回答）



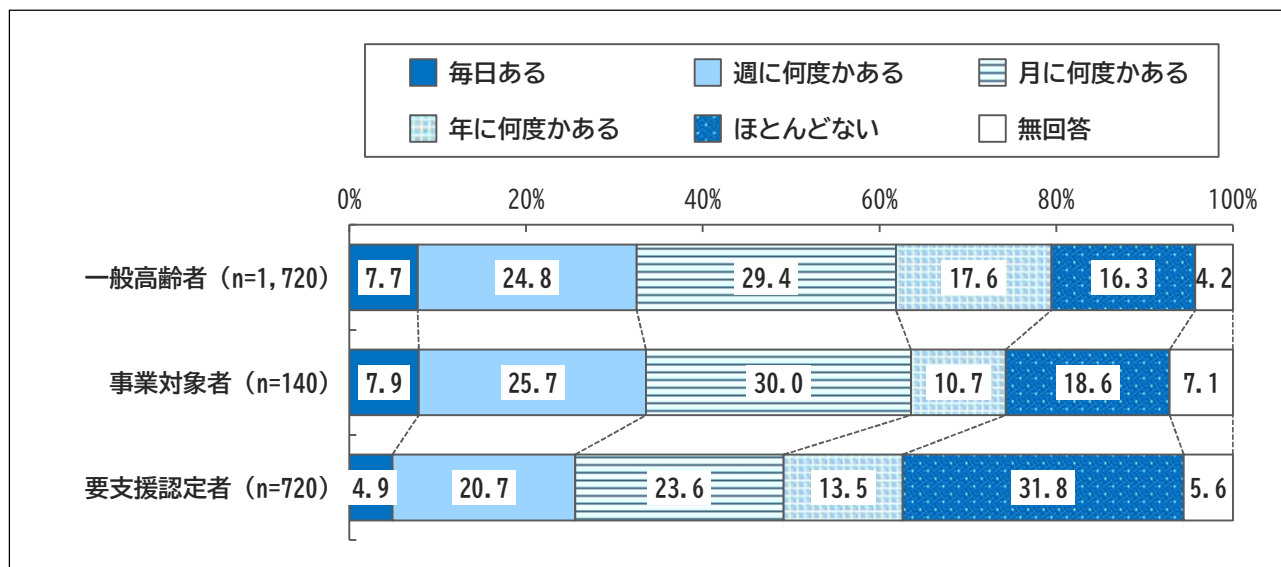
(4) 友人・知人との関係性

問7(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

友人・知人と会う頻度をみると、一般高齢者では「月に何度かある」が29.4%、事業対象者では30.0%で最も高くなっています。要支援認定者では「ほとんどない」が31.8%で最も高くなっています。

一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ、友人・知人と会う頻度が低くなっています。

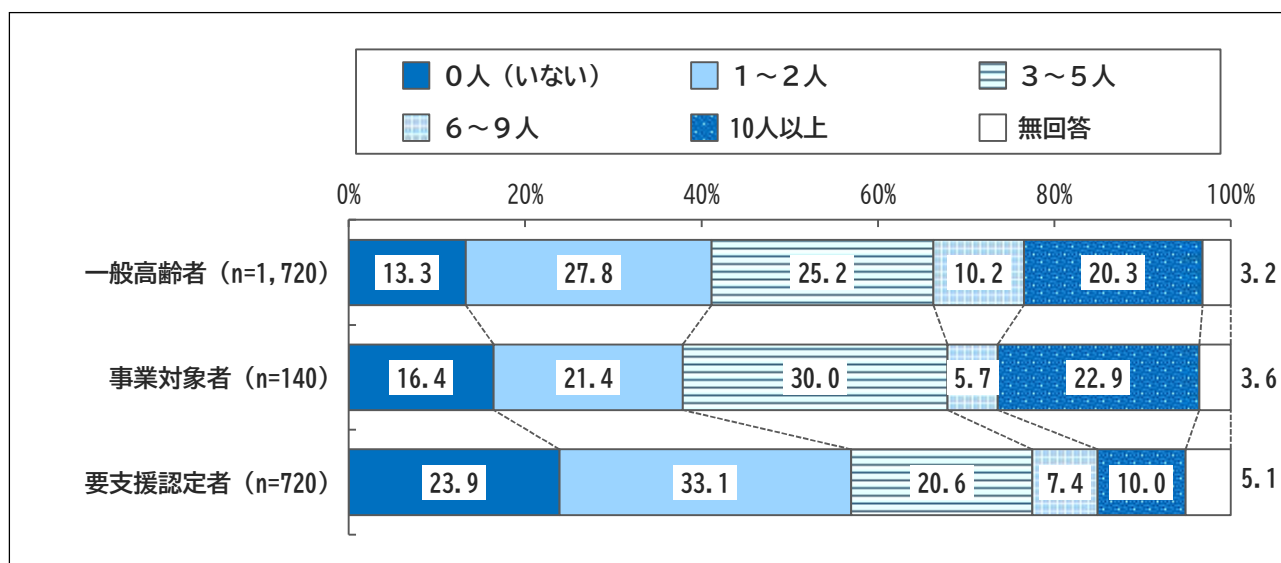
図表 49 友人・知人と会う頻度



問7(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。

1か月間で何人の友人・知人と会ったかをみると、一般高齢者では「1～2人」が27.8%、要支援認定者では33.1%で最も高くなっています。事業対象者では「3～5人」が30.0%で最も高くなっています。

図表 50 1か月間で何人の友人・知人と会ったか



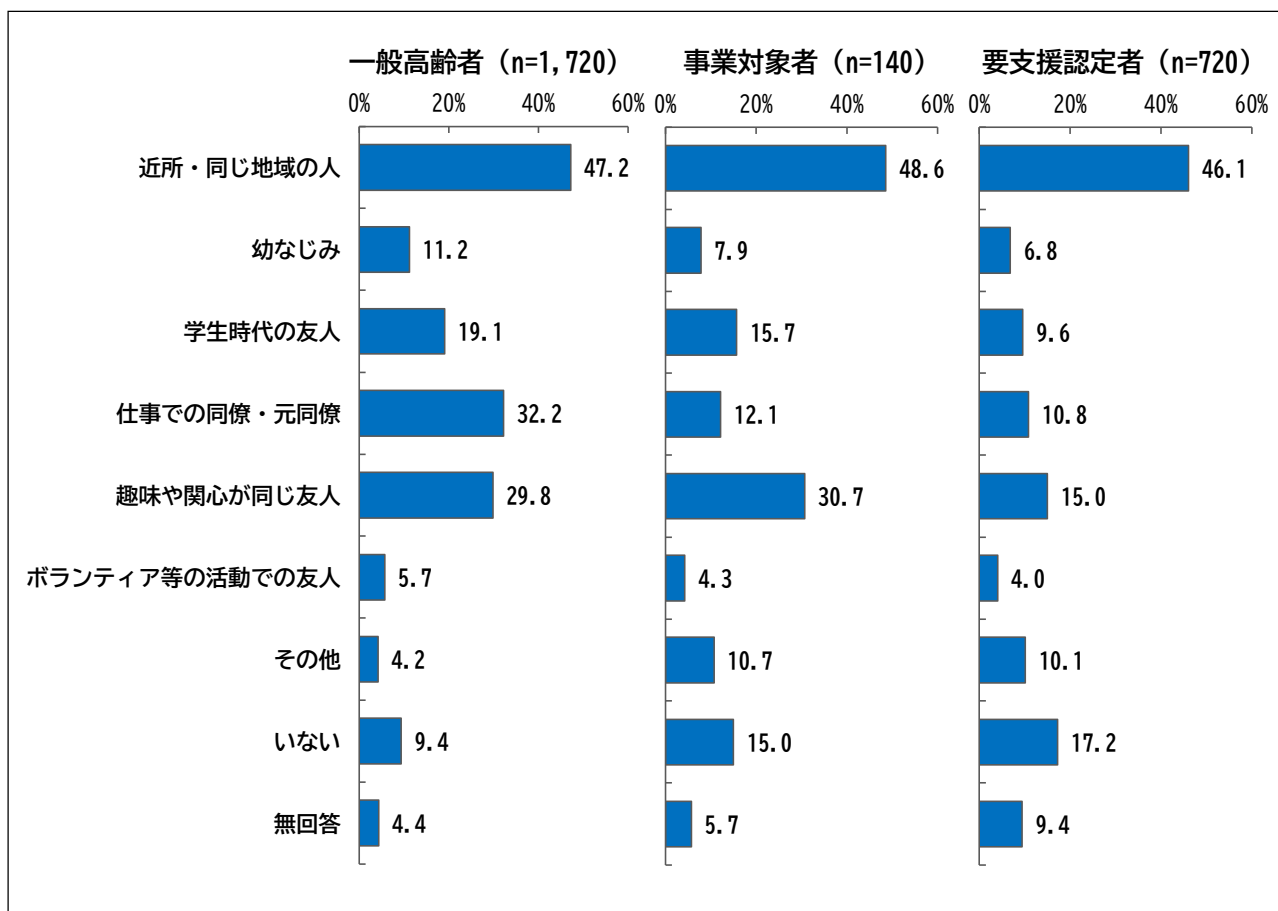
問7（8）よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（いくつでも）

よく会う友人・知人との関係についてみると、一般高齢者では「近所・同じ地域の人」（47.2％）が最も高く、次いで「仕事での同僚・元同僚」（32.2％）、「趣味や関心が同じ友人」（29.8％）となっています。

事業対象者では「近所・同じ地域の人」（48.6％）が最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」（30.7％）、「学生時代の友人」（15.7％）となっています。

要支援認定者では「近所・同じ地域の人」（46.1％）が最も高く、次いで「いない」（17.2％）、「趣味や関心が同じ友人」（15.0％）となっています。

図表 51 よく会う友人・知人との関係（複数回答）



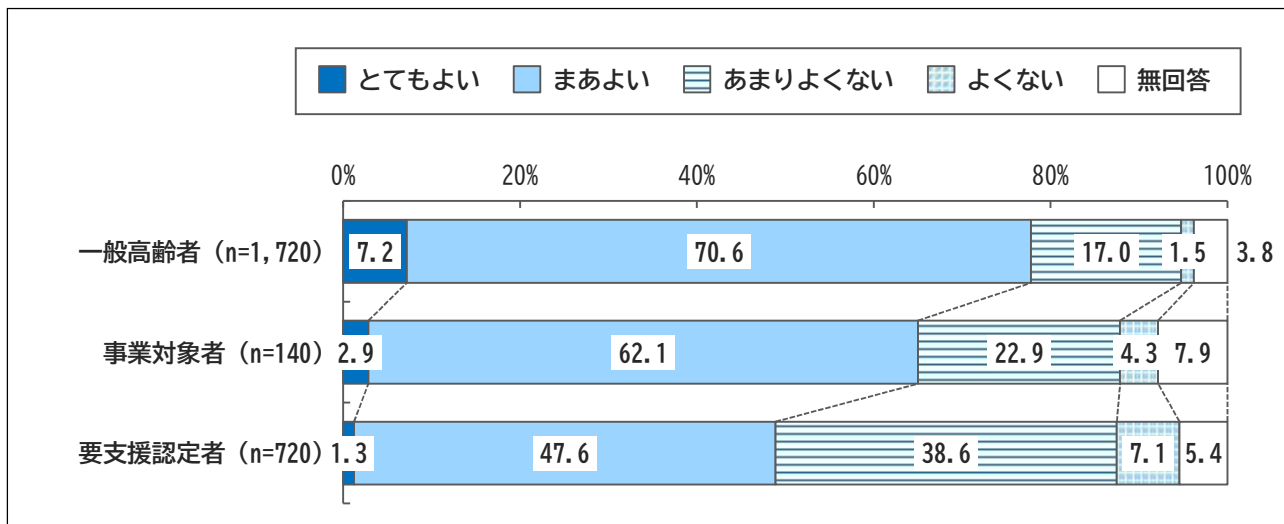
8 健康について

(1) 主観的健康感

問8 (1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

現在の健康状態についてみると、「とてもよい」と「まあよい」の割合は、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者となるにつれ低くなっています。

図表 52 主観的健康感



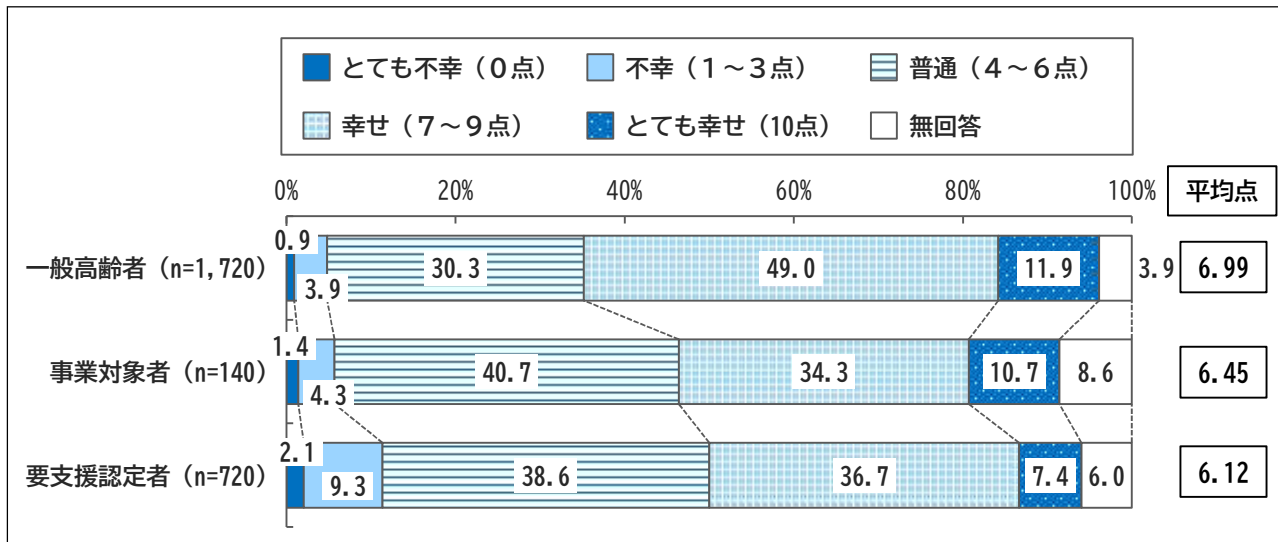
(2) 主観的幸福感

問8 (2) あなたは、現在どの程度幸せですか。

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください。)

現在どの程度幸せかについて点数で評価したところ、一般高齢者では「幸せ(7～9点)」、事業対象者、要支援認定者では「普通(4～6点)」が最も高くなっています。

図表 53 主観的幸福感



(3) うつ傾向について

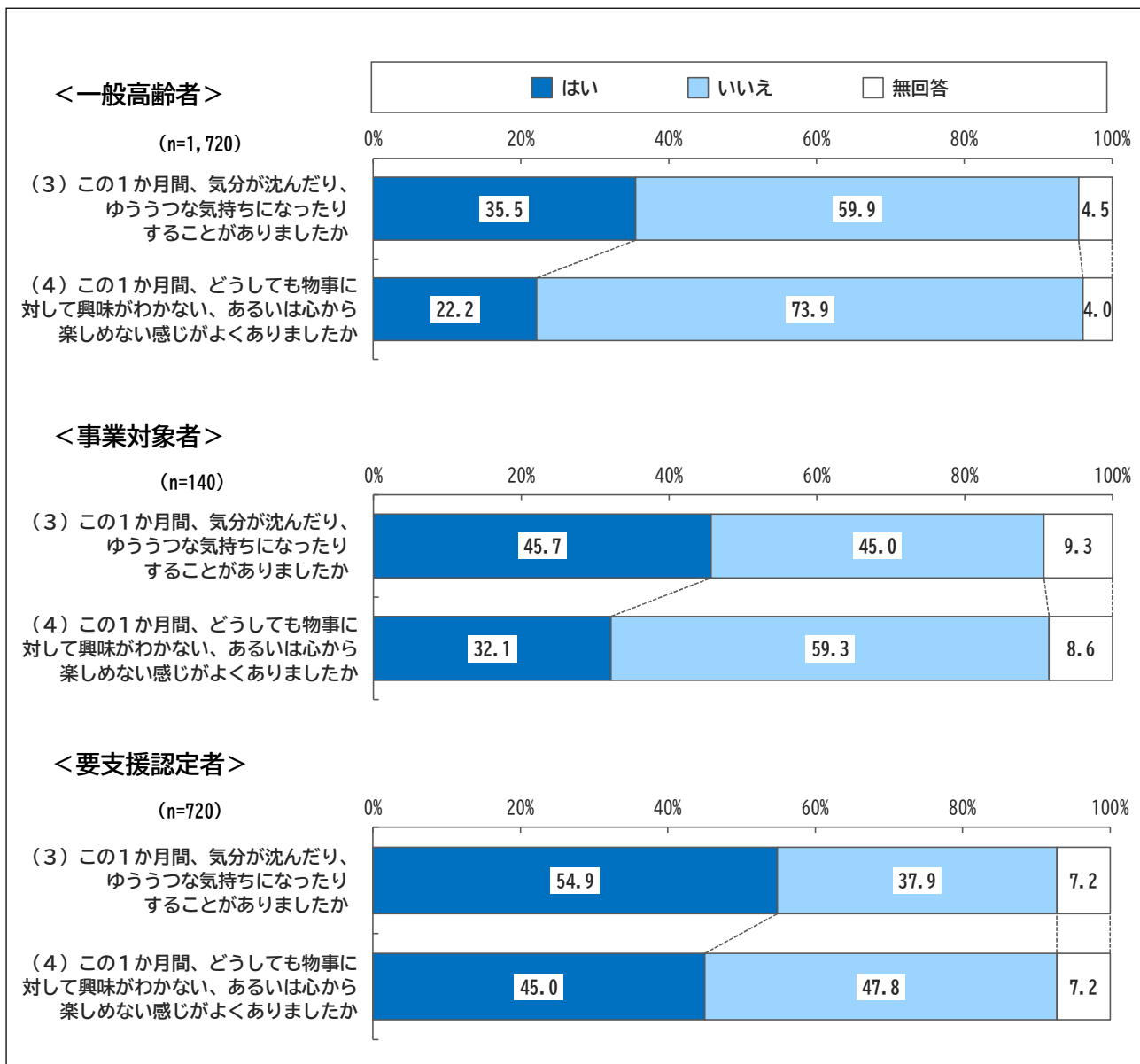
問8 (3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

問8 (4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

『(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか』についてみると、「はい」の割合は、一般高齢者に比べて、事業対象者、要支援認定者では高くなっています。

また、『(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったか』についても「はい」の割合は同様の傾向がみられ、その差は特に顕著となっています。

図表 54 うつ傾向について

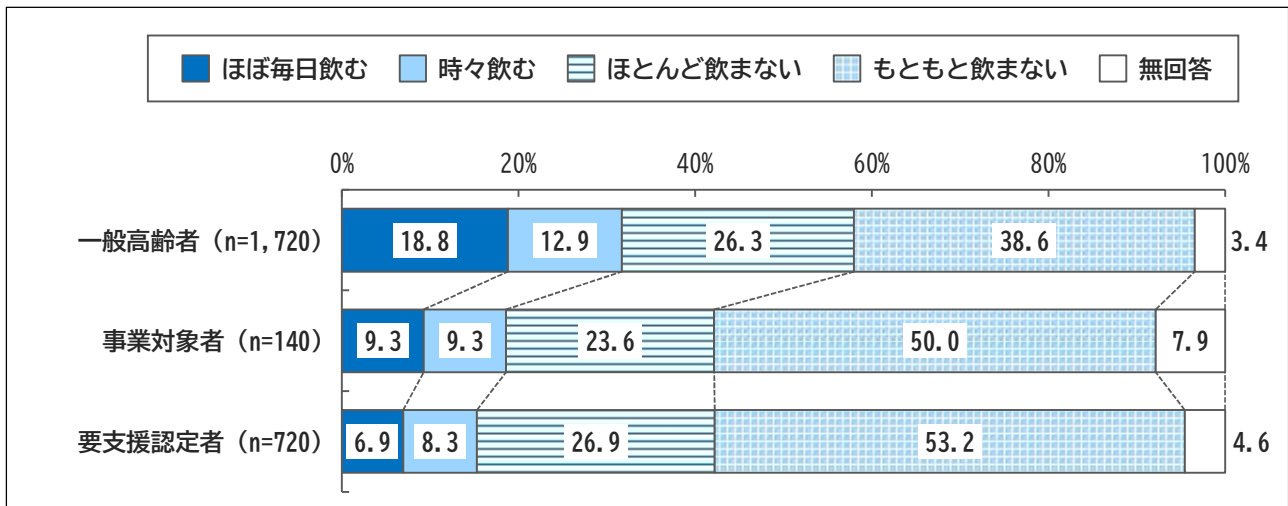


(4) 飲酒の習慣

問8 (5) お酒は飲みますか。

飲酒の習慣についてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「もともと飲まない」が最も高くなっています。一方、「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合計した『飲酒の習慣がある』割合は、一般高齢者では31.7%、事業対象者では18.6%、要支援認定者では15.2%となっています。

図表 55 飲酒の習慣

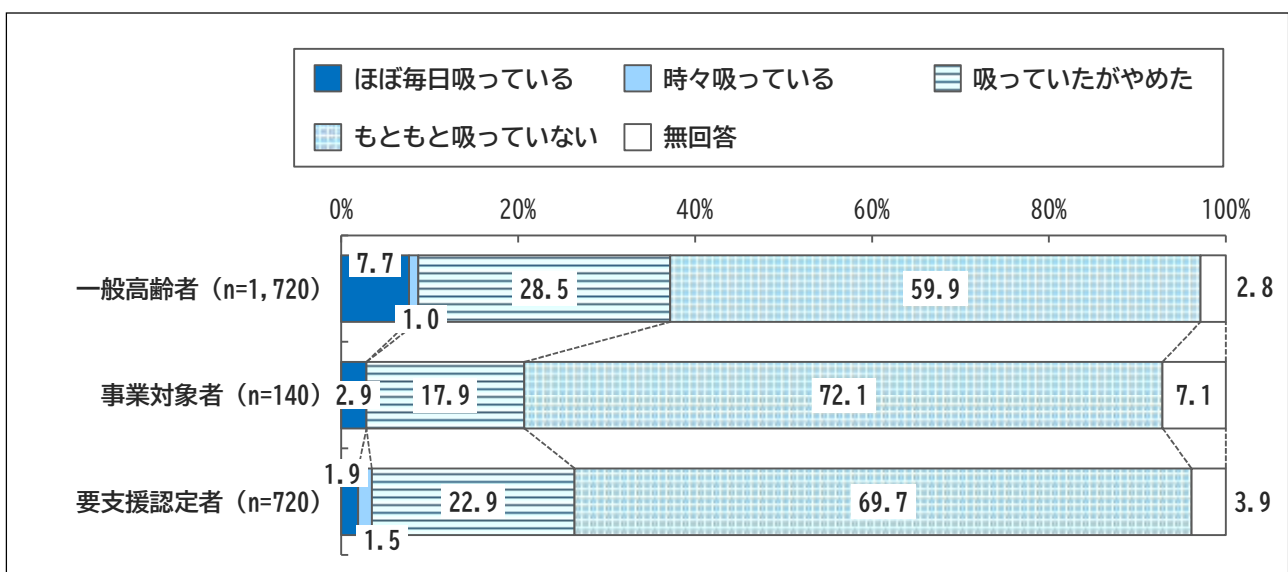


(5) 喫煙の習慣

問8 (6) タバコは吸っていますか。

喫煙の習慣についてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「もともと吸っていない」が最も高くなっています。一方、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合計した『喫煙の習慣がある』割合は、一般高齢者では8.7%、事業対象者では2.9%、要支援認定者では3.4%となっています。

図表 56 喫煙の習慣

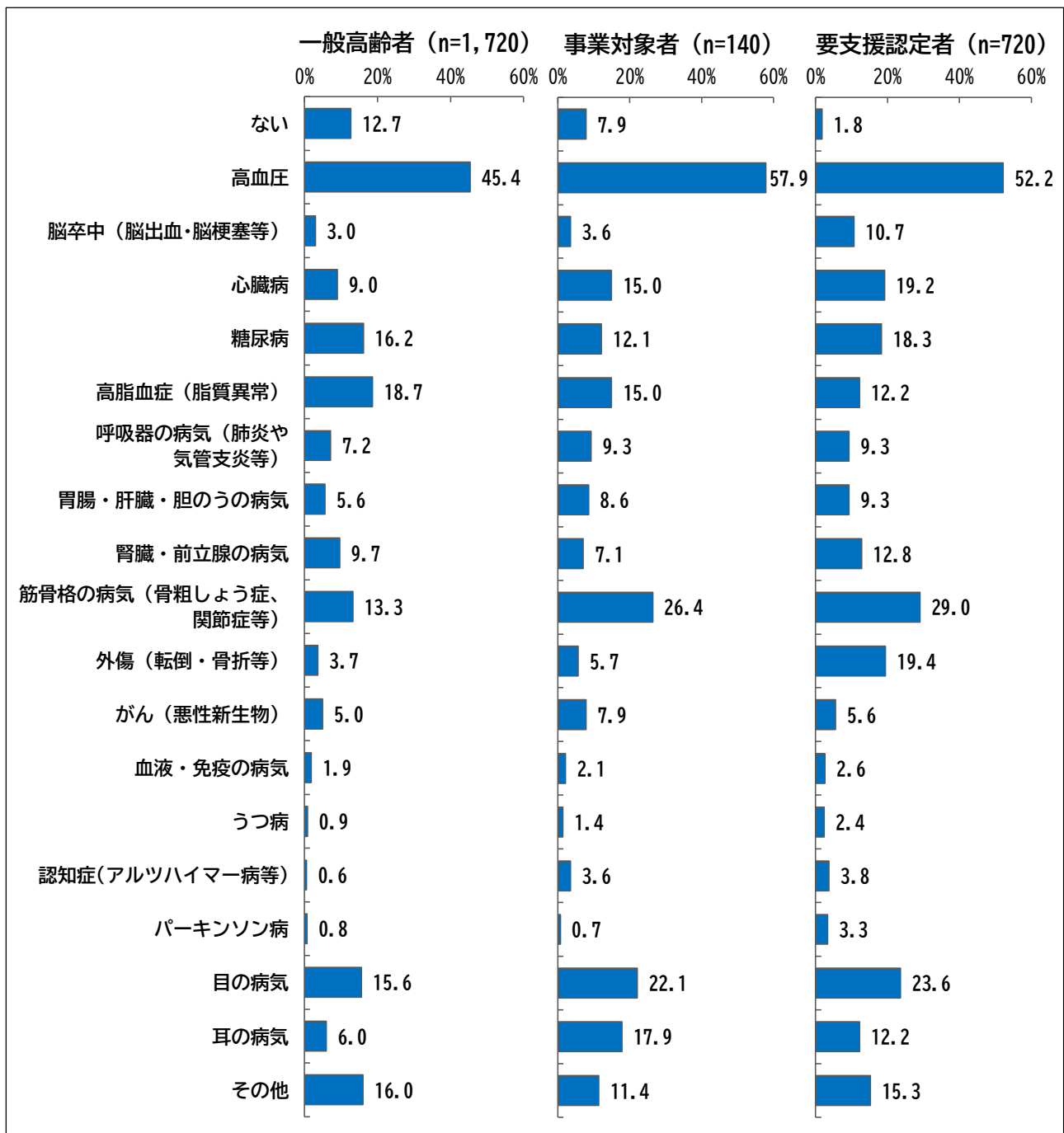


(6) 現在治療中、後遺症のある病気について

問8 (7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも)

現在治療中、または後遺症のある病気についてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「高血圧」が最も高くなっています。また、高血圧以外の病気では、一般高齢者では「高脂血症（脂質異常）」、「糖尿病」、「目の病気」、事業対象者では「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」、「目の病気」、「耳の病気」、要支援認定者では「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」、「目の病気」、「外傷（転倒・骨折等）」などの割合が高くなっています。

図表 57 現在治療中、後遺症のある病気（複数回答）

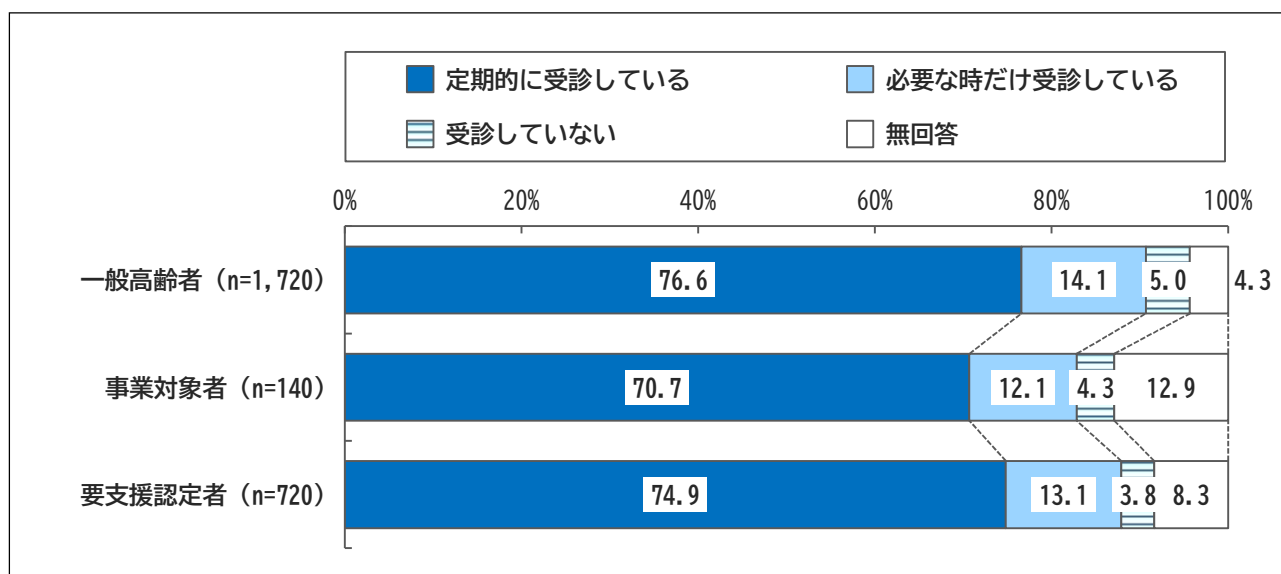


（７）健康診断や医療機関の受診について

問８（８）健康診断や医療機関の受診は定期的に行っていますか。

健康診断や医療機関の受診についてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「定期的に受診している」が最も高く、７割を超えています。

図表 58 健康診断や医療機関の受診について



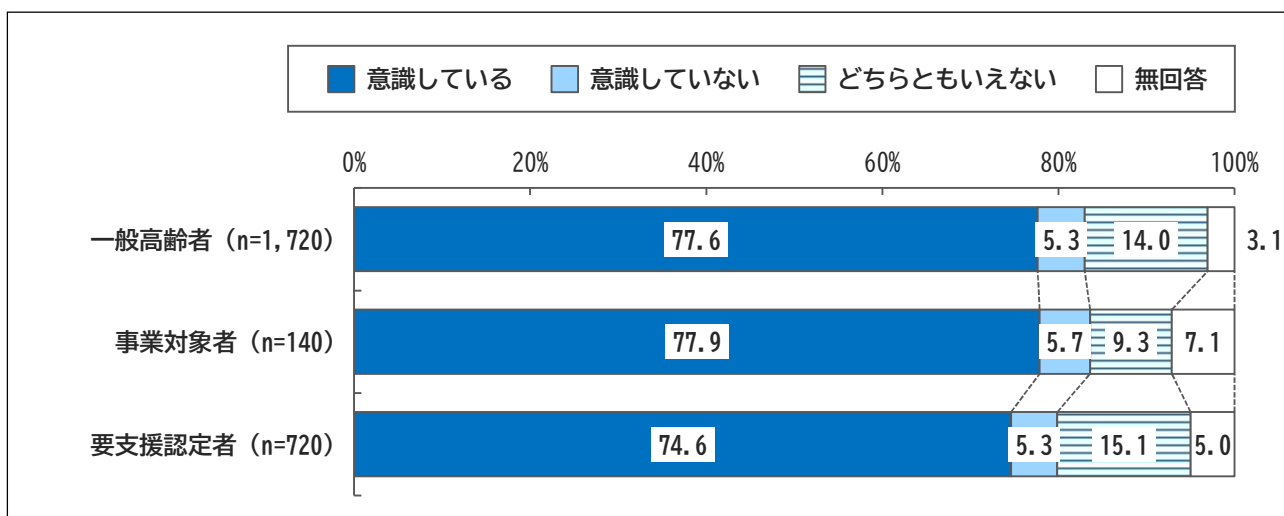
9 健康意識について

(1) 健康意識について

問9 (1) 普段から健康を意識していますか。

普段から健康を意識しているかどうかをみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「意識している」が最も高く、7割を超えています。

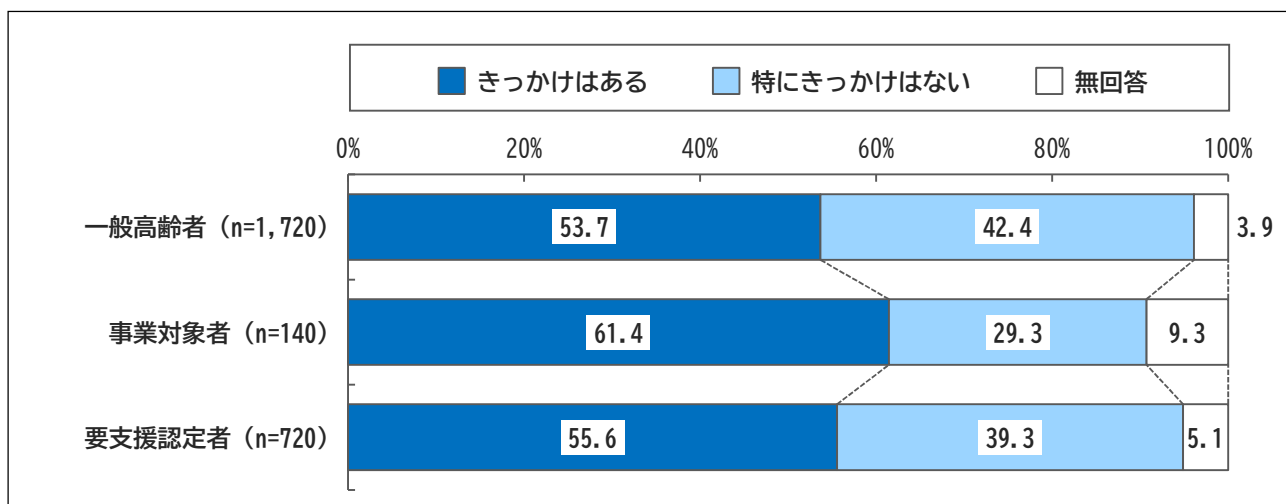
図表 59 健康意識について



問9 (2) 健康意識が高まったきっかけはありますか。

健康意識が高まったきっかけの有無についてみると、「きっかけはある」の割合は、一般高齢者では53.7%、事業対象者では61.4%、要支援認定者では55.6%となっており、いずれも5割を超えています。

図表 60 健康意識が高まったきっかけの有無について



※問9（2）で「きっかけはある」と答えたかたのみ

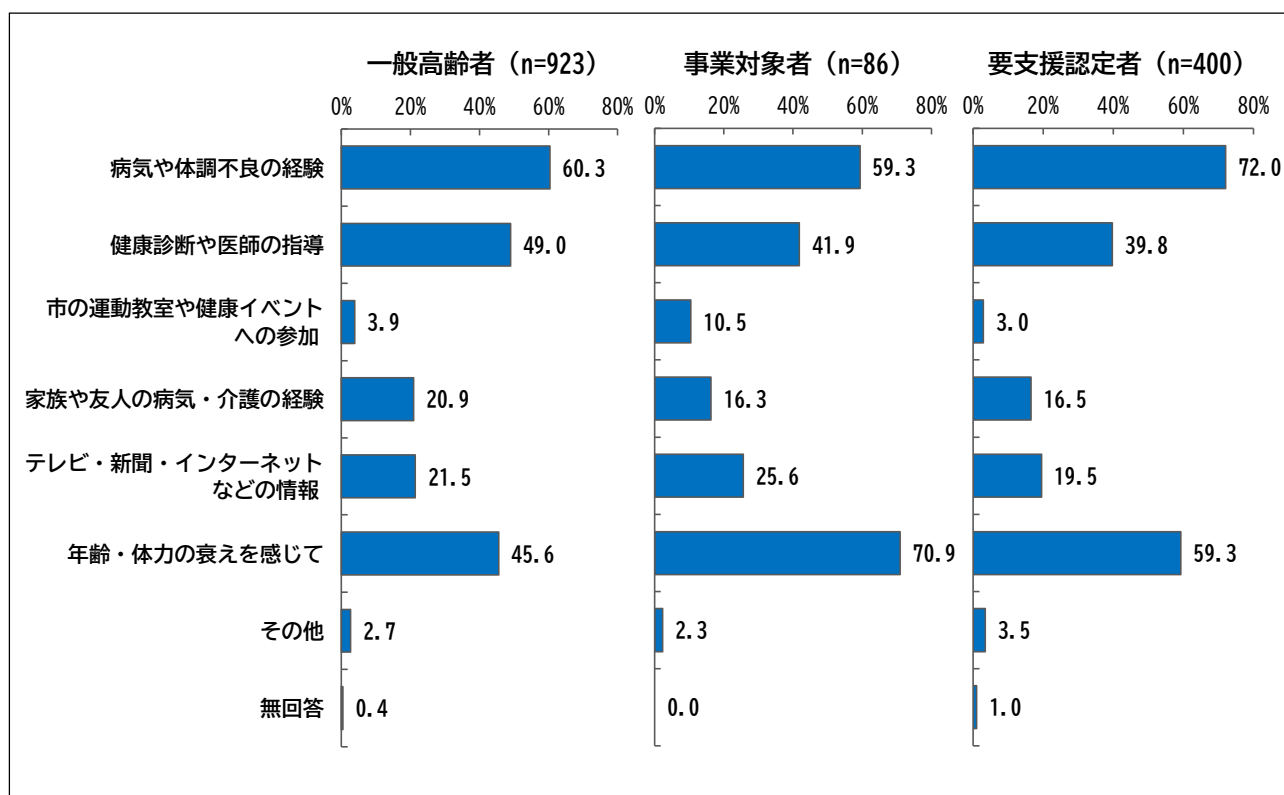
問9（2－1）健康意識が高まったきっかけは何ですか。（いくつでも）

健康意識が高まったきっかけについてみると、一般高齢者では「病気や体調不良の経験」（60.3％）が最も高く、次いで「健康診断や医師の指導」（49.0％）、「年齢・体力の衰えを感じて」（45.6％）となっています。

事業対象者では、「年齢・体力の衰えを感じて」（70.9％）が最も高く、次いで「病気や体調不良の経験」（59.3％）、「健康診断や医師の指導」（41.9％）となっています。

要支援認定者では、「病気や体調不良の経験」（72.0％）が最も高く、次いで「年齢・体力の衰えを感じて」（59.3％）、「健康診断や医師の指導」（39.8％）となっています。

図表 61 健康意識が高まったきっかけ（複数回答）

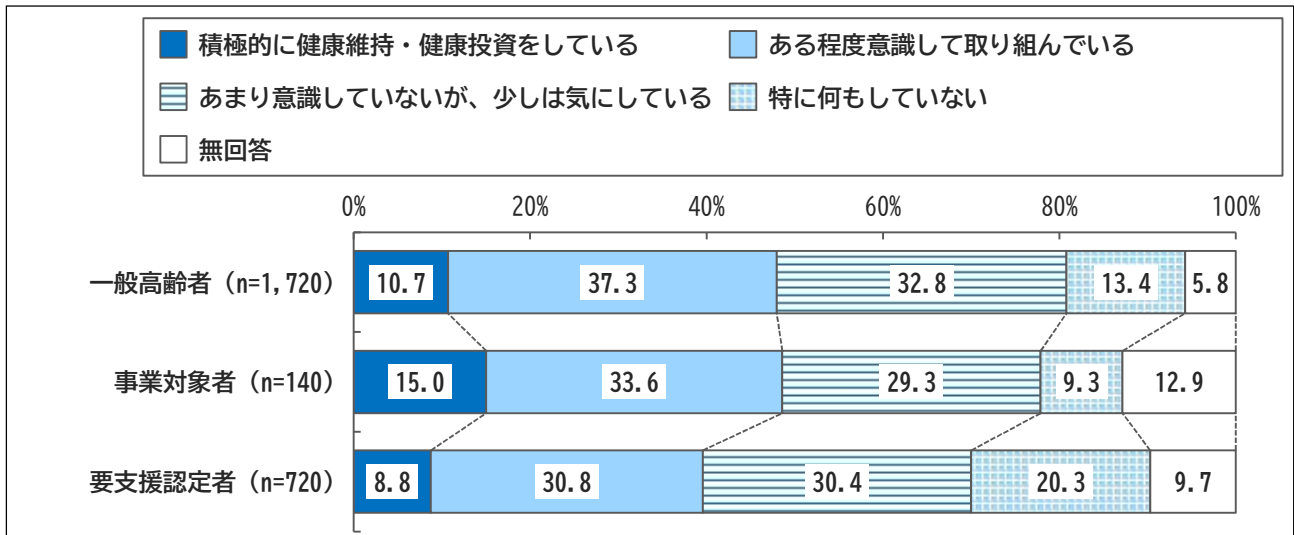


(2) 健康維持、健康投資について

問9 (3) 健康維持、健康投資をしていますか。

健康維持、健康投資をしているかどうかをみると、いずれも「ある程度意識して取り組んでいる」が高くなっています。一方、要支援認定者では「特に何もしていない」が20.3%で、一般高齢者や事業対象者に比べて高くなっています。

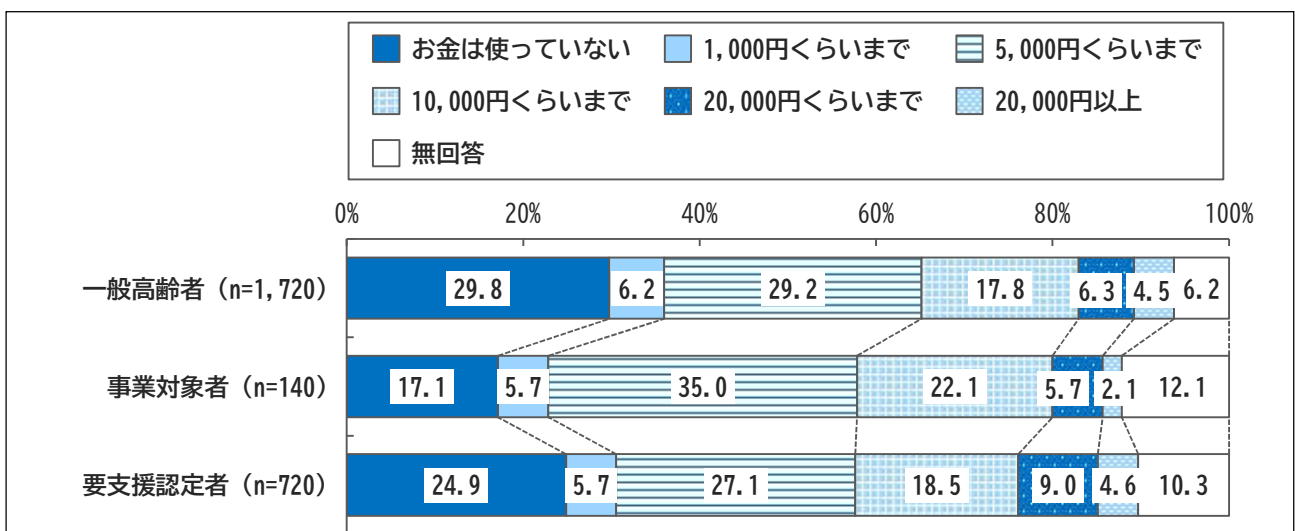
図表 62 健康維持、健康投資について



問9 (4) 健康のために、毎月どれくらいのお金を使っていますか。

健康のために、毎月どれくらいのお金を使っているかについてみると、一般高齢者では「お金は使っていない」が29.8%で最も高くなっています。事業対象者では「5,000円くらいまで」が35.0%、要支援認定者では27.1%で最も高くなっています。

図表 63 健康のために使う毎月のお金について



※問9（4）で「1,000円くらいまで」「5,000円くらいまで」「10,000円くらいまで」「20,000円くらいまで」「20,000円以上」と答えたかたのみ

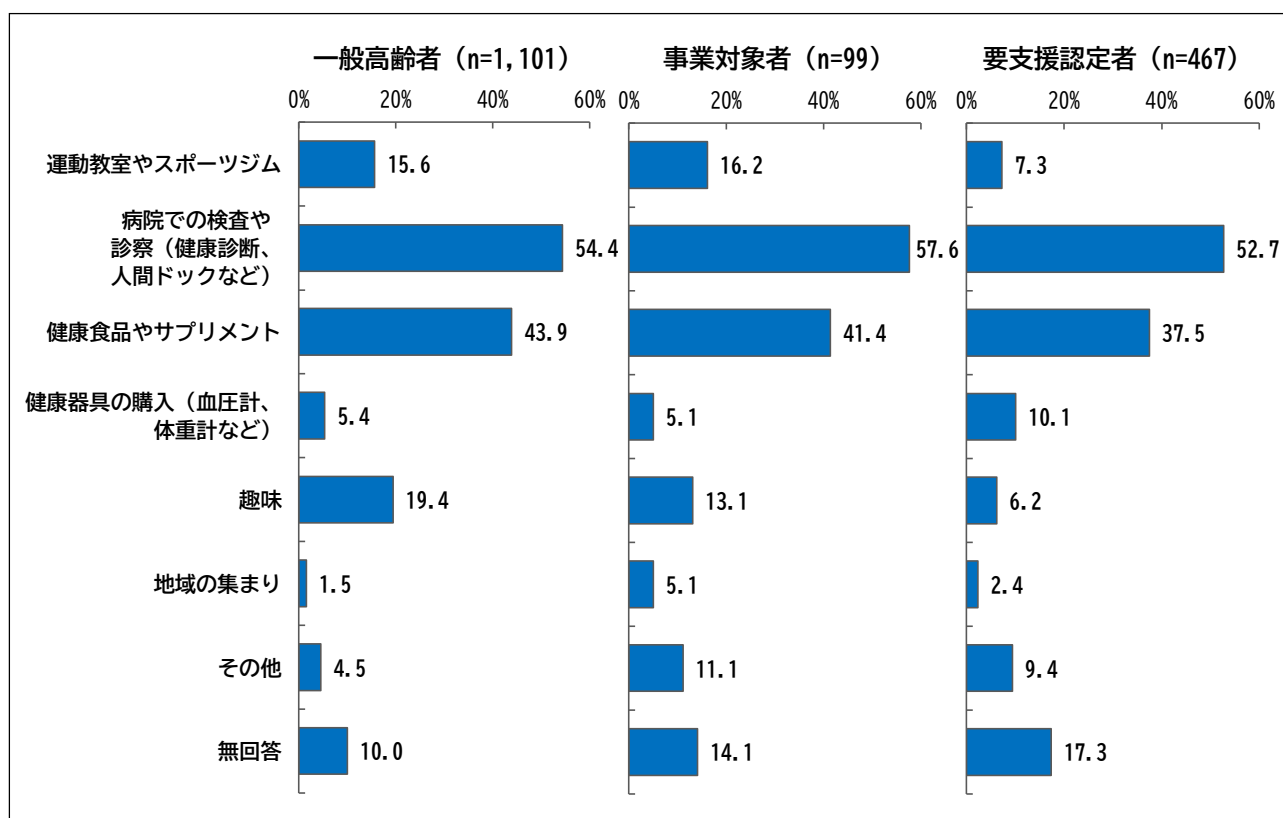
問9（4－1）健康維持のために、どのようなことに毎月どれくらいのお金を使っていますか。
（いくつでも）

健康維持のために、どのようなことにお金を使うかについてみると、一般高齢者では「病院での検査や診察（健康診断、人間ドックなど）」（54.4%）が最も高く、次いで「健康食品やサプリメント」（43.9%）、「趣味」（19.4%）となっています。

事業対象者では、「病院での検査や診察（健康診断、人間ドックなど）」（57.6%）が最も高く、次いで「健康食品やサプリメント」（41.4%）、「運動教室やスポーツジム」（16.2%）となっています。

要支援認定者では、「病院での検査や診察（健康診断、人間ドックなど）」（52.7%）が最も高く、次いで「健康食品やサプリメント」（37.5%）、「健康器具の購入（血圧計、体重計など）」（10.1%）となっています。

図表 64 健康維持のために、どのようなことにお金を使うか（複数回答）

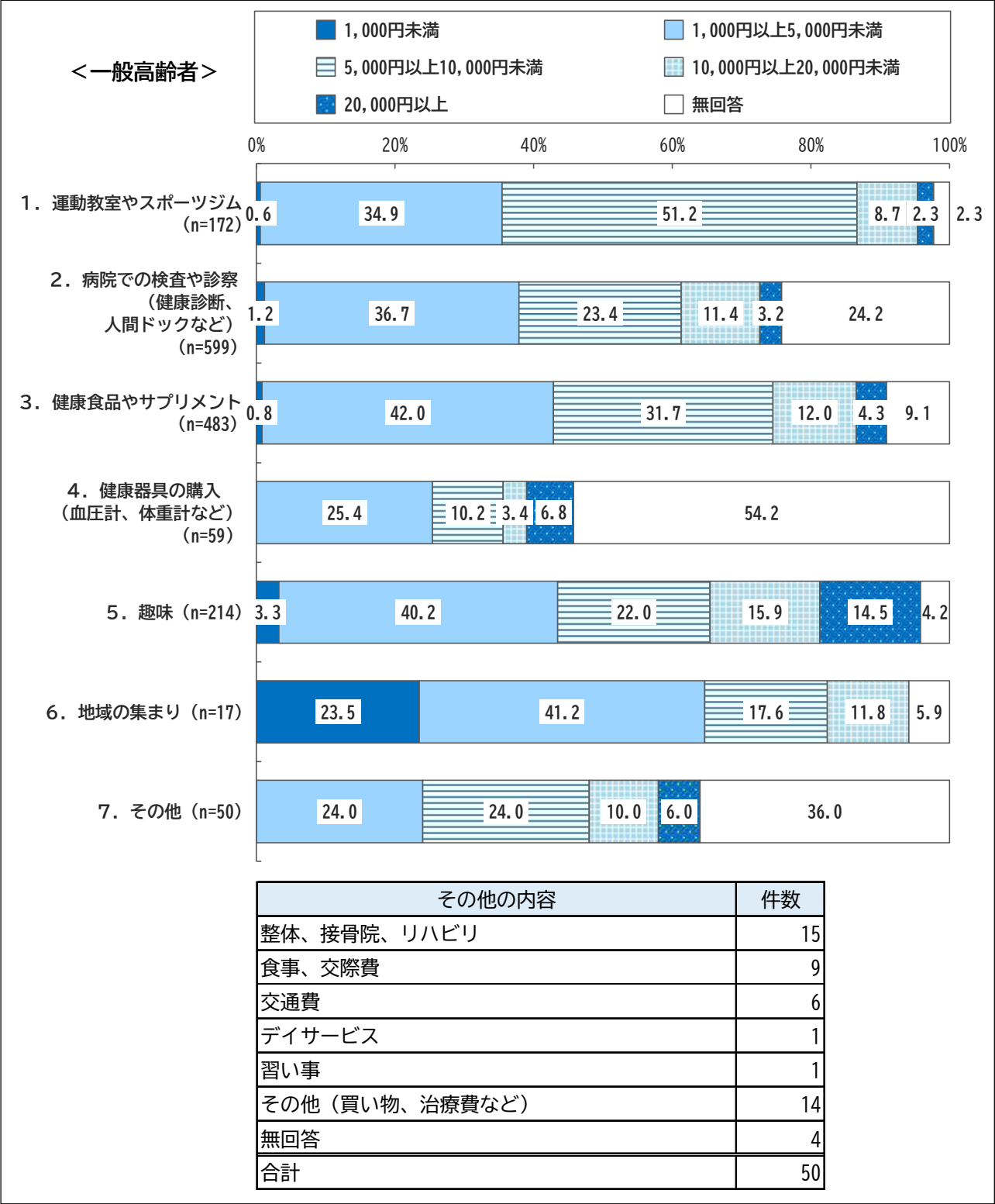


【項目別使用金額】

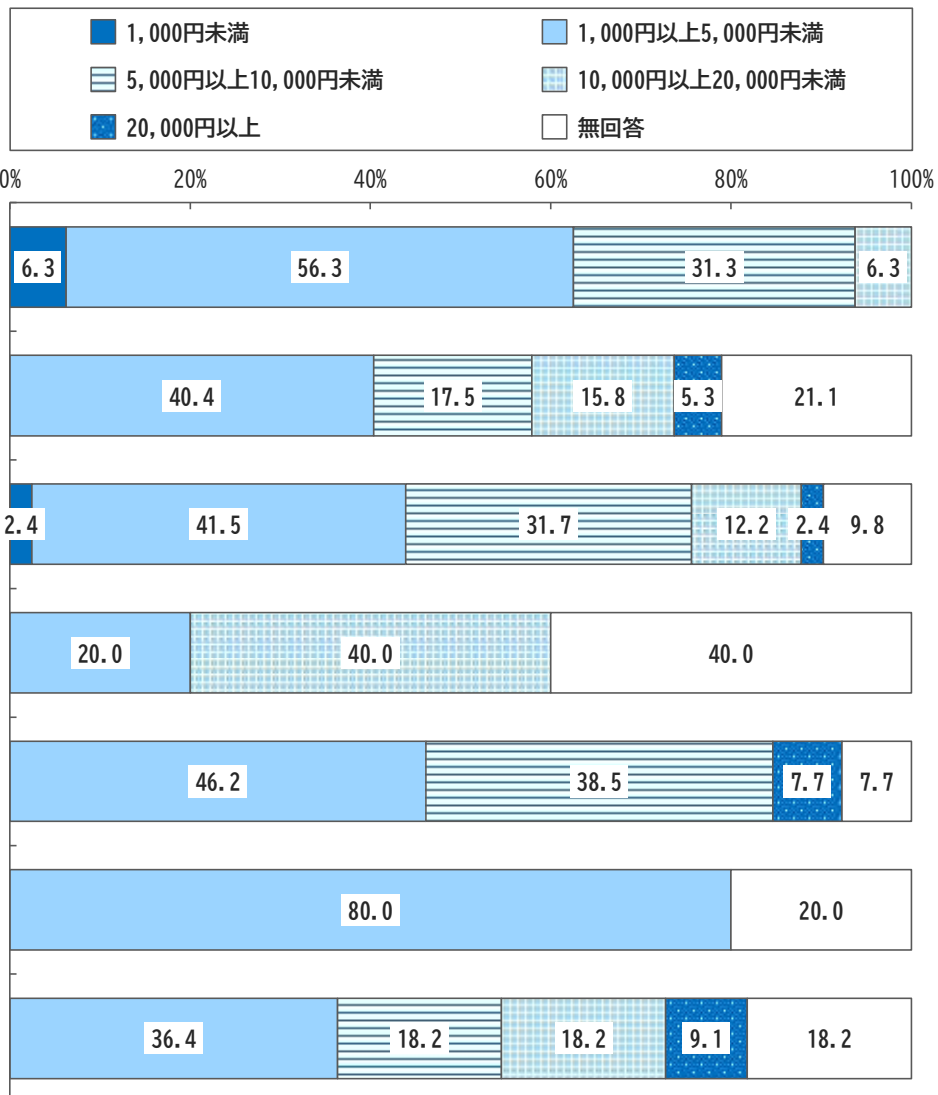
「1,000 円未満」から「1,000 円以上 5,000 円未満」までを合計した『5,000 円未満』をみると、いずれも 6. 地域の集まりが最も高くなっています。

「10,000 円以上 20,000 円未満」から「20,000 円以上」までを合計した『10,000 円以上』をみると、一般高齢者、要支援認定者では 5. 趣味、事業対象者では 4. 健康器具の購入（血圧計、体重計など）がそれぞれ最も高くなっています。

図表 65 項目別使用金額の状況

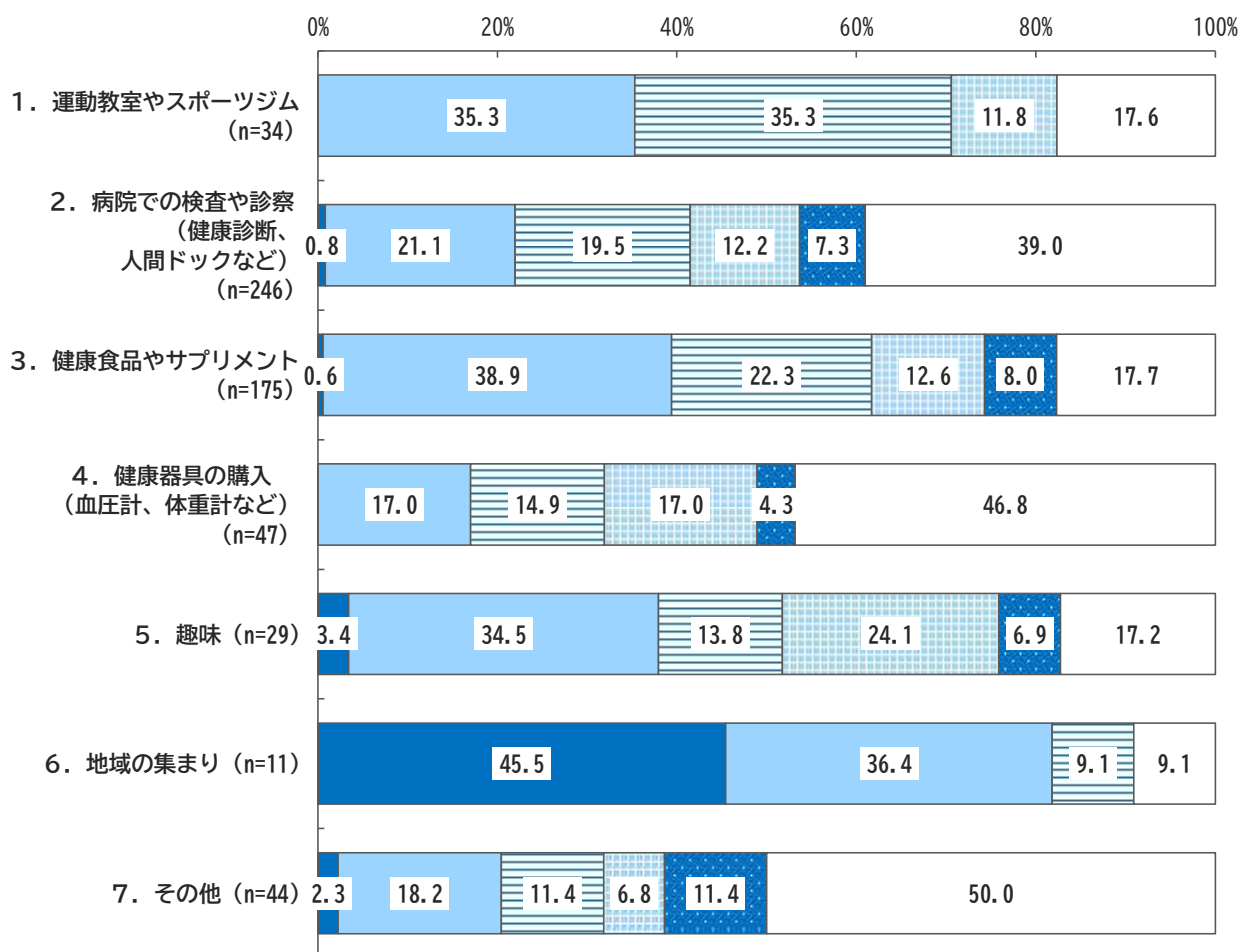


< 事業対象者 >



その他の内容	件数
デイサービス	5
交通費	1
整体、接骨院、リハビリ	1
食事、交際費	1
その他（買い物、治療費など）	3
合計	11

<要支援認定者>



その他の内容	件数
デイサービス	19
整体、接骨院、リハビリ	12
交通費	2
食事、交際費	2
その他（買い物、治療費など）	5
無回答	4
合計	44

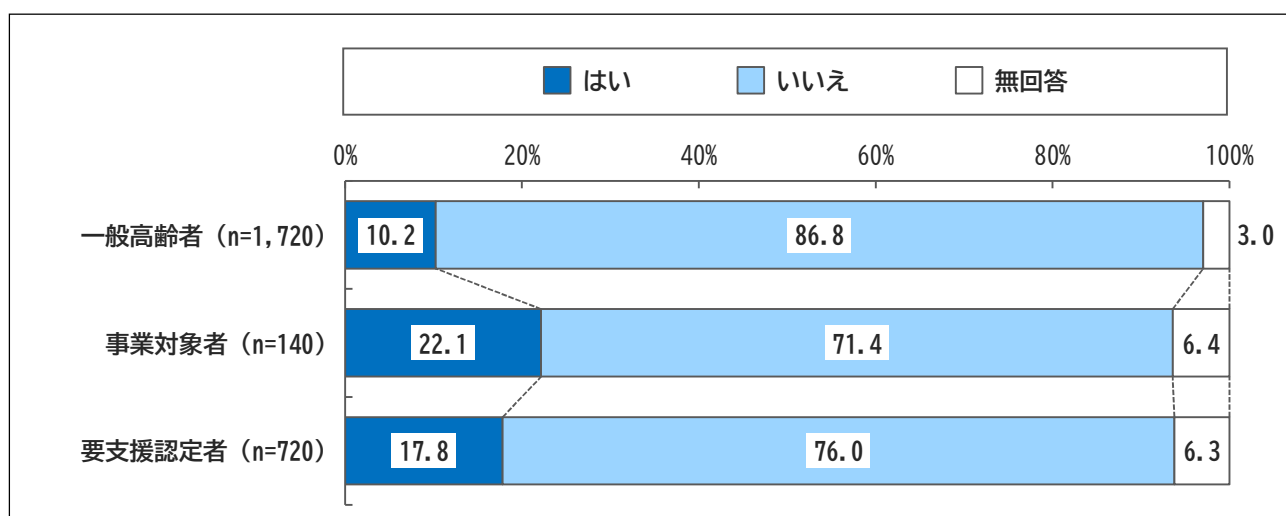
10 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 認知症の症状の有無について

問 10 (1) 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかどうかをみると、「はい」の割合は、一般高齢者では 10.2%、事業対象者では 22.1%、要支援認定者では 17.8%となっています。

図表 66 本人または家族の認知症の症状の有無について

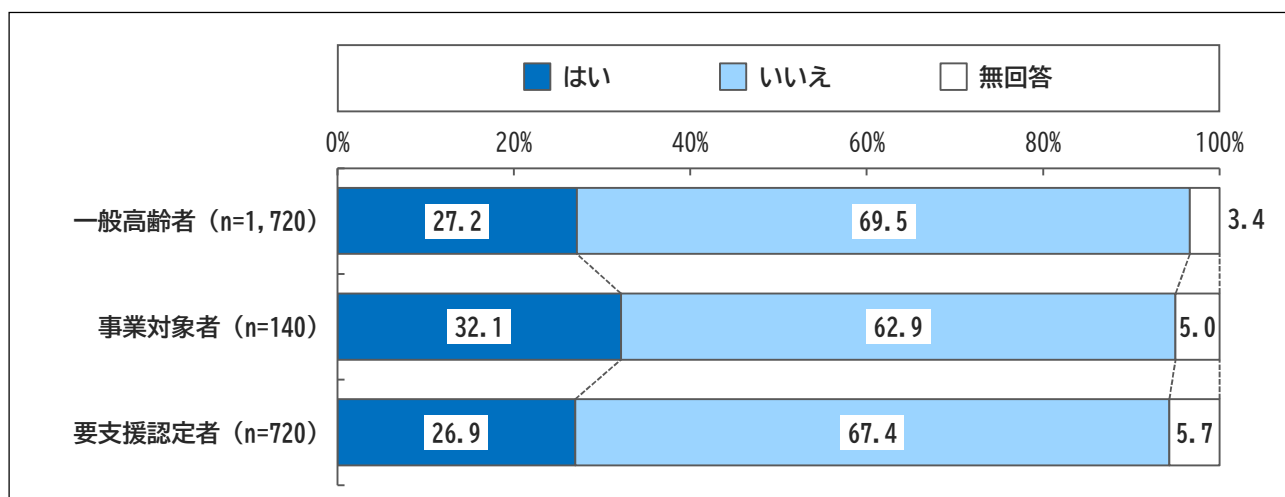


(2) 認知症に関する相談窓口について

問 10 (2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか。

認知症に関する相談窓口を知っているかについてみると、「はい」の割合は、一般高齢者では 27.2%、事業対象者では 32.1%、要支援認定者では 26.9%となっており、いずれも認知度は約 3 割となっています。

図表 67 認知症に関する相談窓口の認知度

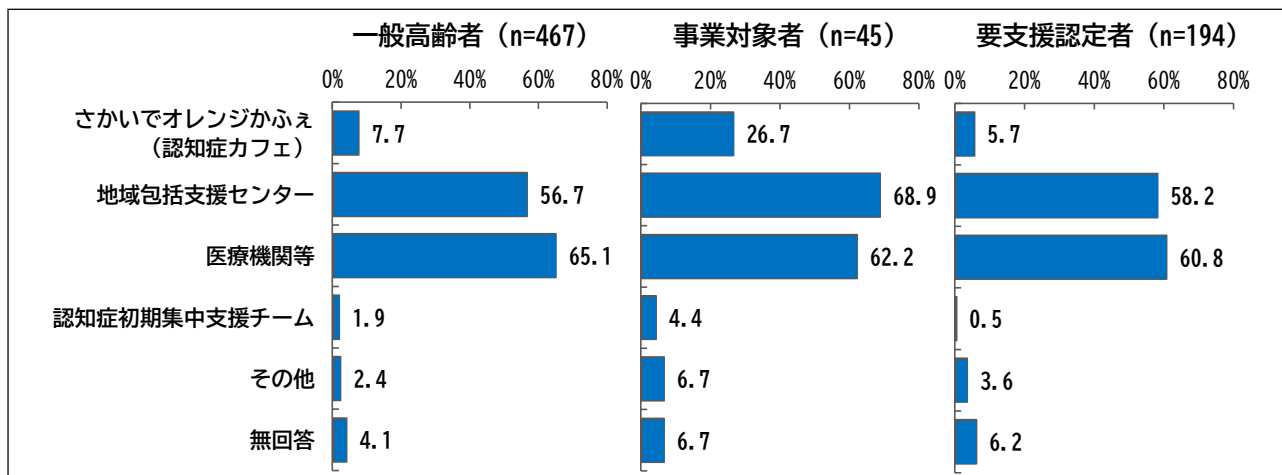


※問 10（2）で「はい」と答えたかたのみ

問 10（2－1）相談窓口で知っているところはどこですか。（いくつでも）

知っている認知症の相談窓口については、一般高齢者、要支援認定者では「医療機関等」、事業対象者では「地域包括支援センター」が最も高くなっています。

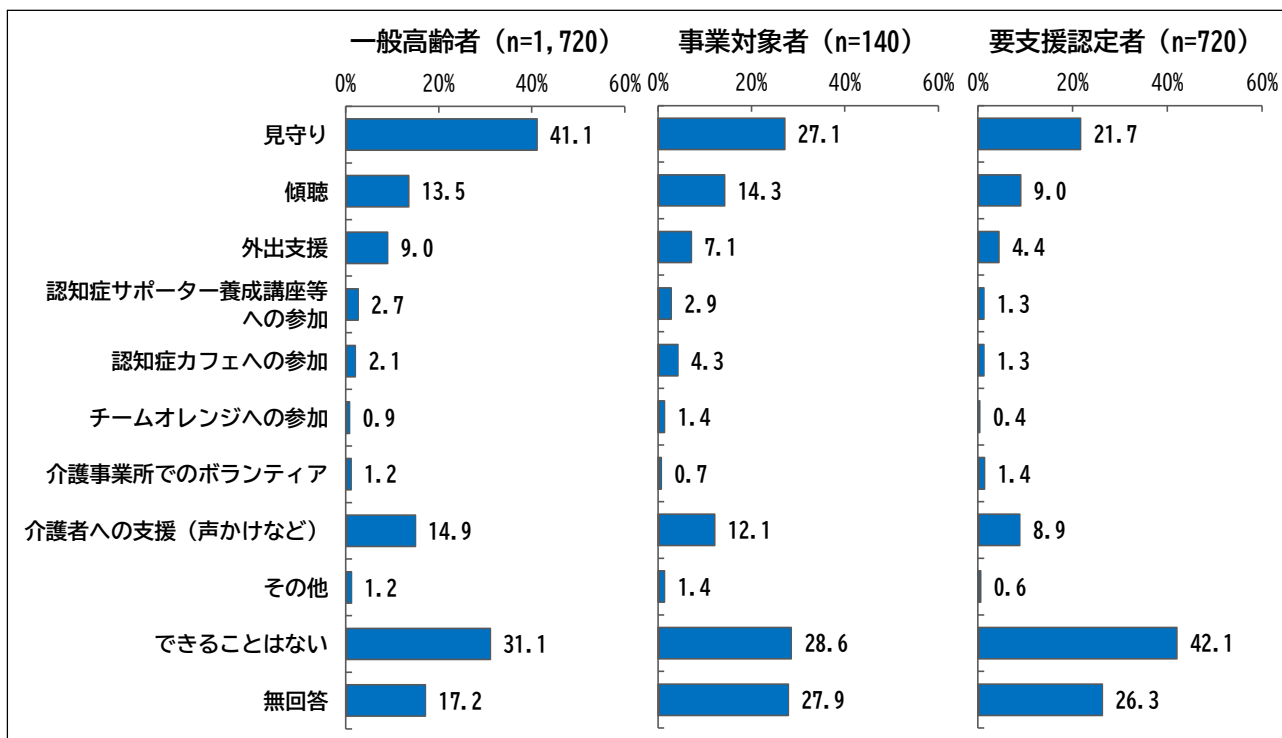
図表 68 知っている認知症の相談窓口（複数回答）



問 10（3）認知症のかたへの支援として、あなたにできることはありますか。（いくつでも）

認知症のかたへの支援としてできることについては、「見守り」、「介護者への支援（声かけなど）」、「傾聴」などの割合が高くなっています。また、「できることはない」が一般高齢者、要支援認定者では3割を超えています。

図表 69 認知症のかたにできる支援（複数回答）



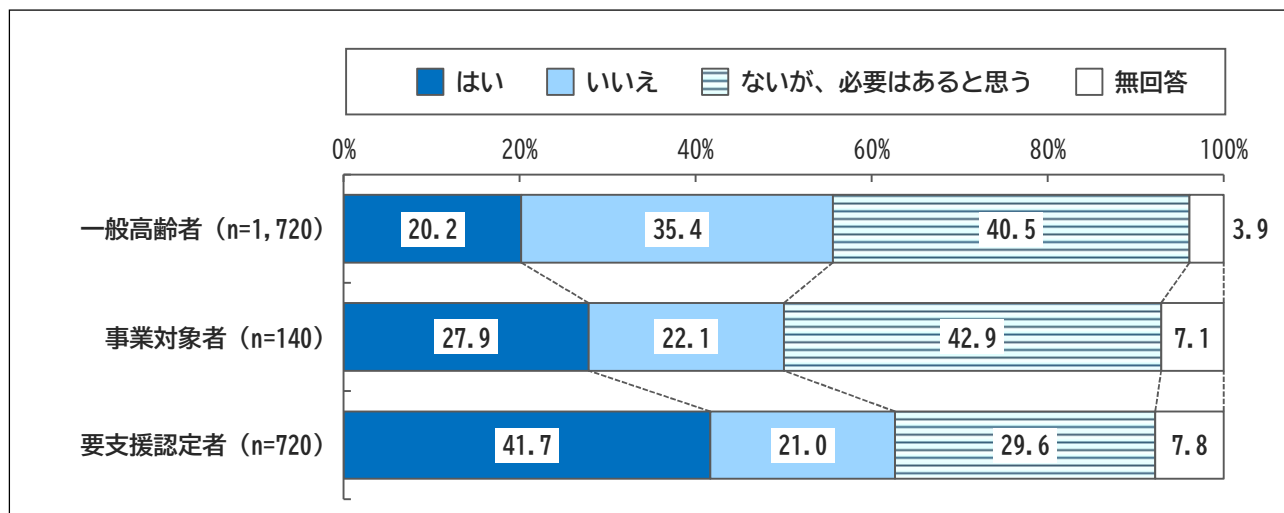
II 在宅医療・介護について

(I) 治療・ケアに関することについて

問 11 (1) あなたは、自分の希望する治療やケアについて、家族等と話し合ったことがありますか。

治療・ケアに関する家族間の話し合いの有無についてみると、一般高齢者、事業対象者では「ないが、必要はあると思う」が最も高く、要支援認定者では「はい」が最も高くなっています。

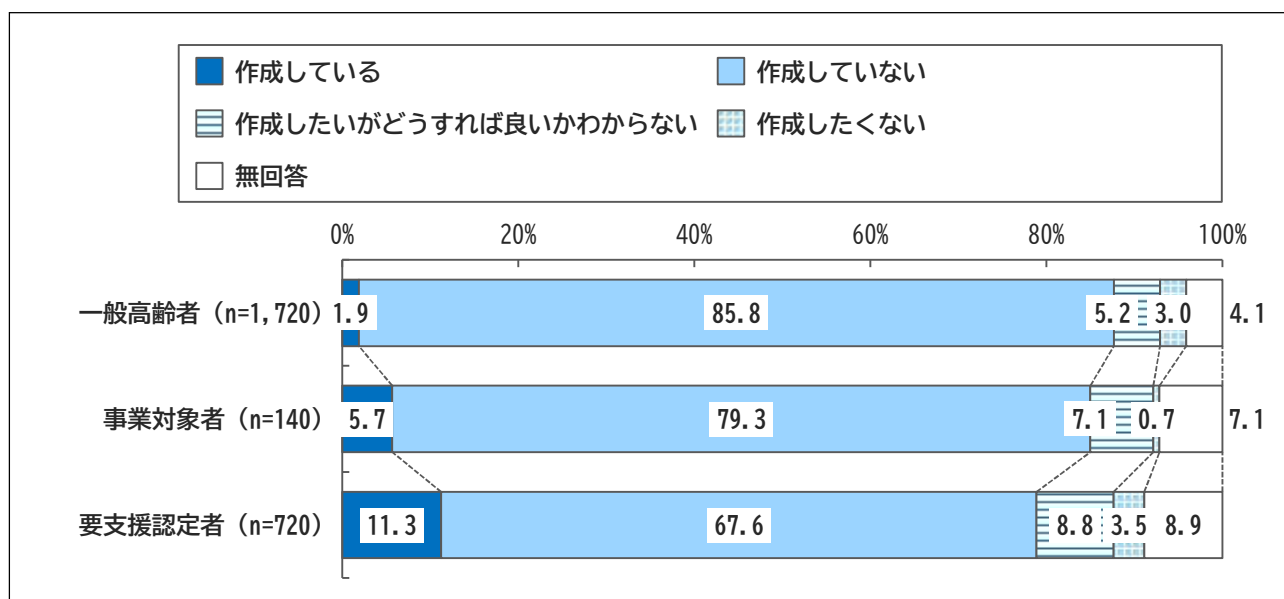
図表 70 治療・ケアに関する家族間の話し合いの有無



問 11 (2) あなたは、自分の希望する治療やケアについて、書面を作成していますか。

治療・ケアに関する書面作成の状況については、「作成している」の割合は、一般高齢者では1.9%、事業対象者では5.7%、要支援認定者では11.3%となっており、いずれも低い割合となっています。

図表 71 治療・ケアに関する書面作成の状況



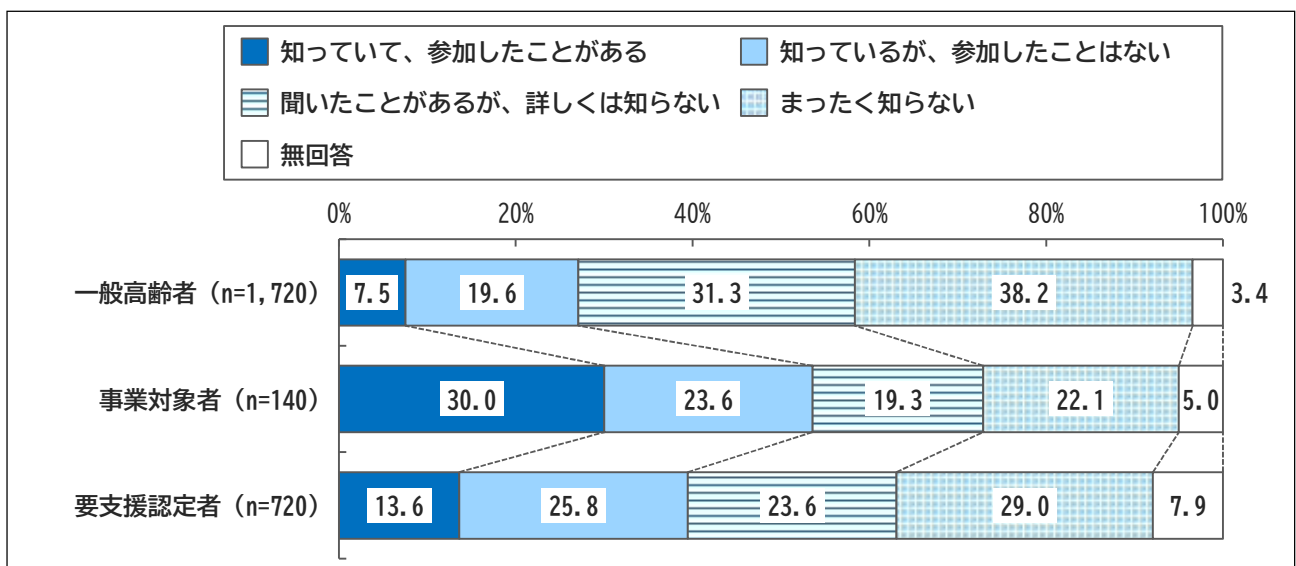
12 介護・福祉サービスについて

(1) 介護予防について

問 12 (1) 平均寿命が 80 歳を超えていく中、長い人生を自分らしく過ごすためには、心と体の健康寿命を伸ばすことが大事です。本市では、高齢者の皆さん自ら介護予防を行う手助けとして「はつらつ教室」等、様々な「介護予防事業」を行っています。市が行う「介護予防事業」について当てはまるものを 1 つだけ選んでください。

介護予防事業の認知度についてみると、一般高齢者、要支援認定者では「まったく知らない」が最も高くなっています。事業対象者では「知っていて、参加したことがある」が 30.0%と最も高くなっており、一般高齢者、要支援認定者よりも認知度が高くなっています。

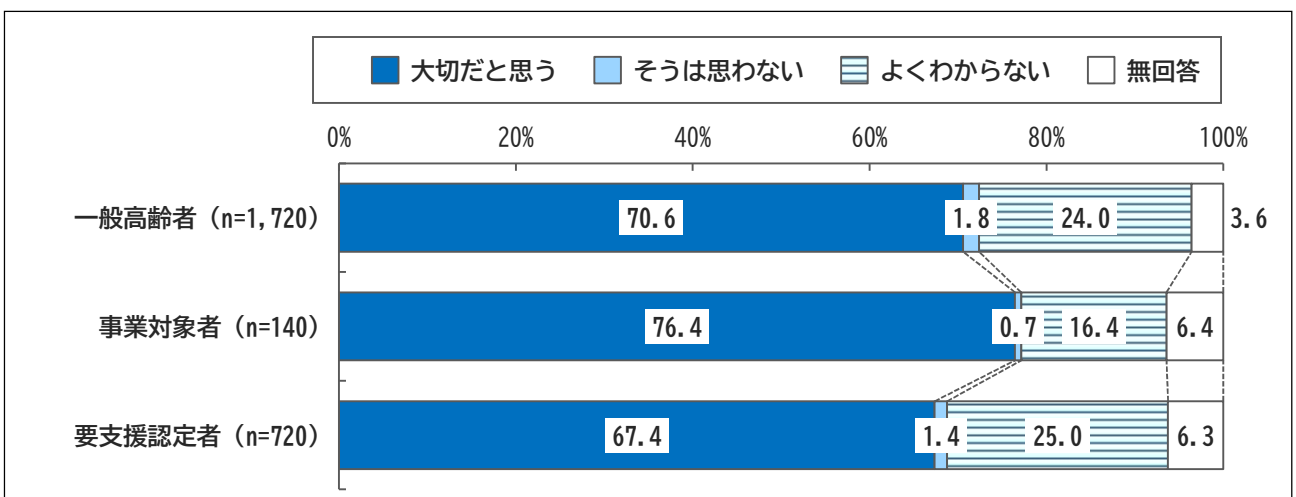
図表 72 介護予防事業の認知度



問 12 (2) 介護予防の取り組みを推進することは、大切であると思いますか。

介護予防の取り組み推進は大切だと思うかについてみると、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも「大切だと思う」が最も高くなっており、事業対象者で 76.4%と特に高くなっています。

図表 73 介護予防の取り組み推進は大切だと思うか



※問12(2)で「大切だと思う」と答えたかたのみ

問12(2-1)あなたが、健康維持のために取り組んでいること、または、取り組んでみたいことをそれぞれ3つまで選んでください。

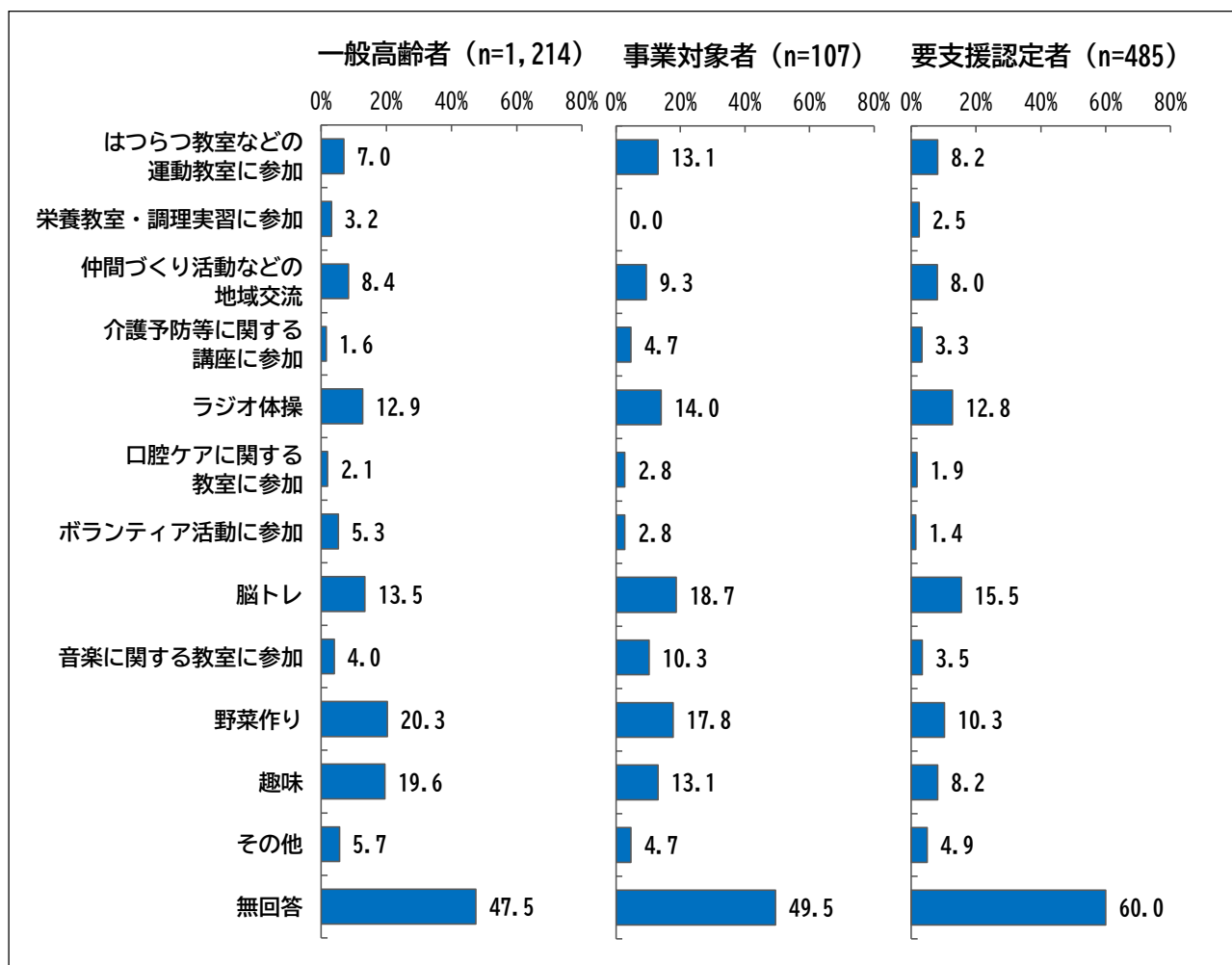
※4つ以上の回答が多かったため、(いくつでも)に変更して集計

健康維持のために【取り組んでいること】についてみると、一般高齢者では「野菜作り」(20.3%)が最も高く、次いで「趣味」(19.6%)、「脳トレ」(13.5%)となっています。

事業対象者では、「脳トレ」(18.7%)が最も高く、次いで「野菜作り」(17.8%)、「ラジオ体操」(14.0%)となっています。

要支援認定者では「脳トレ」(15.5%)が最も高く、次いで「ラジオ体操」(12.8%)、「野菜作り」(10.3%)となっています。

図表 74 健康維持のために【取り組んでいること】(複数回答)

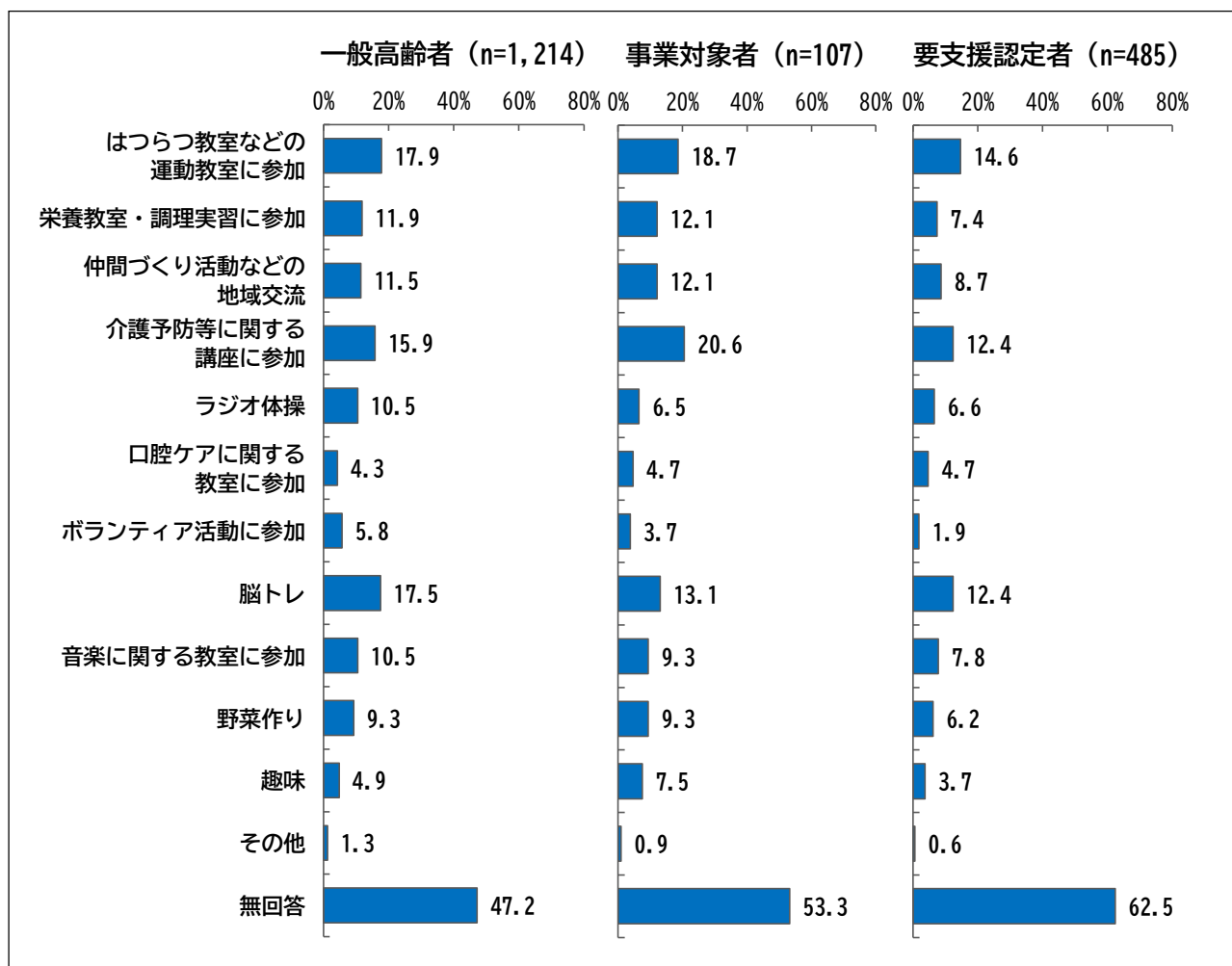


健康維持のために【取り組んでみたいこと】についてみると、一般高齢者では「はつらつ教室などの運動教室に参加」(17.9%)が最も高く、次いで「脳トレ」(17.5%)、「介護予防等に関する講座に参加」(15.9%)となっています。

事業対象者では、「介護予防等に関する講座に参加」(20.6%)が最も高く、次いで「はつらつ教室などの運動教室に参加」(18.7%)、「脳トレ」(13.1%)となっています。

要支援認定者では「はつらつ教室などの運動教室に参加」(14.6%)が最も高く、次いで「介護予防等に関する講座に参加」(12.4%)、「脳トレ」(12.4%)となっています。

図表 75 健康維持のために【取り組んでみたいこと】(複数回答)



(2) 将来の住まいと介護サービスの利用について

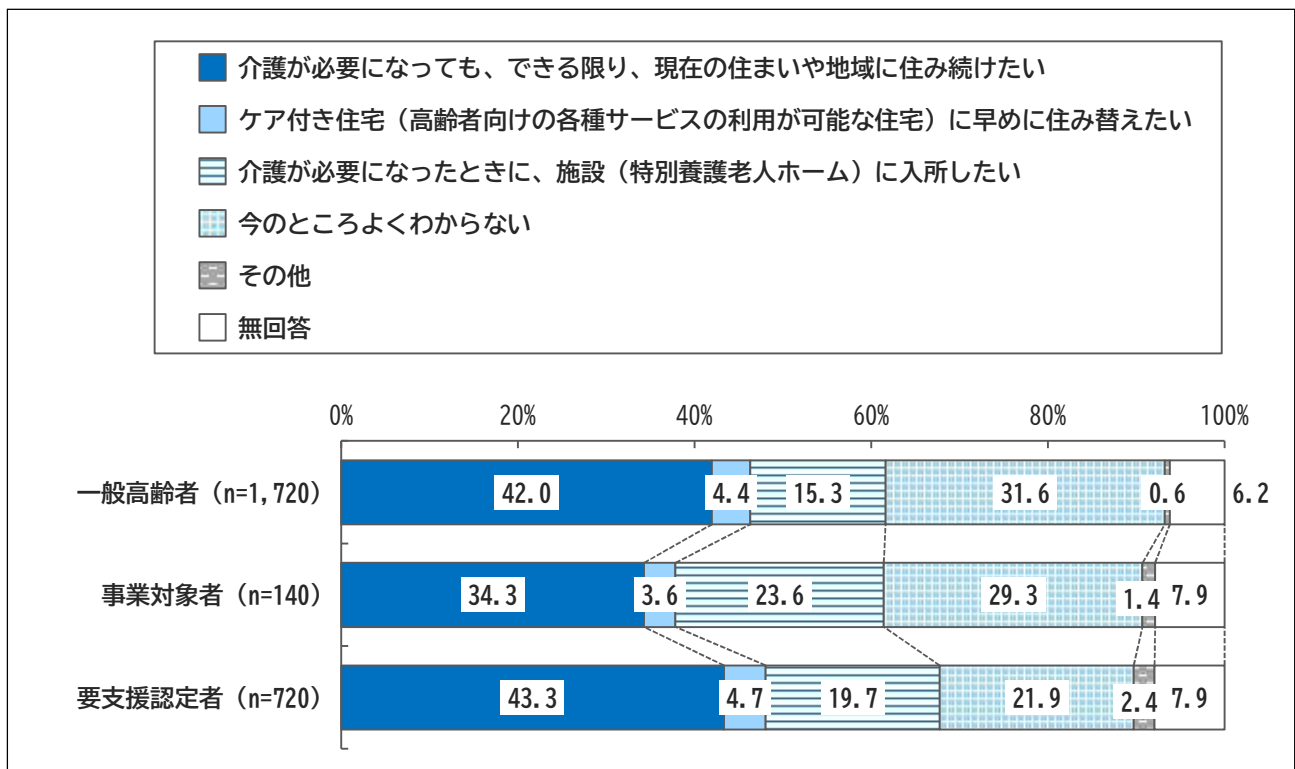
問 12 (3) 将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。
一番近いものを1つだけ選んでください。

将来の住まいと介護サービスの利用についてみると、一般高齢者では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が 42.0%と最も高く、次いで「今のところよくわからない」が 31.6%となっています。

事業対象者では、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が 34.3%と最も高く、次いで「今のところよくわからない」が 29.3%となっています。

要支援認定者では、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が 43.3%と最も高く、次いで「今のところよくわからない」が 21.9%となっています。

図表 76 将来の住まいと介護サービスの利用について



(3) 高齢化社会において重要な方策

問 12 (4) 今後も高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策を次の中から3つまで選んでください。

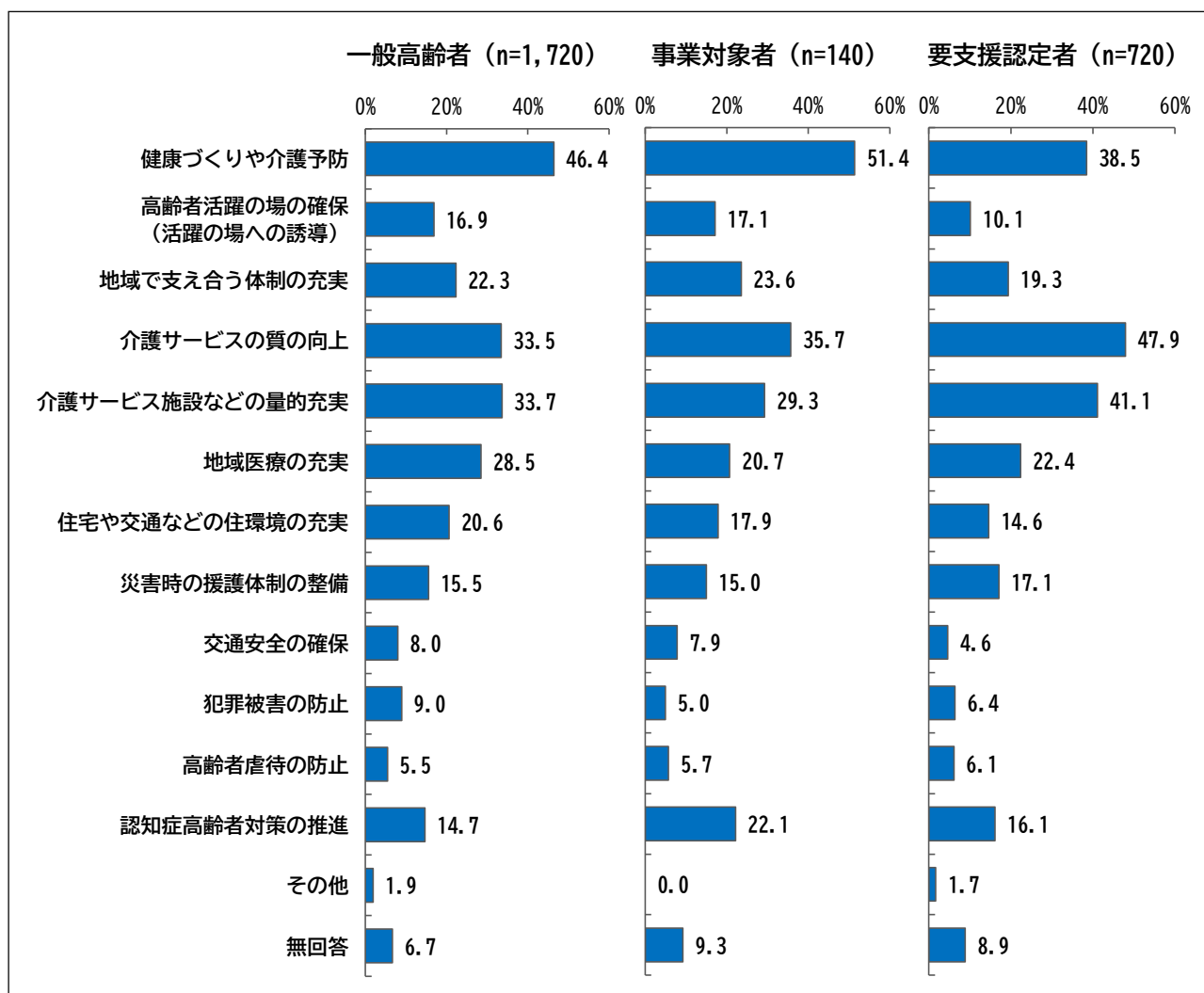
※4つ以上の回答が多かったため、(いくつでも)に変更して集計

高齢化社会において重要な方策についてみると、一般高齢者では「健康づくりや介護予防」(46.4%)が最も高く、次いで「介護サービス施設などの量的充実」(33.7%)、「介護サービスの質の向上」(33.5%)などとなっています。

事業対象者では「健康づくりや介護予防」(51.4%)が最も高く、次いで「介護サービスの質の向上」(35.7%)、「介護サービス施設などの量的充実」(29.3%)となっています。

要支援認定者では「介護サービスの質の向上」(47.9%)が最も高く、次いで「介護サービス施設などの量的充実」(41.1%)、「健康づくりや介護予防」(38.5%)となっています。

図表 77 高齢化社会において重要な方策（複数回答）



Ⅳ 前回調査との比較

Ⅰ 家族や生活状況について

問1（1）家族構成を教えてください。

【一般高齢者】

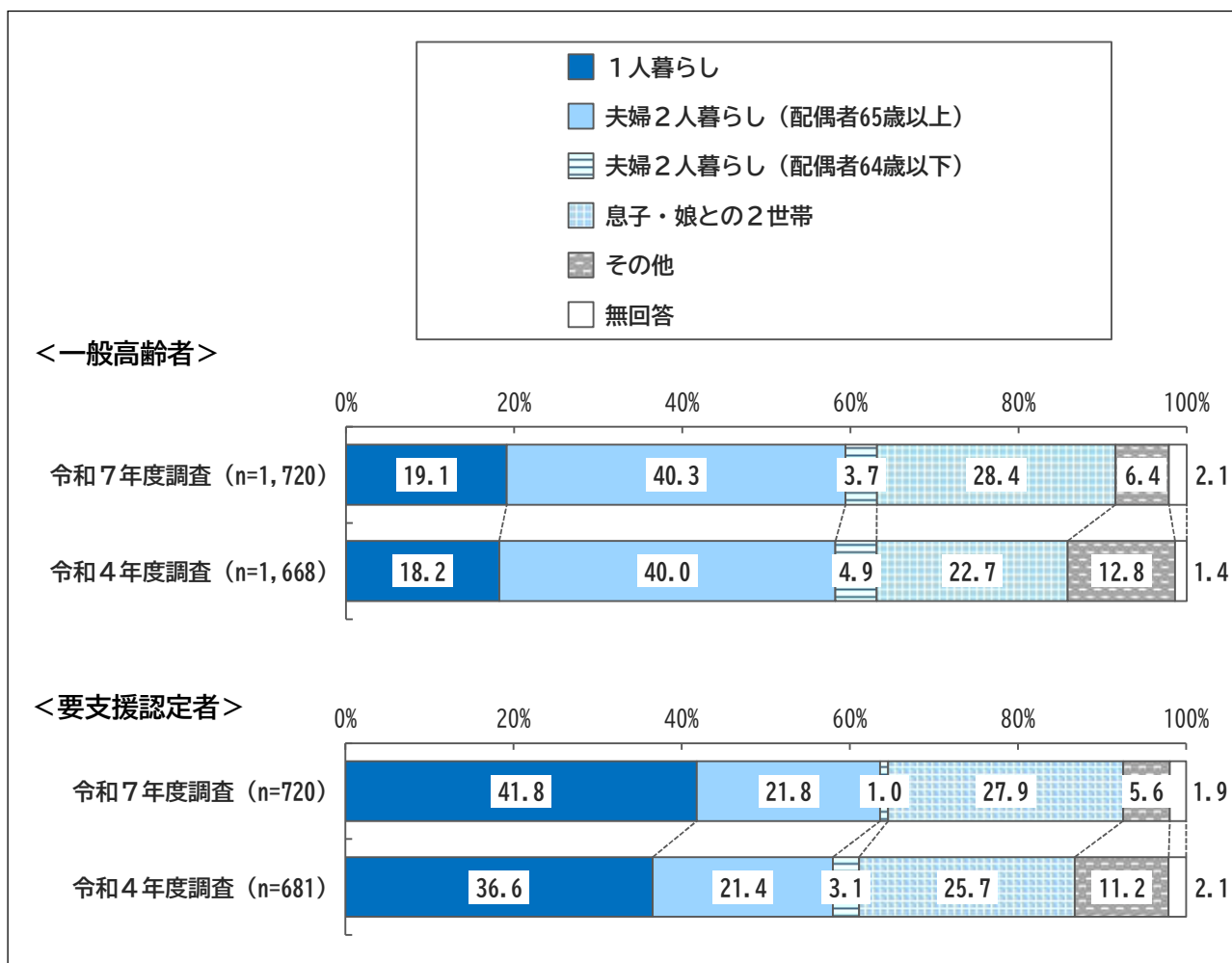
令和4年度調査と比較すると、「息子・娘との2世帯」が5.7ポイント増加しており、「1人暮らし」、「その他」を除いた『家族との同居』をしている割合は4.8ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「息子・娘との2世帯」が2.2ポイント増加しており、『家族との同居』をしている割合は0.5ポイントわずかに増加しています。

一方、「1人暮らし」も5.2ポイント増加しています。

図表 78 家族構成について（前回比較）



問1（2）あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

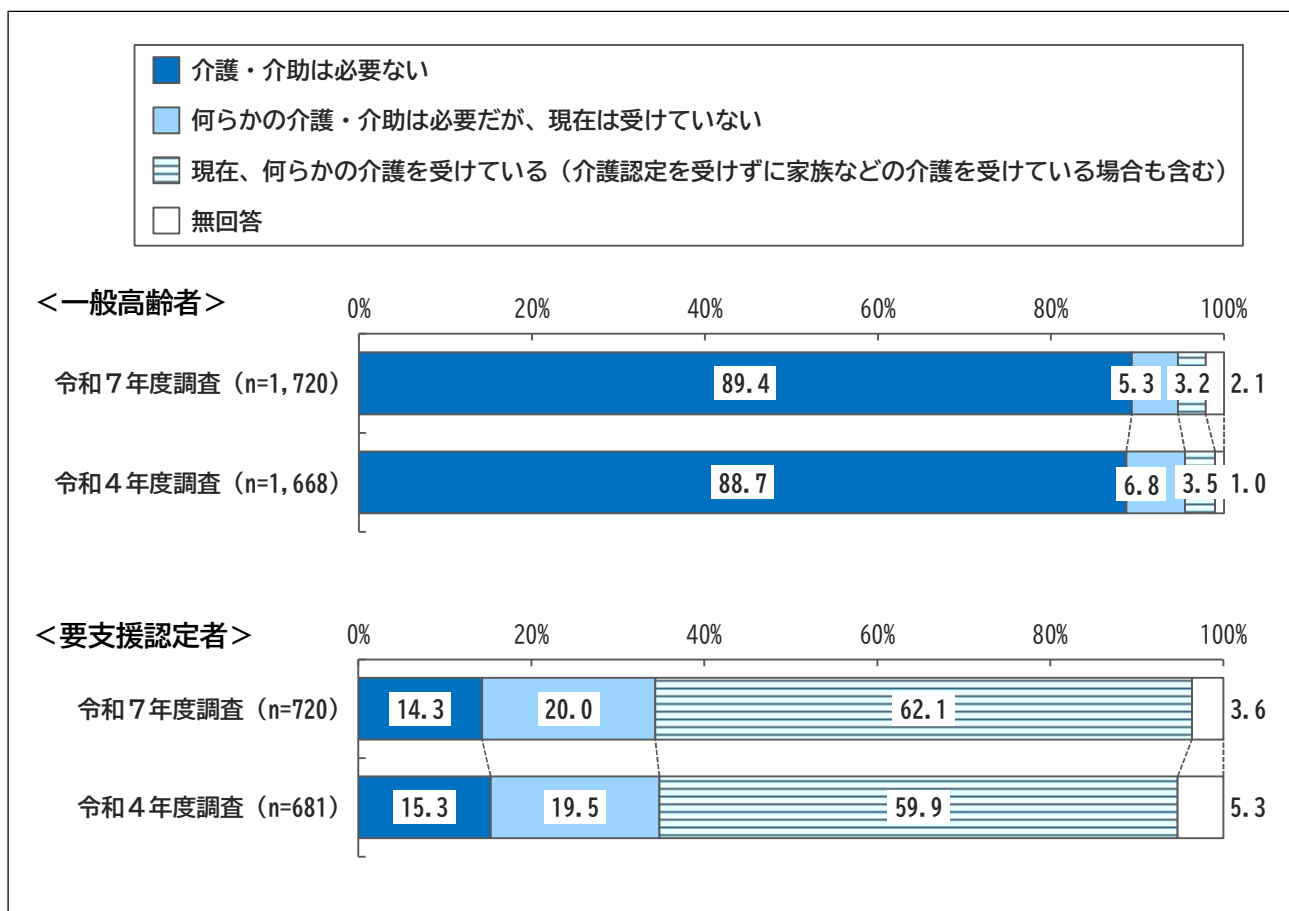
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「介護・介助は必要ない」が0.7ポイントわずかに増加しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「現在、何らかの介護を受けている（介護の認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が2.2ポイント、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が0.5ポイント増加しています。一方、「介護・介助は必要ない」が1.0ポイント減少しています。

図表 79 介護・介助の必要性（前回比較）



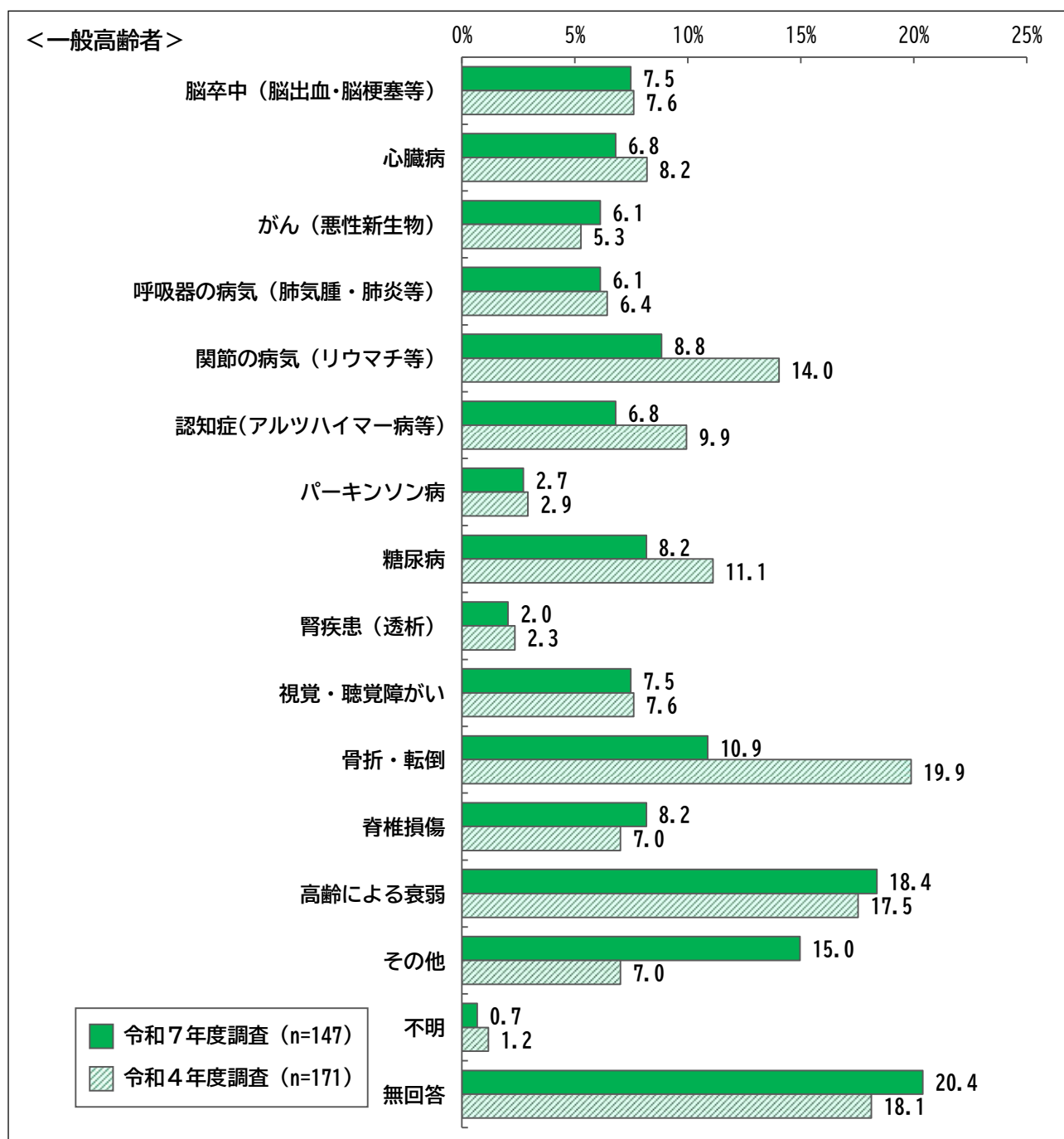
※問1（2）で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」と答えたかたのみ

問1（2－1）介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。（いくつでも）

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「骨折・転倒」は9.0ポイント、「関節の病気（リウマチ等）」は5.2ポイント減少しています。一方、「脊椎損傷」は1.2ポイント、「高齢による衰弱」は0.9ポイント増加しています。

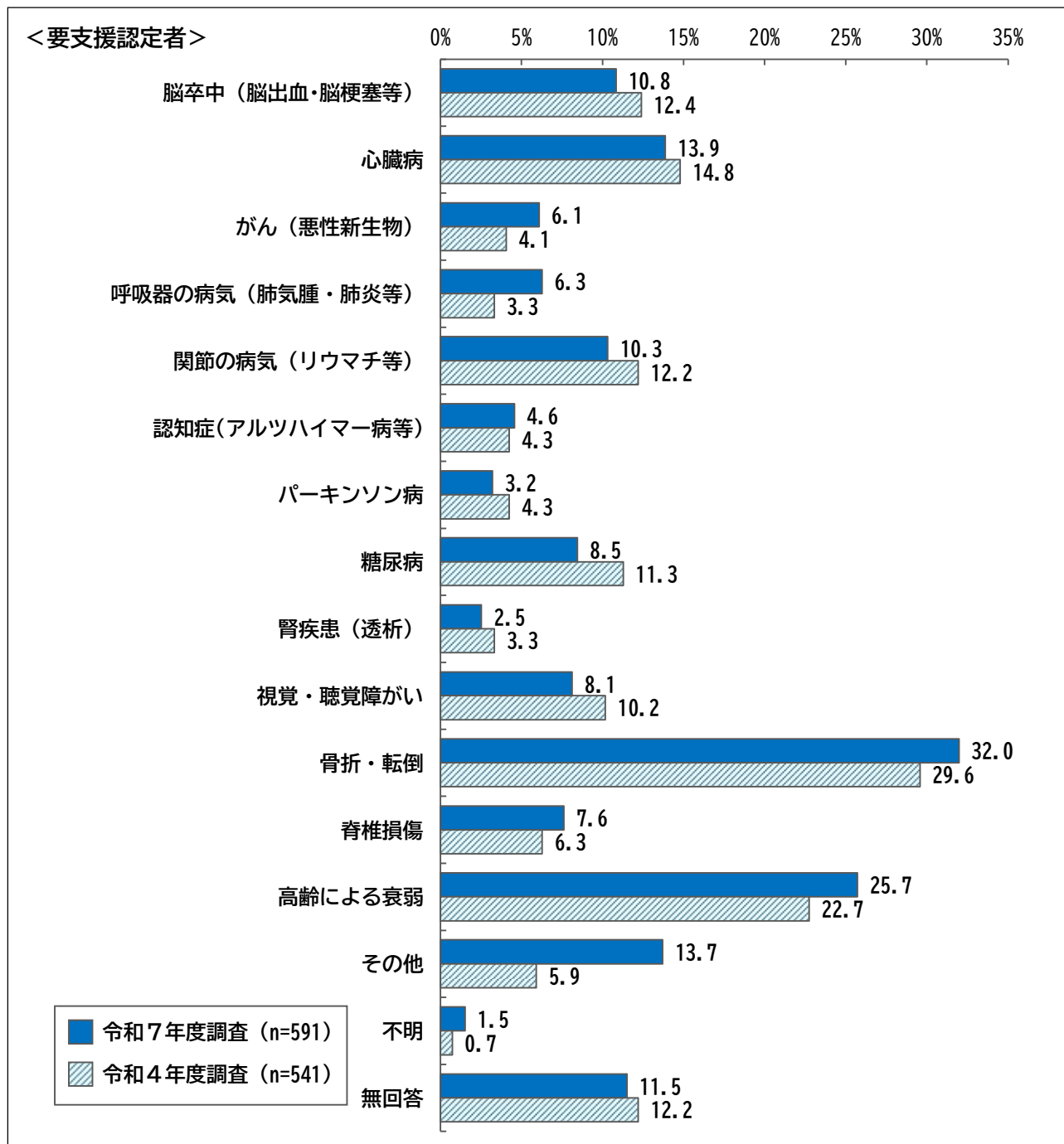
図表 80 介護・介助が必要になった主な原因（前回比較／複数回答）



【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「糖尿病」は2.8ポイント、「視覚・聴覚障がい」は2.1ポイント減少しています。一方、「呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）」、「高齢による衰弱」が3.0ポイント増加しています。

図表 81 介護・介助が必要になった主な原因（前回比較／複数回答）



※問1（2）で「現在、何らかの介護を受けている」と答えたかたのみ

問1（2-2）主にどなたの介護、介助を受けていますか。（いくつでも）

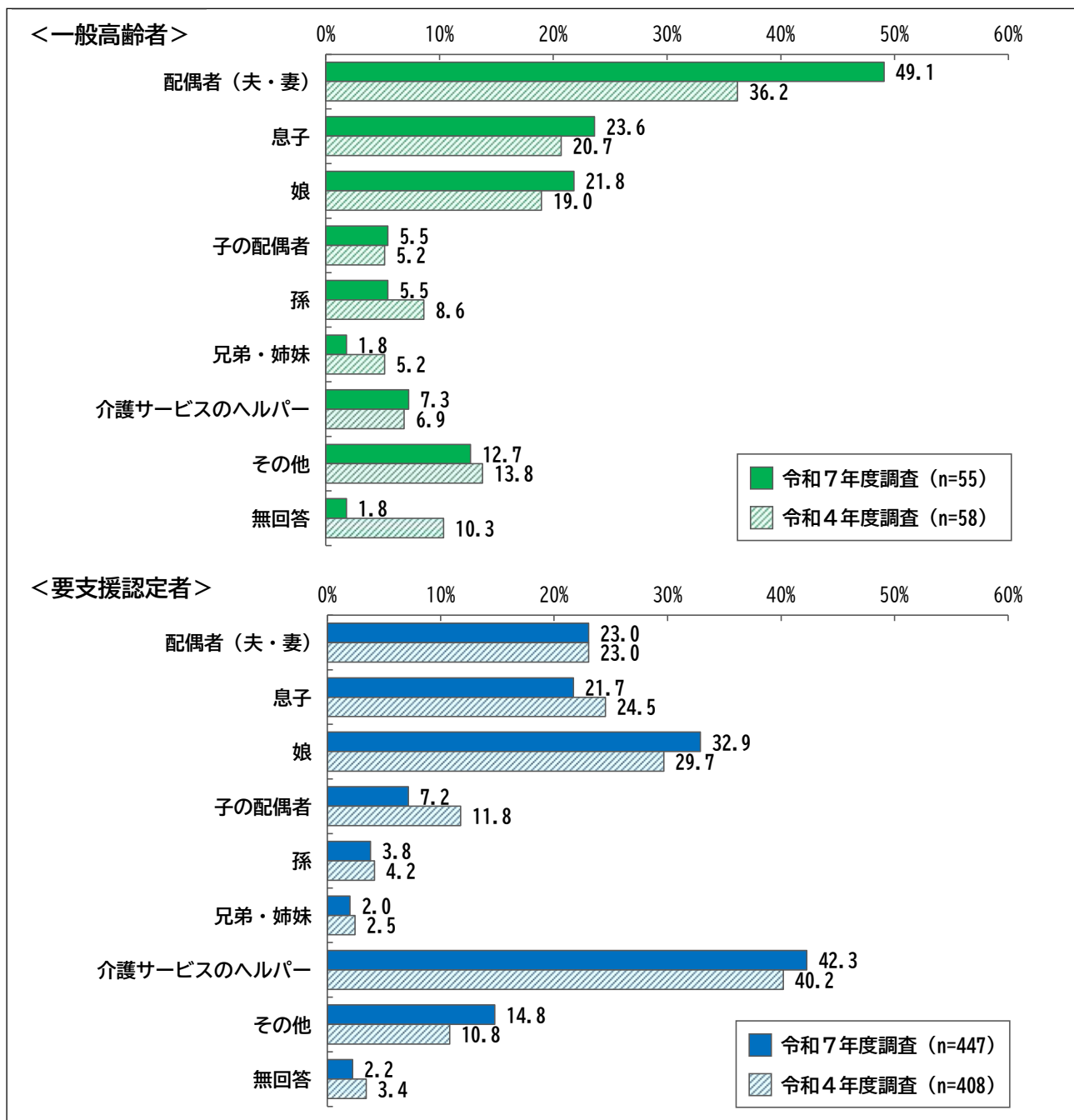
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「兄弟・姉妹」が3.4ポイント、「孫」の割合が3.1ポイント減少し、「配偶者（夫・妻）」が12.9ポイント、「息子」の割合が2.9ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「子の配偶者」が4.6ポイント、「息子」の割合が2.8ポイント減少し、「娘」が3.2ポイント、「介護サービスのヘルパー」の割合が2.1ポイント増加しています。

図表 82 主な介護・介助者（前回比較／複数回答）



問1（3）現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

【一般高齢者】

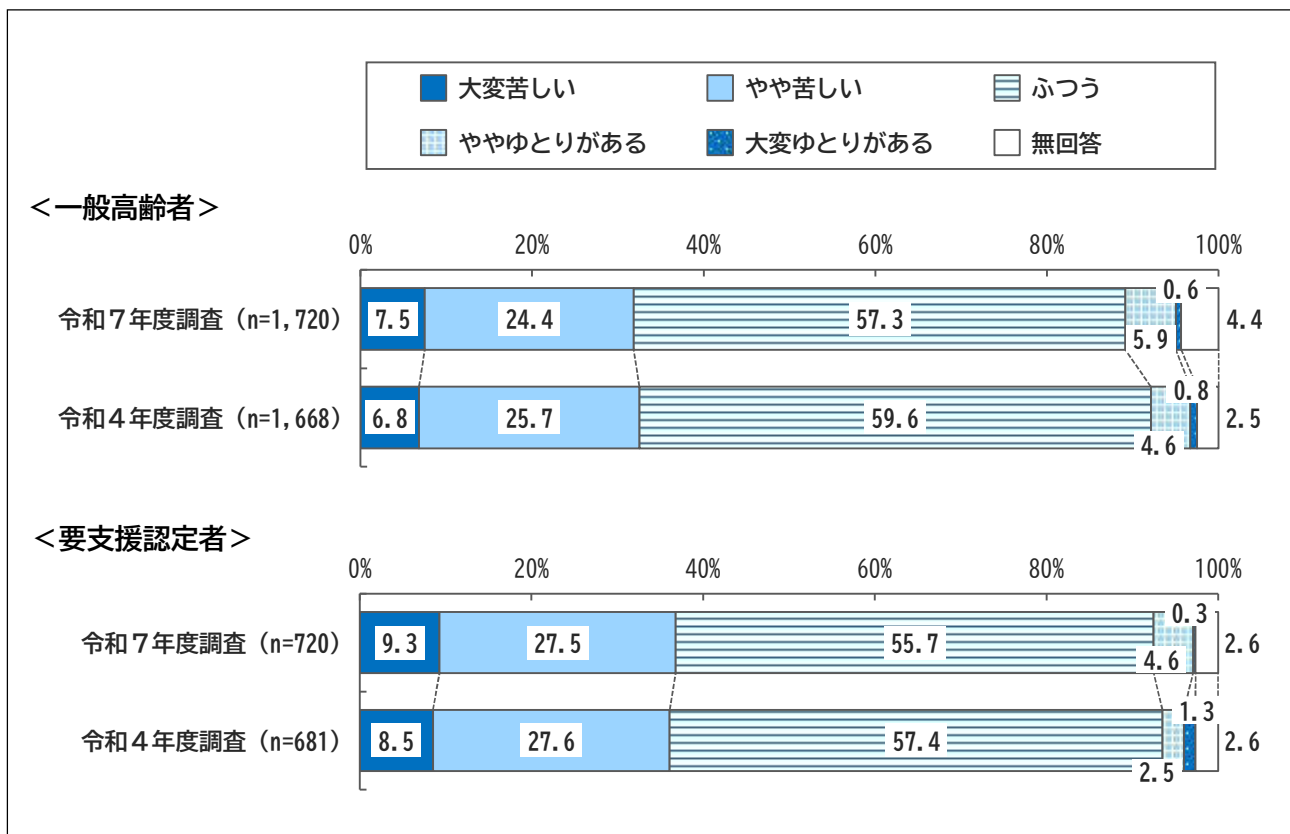
令和4年度調査と比較すると、「大変苦しい」が0.7ポイント増加しています。

また、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合計した『苦しい』の割合は、令和4年度の32.5%に対し、令和7年度では31.9%と0.6ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「大変苦しい」が0.8ポイント増加しており、『苦しい』の割合は、令和4年度の36.1%に対し、令和7年度で36.8%と0.7ポイント増加しています。

図表 83 現在の経済状況について（前回比較）



問1（4）お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

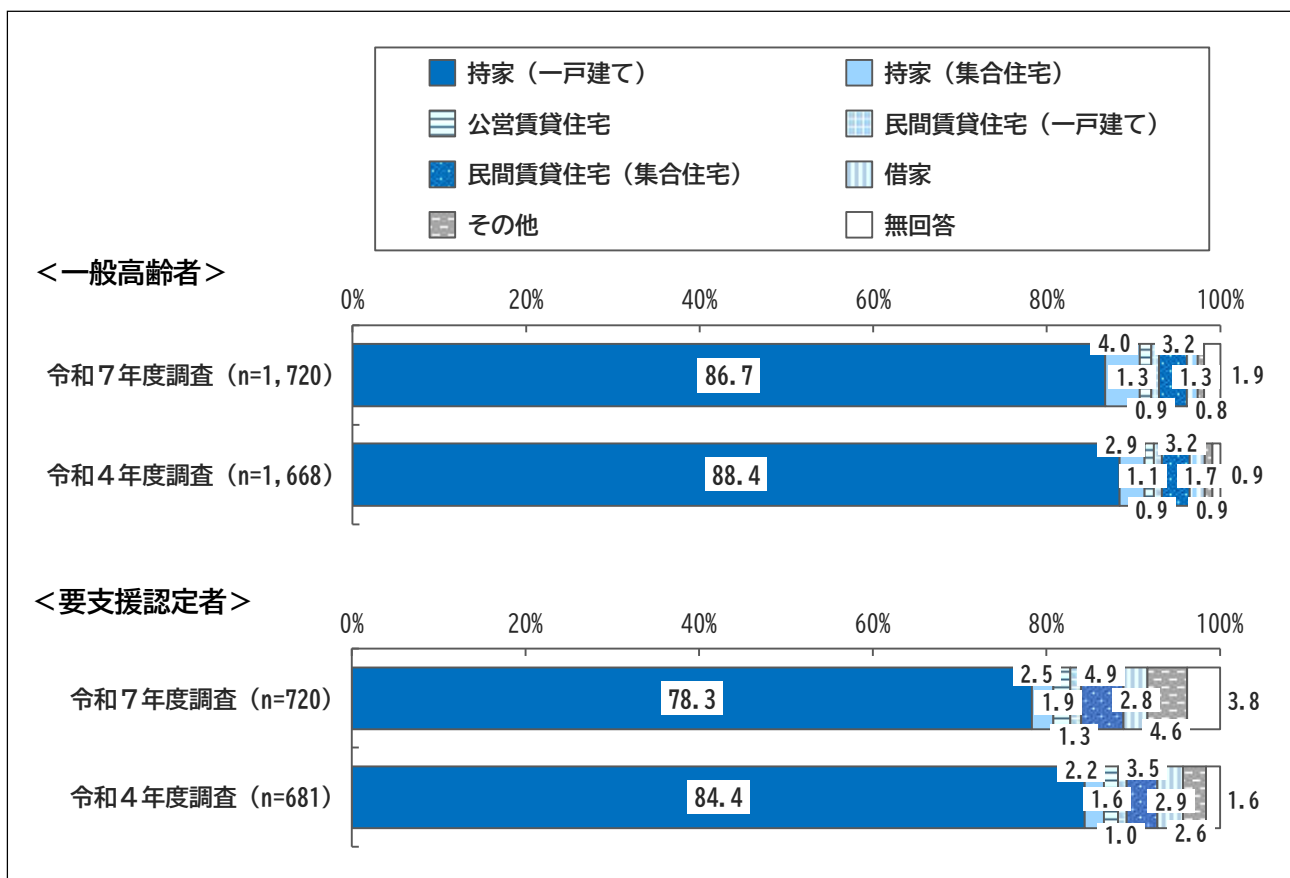
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「持家（一戸建て）」が1.7ポイント減少していますが、令和4年度同様「持家（一戸建て）」が8割以上を占めています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「持家（一戸建て）」が6.1ポイント減少していますが、令和4年度同様「持家（一戸建て）」が7割以上を占めています。

図表 84 現在の住まいについて（前回比較）



2 からだを動かすことについて

問2（1）階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。

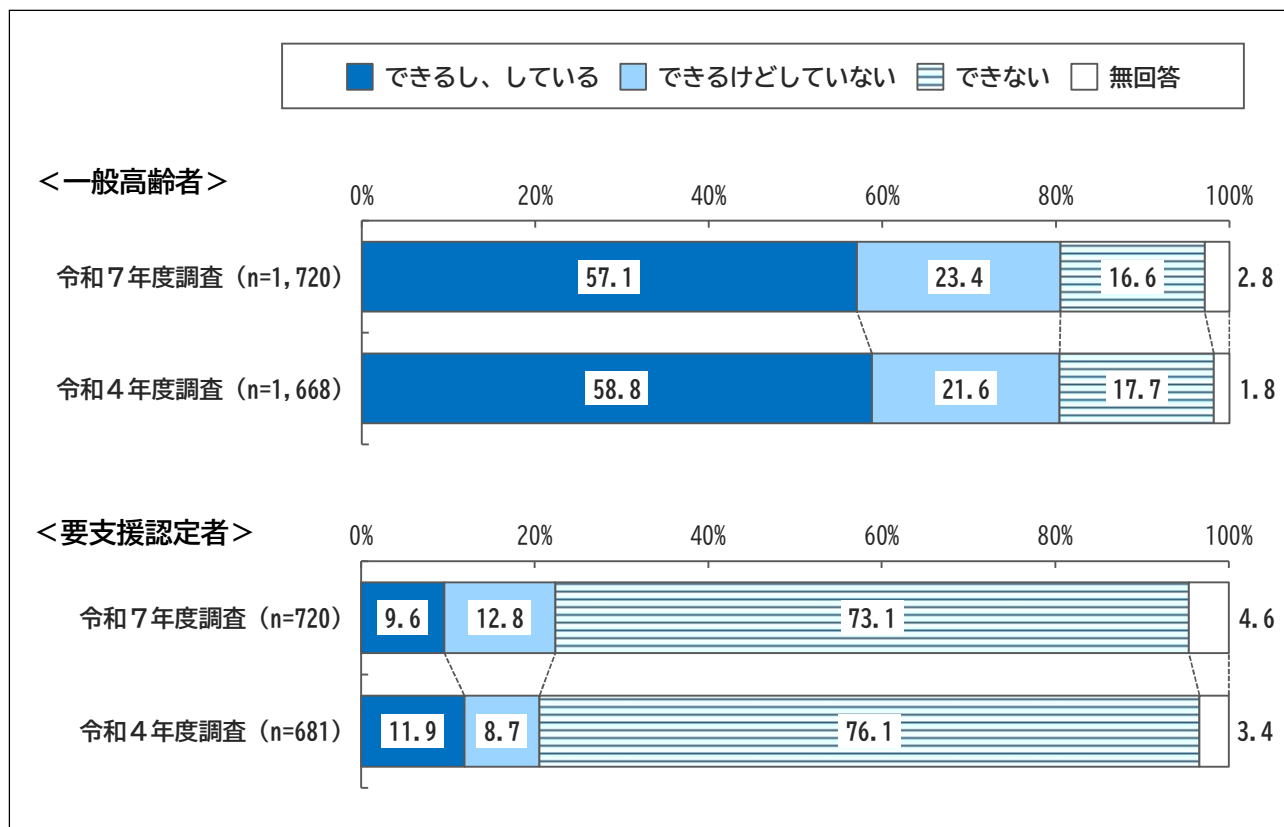
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」は減少し、「できるけどしていない」は増加しています。合計した『できる』の割合は、令和4年度では80.4%、令和7年度では80.5%となっており、0.1ポイントわずかに増加しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」は減少し、「できるけどしていない」は増加しています。合計した『できる』の割合は、令和4年度では20.6%、令和7年度では22.4%となっており、1.8ポイント増加しています。

図表 85 階段を手すり等を使用せずに昇れるか（前回比較）



問2（2）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。

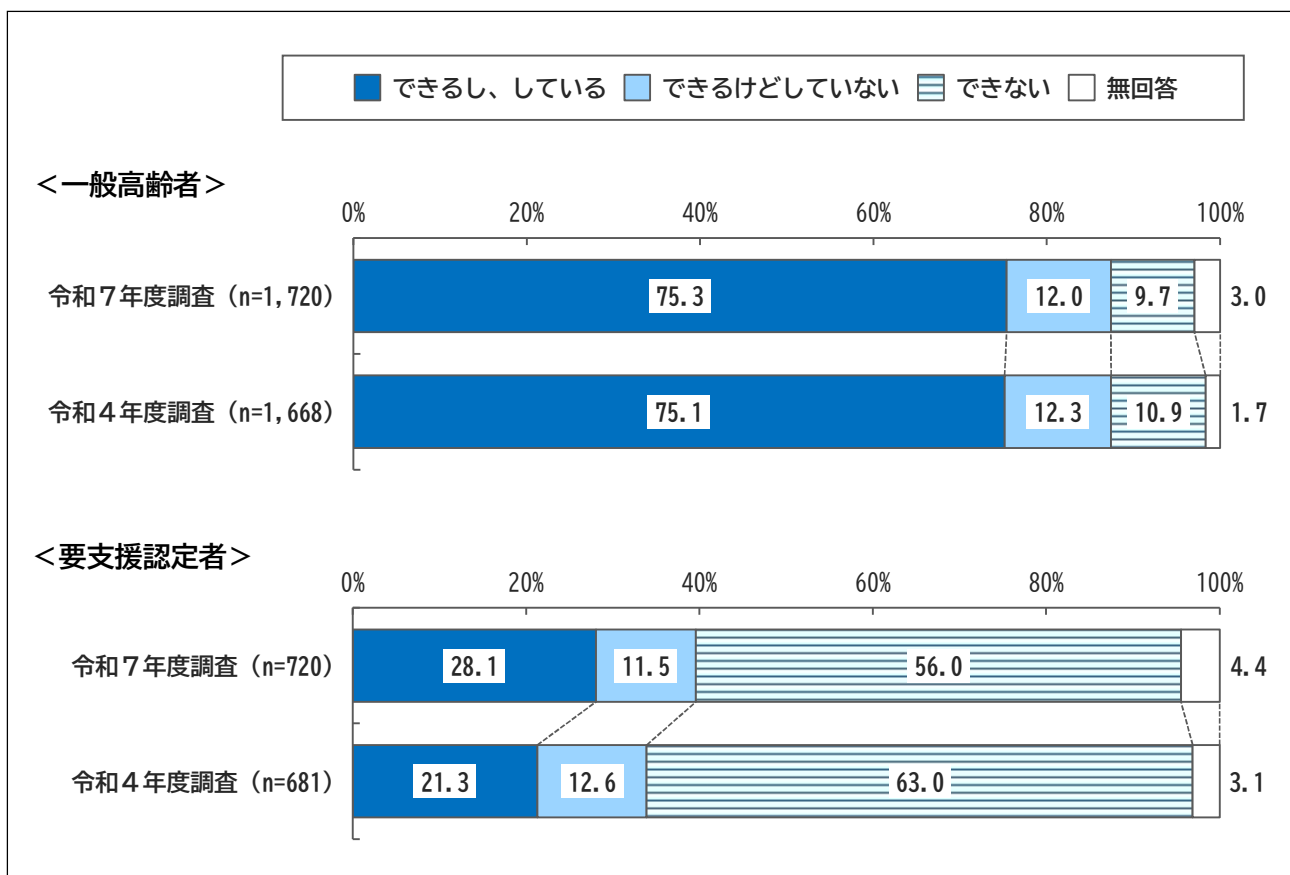
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」は増加し、「できるけどしていない」は減少しています。合計した『できる』の割合は、令和4年度では87.4%、令和7年度では87.3%となっており、0.1ポイントわずかに減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」は増加し、「できるけどしていない」は減少しています。合計した『できる』の割合は、令和4年度では33.9%、令和7年度では39.6%となっており、5.7ポイント増加しています。

図表 86 椅子に座った状態から立ち上がれるか（前回比較）



問2（3）15分位続けて歩いていますか。

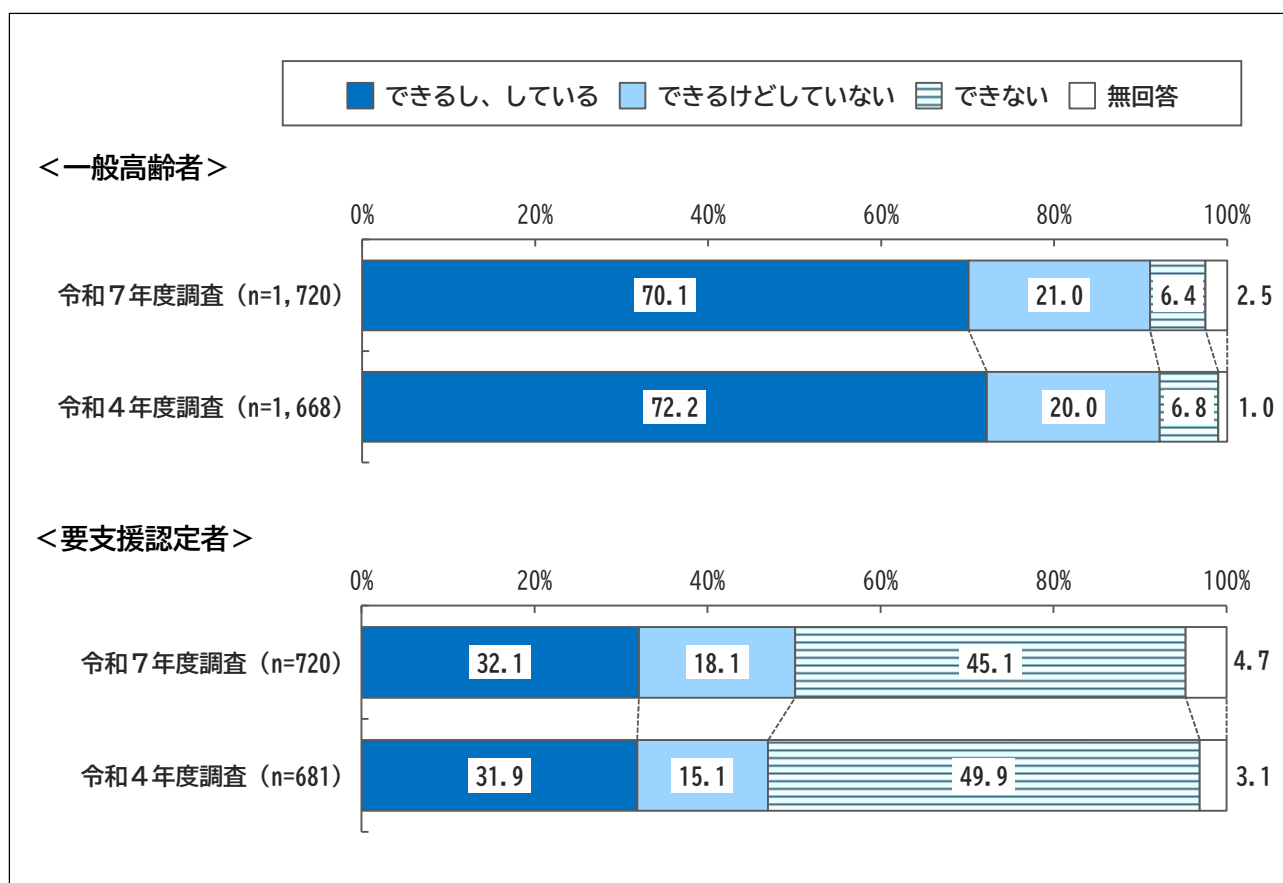
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」は減少し、「できるけどしていない」は増加しています。合計した『できる』の割合は、令和4年度では92.2%、令和7年度では91.1%となっており、1.1ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」、「できるけどしていない」がともに増加しています。合計した『できる』の割合は、令和4年度では47.0%、令和7年度では50.2%となっており、3.2ポイント増加しています。

図表 87 15分位続けて歩いているか（前回比較）



問２（４）過去１年間に転んだ経験がありますか。

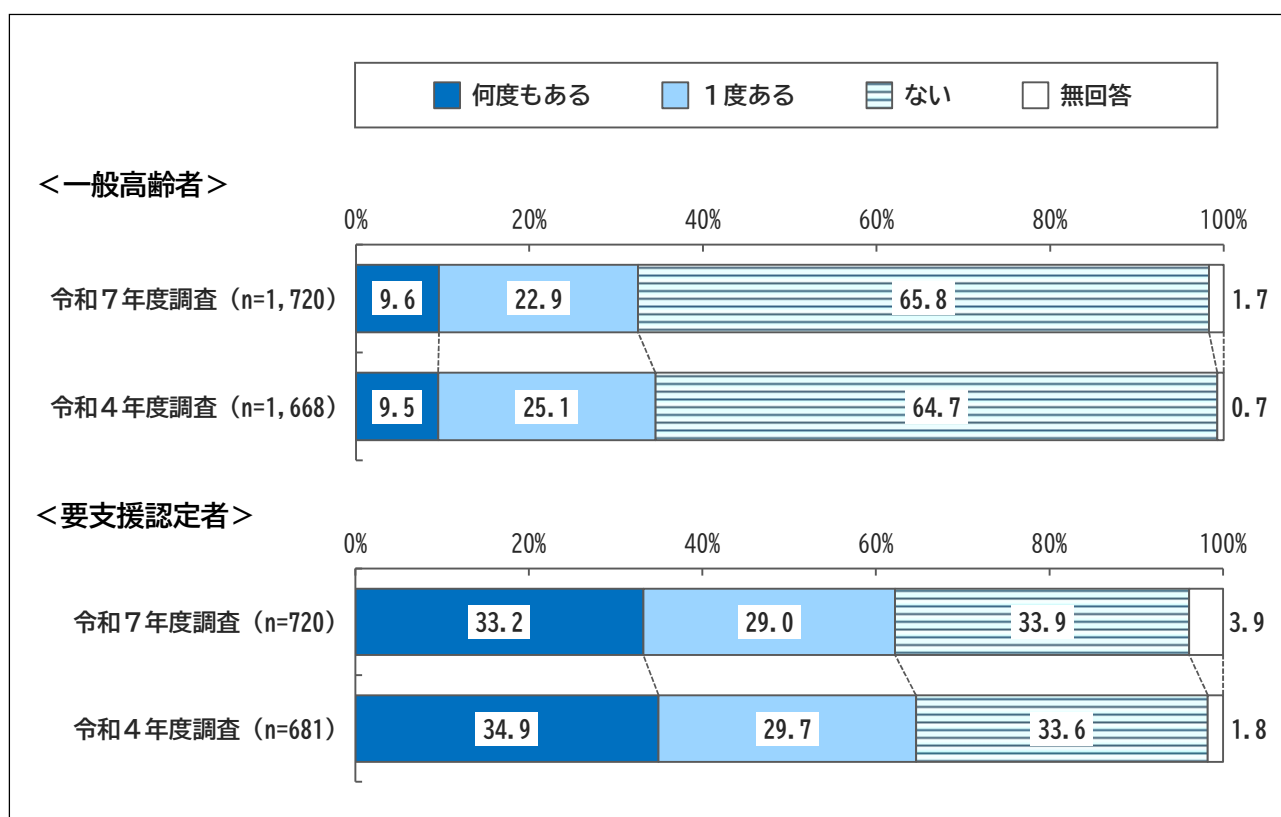
【一般高齢者】

令和４年度調査と比較すると、「１度ある」は２.２ポイント減少しており、「何度もある」を合計した『転倒経験がある』の割合は、令和４年度の３４.６％に対し、令和７年度では３２.５％となっており、２.１ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和４年度調査と比較すると、「ない」が０.３ポイント増加しています。また、『転倒経験がある』の割合は、令和４年度の６４.６％に対し、令和７年度では６２.２％となっており、２.４ポイント減少しています。

図表 88 転倒の経験（前回比較）



問2（5）転倒に対する不安は大きいですか。

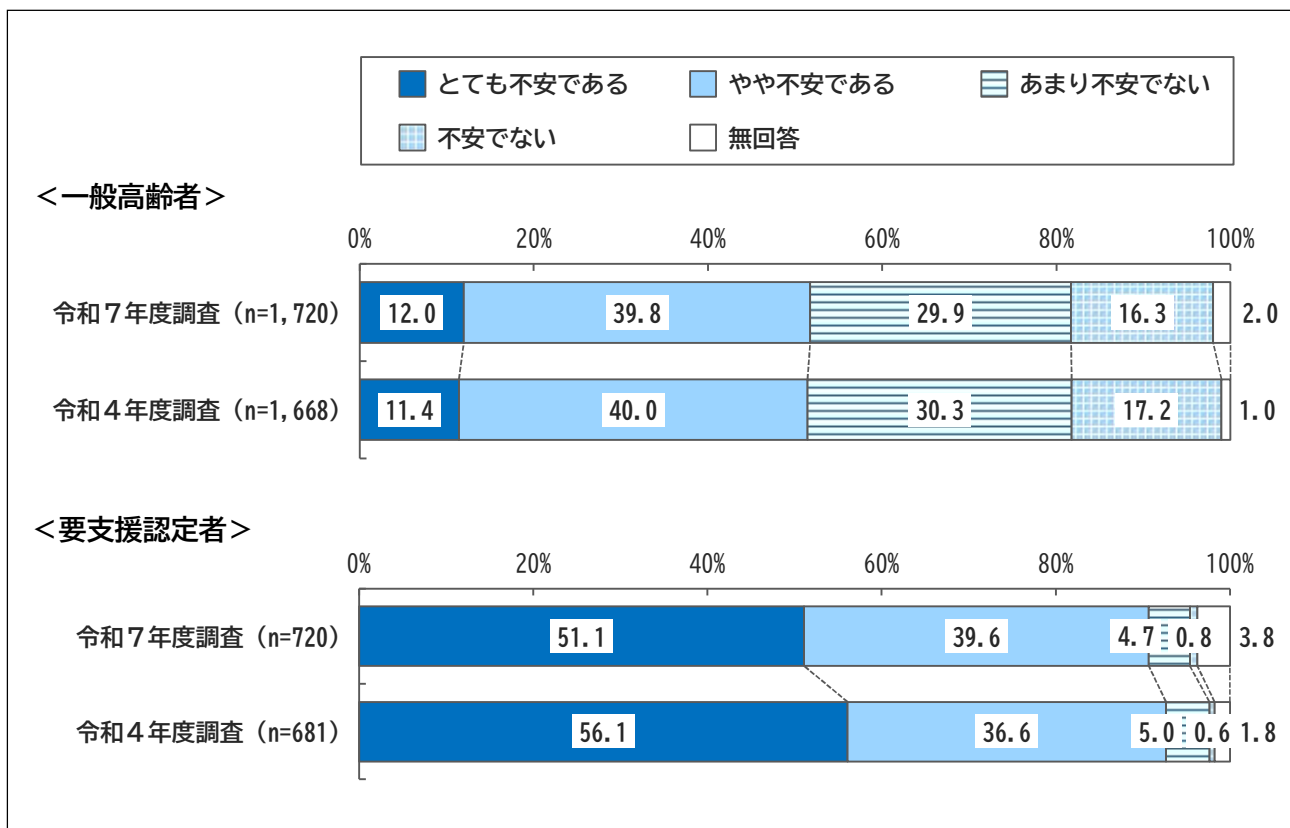
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「とても不安である」が0.6ポイント増加しています。また、「やや不安である」を合計した『不安である』の割合は、令和4年度の51.4%に対し、令和7年度では51.8%と0.4ポイント増加しており、半数以上の人々が、転倒に対する不安があると回答しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「とても不安である」が5.0ポイント減少しています。また、『不安である』の割合は、令和4年度の92.7%に対し、令和7年度では90.7%と2.0ポイント減少していますが、前回同様9割以上の人々が、転倒に対する不安があると回答しています。

図表 89 転倒に対する不安（前回比較）



問2（6）週に1回以上は外出していますか。

【一般高齢者】

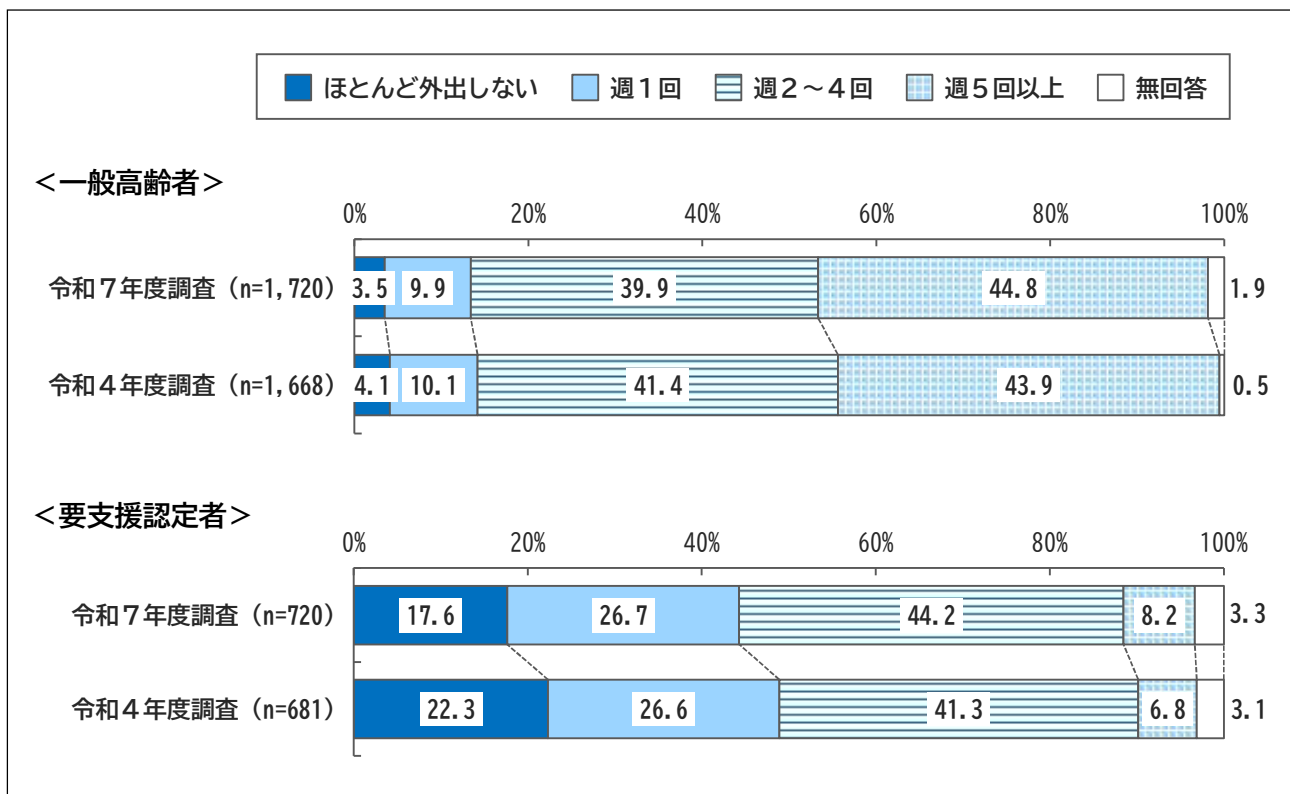
令和4年度調査と比較すると、「週5回以上」が0.9ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「ほとんど外出しない」が4.7ポイント減少し、「週2～4回」が2.9ポイント増加しています。週1回以上外出している人の割合を合計すると、令和4年度の74.7%に対し、令和7年度では79.1%となっており4.4ポイント増加しています。

「ほとんど外出しない」人の割合が減少し、外出している人の割合は増加していることから、令和4年度に比べて1週間当たりの外出が増えていることがうかがえます。

図表 90 1週間当たりの外出回数について（前回比較）



問2（7）昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「減っている」が4.8ポイント減少し、「あまり減っていない」が3.0ポイント増加しています。「とても減っている」と「減っている」を合計した『減っている』の割合は、令和4年度の28.3%に対し、令和7年度では22.9%と5.4ポイント減少しています。

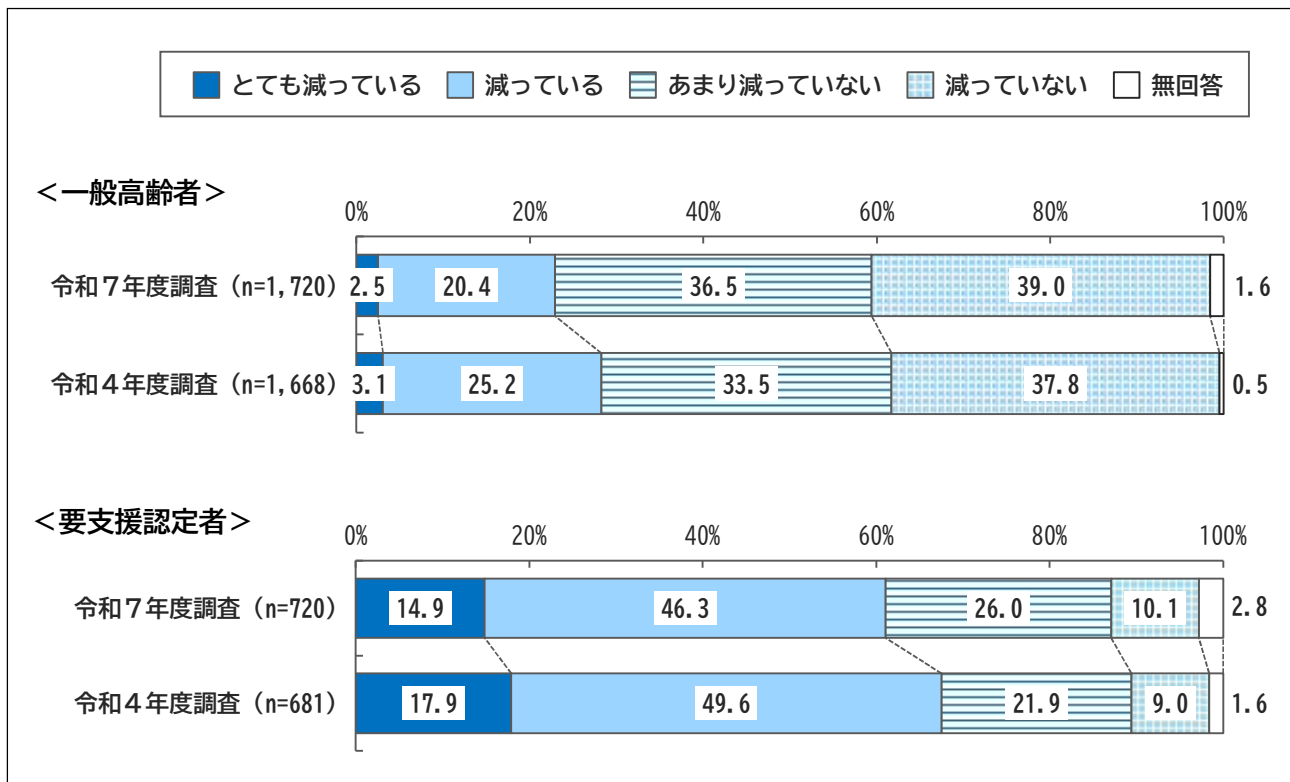
前問の1週間当たりの外出回数の変化と同様に、昨年と比較した外出回数に関しても、増えていることがうかがえます。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると「減っている」が3.3ポイント減少し、「あまり減っていない」が4.1ポイント増加しています。外出回数が『減っている』の割合は、令和4年度の67.5%に対し、令和7年度では61.2%と6.3ポイント減少しています。

一般高齢者と同様に、要支援認定者においても、外出の回数が増えていることがうかがえます。

図表 91 昨年と比較した外出回数について（前回比較）



問2（8）外出を控えていますか。

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」（外出を控えている）が11.0ポイント減少しています。

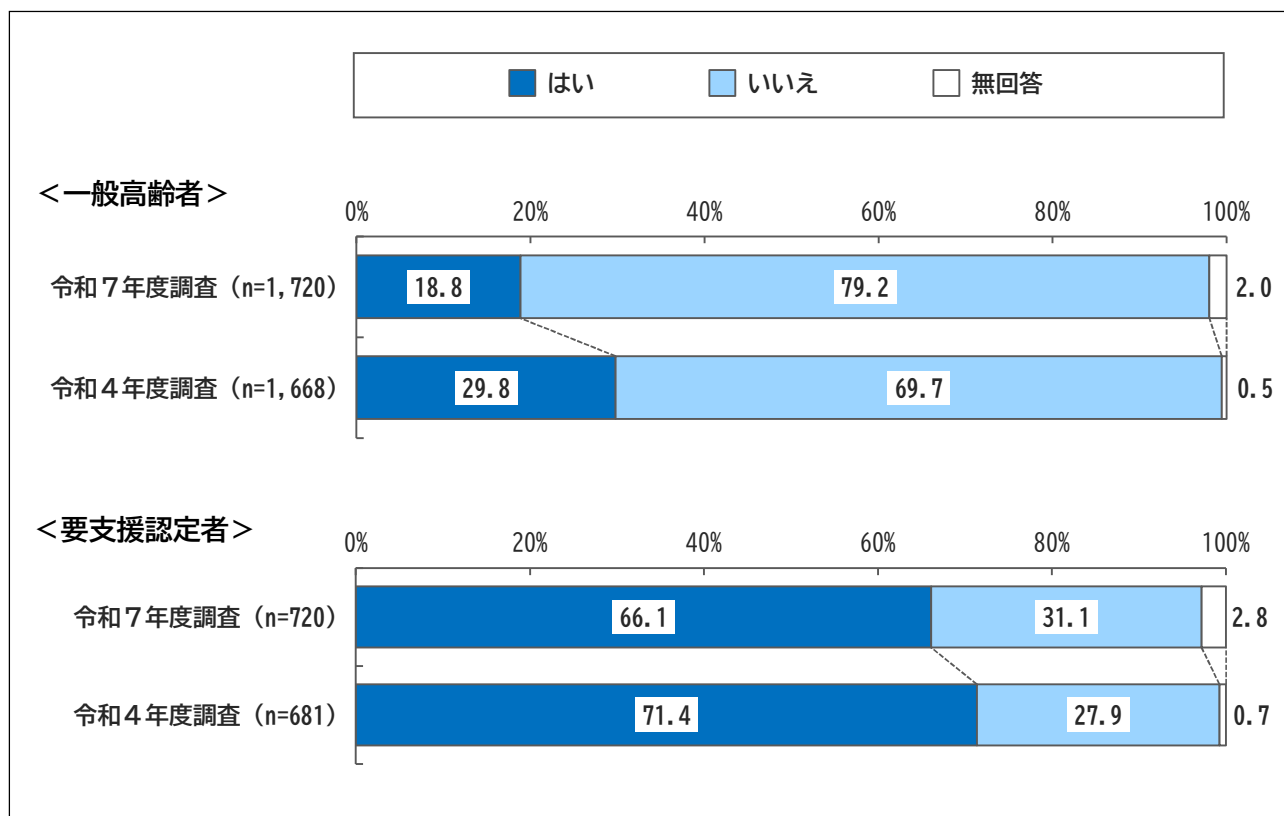
1週間当たりの外出回数や、昨年と比較した外出回数と同様に、外出を控えている割合が減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」（外出を控えている）が5.3ポイント減少しています。

一般高齢者と同様に、要支援認定者においても、外出を控えている割合が減少しています。

図表 92 外出を控えているか（前回比較）



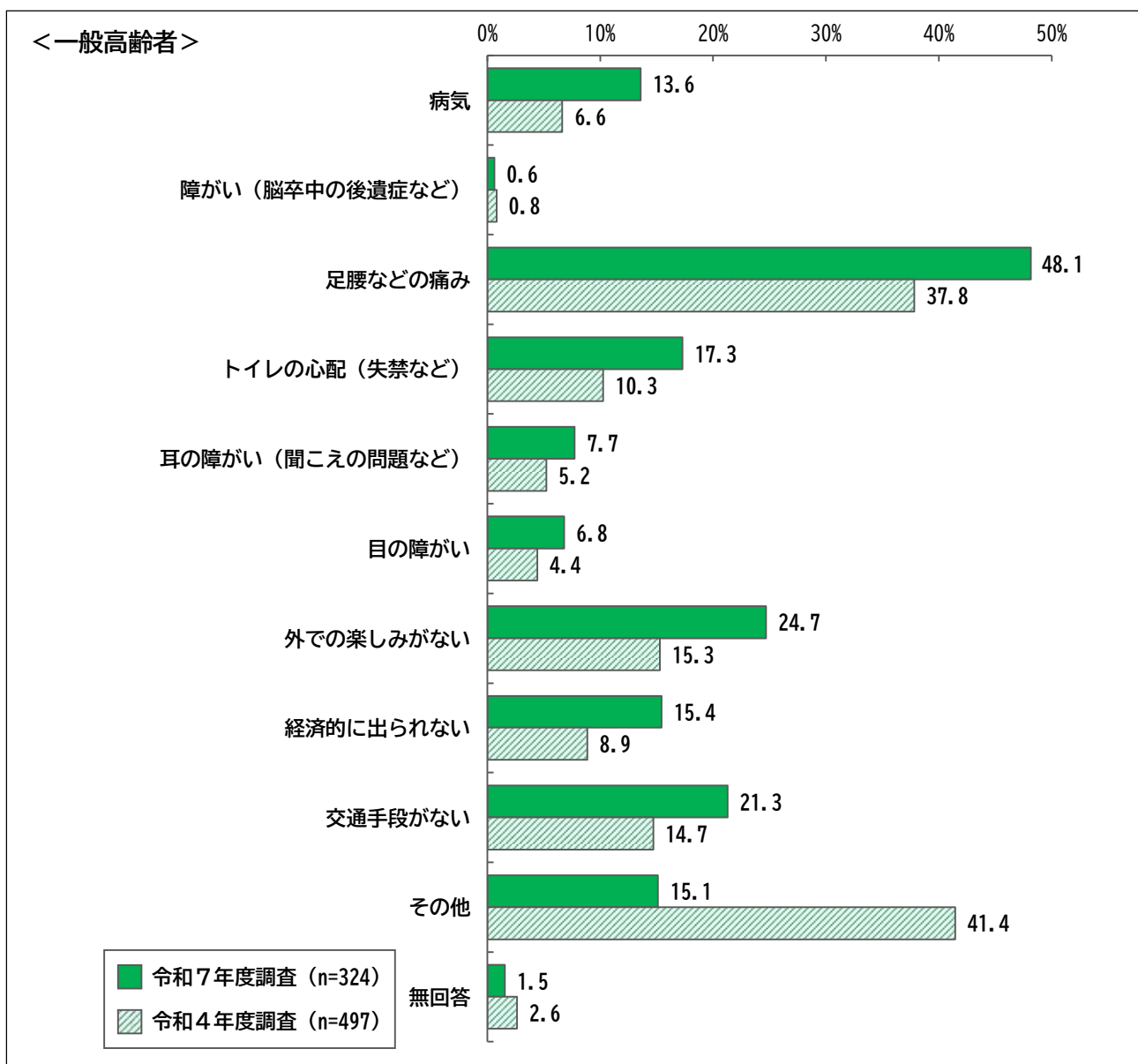
※問2（8）で「はい（外出を控えている）」と答えたかたのみ

問2（8－1）外出を控えている理由は、次のどれですか。（いくつでも）

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「足腰などの痛み」は10.3ポイント、「外での楽しみがない」が9.4ポイント、「トイレの心配（失禁など）」が7.0ポイント増加し、「その他」が26.3ポイント減少しています。なお、前回調査の「その他」の理由には「コロナウイルス感染予防のため」が大半を占めているため、割合に大差がみられています。このことから、前問からの外出の回数の変化や、外出を控えている割合の減少についても、コロナウイルス感染予防のために外出を控える人が減少していることが関わっていると思われます。

図表 93 外出を控えている理由（前回比較／複数回答）

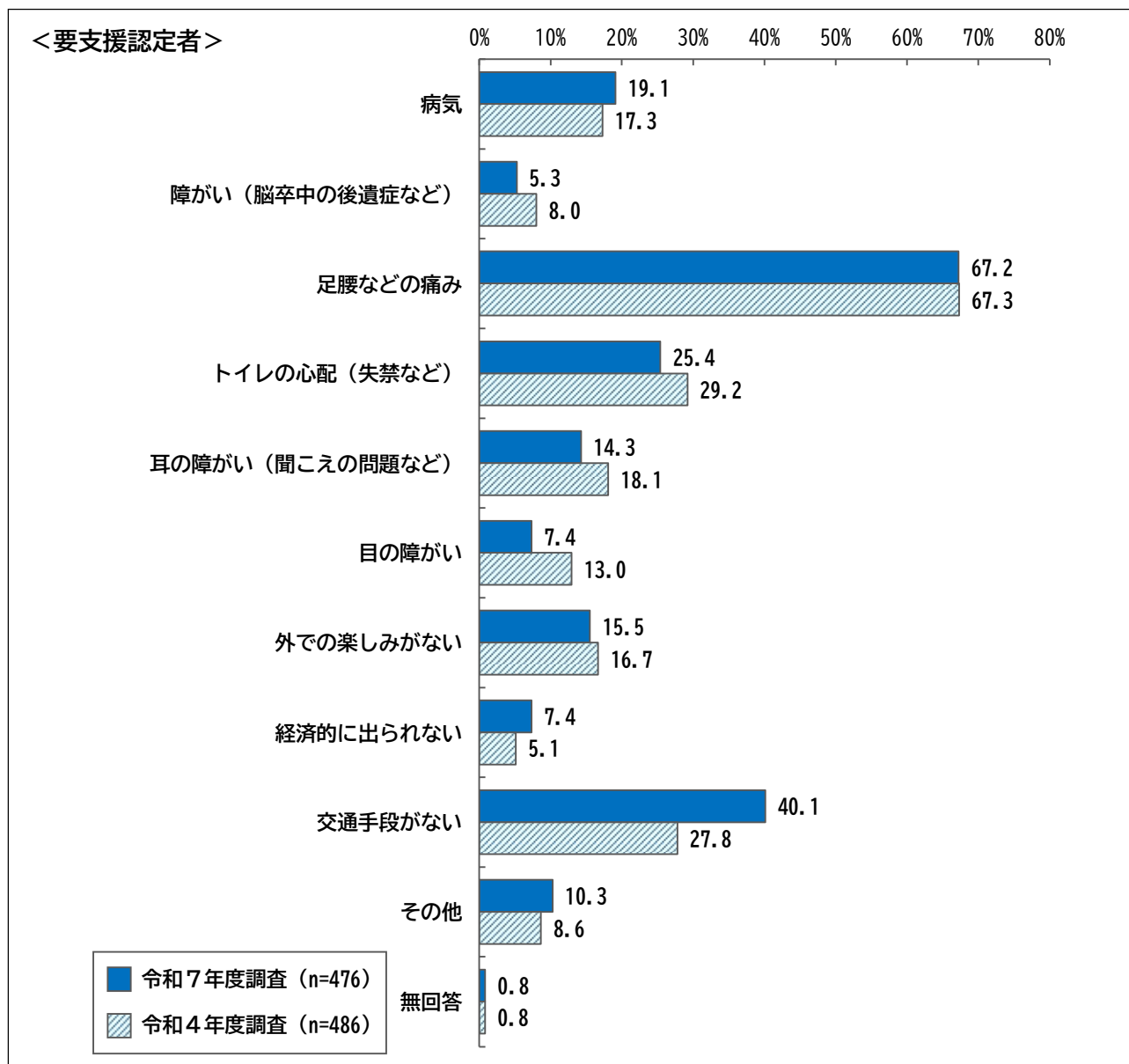


【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「目の障がい」が5.6ポイント、「トイレの心配（失禁など）」、「耳の障がい（聞こえの問題など）」がともに3.8ポイント減少しています。

一方、「交通手段がない」が12.3ポイント、「経済的に出られない」が2.3ポイント増加しています。

図表 94 外出を控えている理由（前回比較／複数回答）

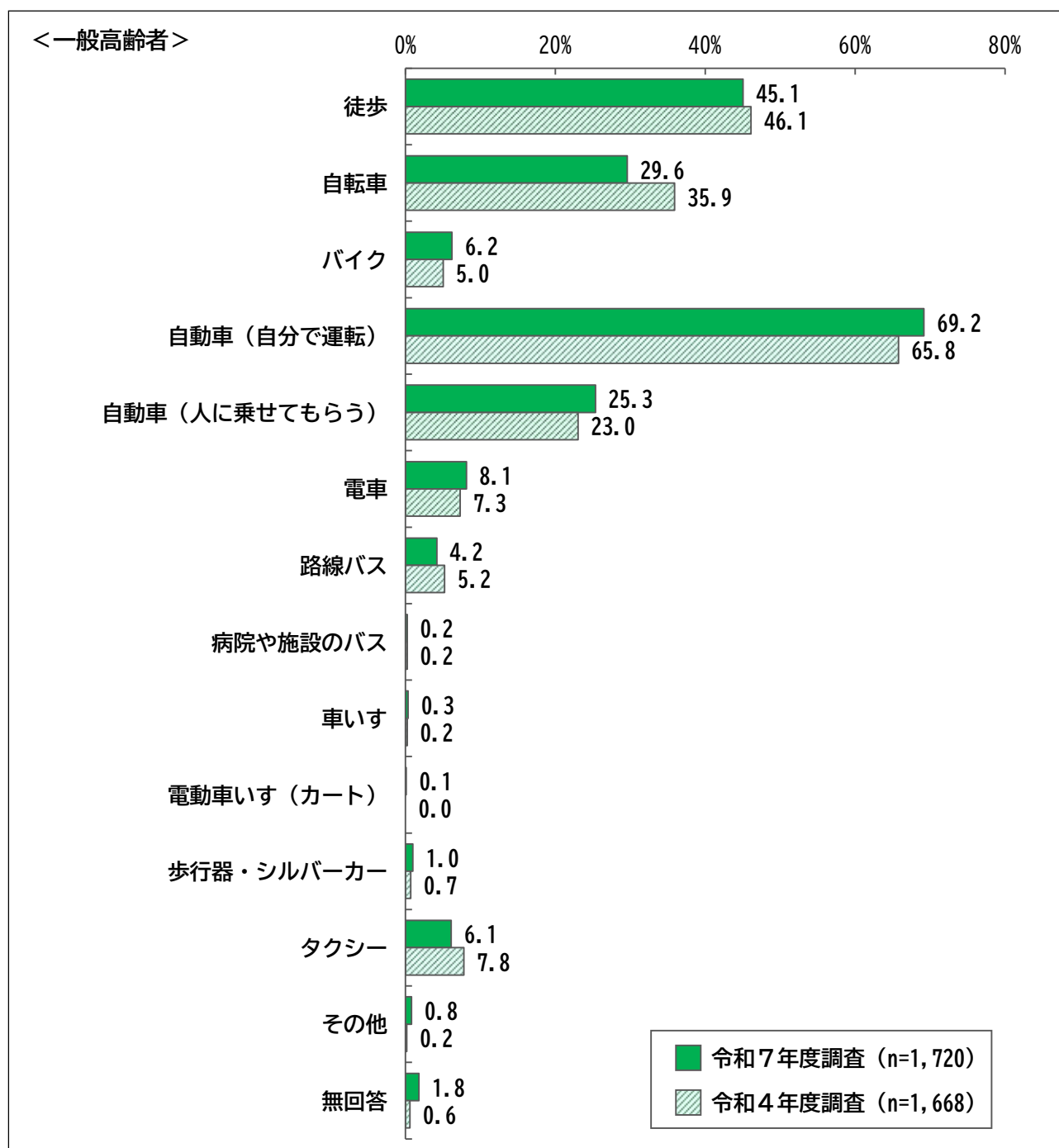


問2（9）外出する際の移動手段は何ですか。（いくつでも）

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「自動車（自分で運転）」は3.4ポイント、「自動車（人に乗せてもらう）」が2.3ポイント増加しています。一方、「自転車」が6.3ポイント、「タクシー」が1.7ポイント減少しています。

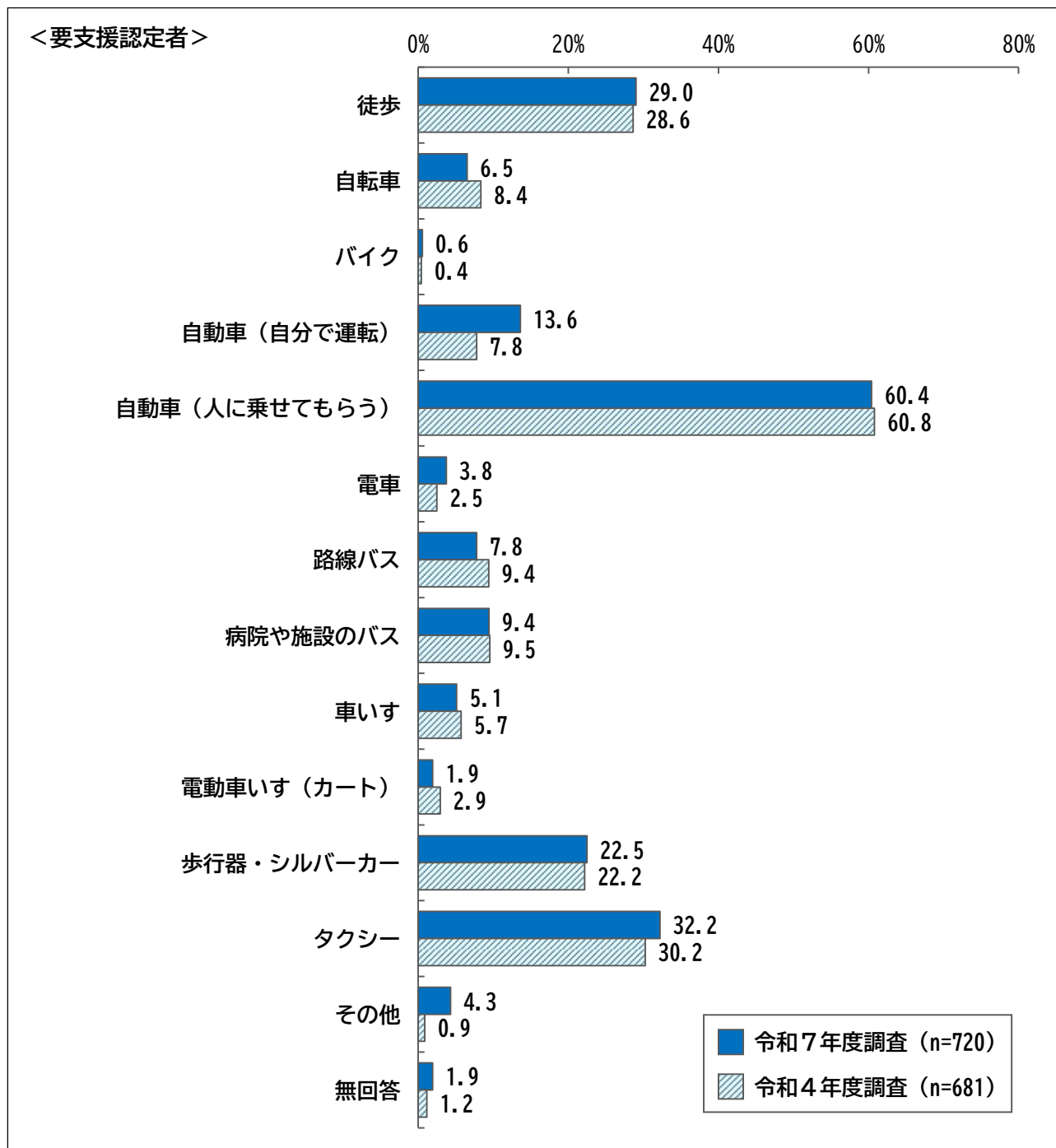
図表 95 外出する際の移動手段（前回比較／複数回答）



【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「自動車（自分で運転）」は5.8ポイント、「タクシー」が2.0ポイント増加しています。一方、「自転車」が1.9ポイント、「路線バス」が1.6ポイント減少しています。

図表 96 外出する際の移動手段（前回比較／複数回答）



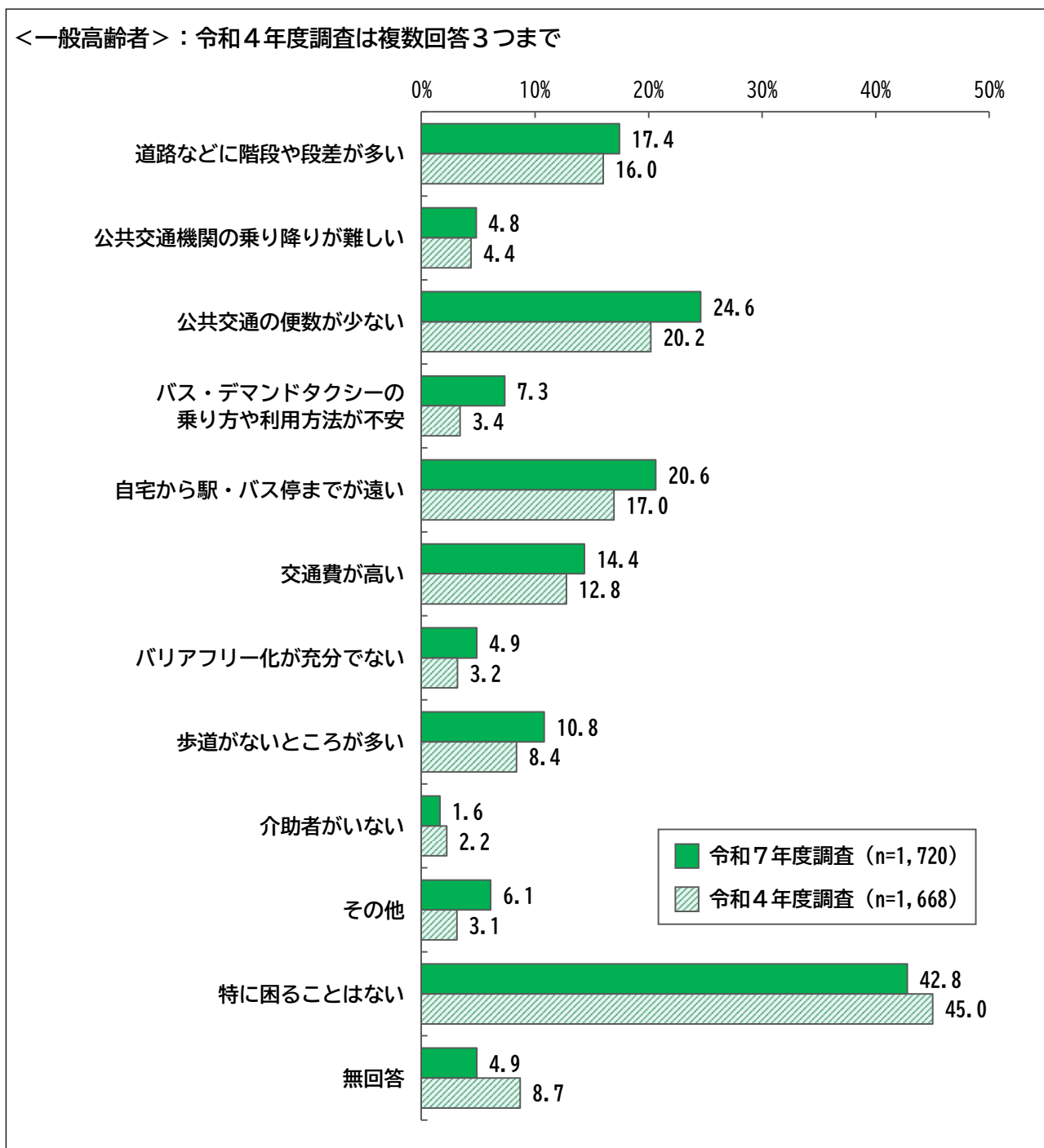
問2（10）外出する際、困ることや不安なことを3つまで選んでください。

※4つ以上の回答が多かったため、(いくつでも)に変更して集計

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、集計方法の違いがみられますが、「公共交通の便数が少ない」は4.4ポイント、「バス・デマンドタクシーの乗り方や利用方法が不安」が3.9ポイント増加しています。一方、「特に困ることはない」が2.2ポイント減少しています。

図表 97 外出する際困ることや不安なこと（前回比較／複数回答）

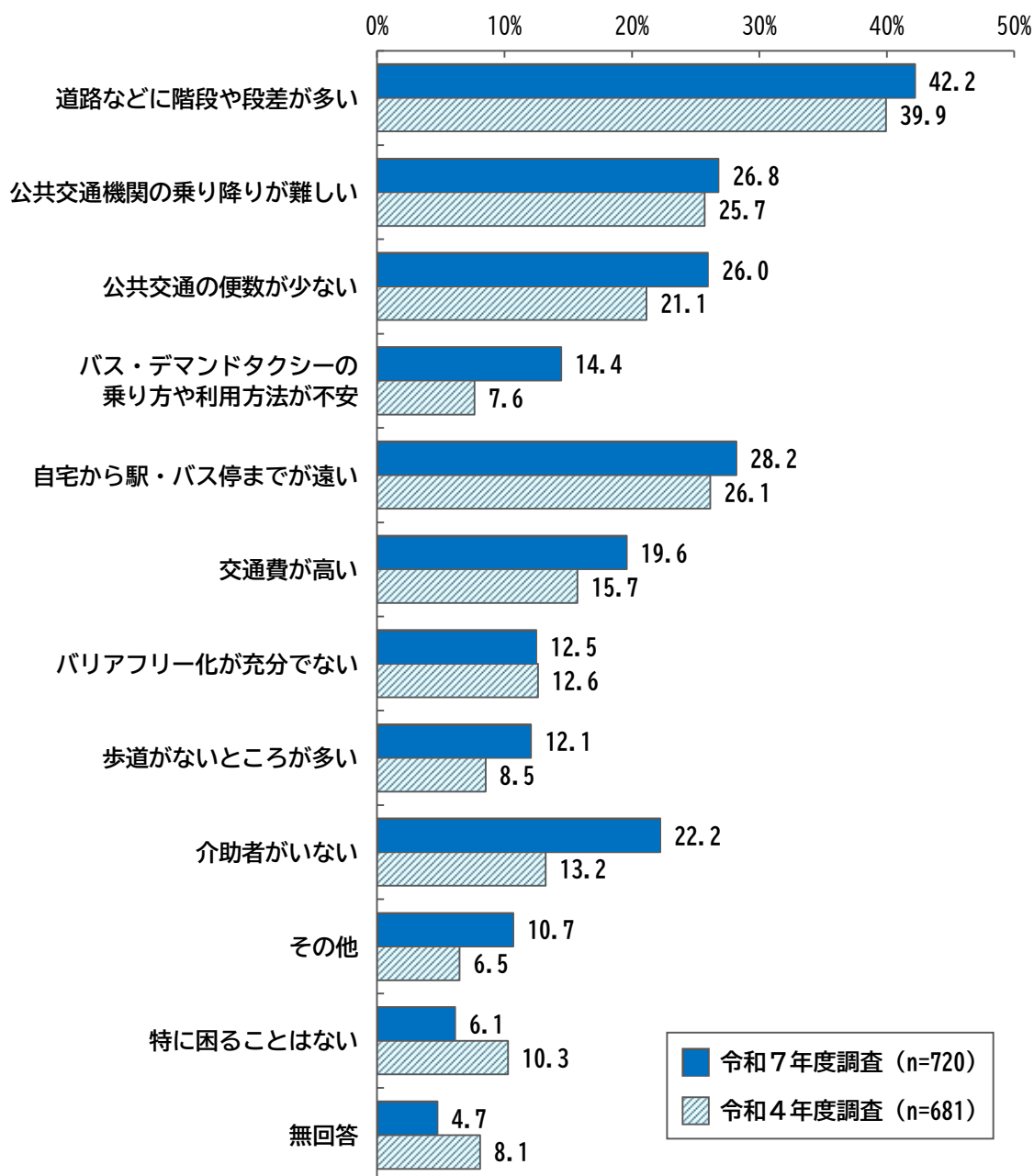


【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、集計方法の違いがみられますが、「介助者がいない」は9.0ポイント、「バス・デマンドタクシーの乗り方や利用方法が不安」が6.8ポイント増加しています。一方、「特に困ることはない」が4.2ポイント減少しています。

図表 98 外出する際困ることや不安なこと（前回比較／複数回答）

<要支援認定者>：令和4年度調査は複数回答3つまで



3 食べるについて

問3（1）身長・体重を教えてください。

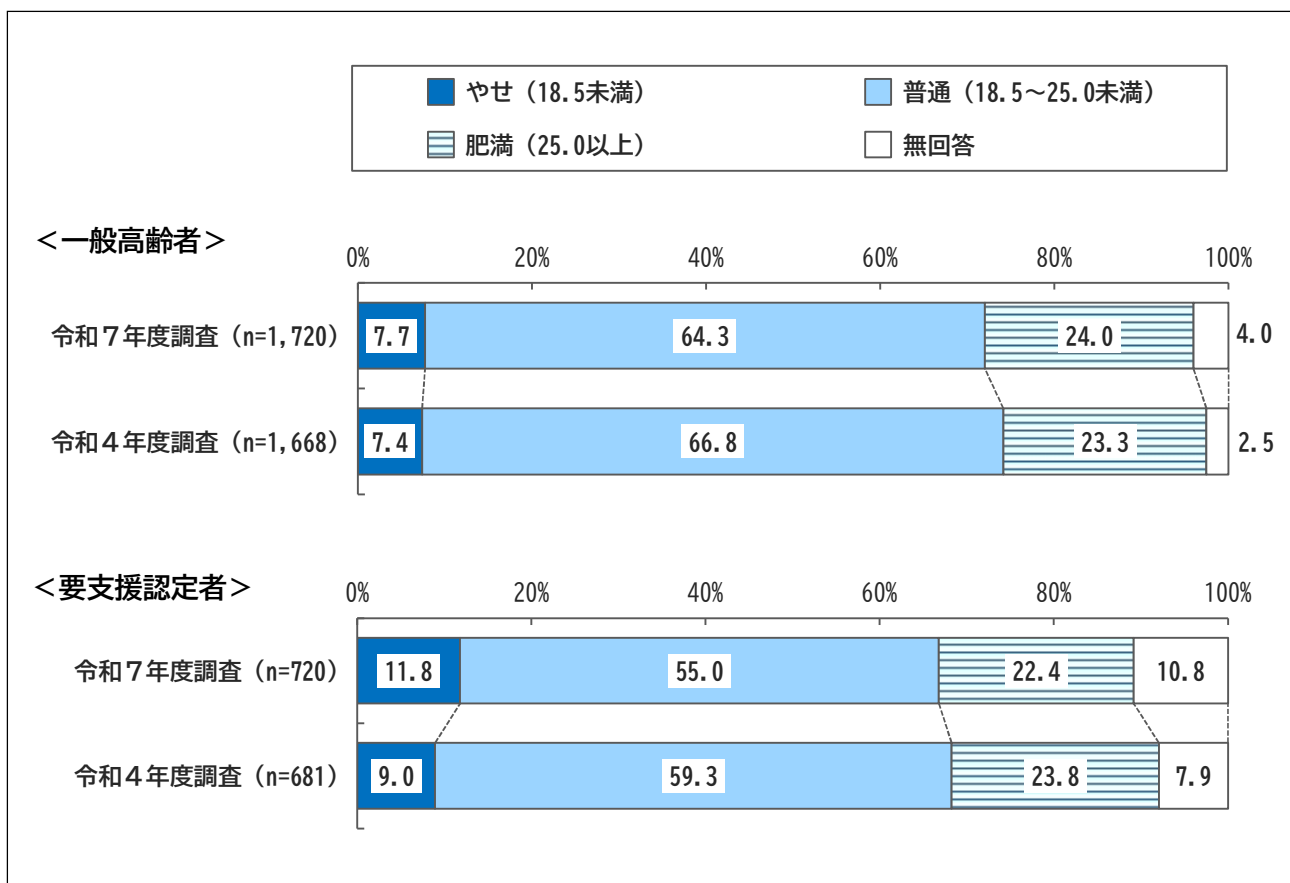
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「肥満（25.0 以上）」が 0.7 ポイント増加し、「普通（18.5～25.0 未満）」は 2.5 ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「やせ（18.5 未満）」は 2.8 ポイント増加し、「普通（18.5～25.0 未満）」が 4.3 ポイント、「肥満（25.0 以上）」は 1.4 ポイント減少しています。

図表 99 BMI 値（前回比較）



問3（2）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

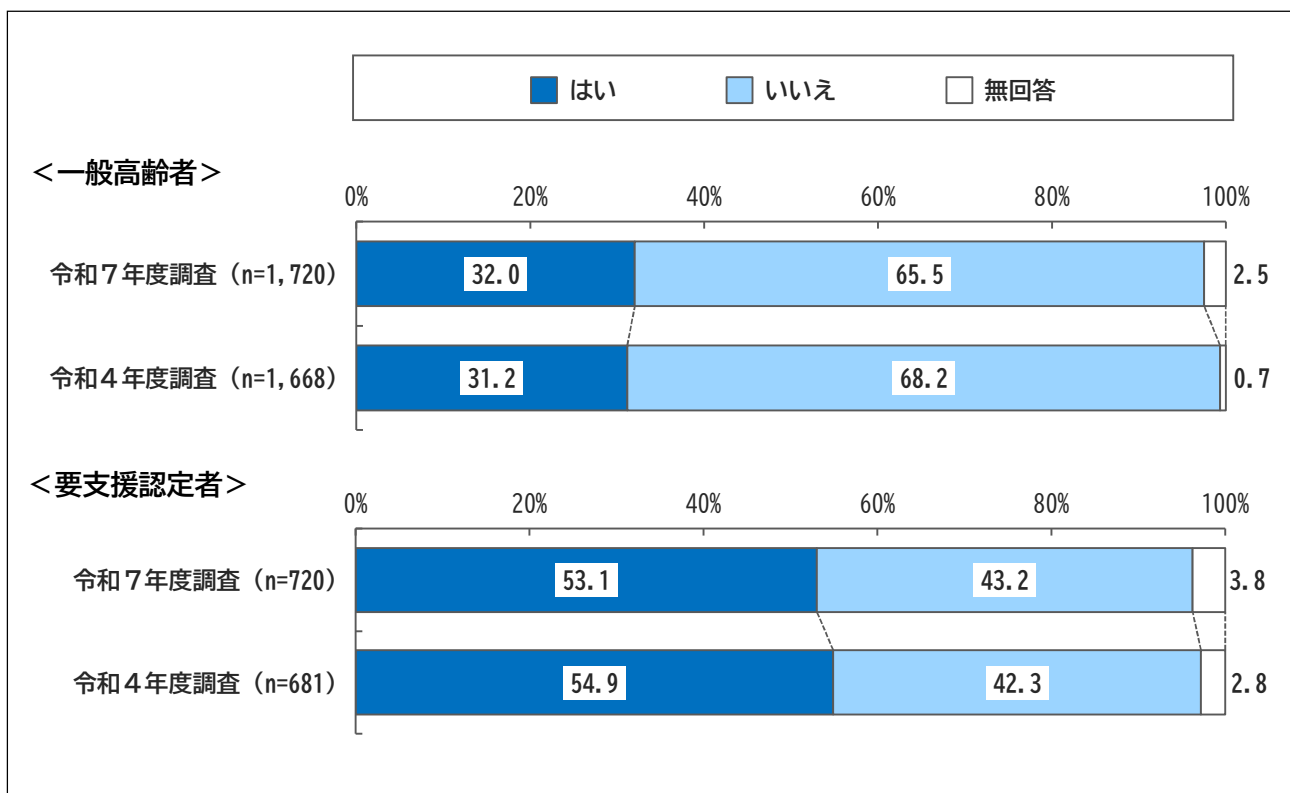
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「いいえ」が2.7ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が1.8ポイント減少しています。

図表 100 固いものが食べにくくなったか（前回比較）



問3（3）お茶や汁物等でむせることがありますか。

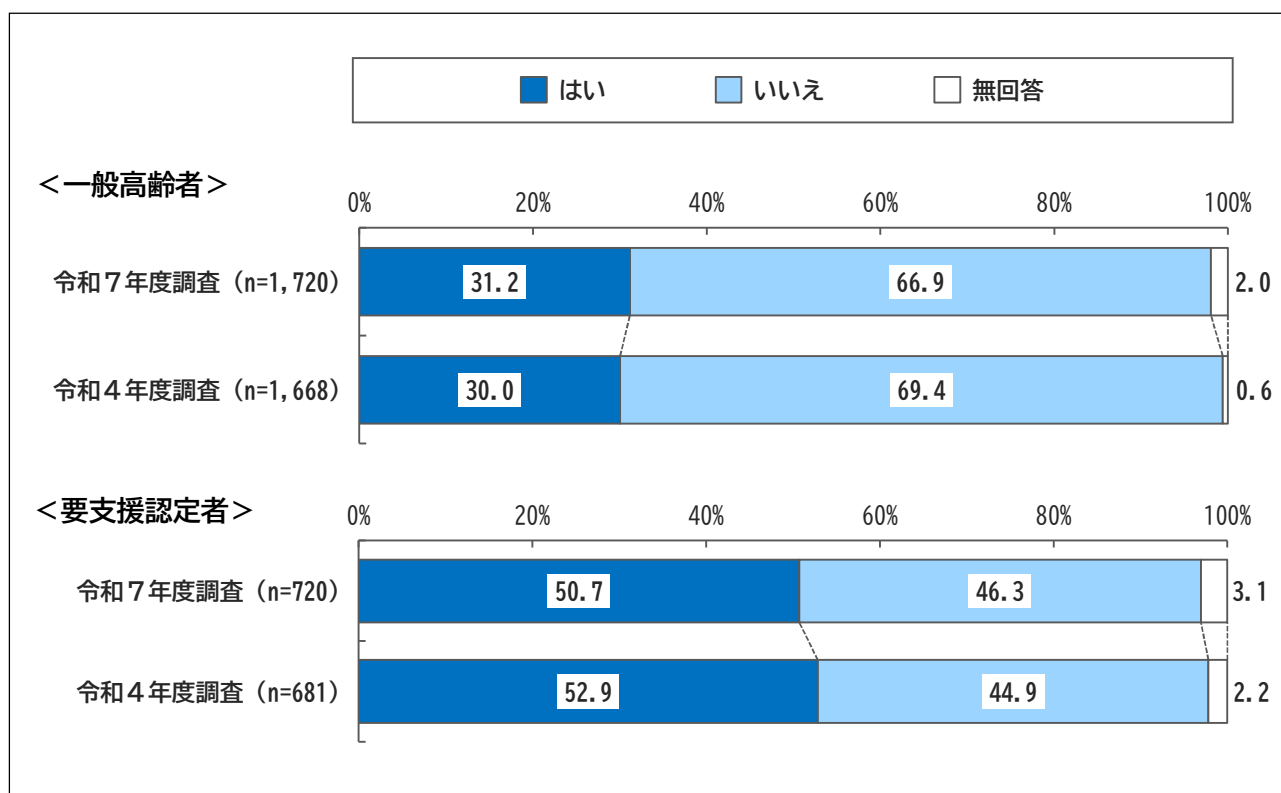
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「いいえ」が2.5ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が2.2ポイント減少しています。

図表 101 お茶や汁物等でむせることがあるか（前回比較）



問3（4）口の渇きが気になりますか。

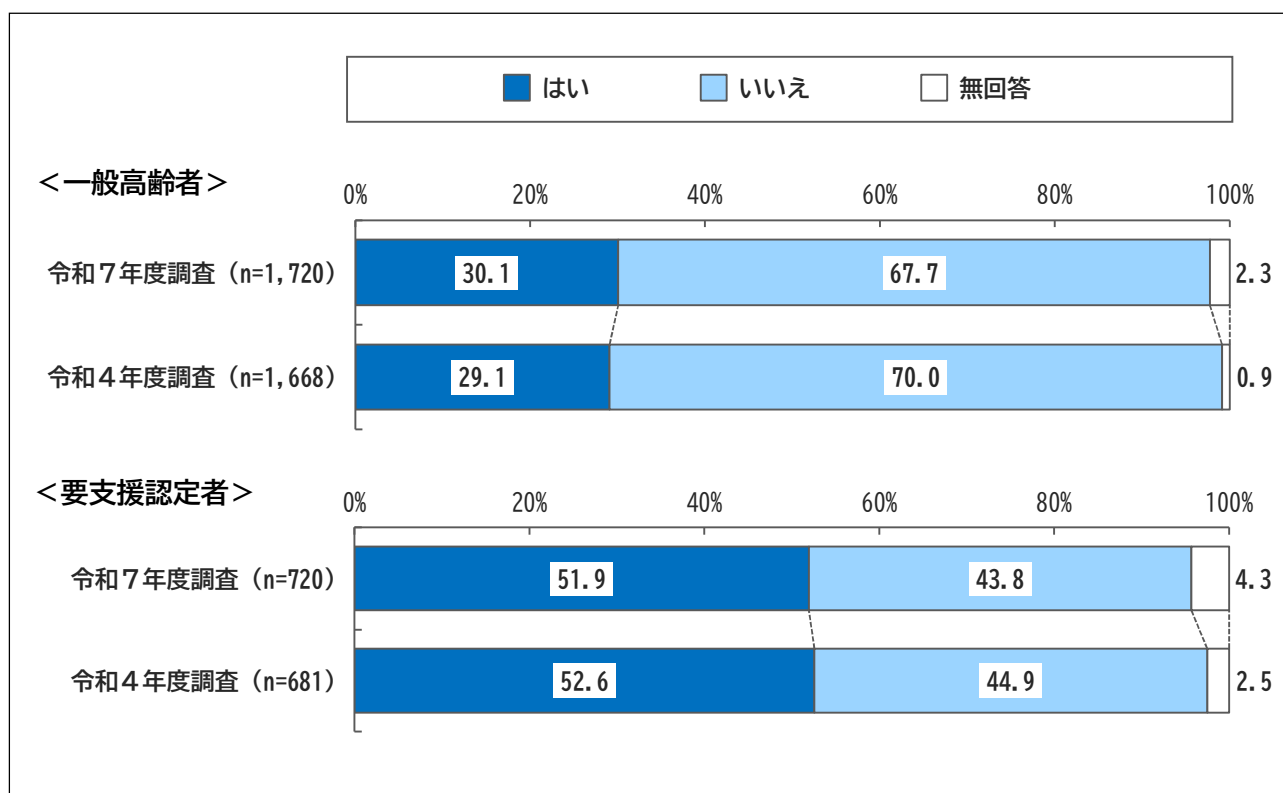
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「いいえ」が2.3ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「いいえ」が1.1ポイント減少しています。

図表 102 口の渇きが気になるか（前回比較）



問3（5）歯磨き（人にやってもらう場合も含む。）を毎日していますか。

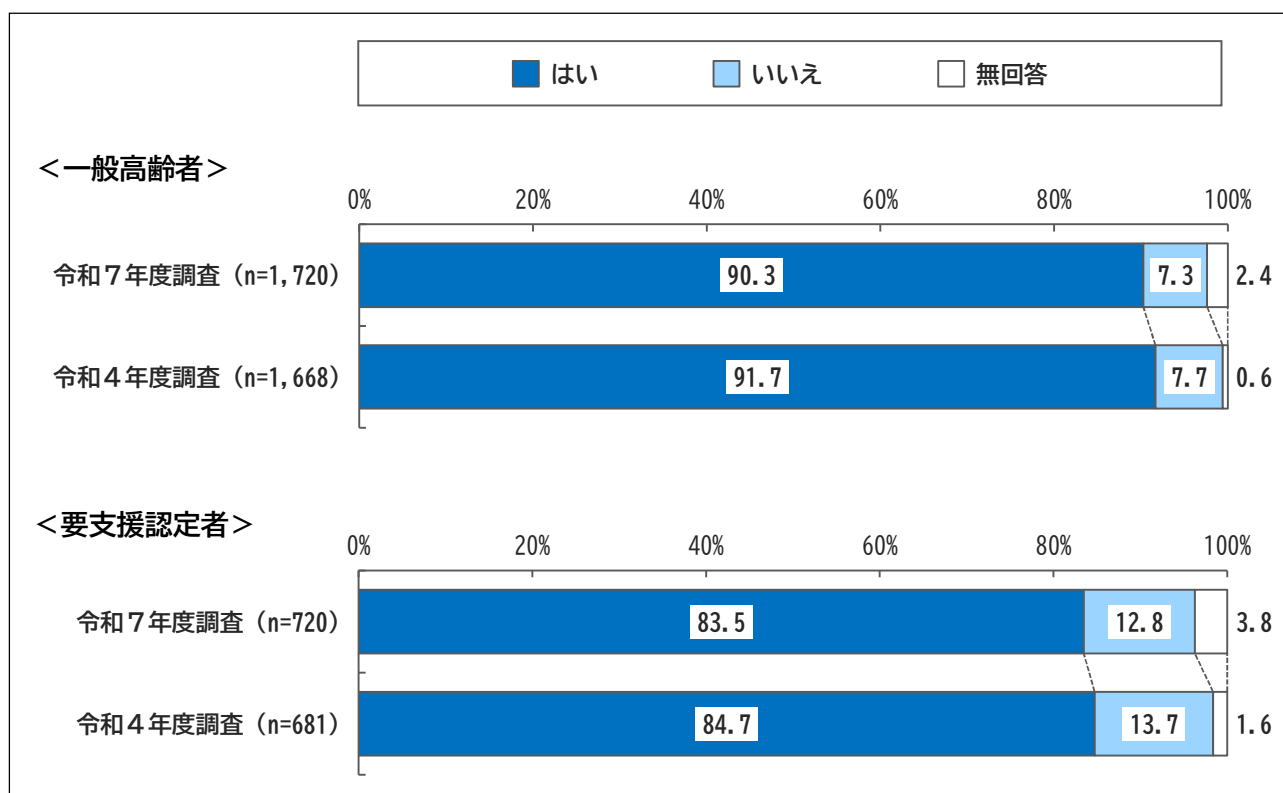
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が1.4ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が1.2ポイント減少しています。

図表 103 歯磨きを毎日しているか（前回比較）



問3（6）歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が1.7ポイント減少し、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」が1.9ポイント増加しています。

歯の本数が20本以上ある人の割合は、2.1ポイント減少しています。

一方、歯の本数が19本以下の人の割合は2.0ポイント増加しています。

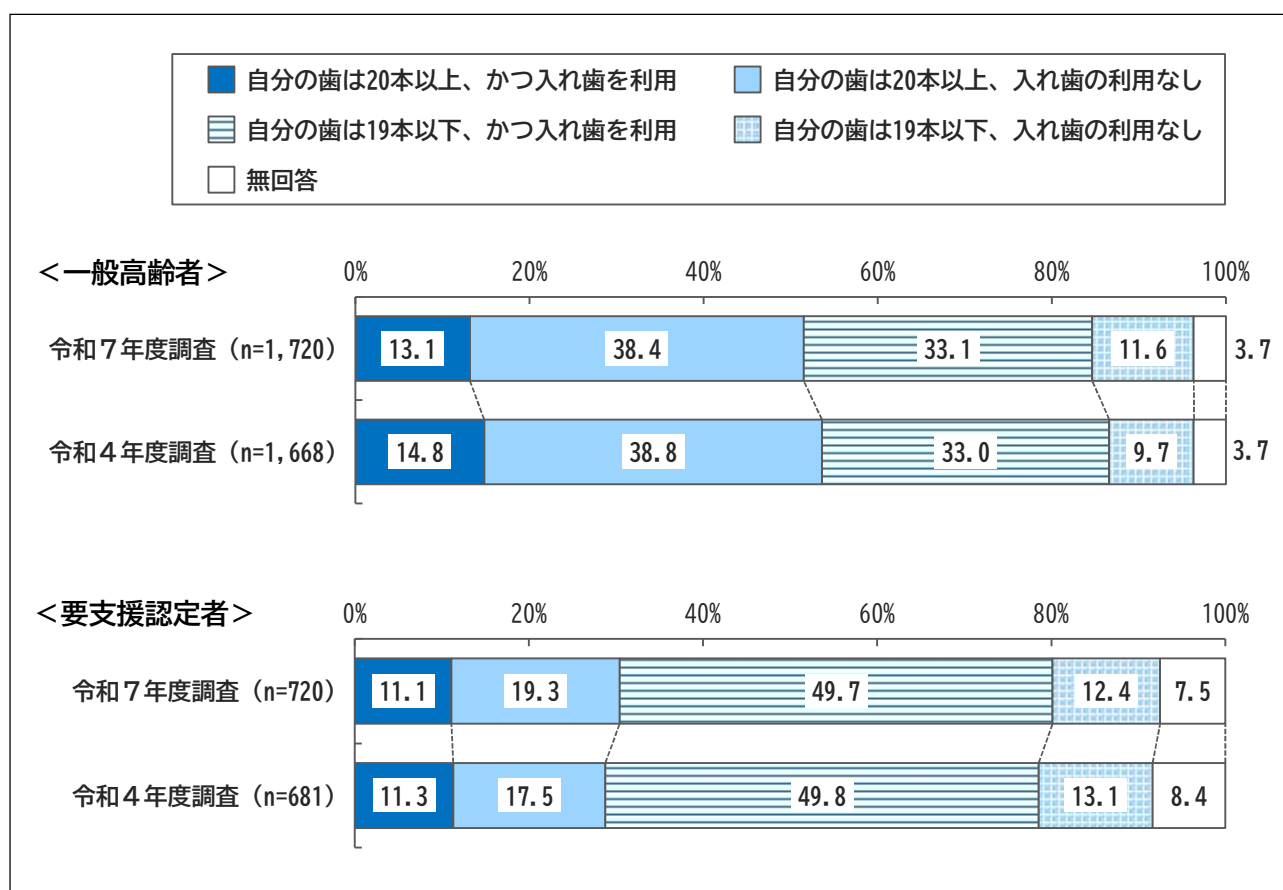
【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が1.8ポイント増加し、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」が0.7ポイント減少しています。

歯の本数が20本以上ある人の割合は、1.6ポイント増加しています。

一方、歯の本数が19本以下の人の割合は0.8ポイント減少しています。

図表 104 歯の本数と入れ歯の利用状況（前回比較）



問3（6－1）嘔み合わせは良いですか。

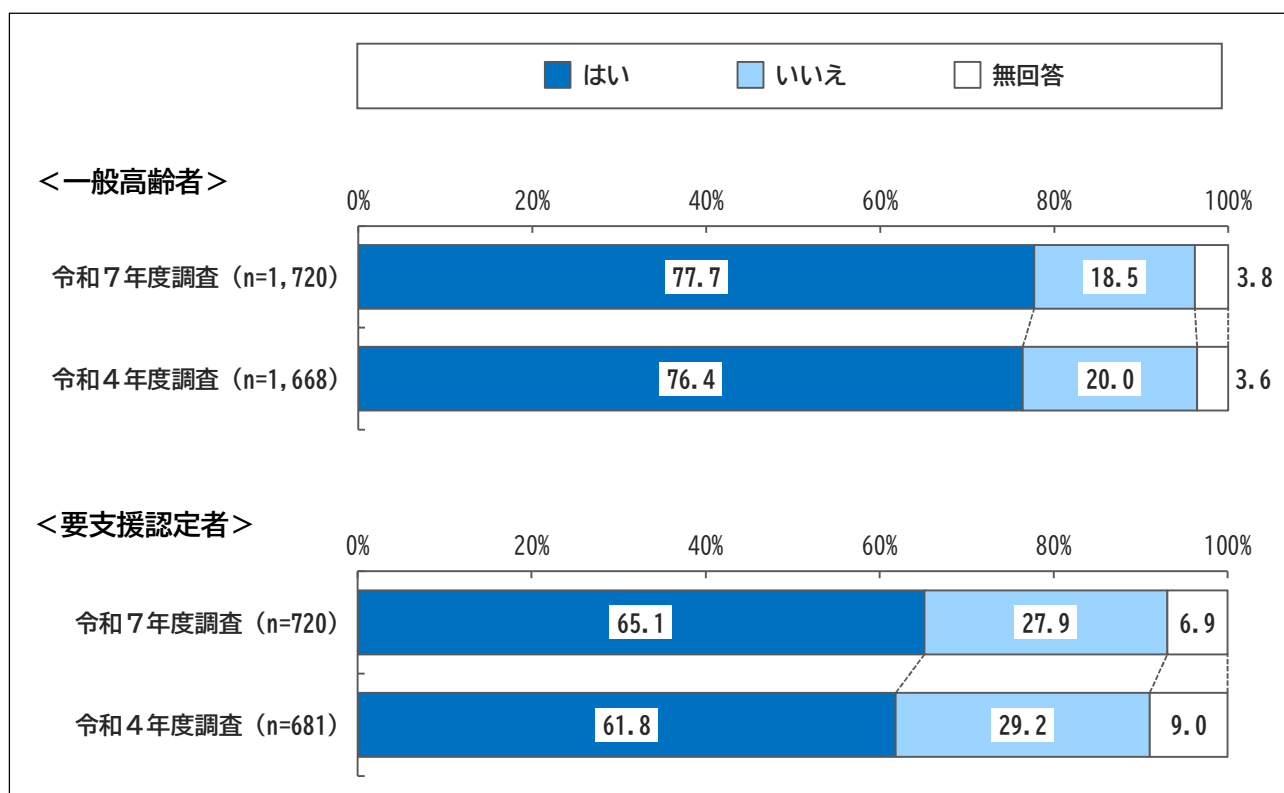
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が1.3ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が3.3ポイント増加しています。

図表 105 嘔み合わせが良いか（前回比較）



※問3（6）で「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と答え
たかたのみ

問3（6－2）毎日入れ歯の手入れをしていますか。

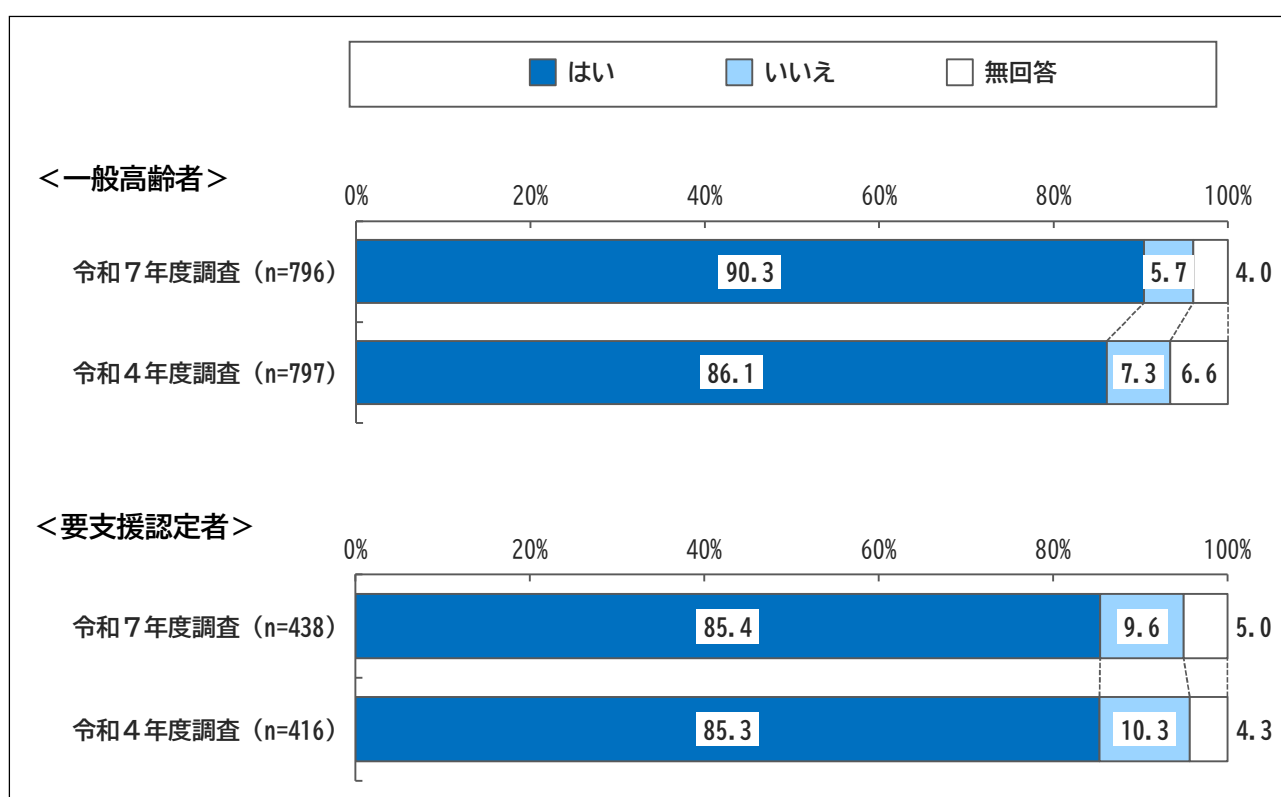
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が4.2ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると「いいえ」が0.7ポイント減少しています。

図表 106 毎日入れ歯の手入れをしているか（前回比較）



問3（7）6か月間で2～3 kg以上の体重減少がありましたか。

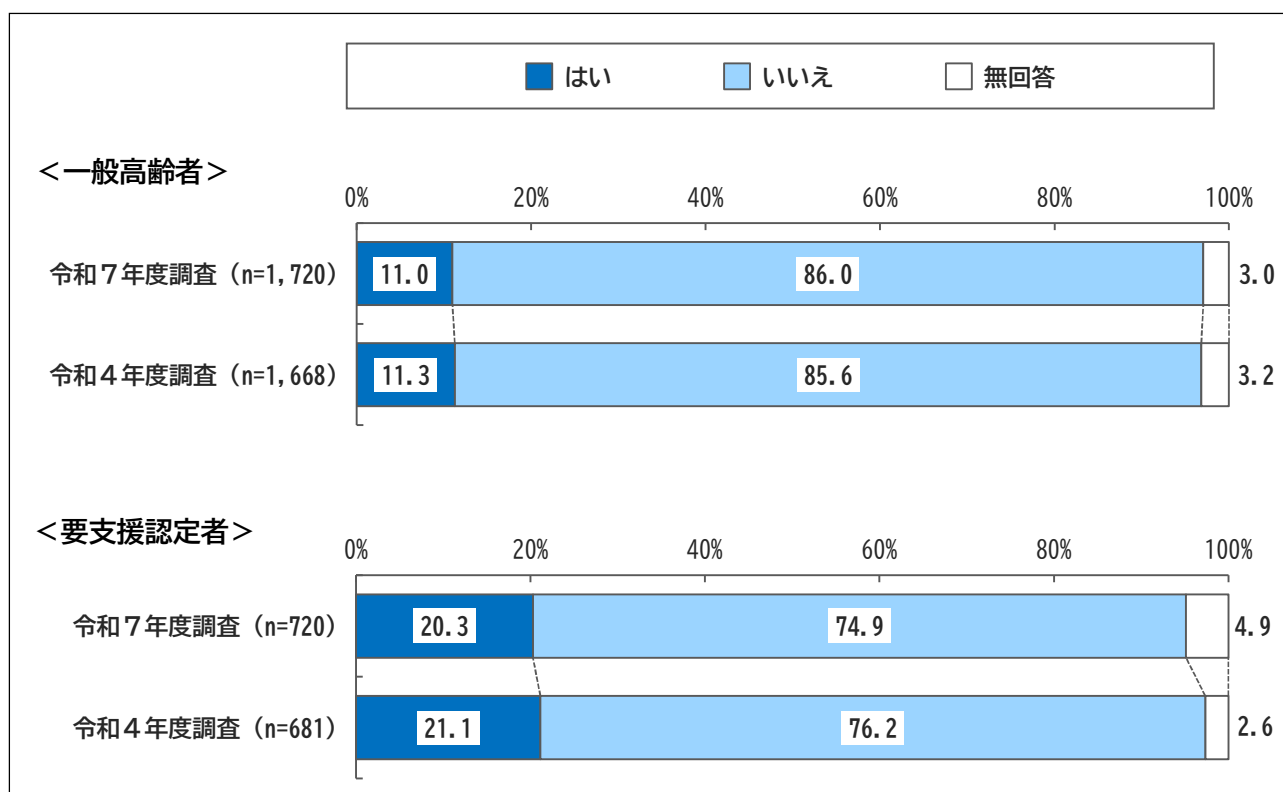
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「いいえ」が0.4ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると「いいえ」が1.3ポイント減少しています。要支援認定者全体では、前回同様、体重減少があった人の割合が2割を超える結果となっています。

図表 107 6か月間で2～3 kg以上の体重減少があったか（前回比較）



問3（8）どなたかと食事をとにもする機会がありますか。

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「毎日ある」が1.9ポイント減少し、「月に何度かある」が1.0ポイント増加しています。

また、共食の機会がある人の割合を合計すると、令和4年度の88.9%に対し、令和7年度では88.6%となっており、概ね同様の結果となっています。

一方、共食の機会が「ほとんどない」孤食状況の人の割合は、0.6ポイント減少しています。

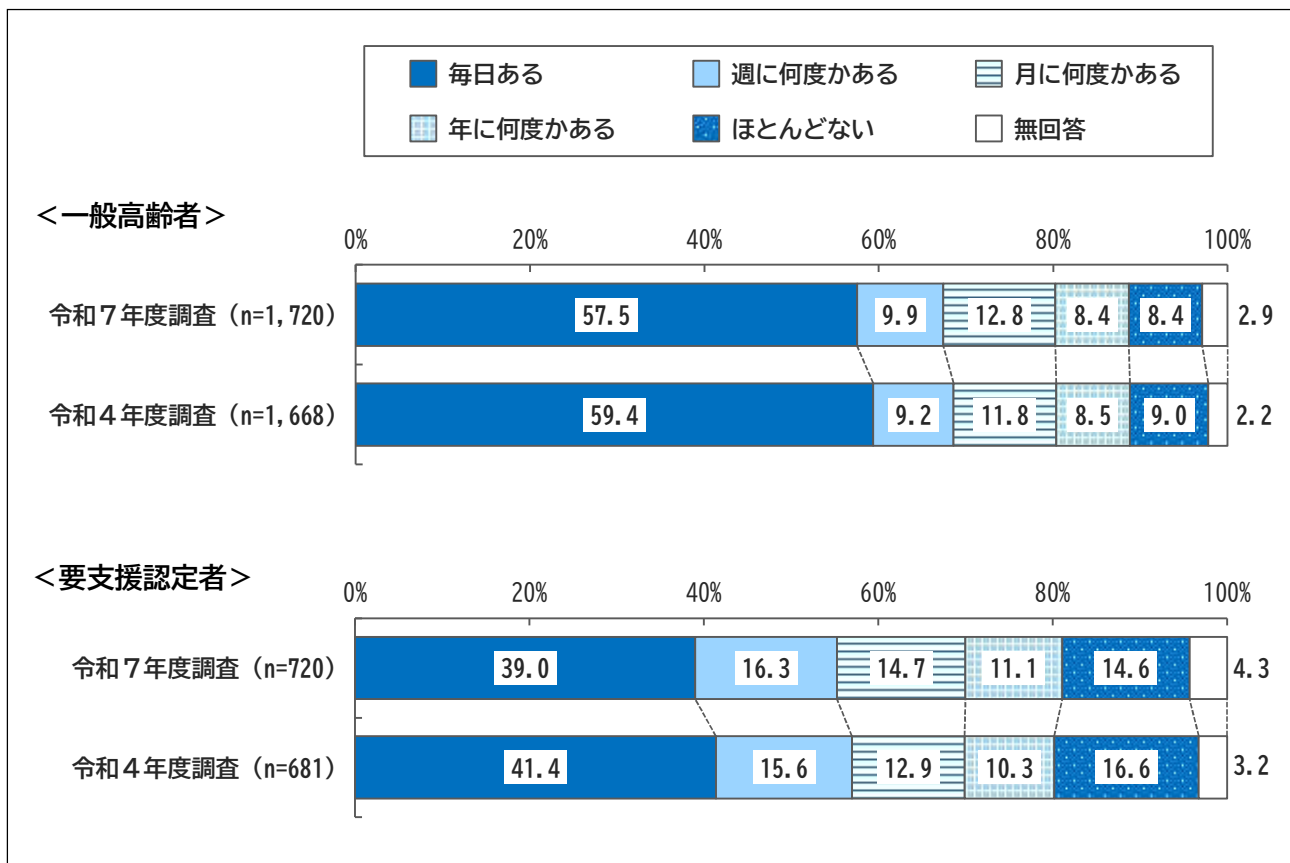
【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「毎日ある」が2.4ポイント減少し、「月に何度かある」が1.8ポイント増加しています。

また、共食の機会がある人の割合を合計すると、令和4年度の80.2%に対し、令和7年度では81.1%となっており、0.9ポイント増加しています。

一方、共食の機会が「ほとんどない」孤食状況の人の割合は、2.0ポイント減少しています。

図表 108 誰かと食事をとにもする機会の有無について（前回比較）



4 毎日の生活について

問4（1）物忘れが多いと感じますか。

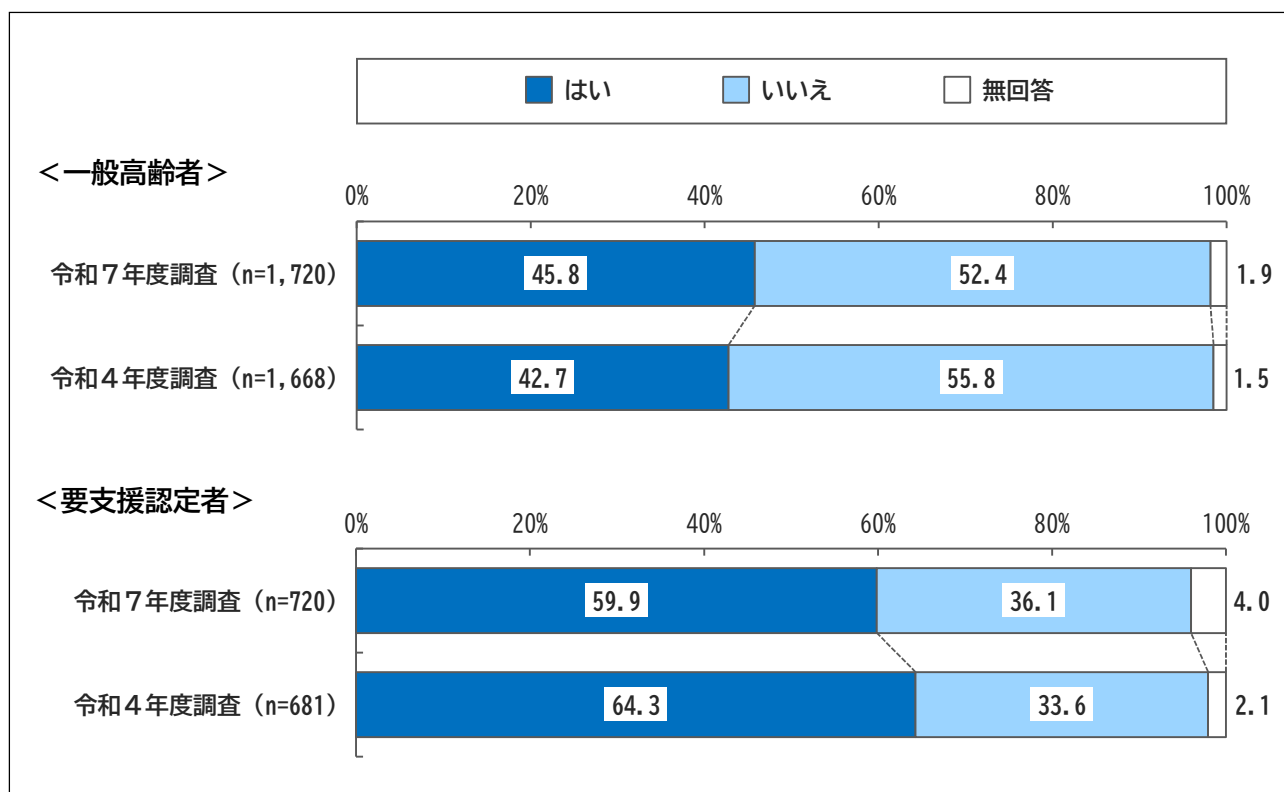
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「いいえ」が3.4ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が4.4ポイント減少しています。

図表 109 物忘れが多いと感じるか（前回比較）



問4（2）自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。

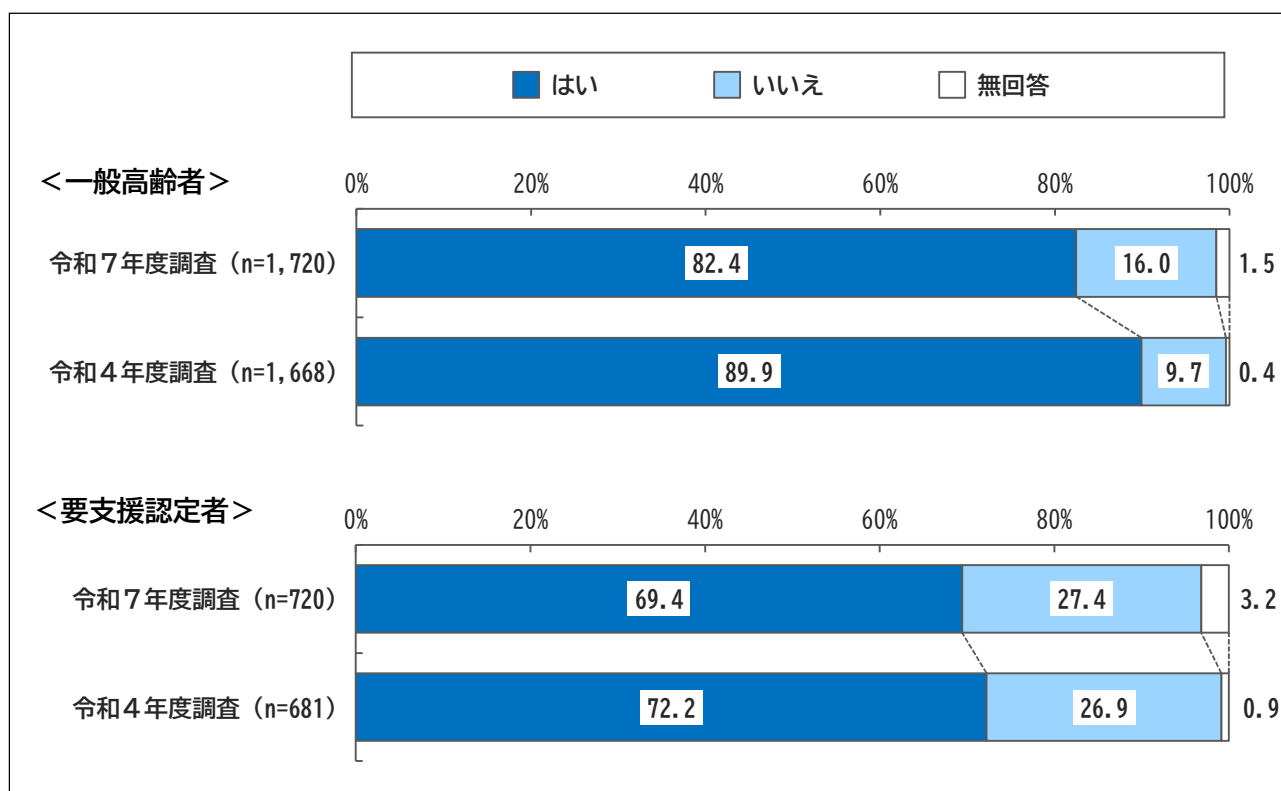
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が7.5ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が2.8ポイント減少しています。

図表 110 自分で電話番号を調べて、電話をかけているか（前回比較）



問4（3）今日が何月何日かわからない時がありますか。

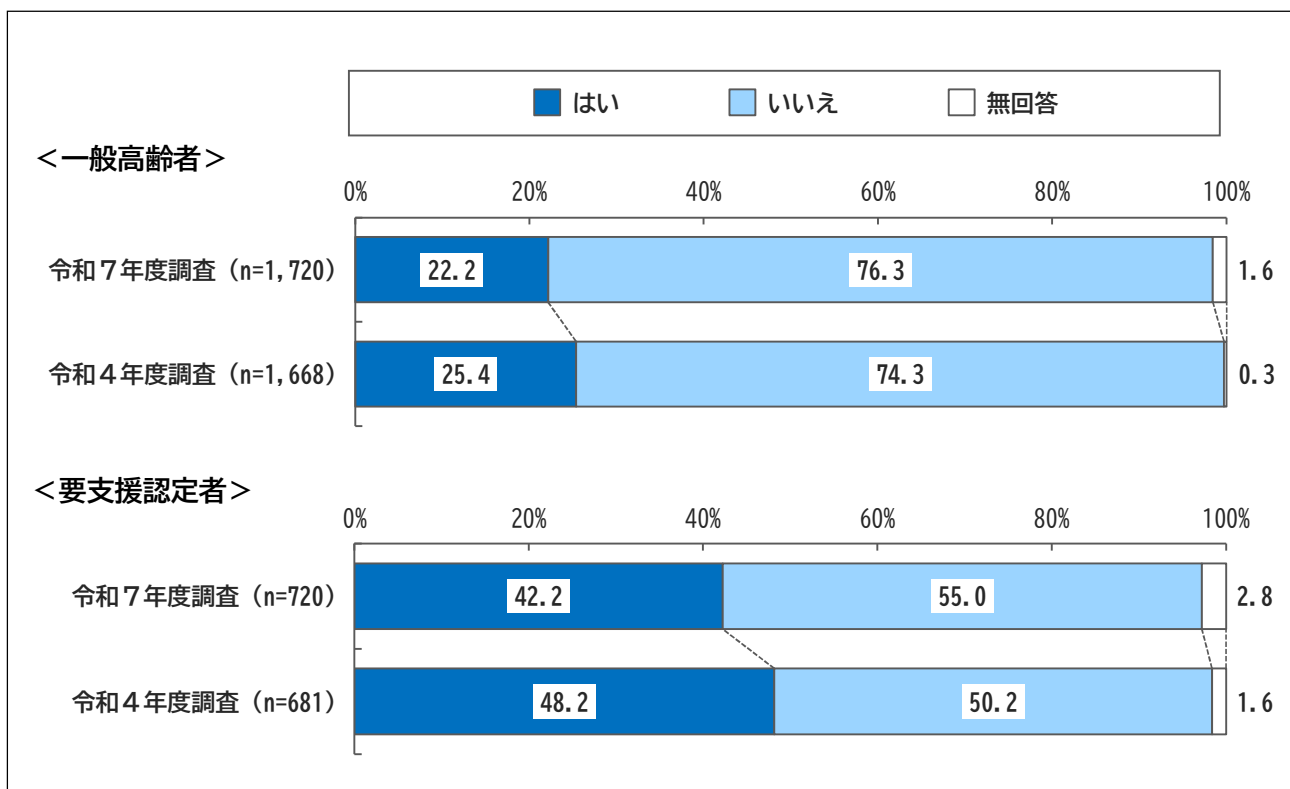
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が3.2ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が6.0ポイント減少しています。

図表 111 今日が何月何日かわからない時があるか（前回比較）



問4（5）バスや電車を使って1人で外出していますか。（自家用車でも可）

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」、「できるけどしていない」がともに減少しています。合計した『できる』の割合は、令和4年度の94.9%に対し、令和7年度では91.4%となっており、3.5ポイント減少しています。

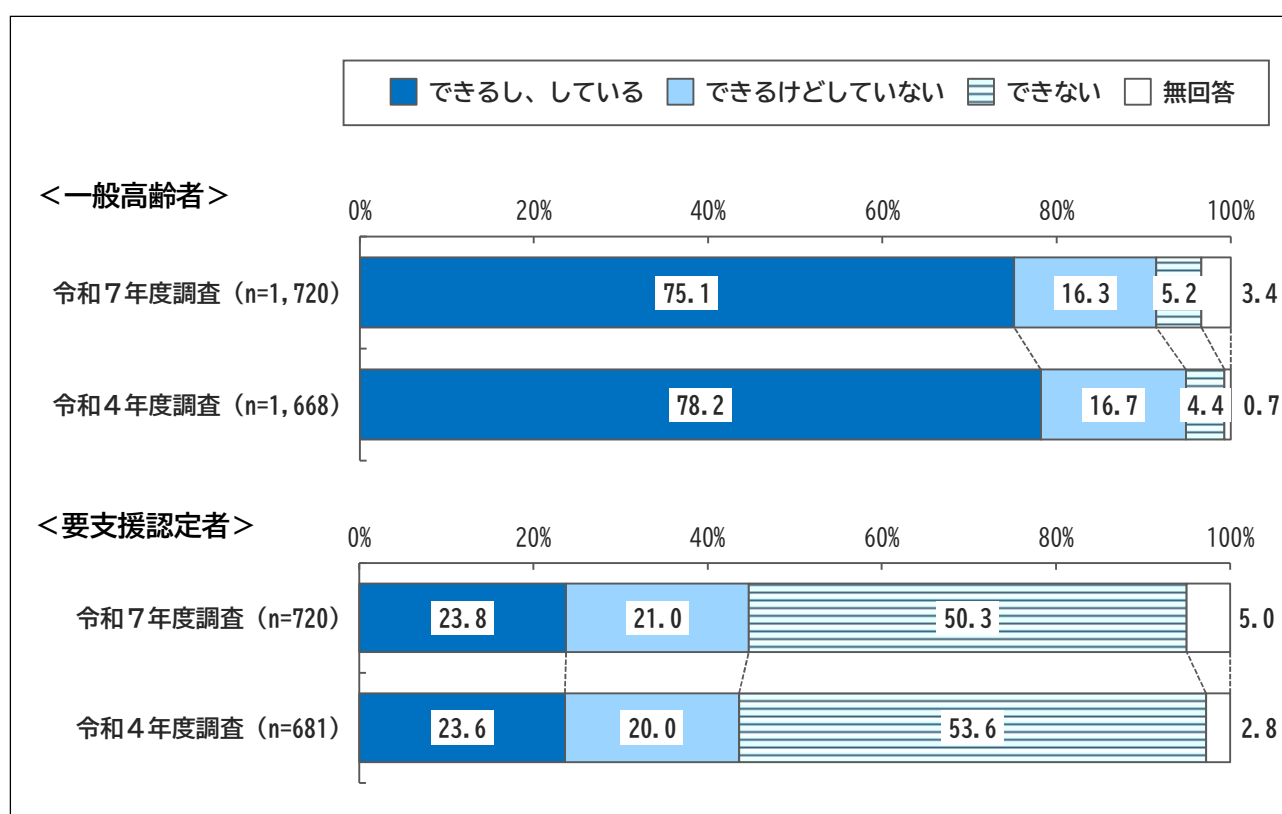
また、「できない」が0.8ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」、「できるけどしていない」がともに増加しています。合計した『できる』の割合は、令和4年度の43.6%に対し、令和7年度では44.8%となっており、1.2ポイント増加しています。

また、「できない」が3.3ポイント減少しています。

図表 112 1人で外出をしているか（前回比較）



問4（6）自分で食品・日用品の買物をしていますか。

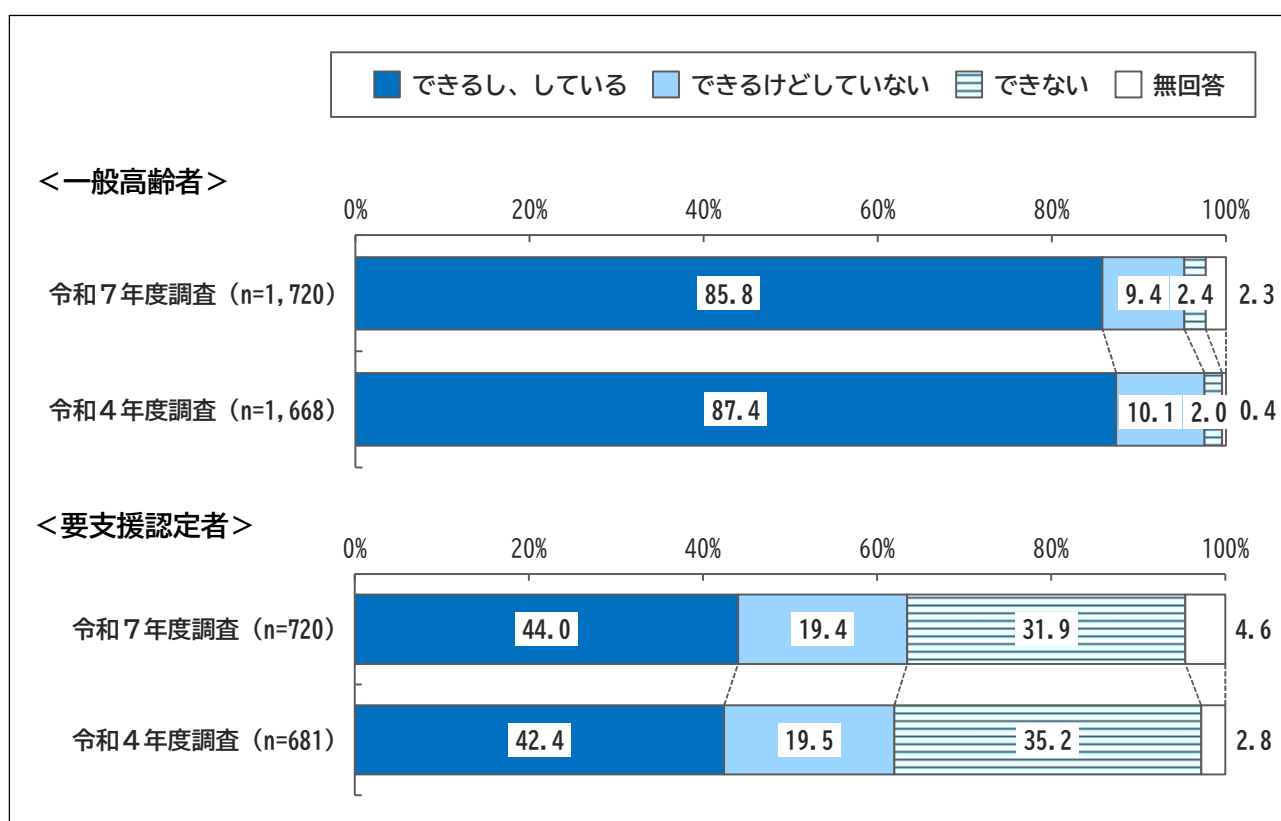
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」、「できるけどしていない」がともに減少しています。合計した『できる』の割合は、令和4年度の97.5%に対し、令和7年度では95.2%となっており、2.3ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」は増加し、「できるけどしていない」はわずかに減少しています。合計した『できる』の割合は、令和4年度の61.9%に対し、令和7年度では63.4%となっており、1.5ポイント増加しています。

図表 113 自分で食品・日用品の買物をしているか（前回比較）



問4（7）自分で食事の用意をしていますか。

【一般高齢者】

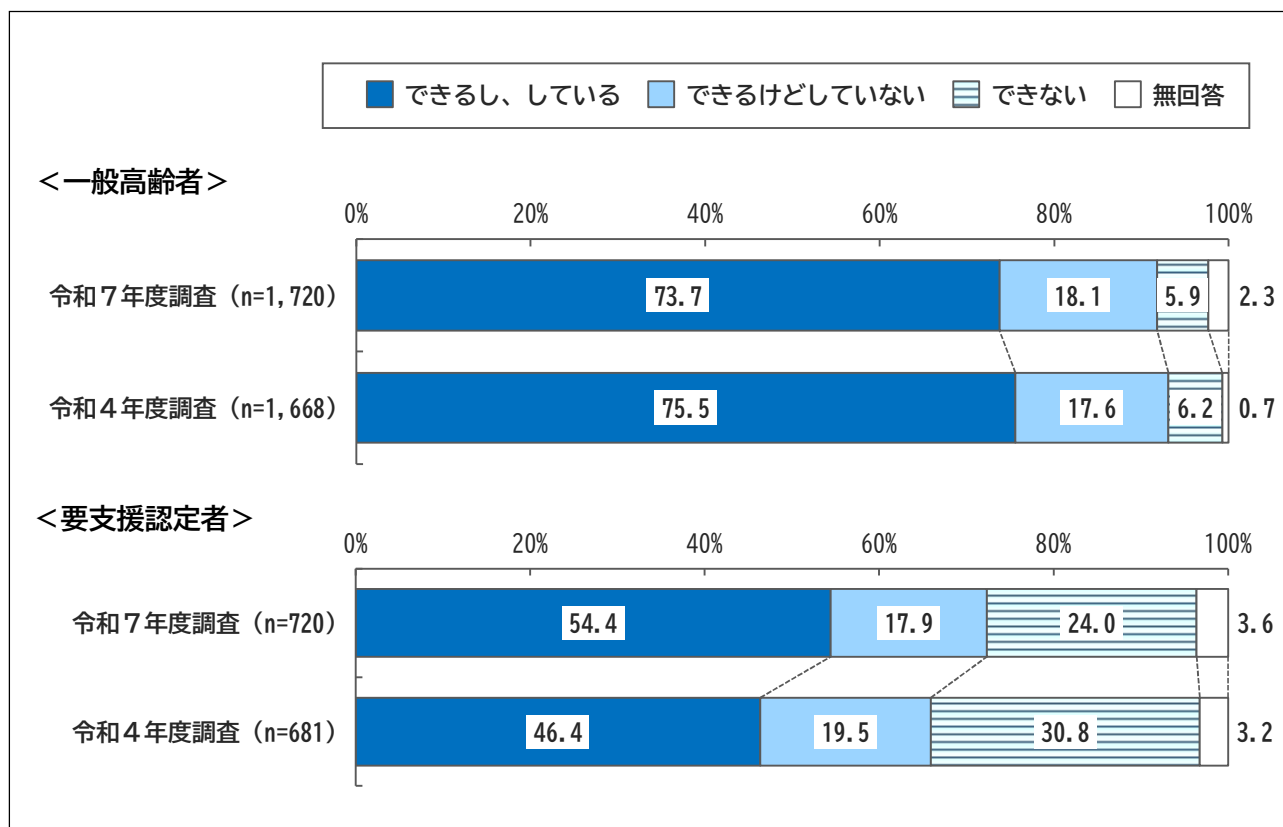
令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」は減少し、「できるけどしていない」は増加しています。合計した『できる』の割合は、令和4年度の93.1%に対し、令和7年度では91.8%となっており、1.3ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」は増加し、「できるけどしていない」は減少しています。合計した『できる』の割合は、令和4年度の65.9%に対し、令和7年度では72.3%となっており、6.4ポイント増加しています。

一方、「できない」は6.8ポイント減少しています。

図表 114 自分で食事の用意をしているか（前回比較）



問4（8）自分で請求書の支払いをしていますか。

【一般高齢者】

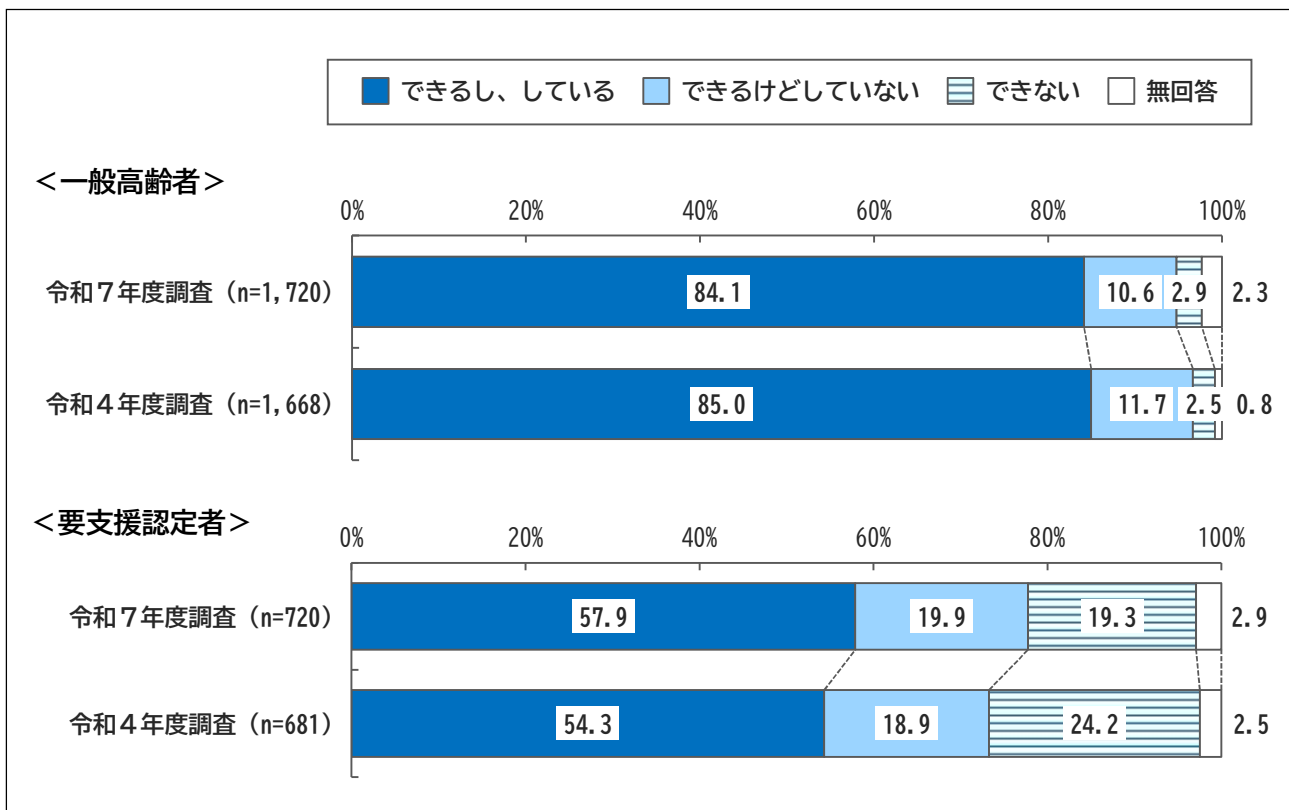
令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」、「できるけどしていない」がともに減少しています。合計した『できる』の割合は、令和4年度の96.7%に対し、令和7年度では94.7%となっており、2.0ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」、「できるけどしていない」がともに増加しています。合計した『できる』の割合は、令和4年度の73.2%に対し、令和7年度では77.8%となっており、4.6ポイント増加しています。

一方、「できない」は4.9ポイント減少しています。

図表 115 自分で請求書の支払いをしているか（前回比較）



問4（9）自分で預貯金の出し入れをしていますか。

【一般高齢者】

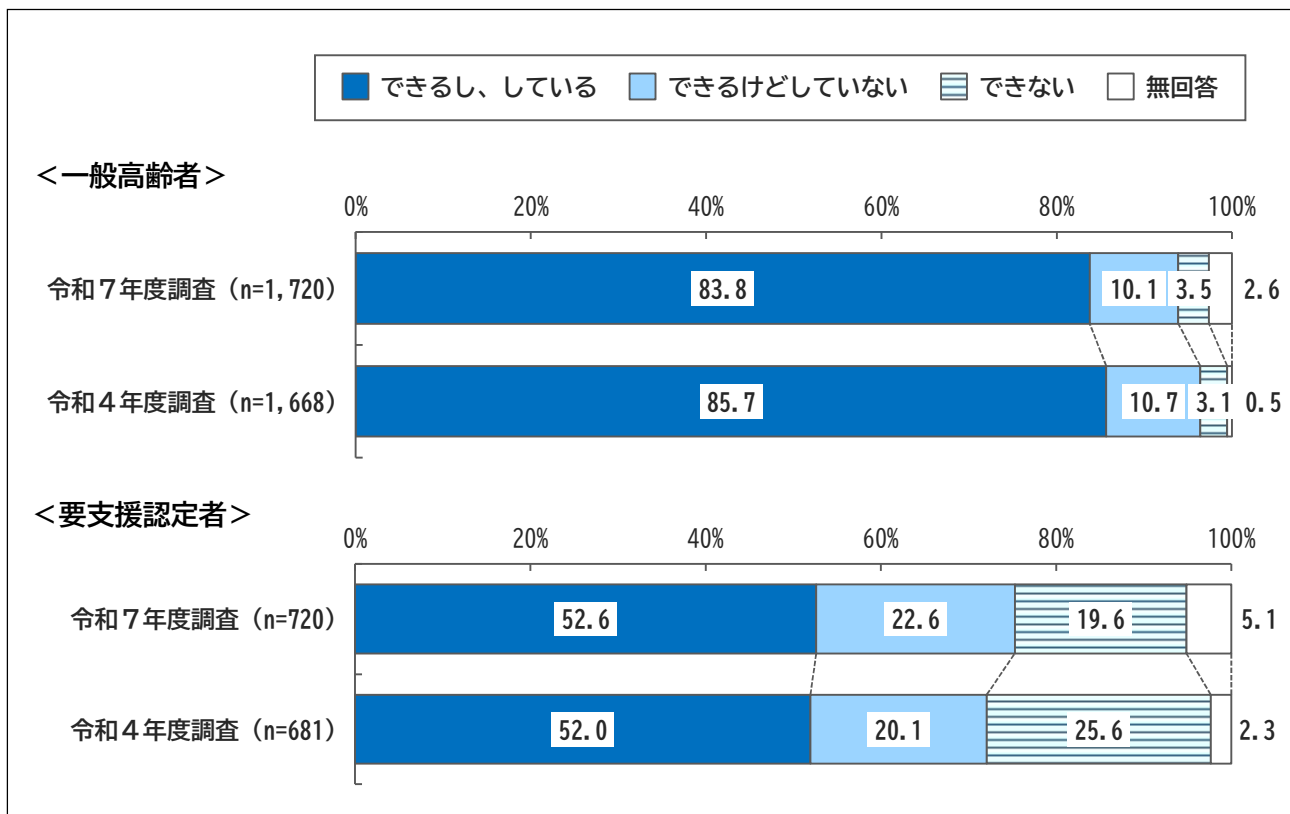
令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」、「できるけどしていない」がともに減少しています。合計した『できる』の割合は、令和4年度の96.4%に対し、令和7年度では93.9%となっており、2.5ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」、「できるけどしていない」がともに増加しています。合計した『できる』の割合は、令和4年度の72.1%に対し、令和7年度では75.2%となっており、3.1ポイント増加しています。

一方、「できない」は6.0ポイント減少しています。

図表 116 自分で預貯金の出し入れをしているか（前回比較）



問4（10）年金などの書類（役所や病院に出す書類）が書けますか。

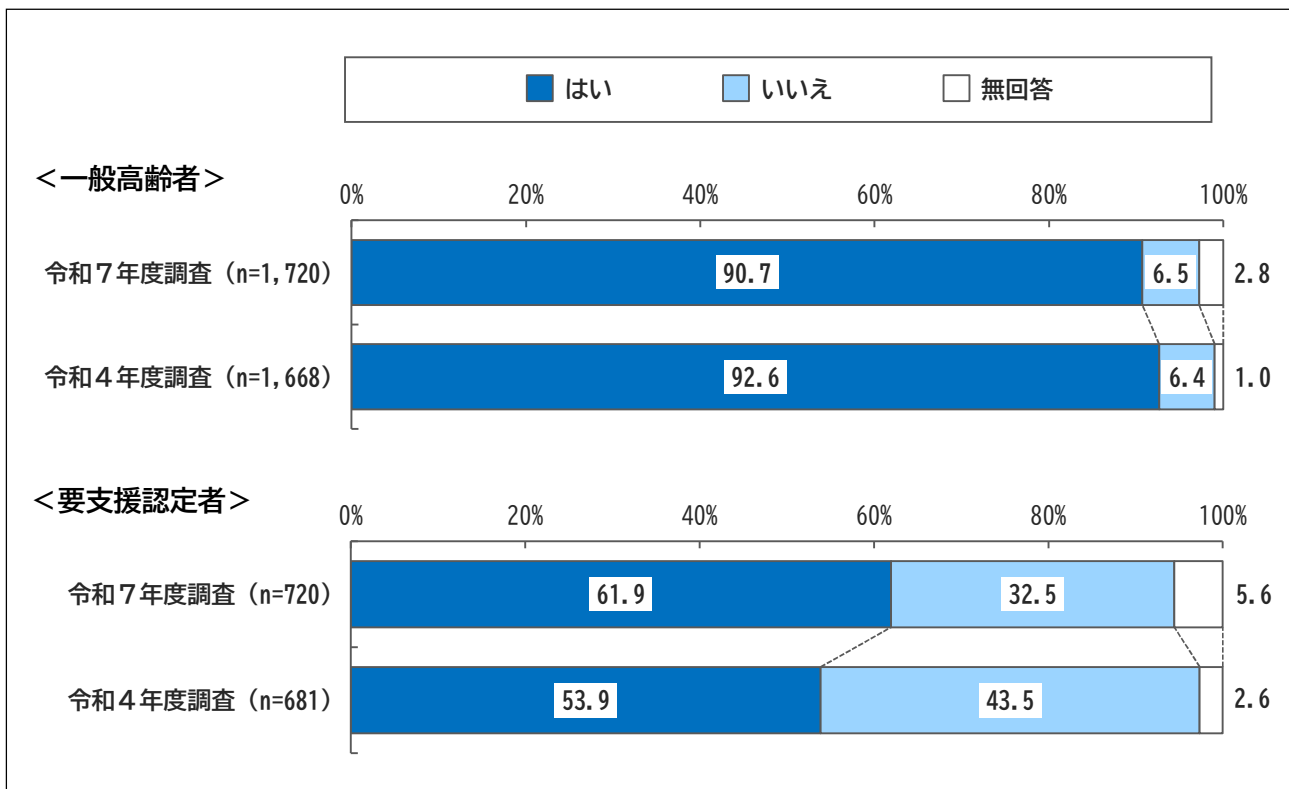
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が1.9ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「いいえ」が11.0ポイント減少しています。

図表 117 年金などの書類が書けるか（前回比較）



問4（11）新聞を読んでいますか。

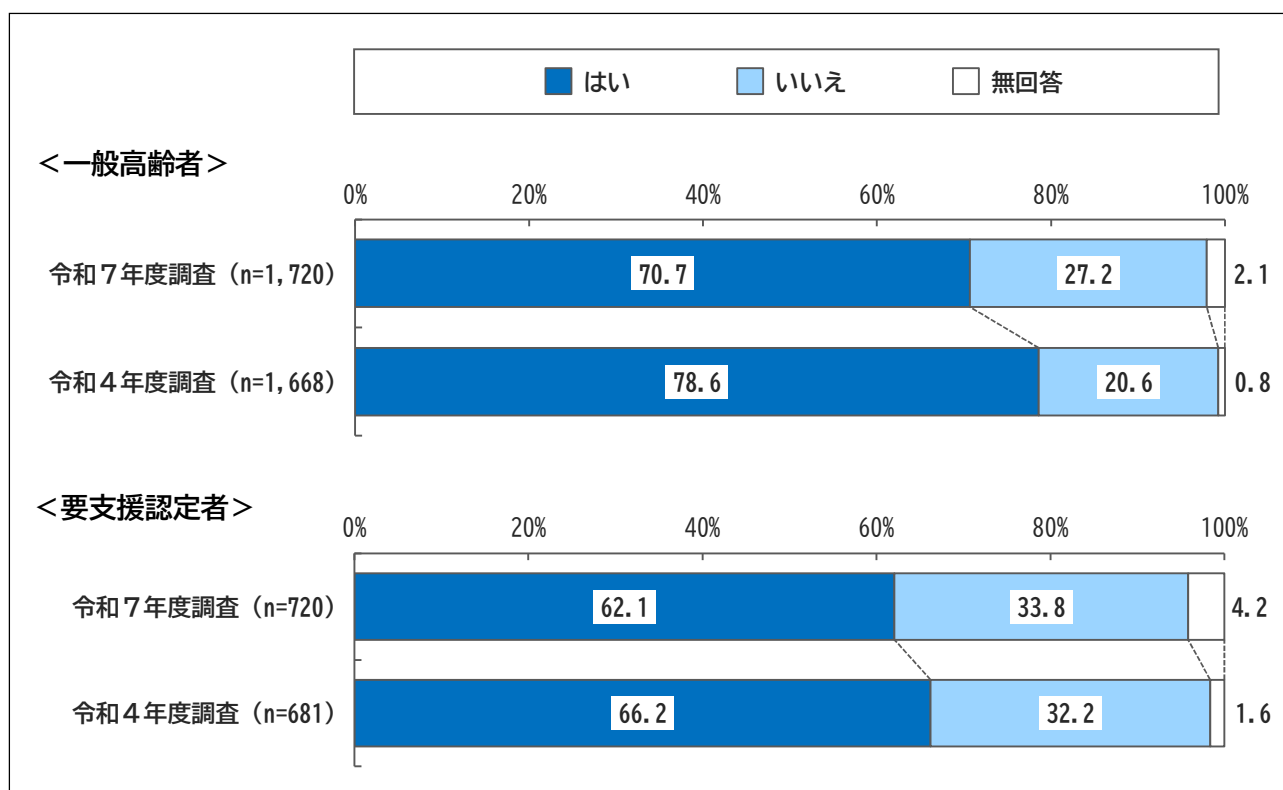
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が7.9ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が4.1ポイント減少しています。

図表 118 新聞を読んでいるか（前回比較）



問4（12）本や雑誌を読んでいますか。

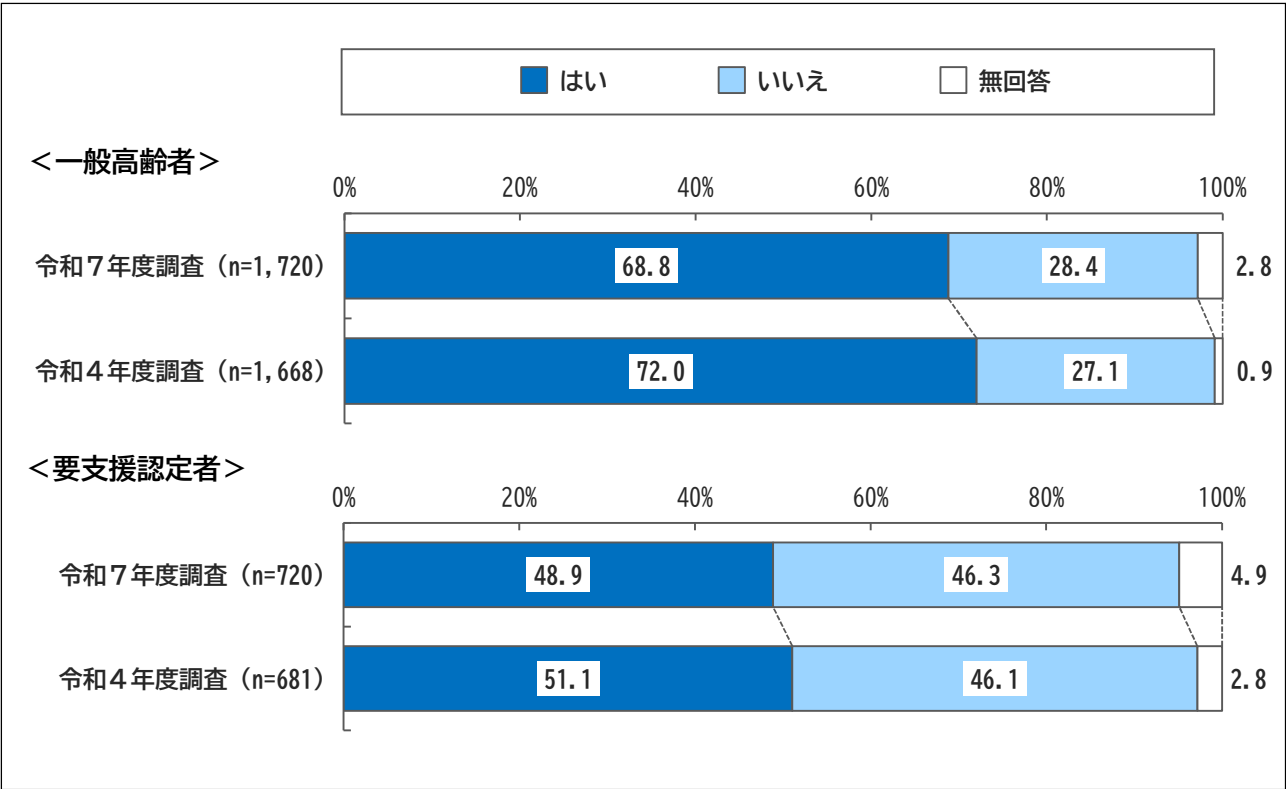
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が3.2ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が2.2ポイント減少しています。

図表 119 本や雑誌を読んでいるか（前回比較）



問4（13）健康についての記事や番組に関心がありますか。

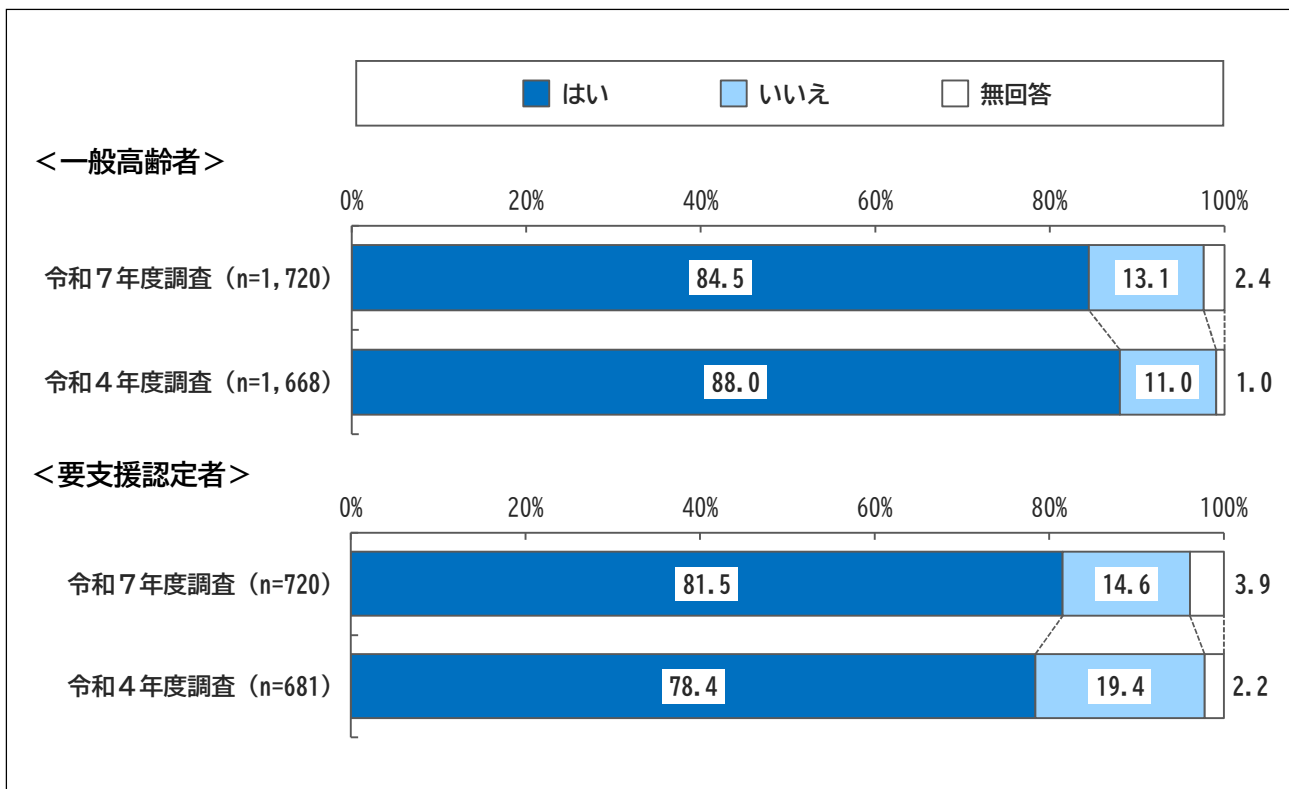
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が3.5ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「いいえ」が4.8ポイント減少しています。

図表 120 健康についての記事や番組に関心があるか（前回比較）



問4（14）友人の家を訪ねていますか。

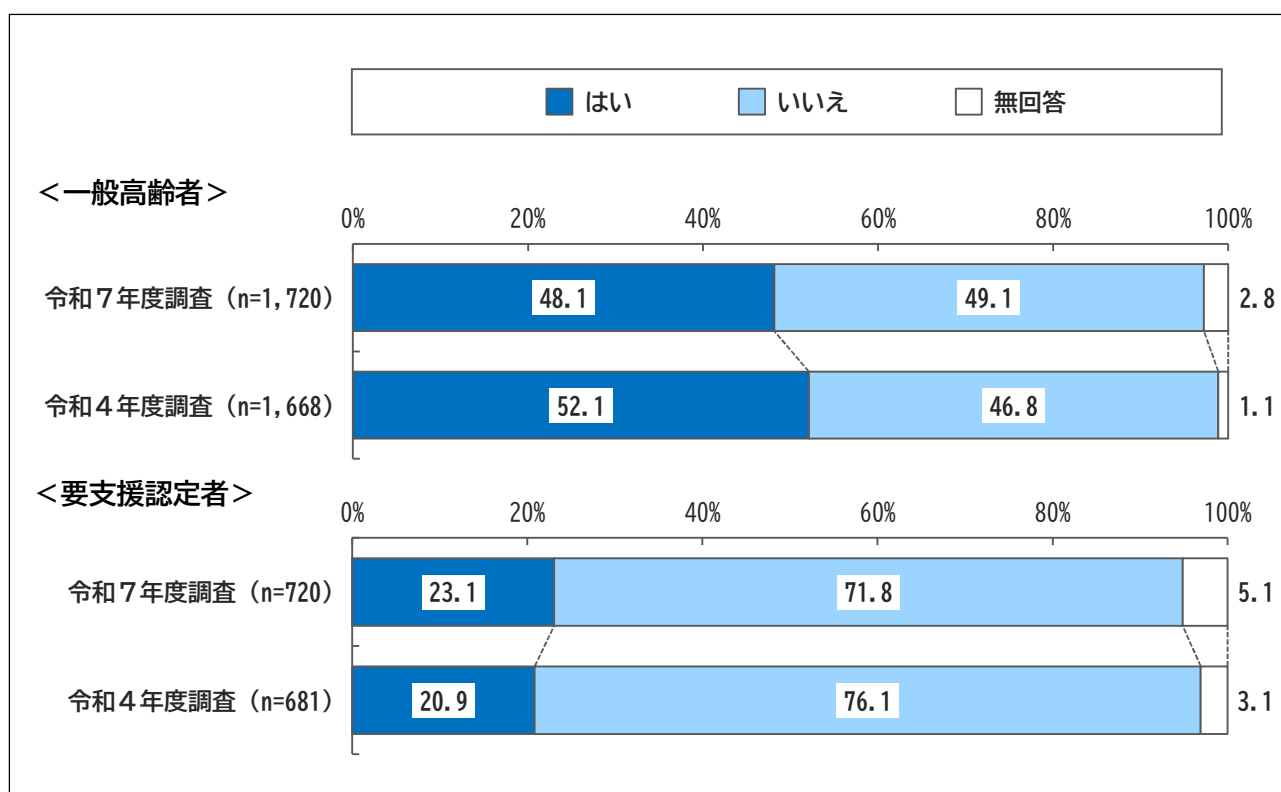
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が4.0ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「いいえ」が4.3ポイント減少しています。

図表 121 友人の家を訪ねているか（前回比較）



問4（16）若い人に自分から話しかけることがありますか。

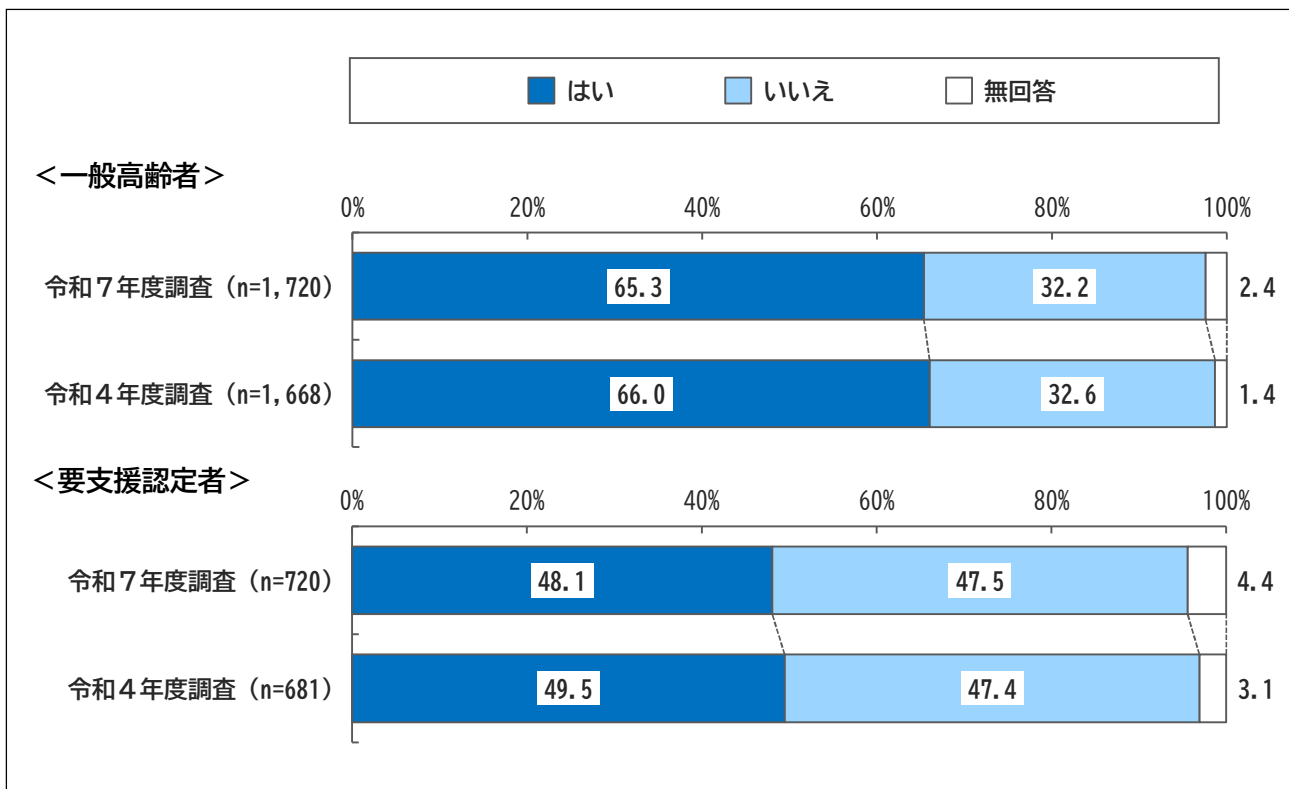
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が0.7ポイント減少していますが概ね同様の結果となっています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が1.4ポイント減少しています。

図表 122 若い人に自分から話しかけることがあるか（前回比較）



問4（17）趣味はありますか。

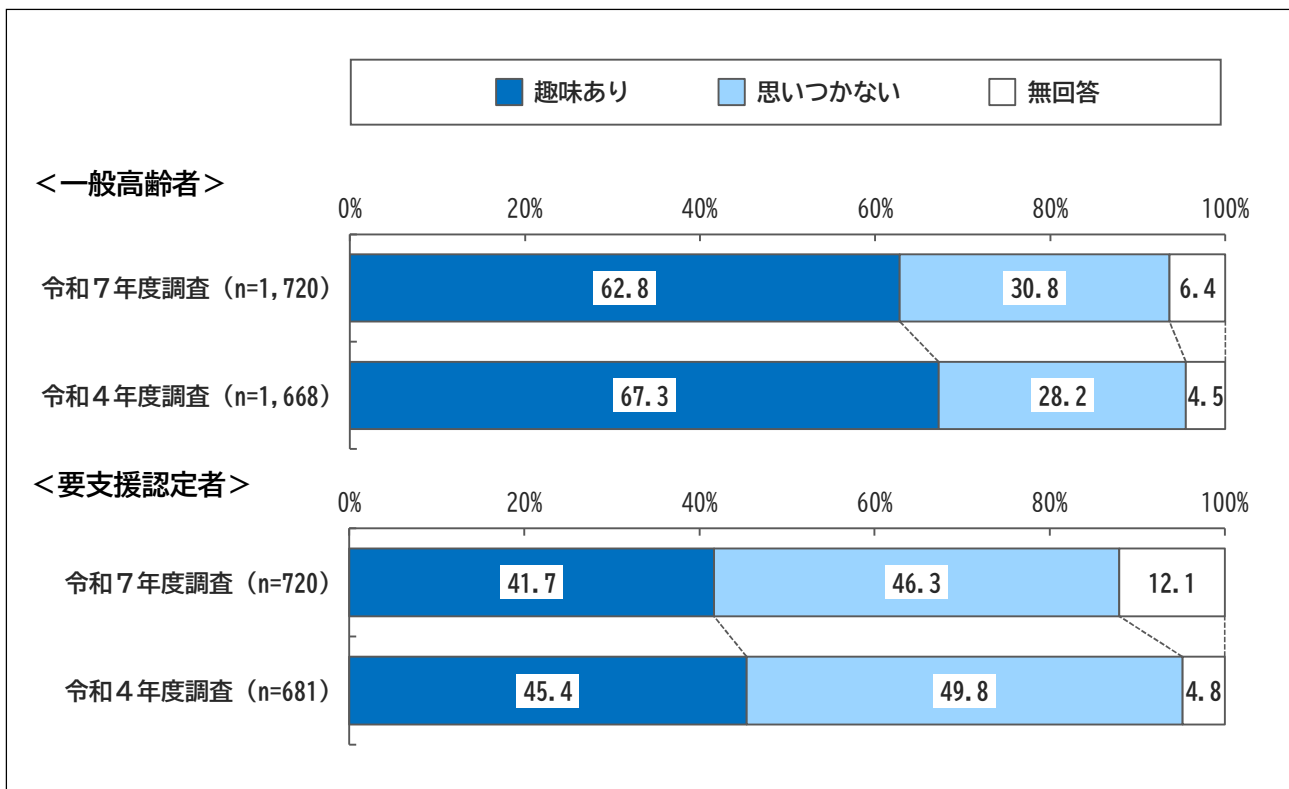
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「趣味あり」が4.5ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「趣味あり」が3.7ポイント減少しています。

図表 123 趣味の有無（前回比較）



問4（18）生きがいがありますか。

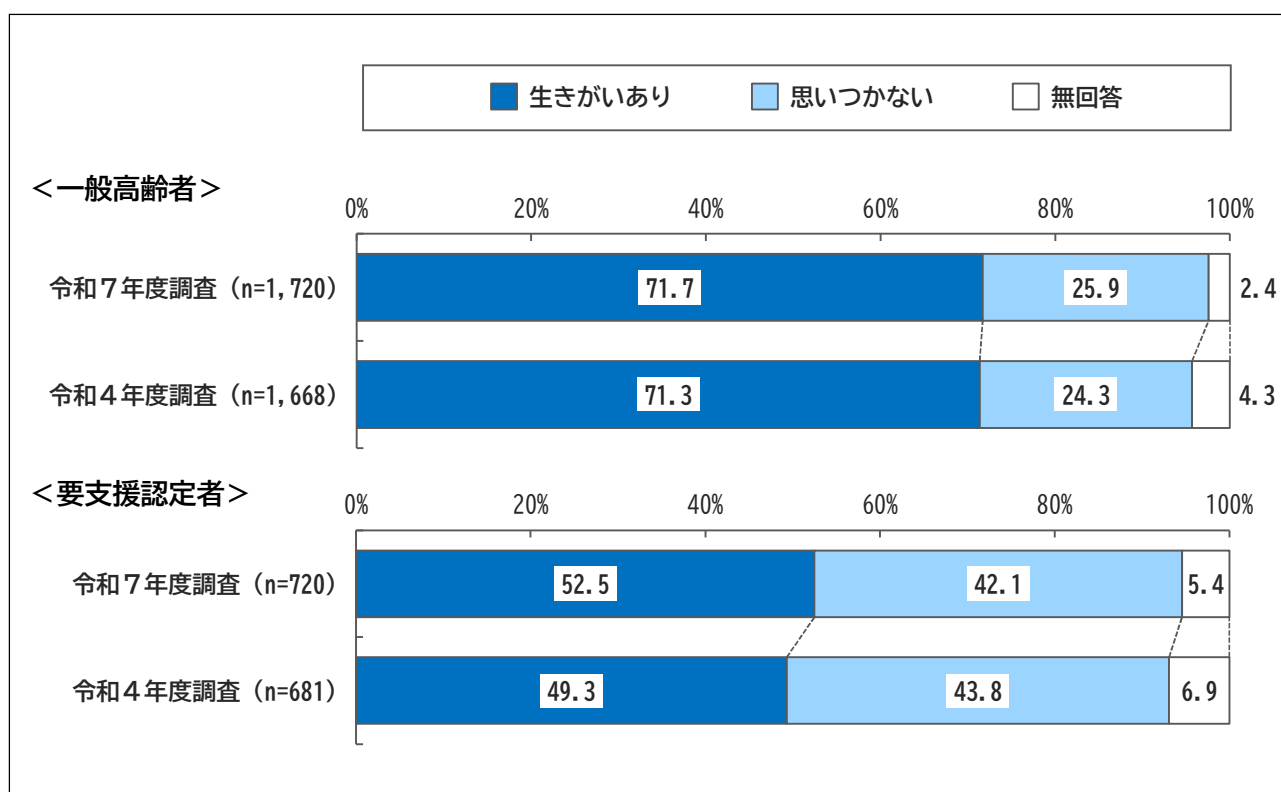
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「思いつかない」が1.6ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「生きがいあり」が3.2ポイント増加しています。

図表 124 生きがいの有無（前回比較）



※問4（18）で「生きがいあり」と答えたかたのみ

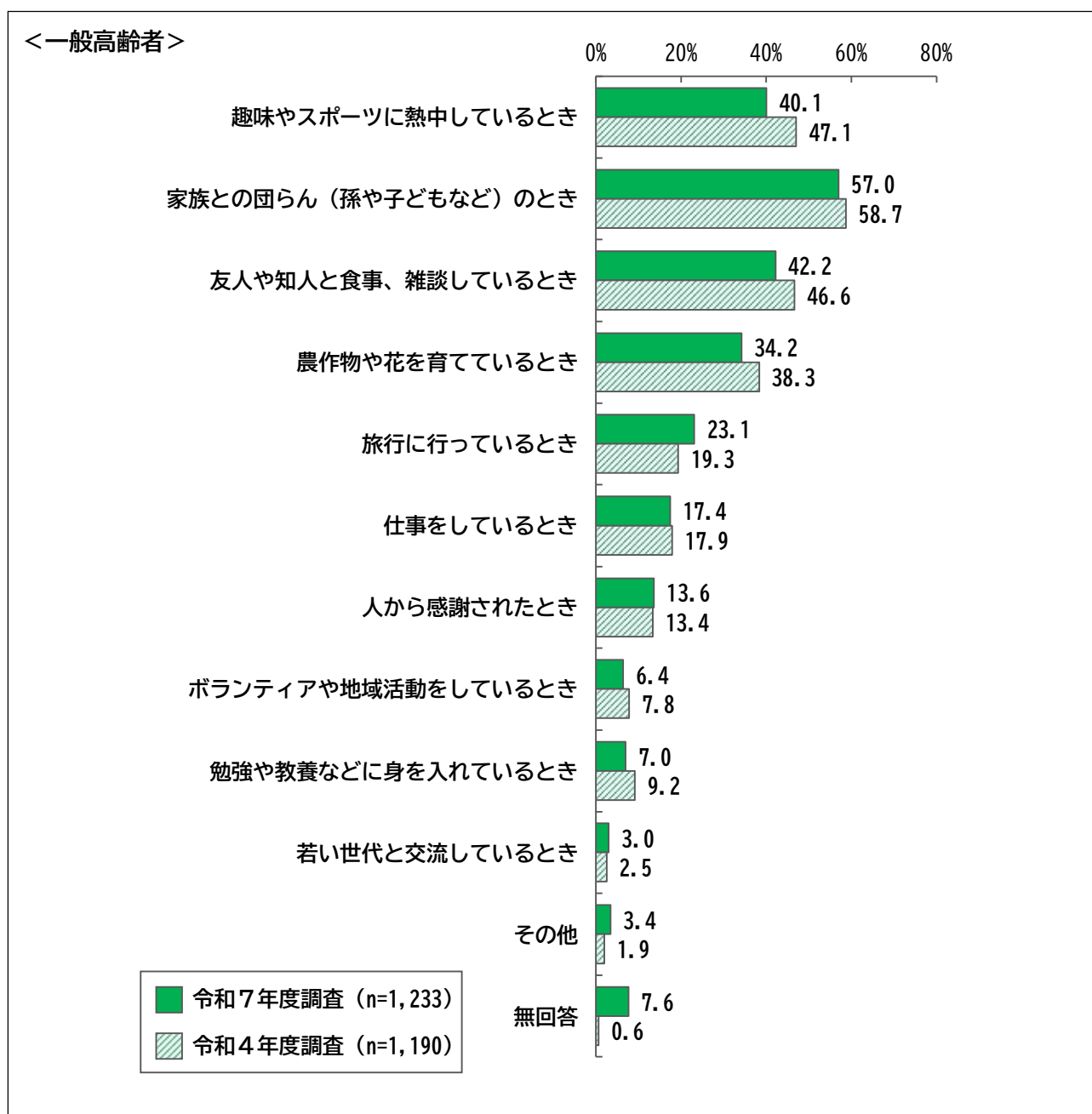
問4（18－1）日常の中で、生きがいや楽しみ、喜びを感じる時は、どんな時ですか。（3つまで）

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「趣味やスポーツに熱中しているとき」が7.0ポイント、「友人や知人と食事、雑談しているとき」が4.4ポイント、「農作物や花を育てているとき」が4.1ポイント減少しています。

一方、「旅行に行っているとき」が3.8ポイント増加しています。

図表 125 生きがいや楽しみ、喜びを感じる時（前回比較／複数回答）

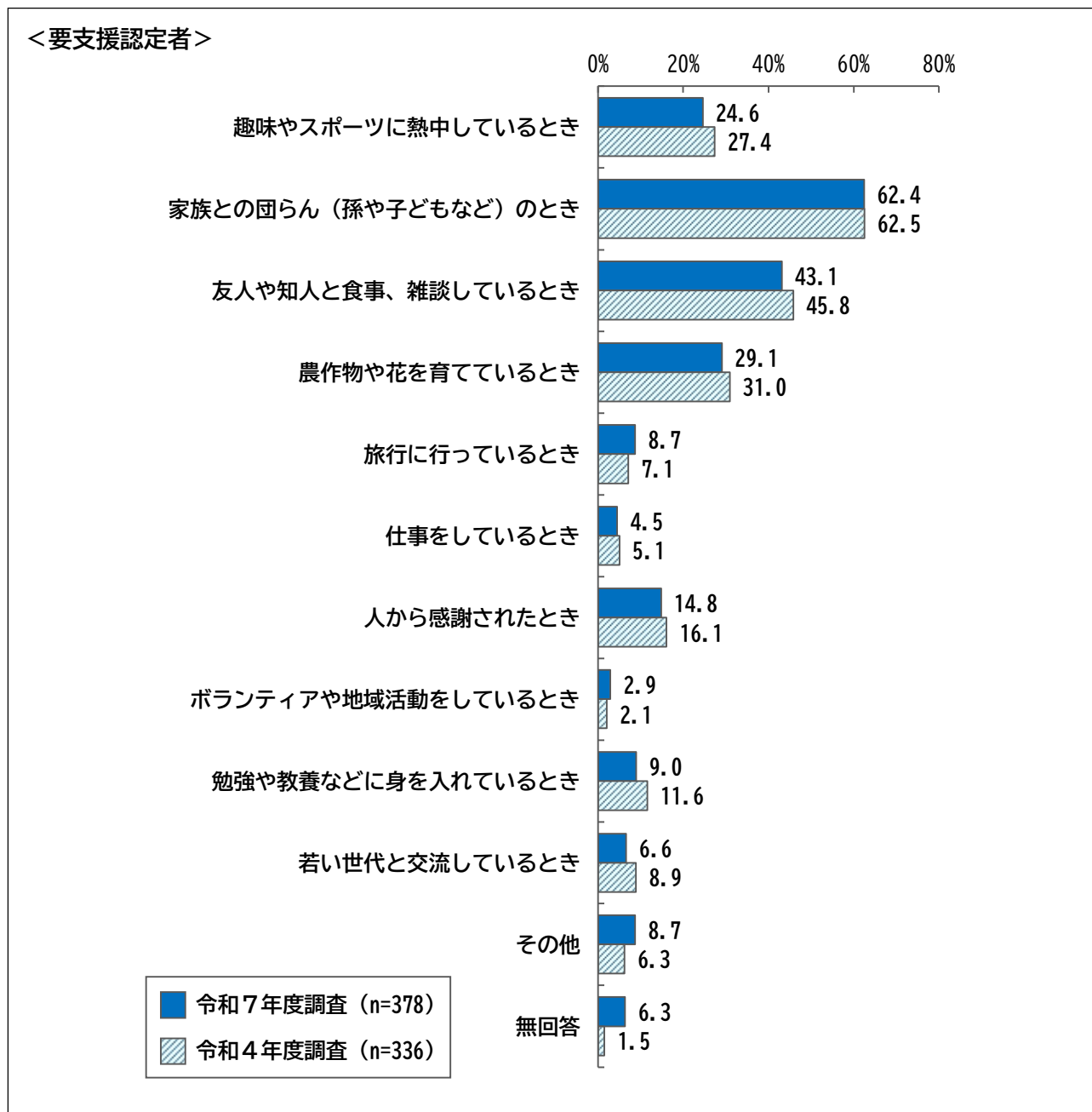


【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「趣味やスポーツに熱中しているとき」が2.8ポイント、「友人や知人と食事、雑談しているとき」が2.7ポイント、「勉強や教養などに身を入れているとき」が2.6ポイント減少しています。

一方、「旅行に行っているとき」が1.6ポイント増加しています。

図表 126 生きがいや楽しみ、喜びを感じる時（前回比較／複数回答）



5 地域での活動について

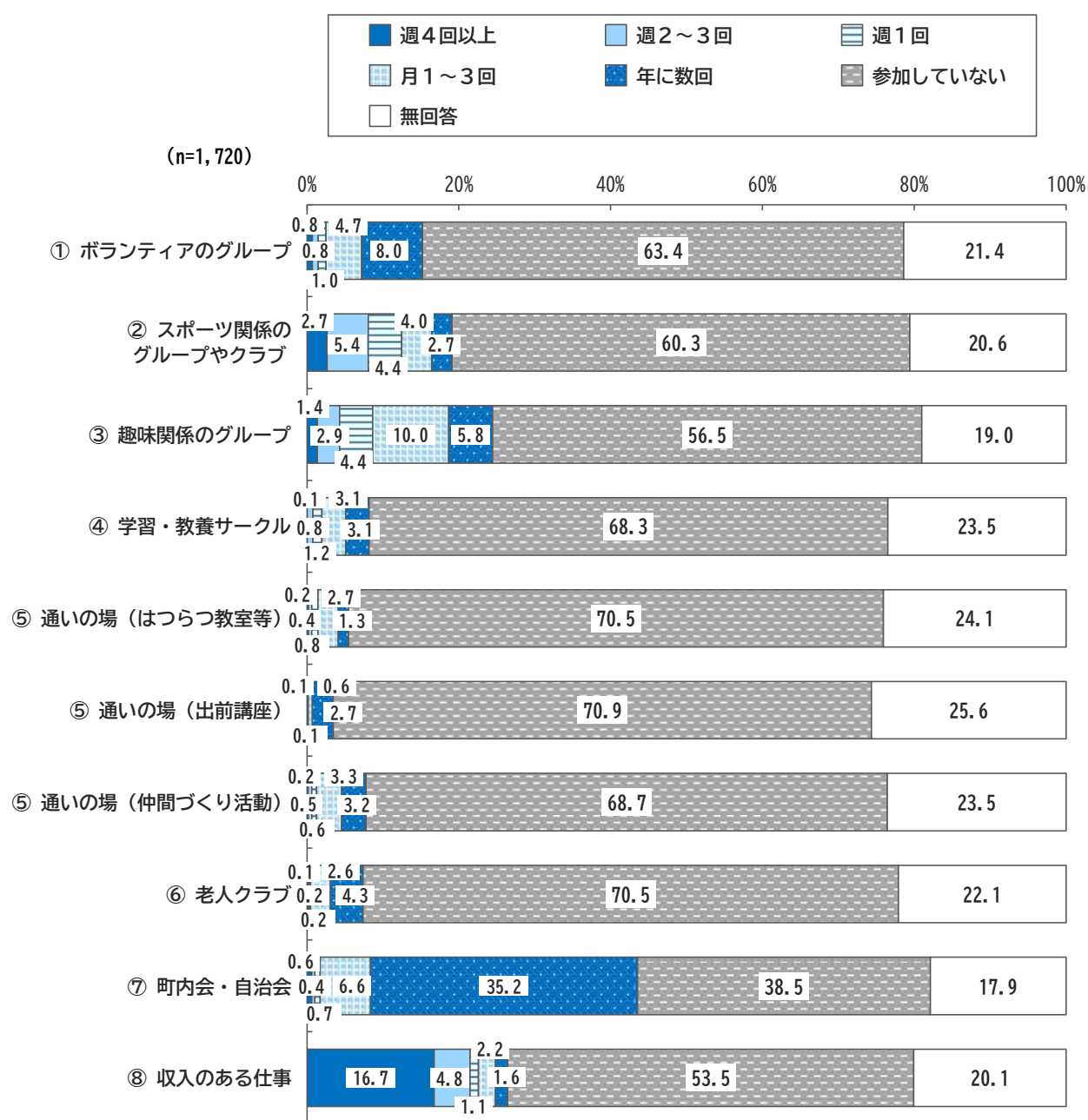
問5（1）以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

【一般高齢者】

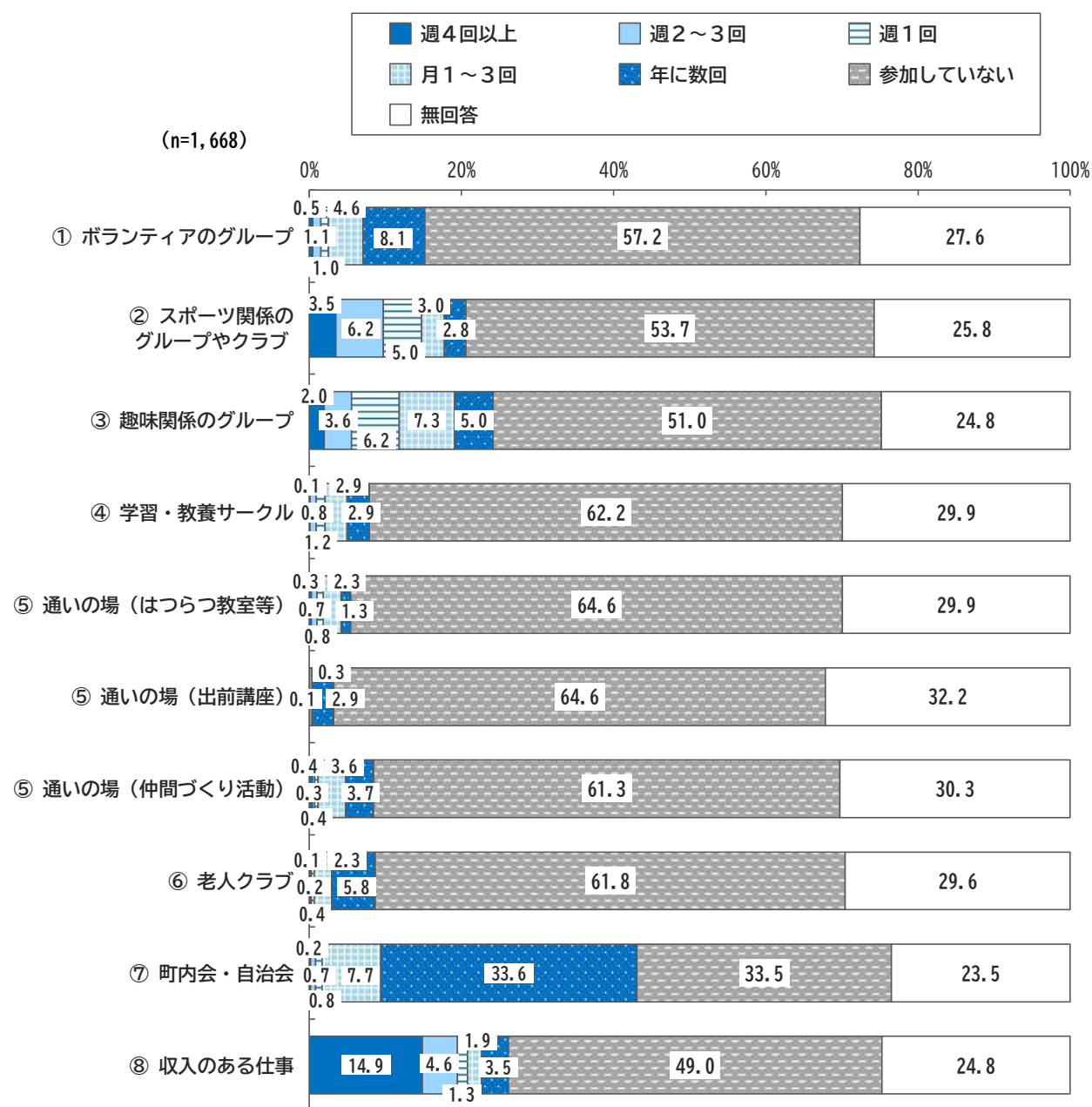
「週4回以上」から「年に数回」までの割合を合計した『参加率』を前回調査と比較してみると、⑥老人クラブでは1.4ポイント減少、② スポーツ関係のグループやクラブのグループでは1.3ポイント減少しています。

図表 127 社会参加の状況（前回比較）

<一般高齢者：令和7年度調査>



<一般高齢者：令和4年度調査>

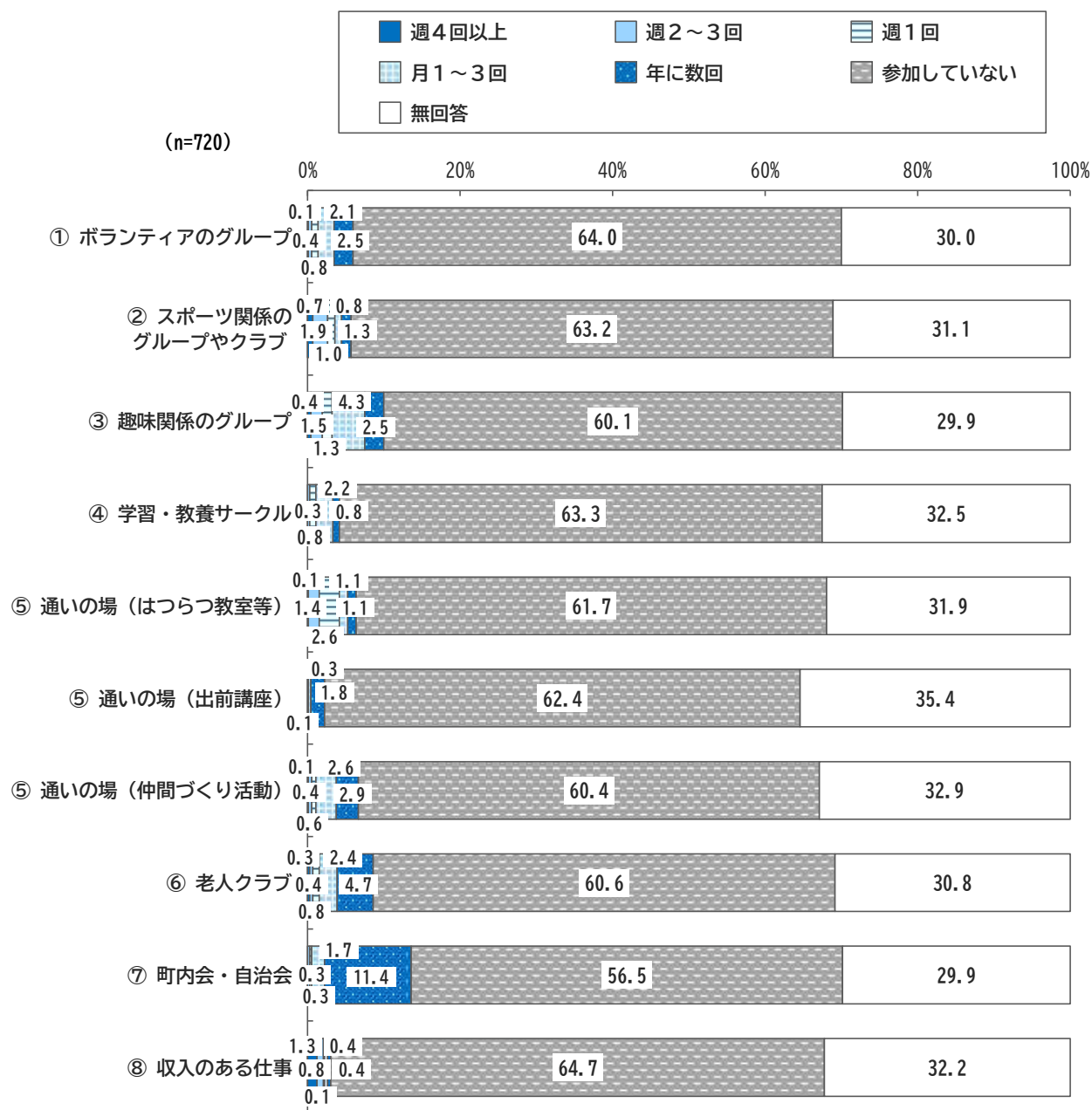


【要支援認定者】

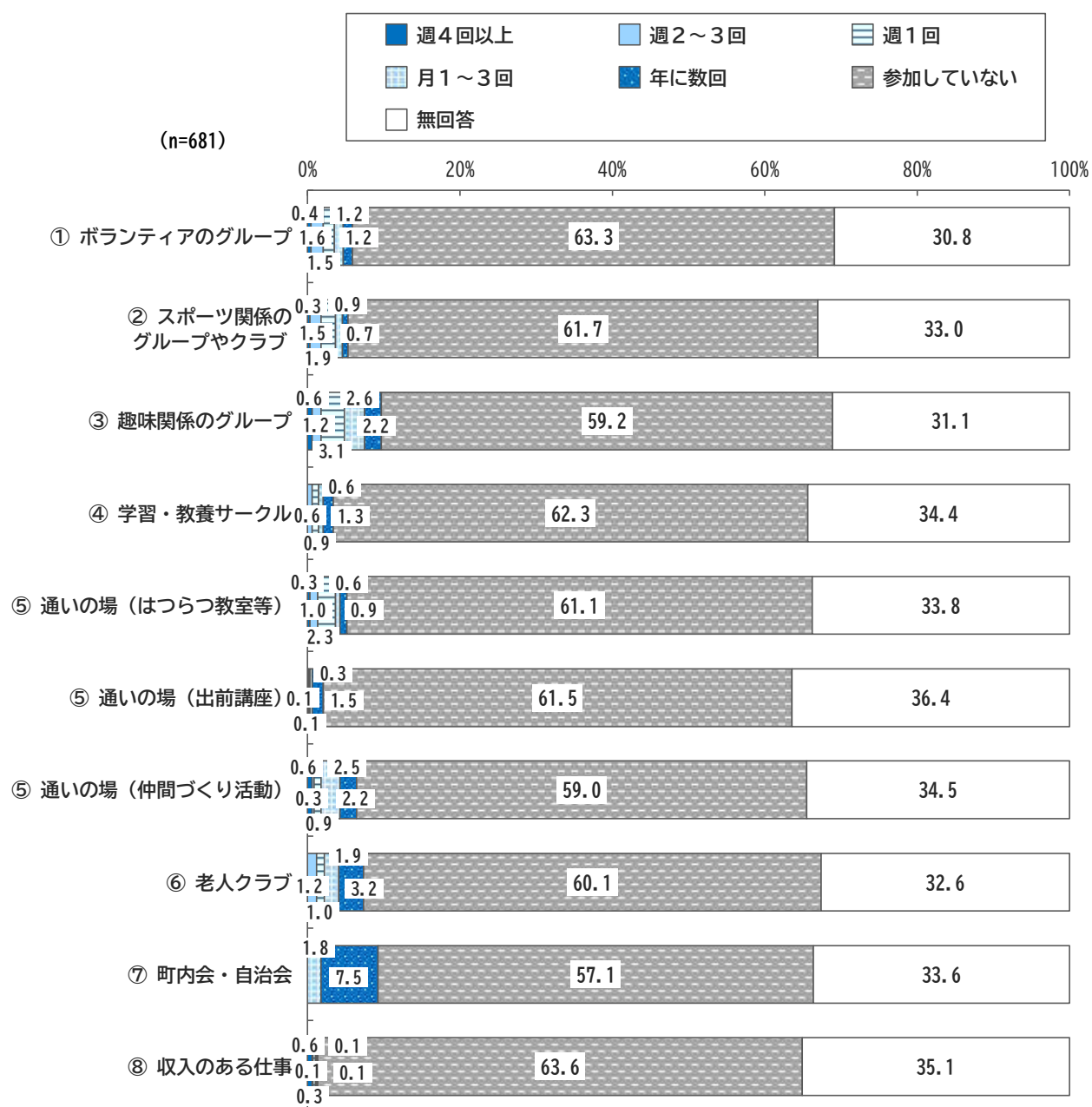
「週4回以上」から「年に数回」までの割合を合計した『参加率』を前回調査と比較してみると、いずれの地域活動についても増加しており、特に⑦町内会・自治会は4.4ポイント、⑧収入のある仕事は1.8ポイント増加しています。

図表 128 社会参加の状況（前回比較）

<要支援認定者：令和7年度調査>



<要支援認定者：令和4年度調査>



問5（2）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

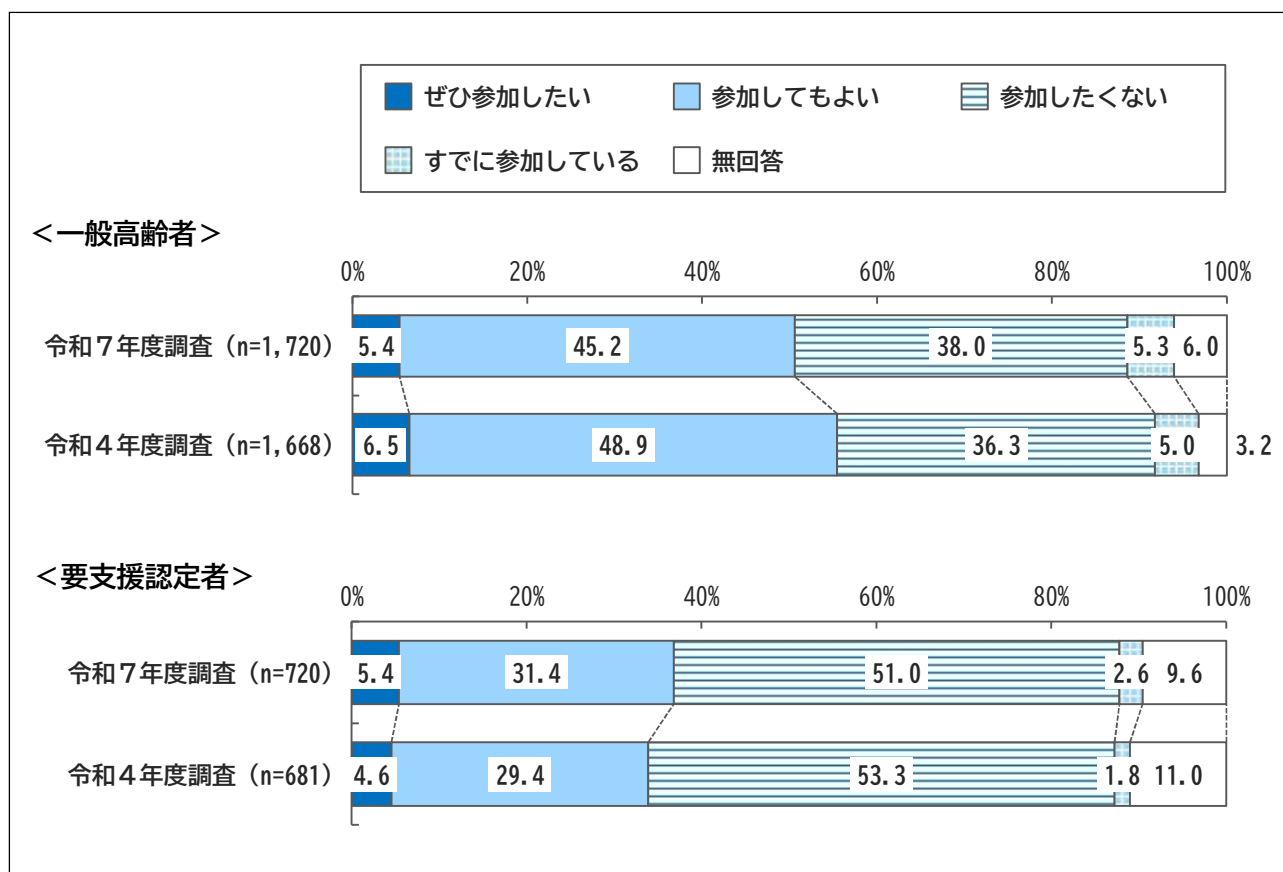
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「ぜひ参加したい」、「参加してもよい」は、いずれも減少しています。また、これらを合計した『参加者として参加してもよい』割合は、令和4年度の55.4%に対し、令和7年度は50.6%となっており、4.8ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「ぜひ参加したい」、「参加してもよい」は、いずれも増加しています。また、これらを合計した『参加者として参加してもよい』割合は、令和4年度の34.0%に対し、令和7年度は36.8%となっており、2.8ポイント増加しています。

図表 129 地域づくりへの参加意向（参加者）（前回比較）



問5（3）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

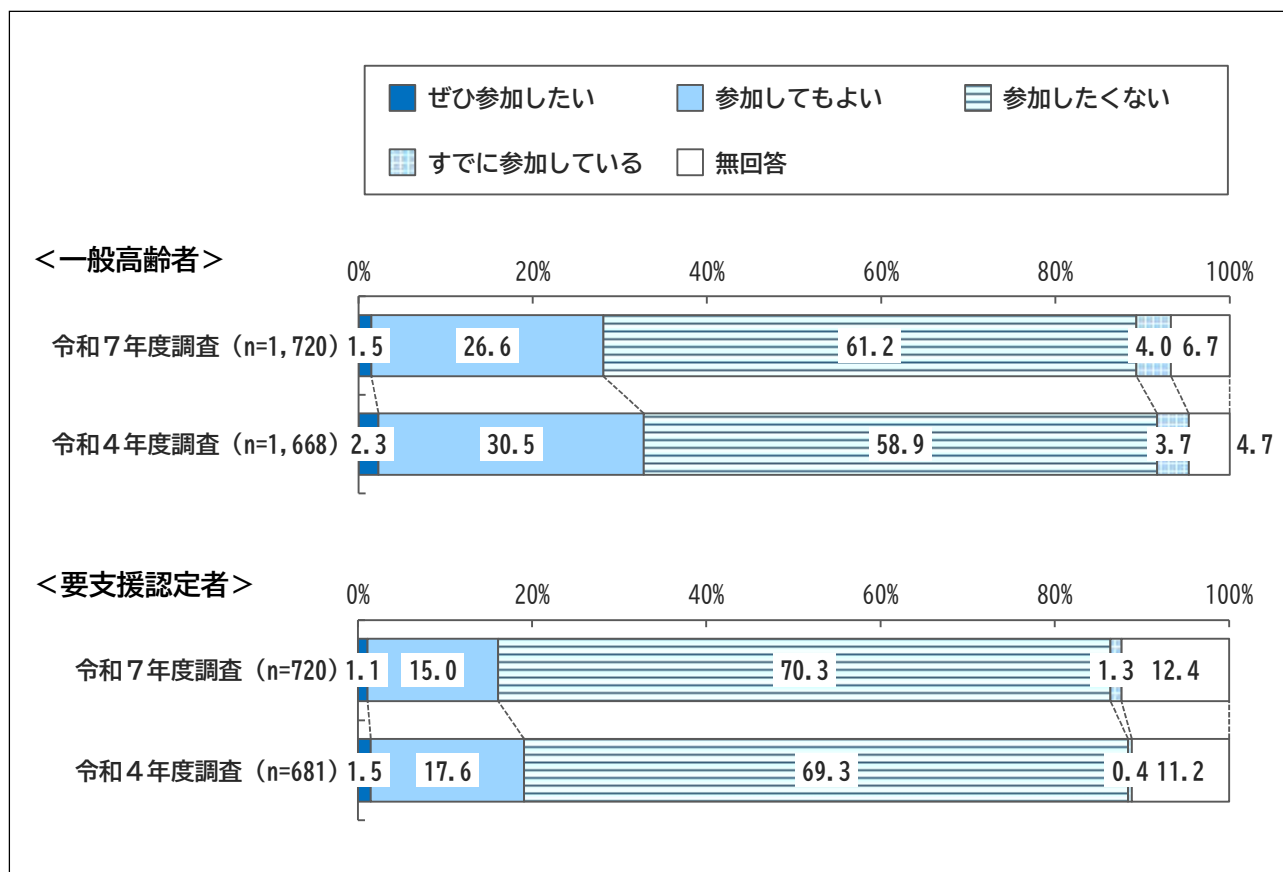
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「ぜひ参加したい」、「参加してもよい」は、いずれも減少しています。また、これらを合計した『企画・運営として参加してもよい』割合は、令和4年度の32.8%に対し、令和7年度は28.1%となっており、4.7ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「ぜひ参加したい」、「参加してもよい」は、いずれも減少しています。また、これらを合計した『企画・運営として参加してもよい』割合は、令和4年度の19.1%に対し、令和7年度は16.1%となっており、3.0ポイント減少しています。

図表 130 地域づくりへの参加意向（企画・運営）（前回比較）



6 たすけあいについて

問7（1）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はいますか。（いくつでも）

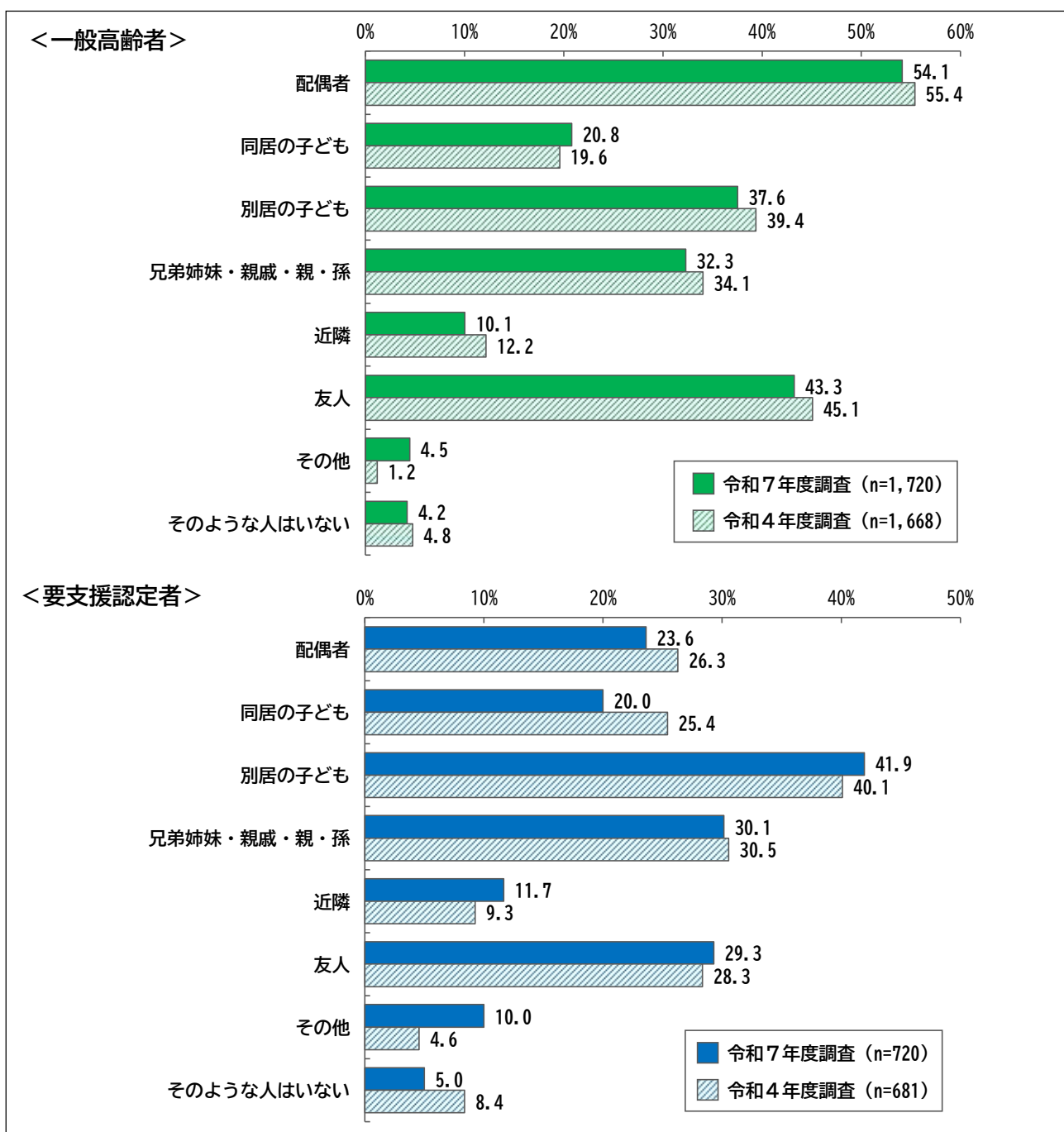
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「近隣」が2.1ポイント減少していますが、「その他」を除くそれ以外の心配事や愚痴を聞いてくれる人の割合は、2.0ポイント未満の増減となっています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「同居の子ども」が5.4ポイント減少し、「近隣」が2.4ポイント増加しています。

図表 131 心配事や愚痴を聞いてくれる人（前回比較／複数回答）



問7（2）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はいますか。（いくつでも）

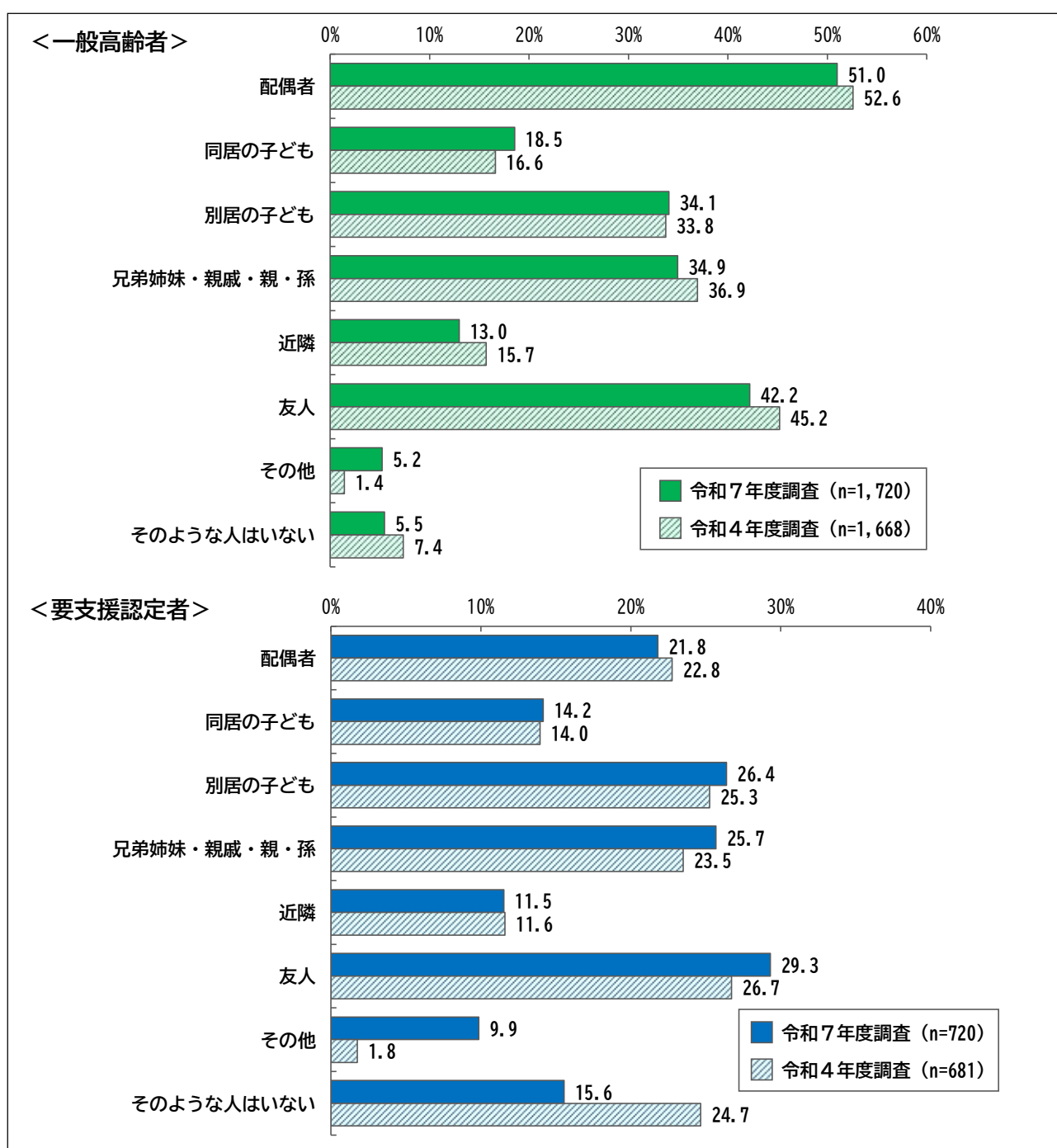
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「同居の子ども」が1.9ポイント増加し、「友人」が3.0ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「友人」が2.6ポイント増加し、「そのような人はいない」が9.1ポイント減少しています。

図表 132 心配事や愚痴を聞いてあげる人（前回比較／複数回答）



問7（3）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいますか。
（いくつでも）

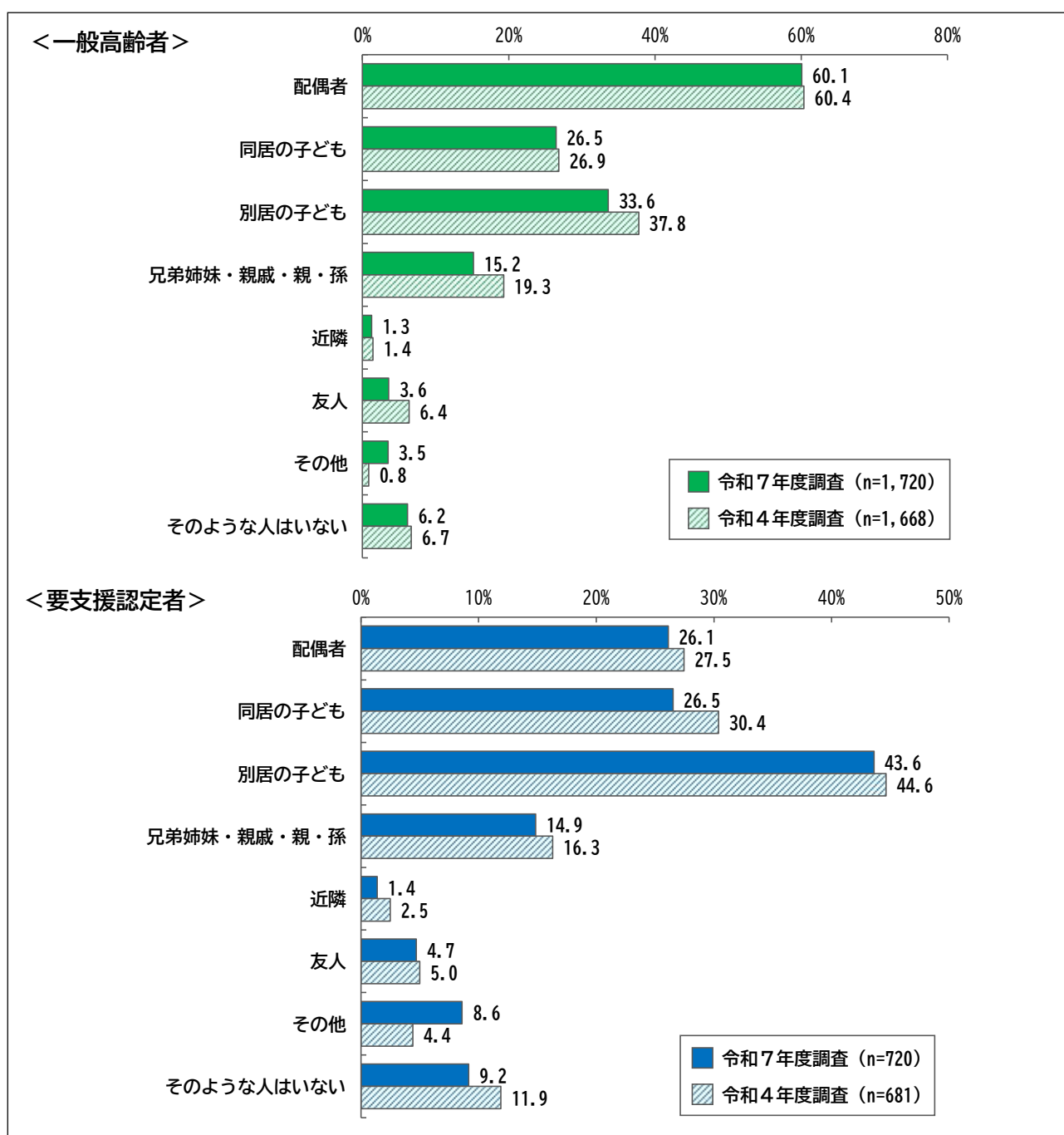
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「別居の子ども」が4.2ポイント、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が4.1ポイントそれぞれ減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「同居の子ども」が3.9ポイント、「そのような人はいない」が2.7ポイントそれぞれ減少しています。

図表 133 看病や世話をしてくれる人（前回比較／複数回答）



問7（4）反対に、看病や世話をしをあげる人はいますか。（いくつでも）

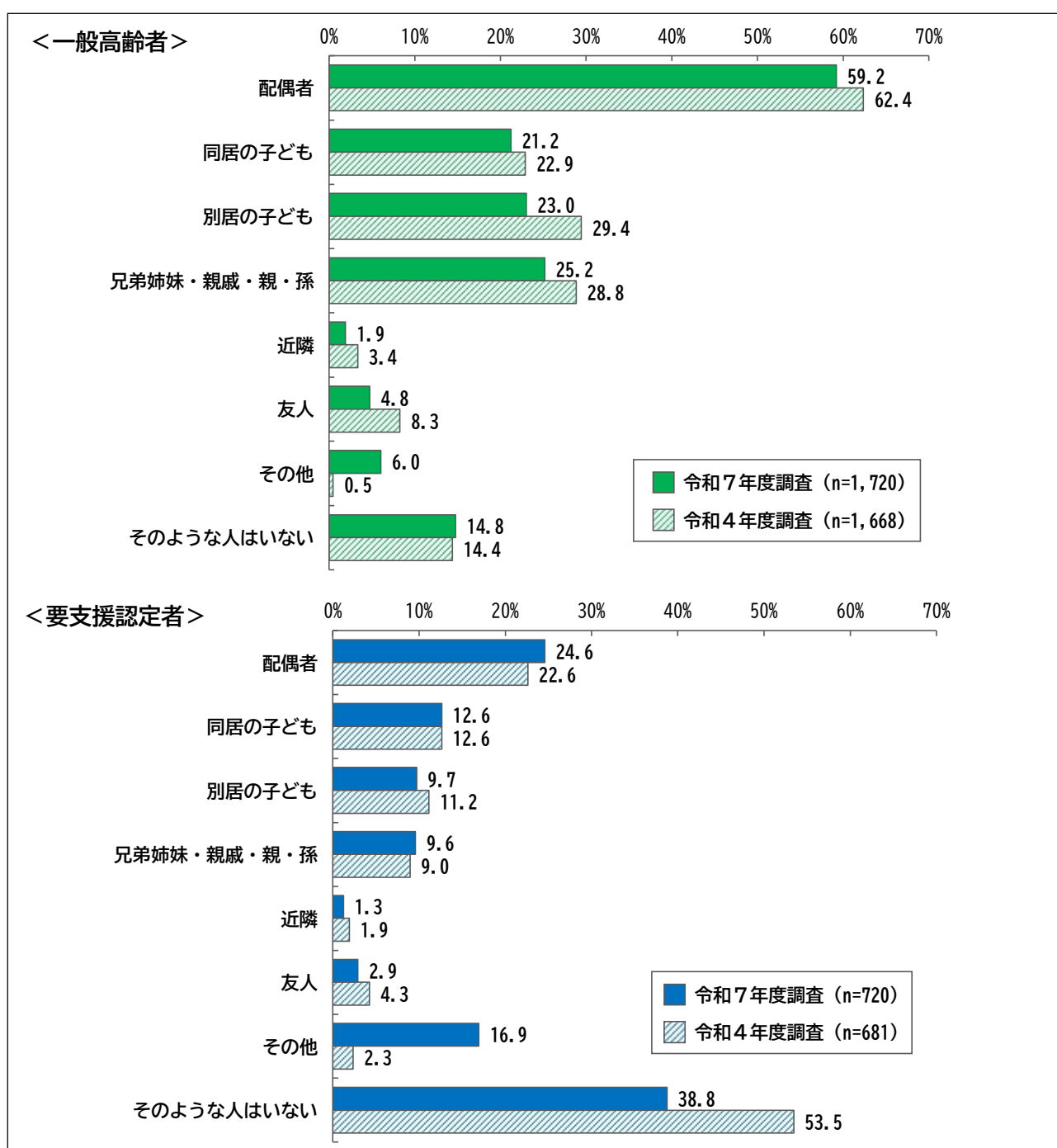
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「別居の子ども」が6.4ポイント、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が3.6ポイントそれぞれ減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「そのような人はいない」が14.7ポイント減少し、「配偶者」が2.0ポイント増加しています。

図表 134 看病や世話をしをあげる人（前回比較／複数回答）



問7（5）家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。（いくつでも）

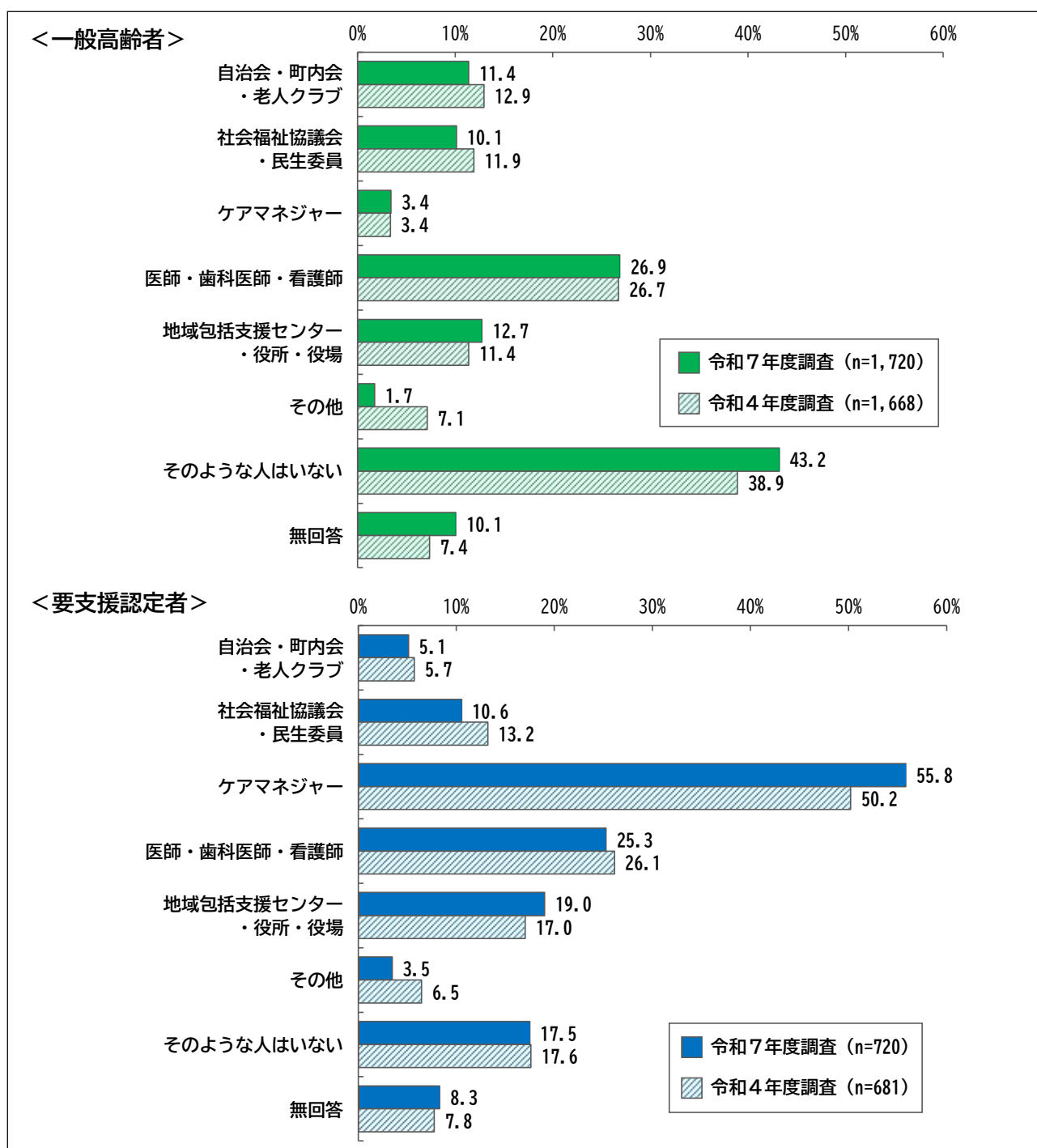
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「そのような人はいない」が4.3ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「ケアマネジャー」が5.6ポイント増加しています。

図表 135 家族や友人・知人以外の相談相手（前回比較／複数回答）



問7（6）友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「週に何度かある」が4.3ポイント減少しています。

また、友人・知人と会う機会がある人の割合を合計すると、令和4年度の82.5%に対し、令和7年度では79.5%となっており、3.0ポイント減少しています。

一方、友人・知人と会う機会が「ほとんどない」人の割合は、0.5ポイント増加しています。

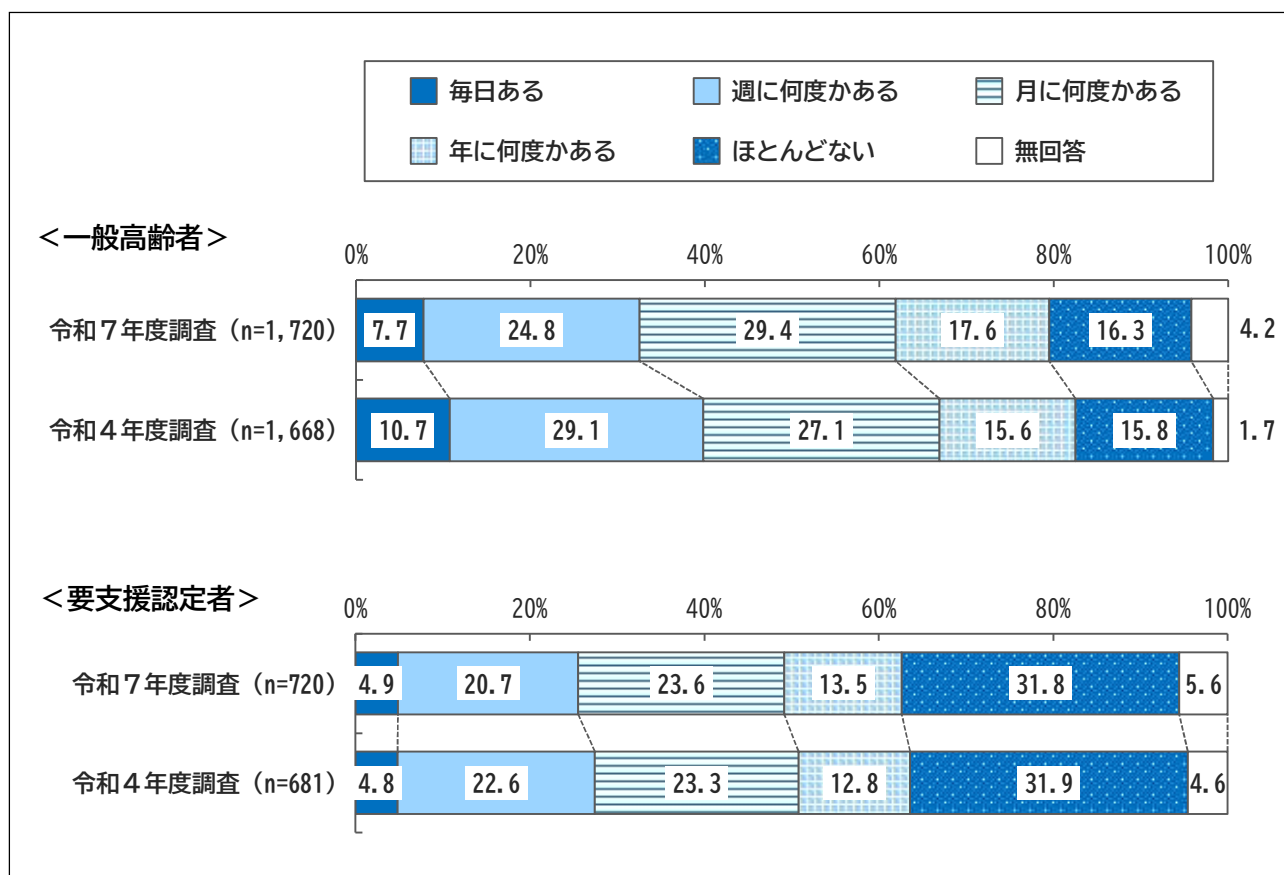
【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「週に何度かある」が1.9ポイント減少しています。

また、友人・知人と会う機会がある人の割合を合計すると、令和4年度の63.5%に対し、令和7年度では62.7%となっており、0.8ポイント減少しています。

一方、友人・知人と会う機会が「ほとんどない」人の割合は、0.1ポイントとわずかに減少しています。

図表 136 友人・知人と会う頻度（前回比較）



問7（7）この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「1～2人」が4.4ポイント増加し、「10人以上」が3.0ポイント減少しています。

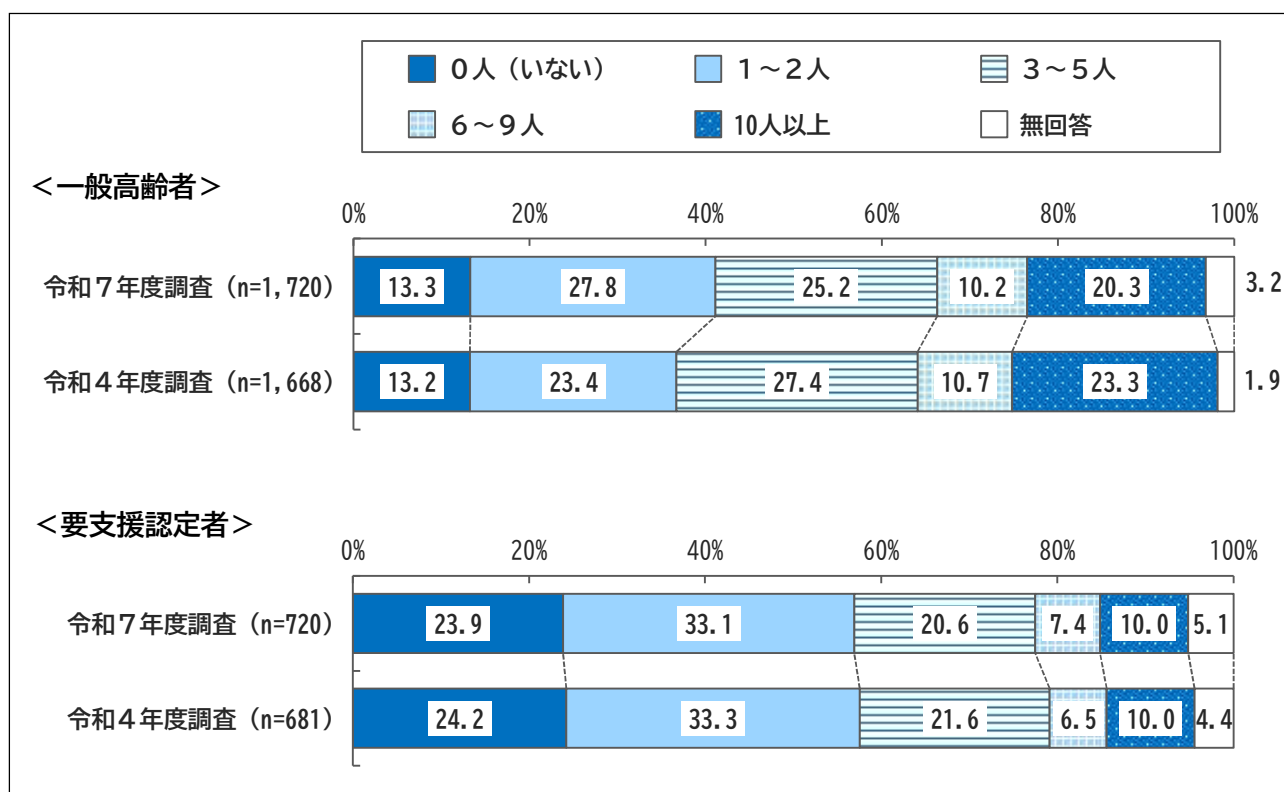
0人～2人までの割合は増加し、3人以上の割合は減少していることから、1か月間に会う友人・知人の人数は少なくなっていることがうかがえます。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「6～9人」が0.9ポイント増加し、「3～5人」が1.0ポイント減少しています。

いずれも1.0ポイント以下の増減で大差はみられませんが、0人～5人までの割合が減少し、6人以上の割合が増加していることから、一般高齢者とは異なり、1か月間に会う友人・知人の人数は多くなっていることがうかがえます。

図表 137 1か月間で何人の友人・知人と会ったか（前回比較）



問7（8）よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（いくつでも）

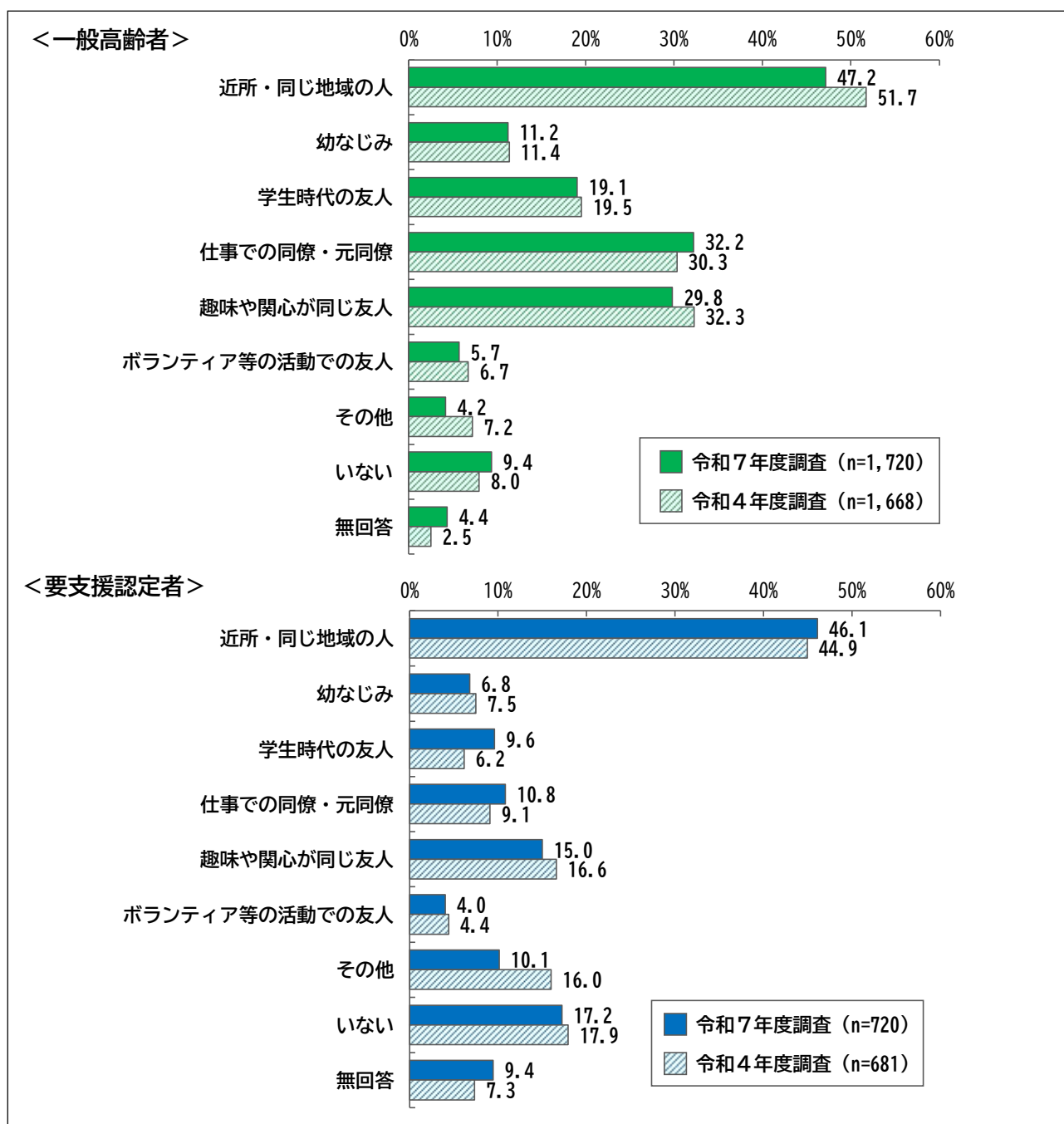
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「近所・同じ地域の人」が4.5ポイント減少し、「仕事での同僚・元同僚」が1.9ポイント、「いない」が1.4ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「学生時代の友人」が3.4ポイント増加しています。

図表 138 よく会う友人・知人との関係（前回比較／複数回答）



7 健康について

問8（1）現在のあなたの健康状態はいかがですか。

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「とてもよい」と「まあよい」を合計した、健康状態が『よい』の割合は、令和4年度の79.8%に対し、令和7年度では77.8%となっており、2.0ポイント減少しています。

一方、「あまりよくない」と「よくない」を合計した、健康状態が『よくない』の割合は、令和4年度の18.8%に対し、令和7年度では18.5%となっており、0.3ポイント減少しています。

健康状態がよいと感じる人の割合が減少し、よくないと感じる人の割合もわずかに減少していることがうかがえます。

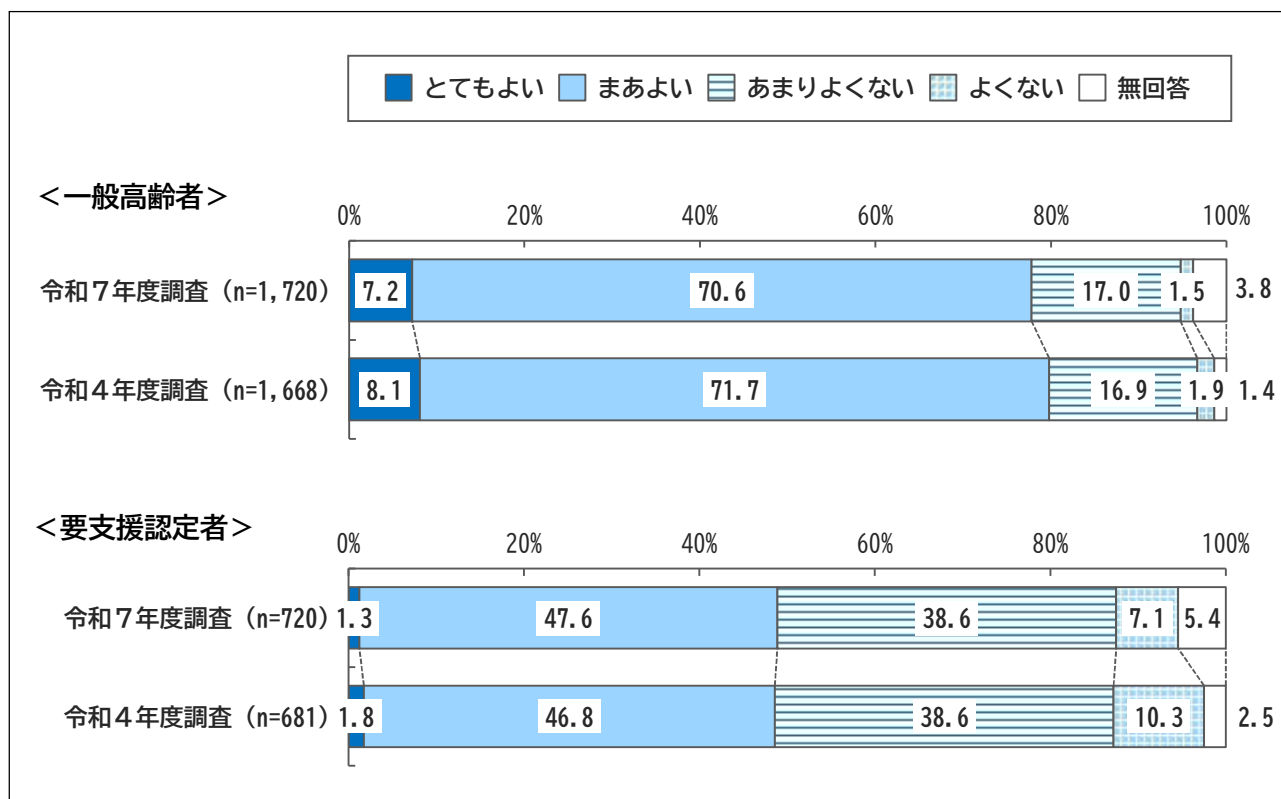
【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、健康状態が『よい』の割合は、令和4年度の48.6%に対し、令和7年度では48.9%となっており、0.3ポイント増加しています。

一方、健康状態が『よくない』の割合は、令和4年度の48.9%に対し、令和7年度では45.7%となっており、3.2ポイント減少しています。

一般高齢者とは異なり、健康状態がよいと感じる人の割合がわずかに増加し、よくないと感じる人の割合が減少していることがうかがえます。

図表 139 主観的健康感（前回比較）



問8（2）あなたは、現在どの程度幸せですか。

（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください。）

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「幸せ（7～9点）」が1.6ポイント増加し、「とても幸せ（10点）」は2.6ポイント減少しています。

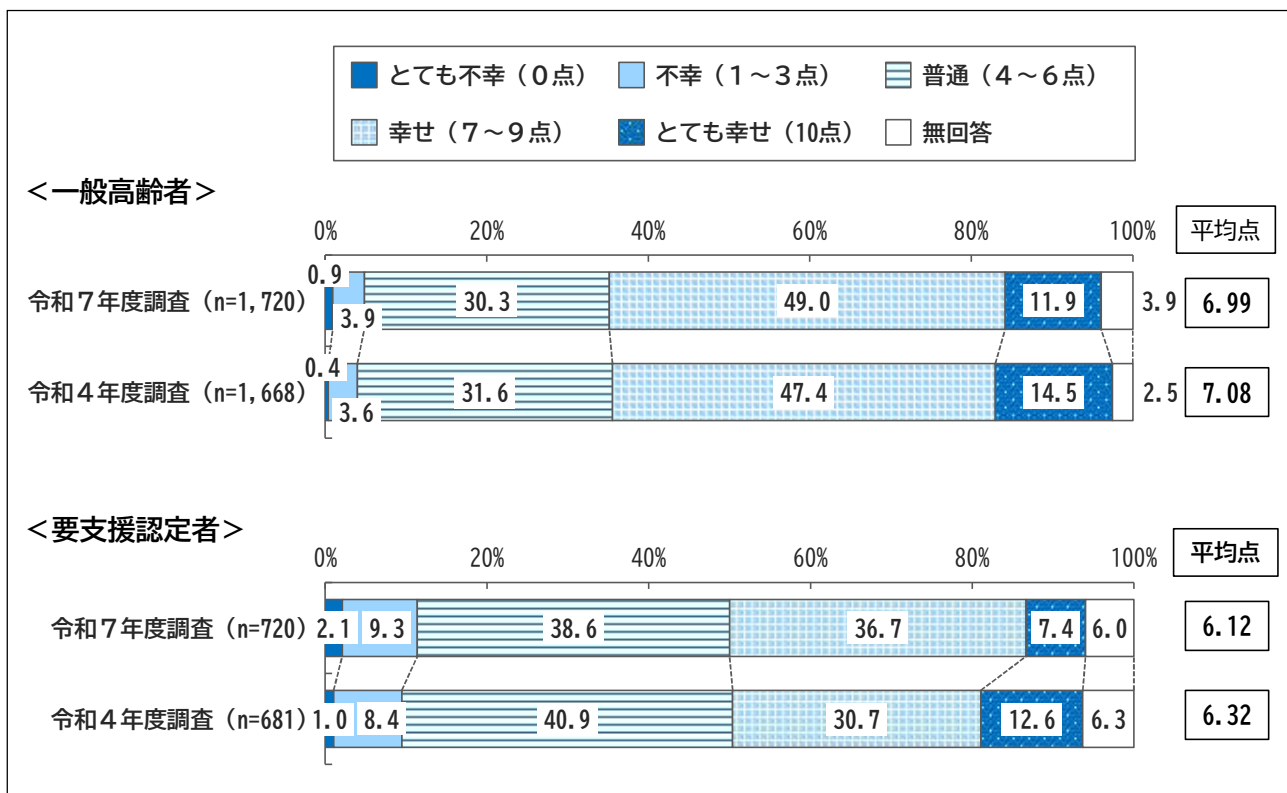
7点以上で幸せと回答した人の割合は、令和4年度の61.9%に対し、令和7年度では60.9%となっており、1.0ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「幸せ（7～9点）」が6.0ポイント増加し、「とても幸せ（10点）」は5.2ポイント、「普通（4～6点）」は2.3ポイント減少しています。

7点以上で幸せと回答した人の割合は、令和4年度の43.3%に対し、令和7年度では44.1%となっており、0.8ポイント増加しています。

図表 140 主観的幸福感（前回比較）



問8（3）この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

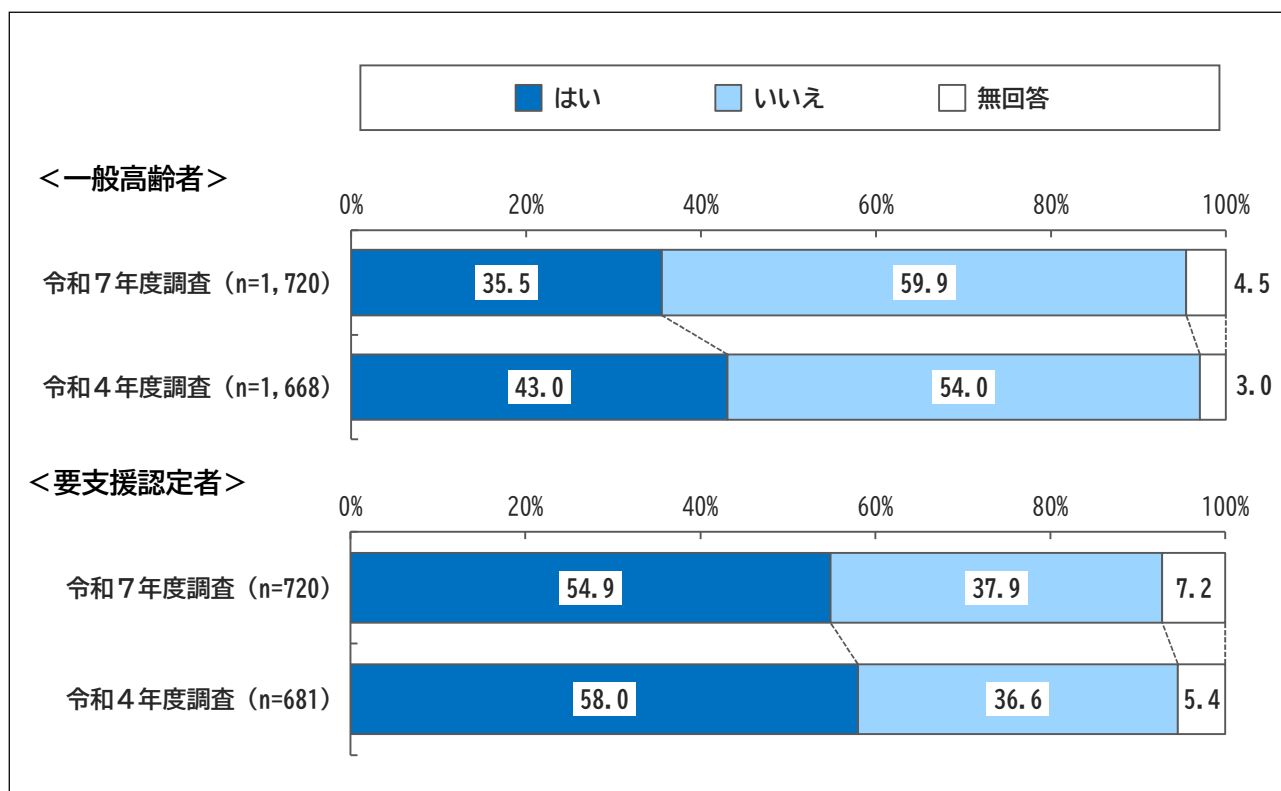
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が7.5ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が3.1ポイント減少しています。

図表 141 ゆうつな気持ちになることがあったか（前回比較）



問8（４）この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

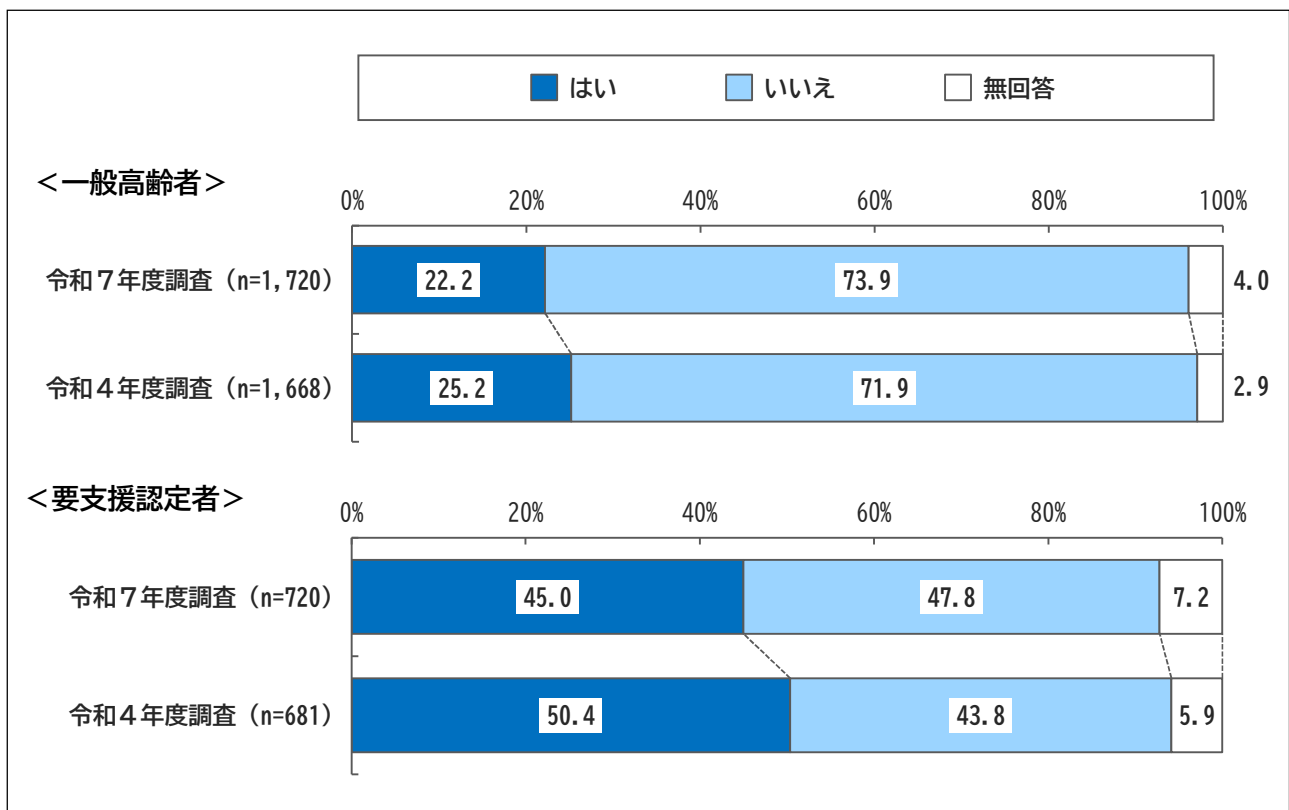
【一般高齢者】

令和４年度調査と比較すると、「はい」が3.0ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和４年度調査と比較すると、「はい」が5.4ポイント減少しています。

図表 142 物事に興味がわかない、楽しめないことがあったか（前回比較）



問8（5）お酒は飲みますか。

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「ほぼ毎日飲む」が2.0ポイント減少しています。

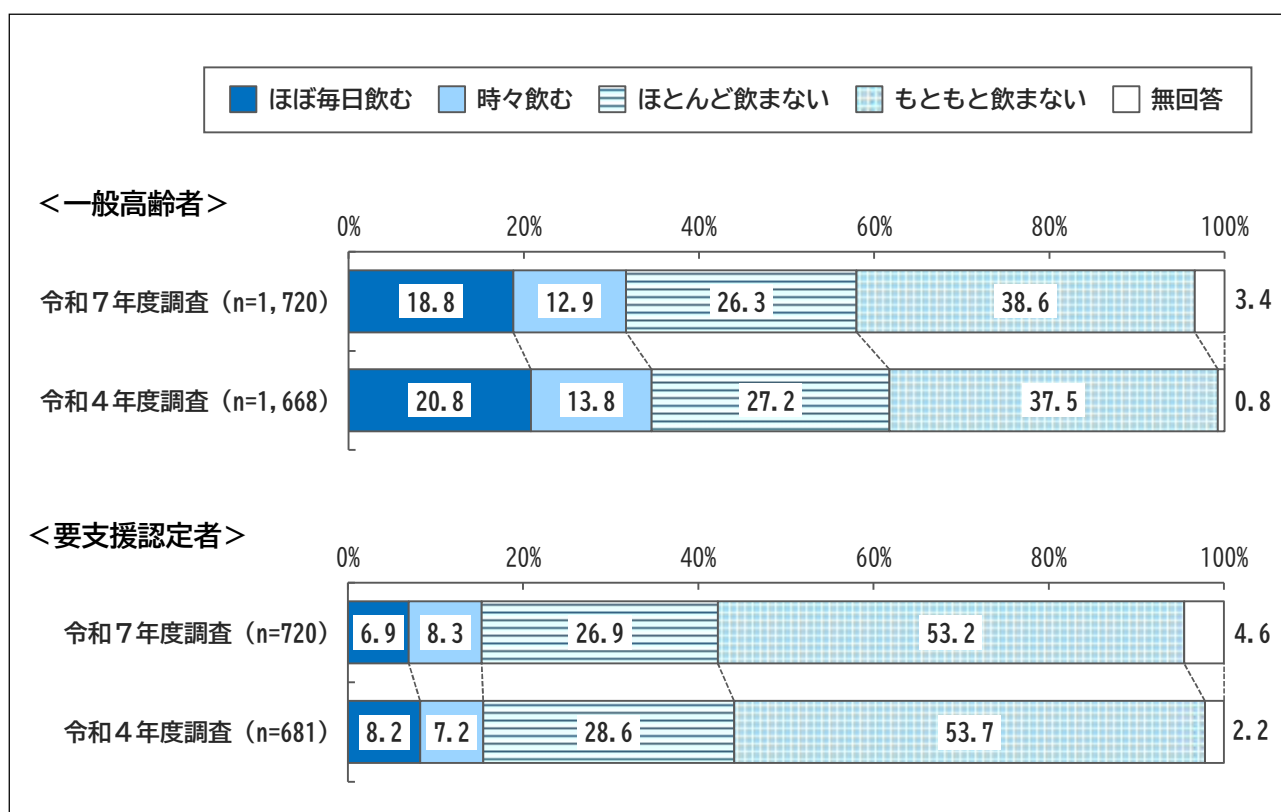
「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」の割合を合計した、『飲酒の習慣がある』人の割合は、令和4年度の34.6%に対し、令和7年度は31.7%となっており、2.9ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「ほとんど飲まない」が1.7ポイント減少しています。

『飲酒の習慣がある』人の割合は、令和4年度の15.4%に対し、令和7年度は15.2%となっており、0.2ポイントとわずかに減少しています。

図表 143 飲酒の習慣（前回比較）



問8（6）タバコは吸っていますか。

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「吸っていたがやめた」が1.3ポイント増加し、「もともと吸っていない」が2.6ポイント減少しています。

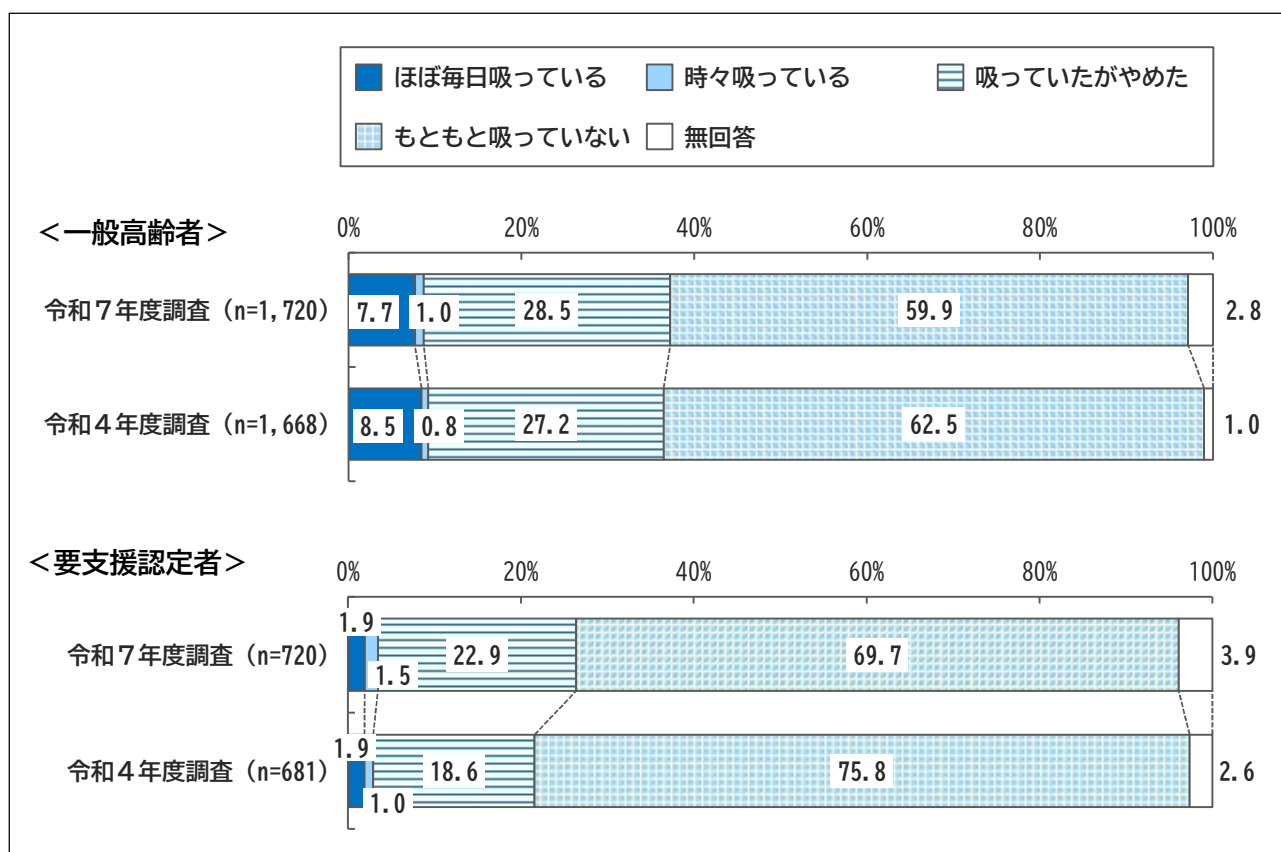
「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」の割合を合計した、『喫煙の習慣がある』人の割合は、令和4年度の9.3%に対し、令和7年度は8.7%となっており、0.6ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「吸っていたがやめた」が4.3ポイント増加し、「もともと吸っていない」が6.1ポイント減少しています。

『喫煙の習慣がある』人の割合は、令和4年度の2.9%に対し、令和7年度は3.4%となっており、0.5ポイント増加しています。

図表 144 喫煙の習慣（前回比較）

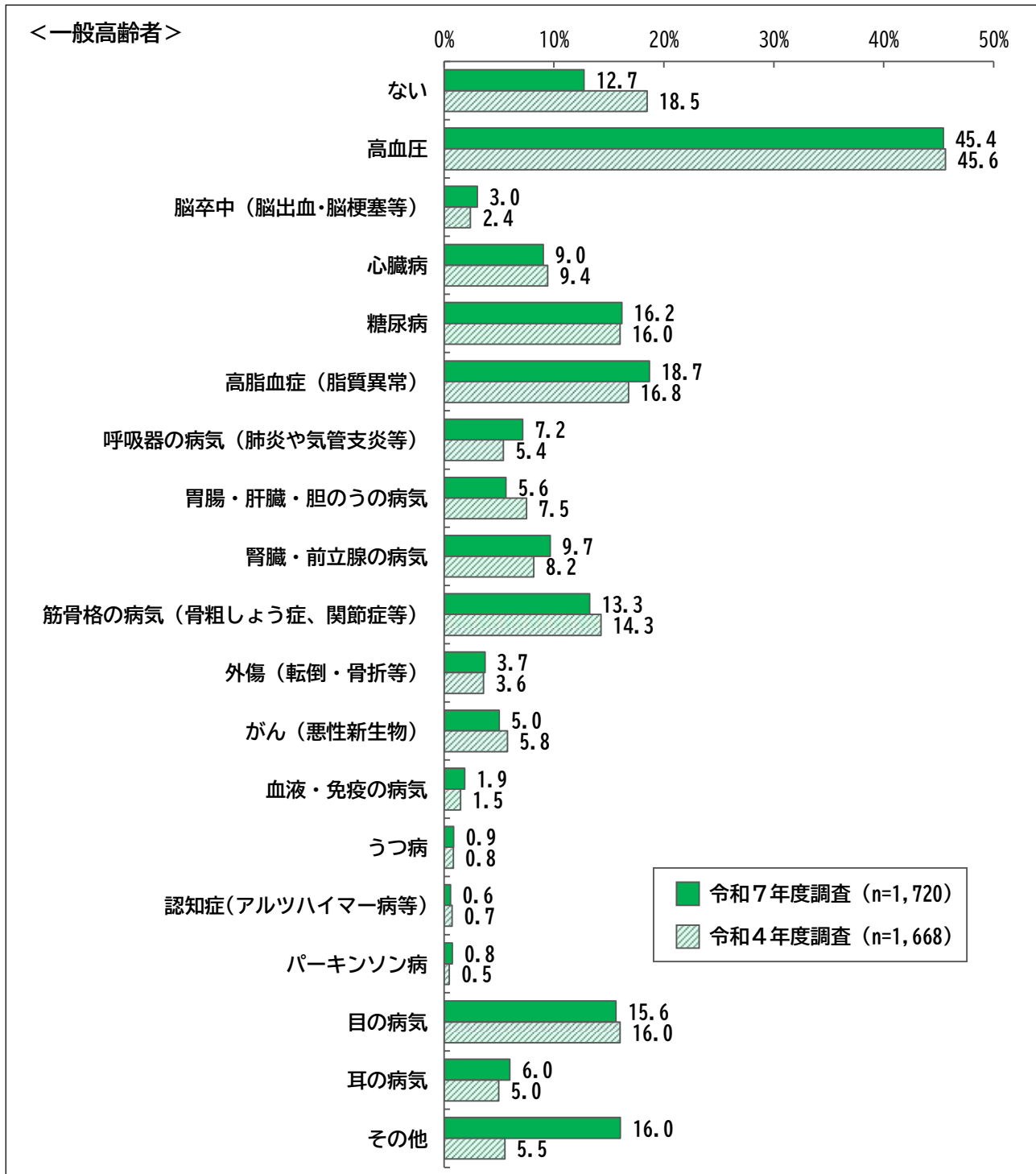


問8（7）現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。（いくつでも）

【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「高脂血症（脂質異常）」は1.9ポイント、「呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）」は1.8ポイント、「腎臓・前立腺の病気」は1.5ポイント増加しており、「ない」は5.8ポイント、「胃腸・肝臓・胆のうの病気」は1.9ポイント減少しています。

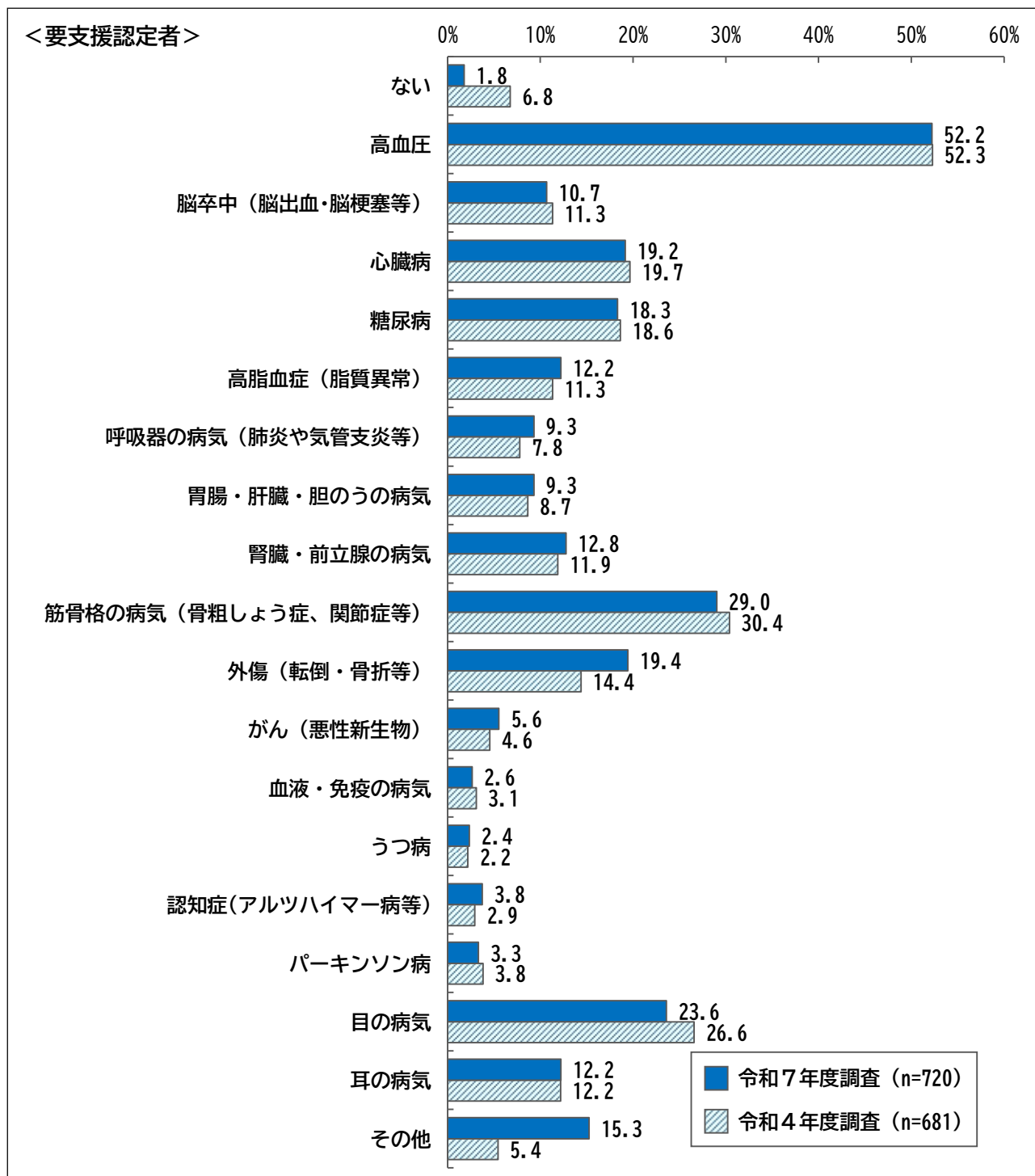
図表 145 現在治療中、後遺症のある病気（前回比較／複数回答）



【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「ない」は5.0ポイント、「目の病気」は3.0ポイント減少しており、「外傷（転倒・骨折等）」は5.0ポイント増加しています。

図表 146 現在治療中、後遺症のある病気（前回比較／複数回答）



8 認知症にかかる相談窓口の把握について

問 10（１）認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人いますか。

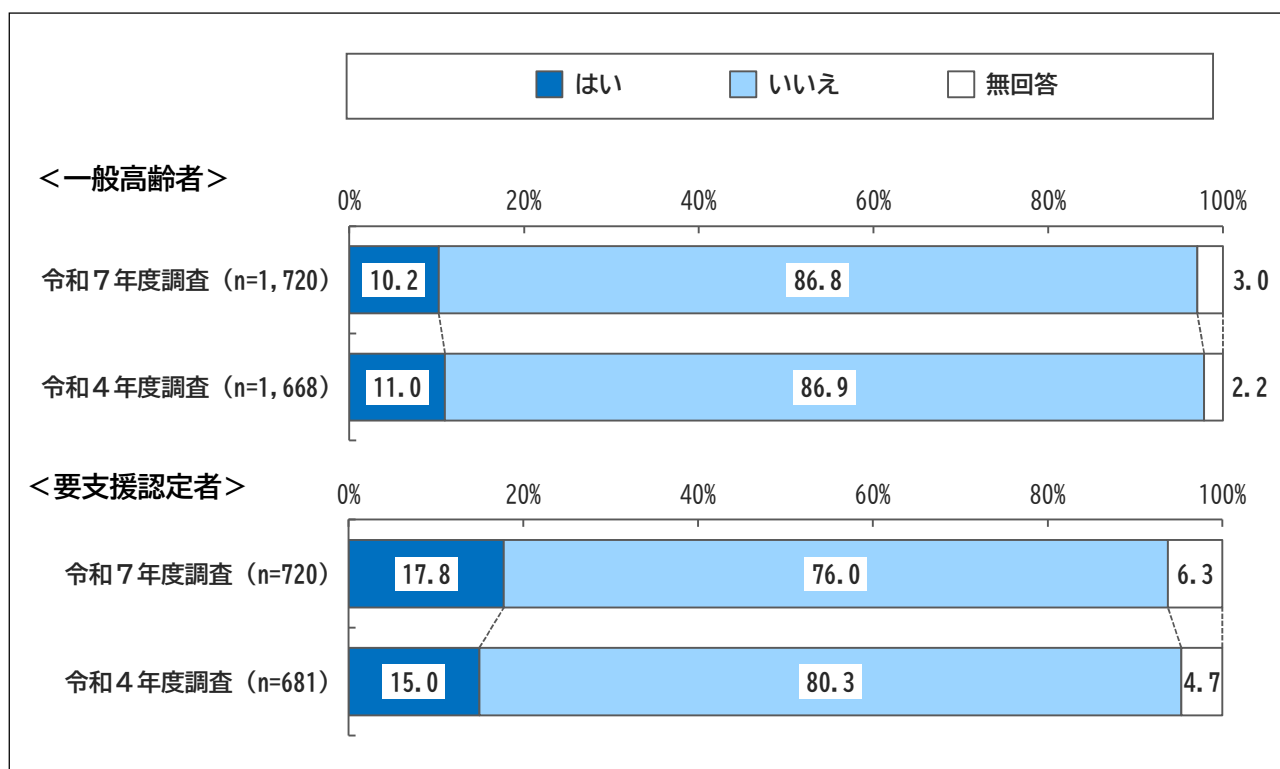
【一般高齢者】

令和４年度調査と比較すると、「はい」が0.8ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和４年度調査と比較すると、「いいえ」が4.3ポイント減少しています。

図表 147 本人または家族の認知症の症状の有無について（前回比較）



問10（2）認知症に関する相談窓口を知っていますか。

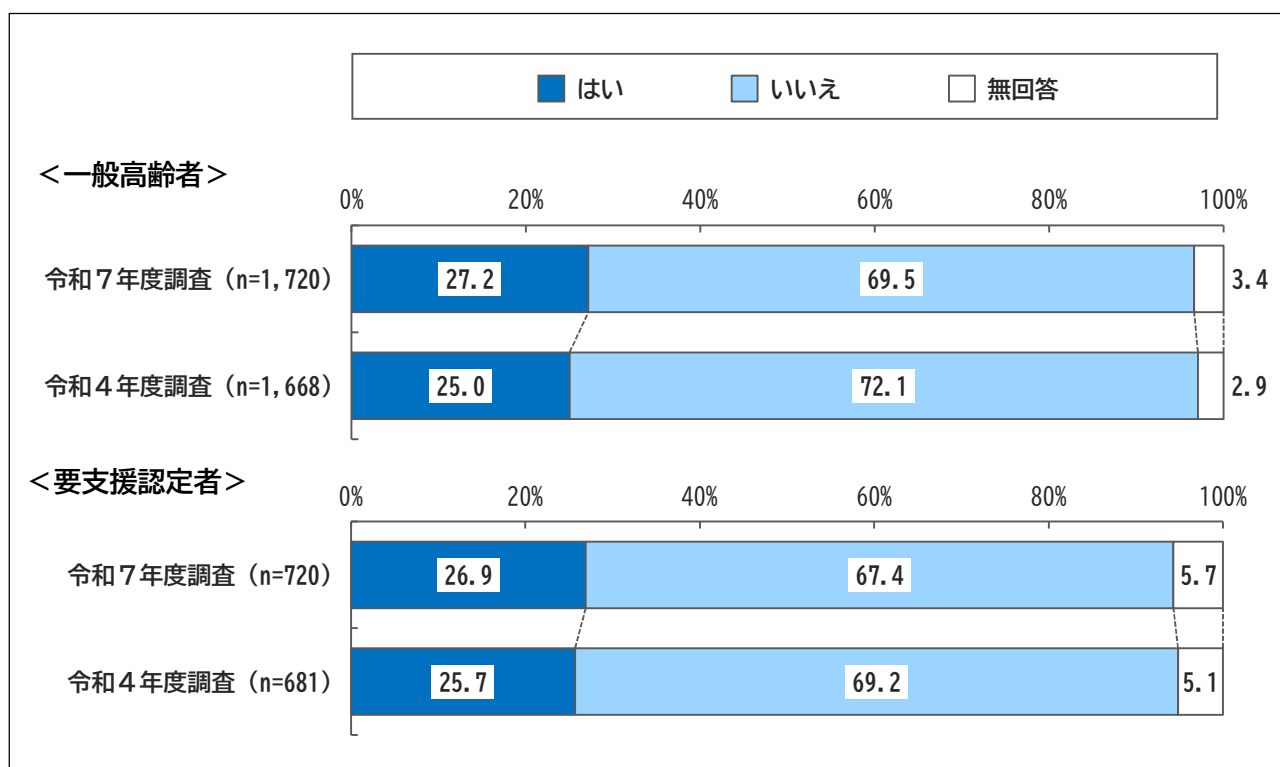
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が2.2ポイント増加しており、認知度は上がっています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「はい」が1.2ポイント増加しており、認知度は上がっています。

図表 148 認知症に関する相談窓口の認知度（前回比較）



※問 10（2）で「はい」と答えたかたのみ

問 10（2－1）相談窓口で知っているところはどこですか。（いくつでも）

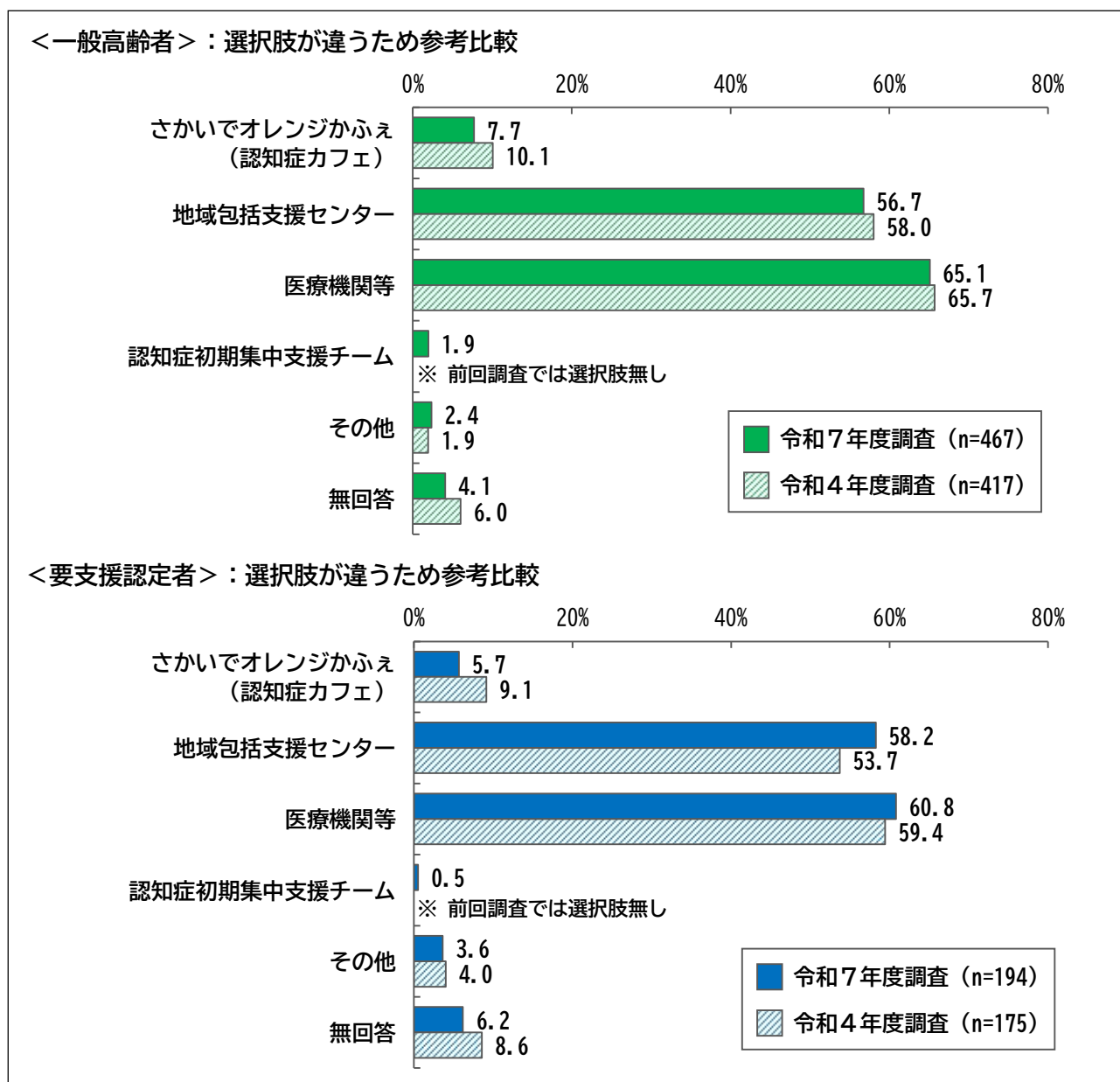
【一般高齢者】

令和 4 年度調査と比較すると、「さかいでオレンジかふえ（認知症カフェ）」が 2.4 ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和 4 年度調査と比較すると、「地域包括支援センター」が 4.5 ポイント増加しています。

図表 149 知っている認知症の相談窓口（前回比較／複数回答）



問 10（3）認知症のかたへの支援として、あなたにできることはありますか。（いくつでも）

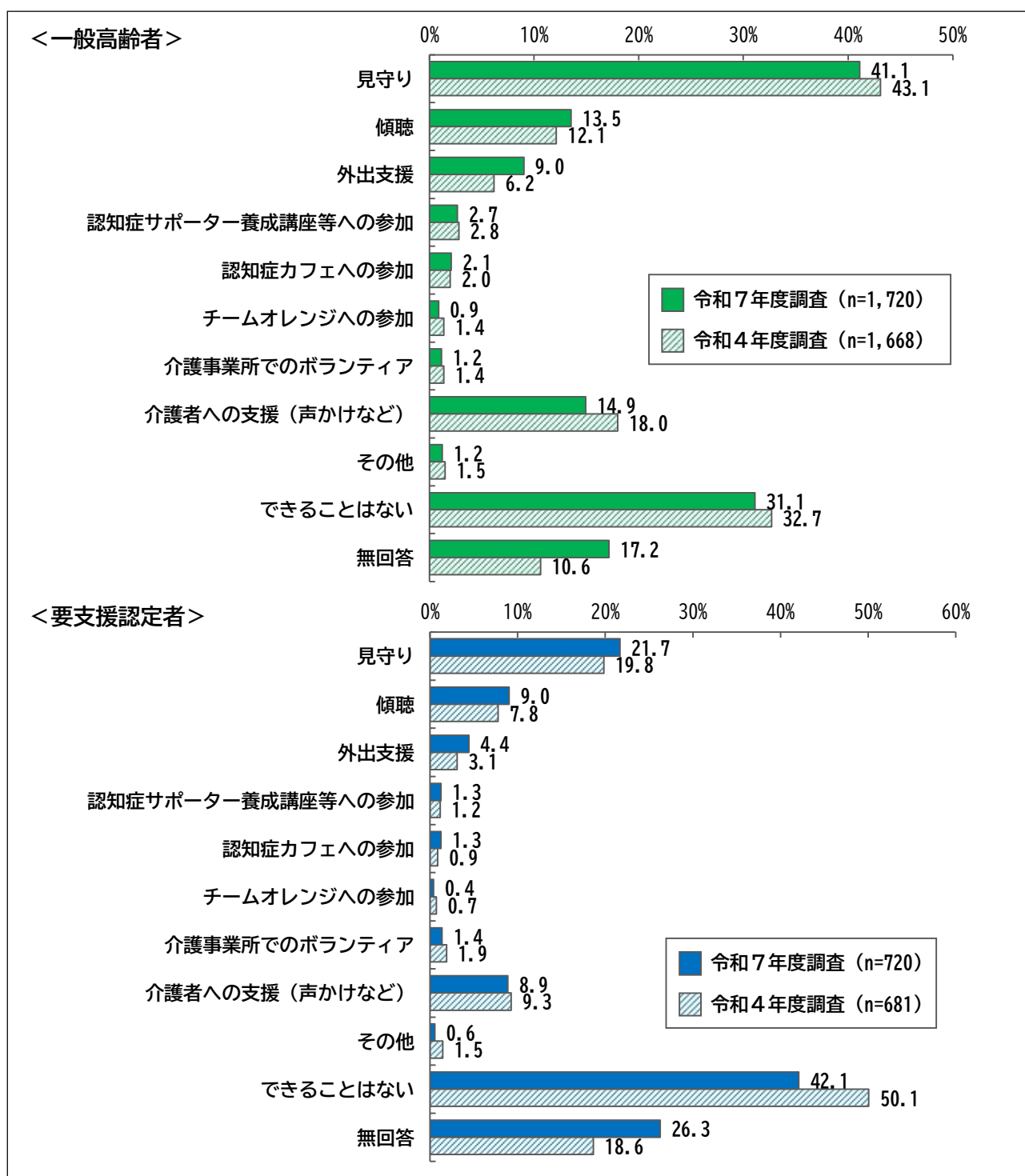
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「介護者への支援（声かけなど）」が3.1ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「できることはない」が8.0ポイント減少しています。

図表 150 認知症のかたにできる支援（前回比較／複数回答）



9 在宅医療・介護について

問 11（１）あなたは、自分の希望する治療やケアについて、家族等と話し合ったことがありますか。

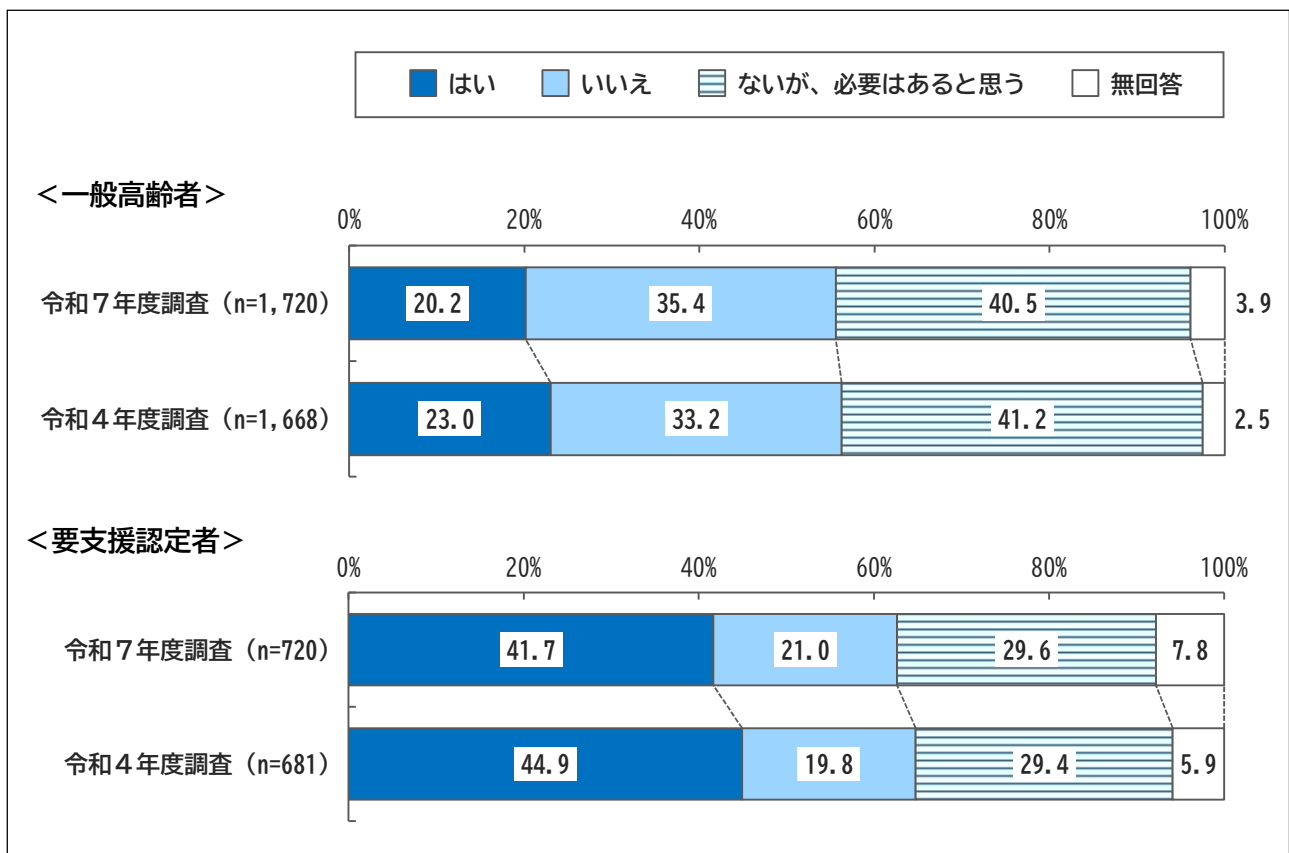
【一般高齢者】

令和４年度調査と比較すると、「はい」が2.8ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和４年度調査と比較すると、「はい」が3.2ポイント減少しています。

図表 151 治療・ケアに関する家族間の話し合いの有無（前回比較）



問11（2）あなたは、自分の希望する治療やケアについて、書面を作成していますか。

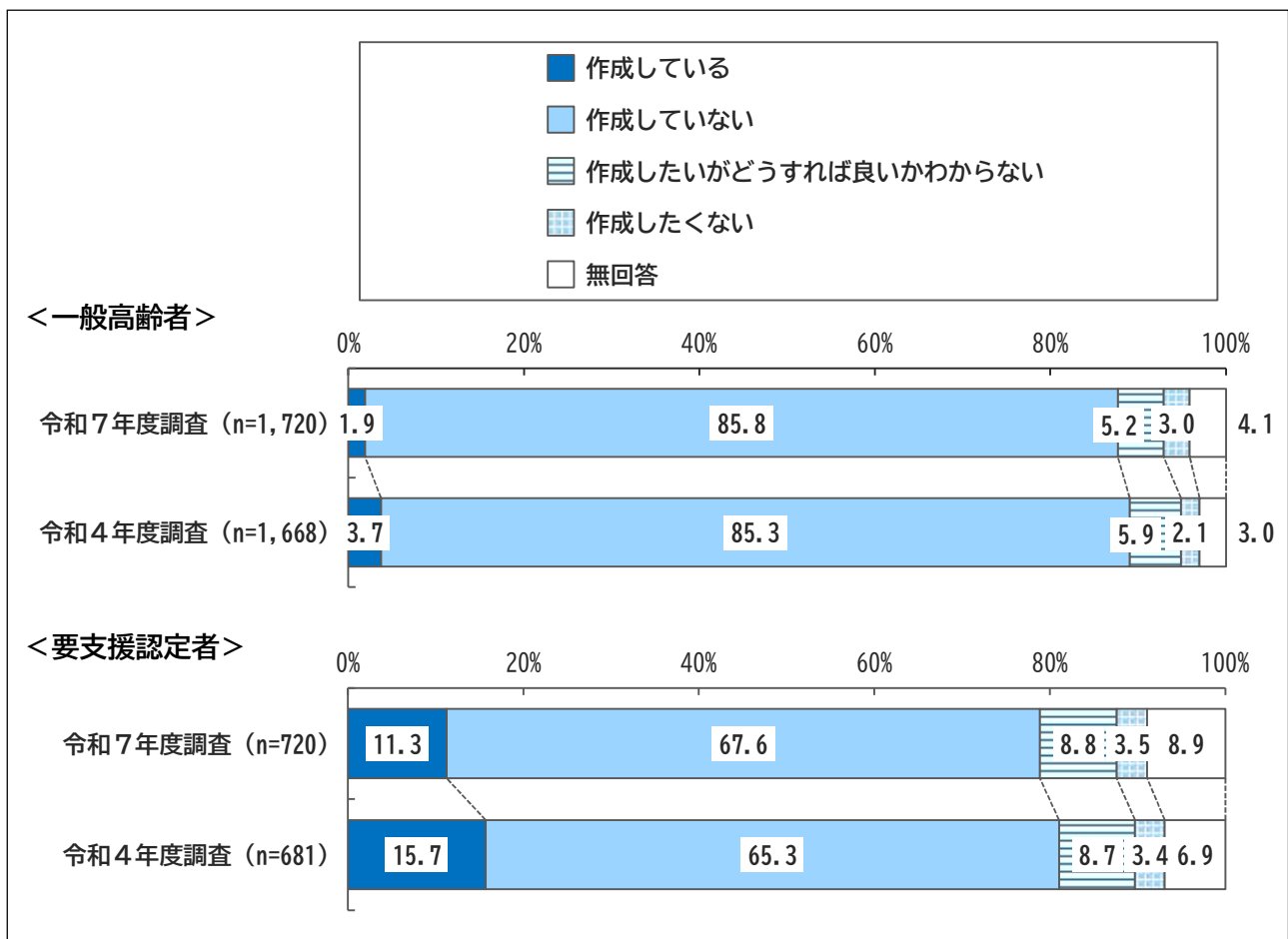
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「作成している」は1.8ポイント減少しており、「作成していない」は0.5ポイント増加しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「作成している」は4.4ポイント減少しており、「作成していない」は2.3ポイント増加しています。

図表 152 治療・ケアに関する書面作成の状況（前回比較）



10 介護・福祉サービスについて

問 12（１）平均寿命が 80 歳を超えていく中、長い人生を自分らしく過ごすためには、心と体の健康寿命を伸ばすことが大切です。本市では、高齢者の皆さん自ら介護予防を行う手助けとして「はつらつ教室」等、様々な「介護予防事業」を行っています。
市が行う「介護予防事業」について当てはまるものを 1 つだけ選んでください。

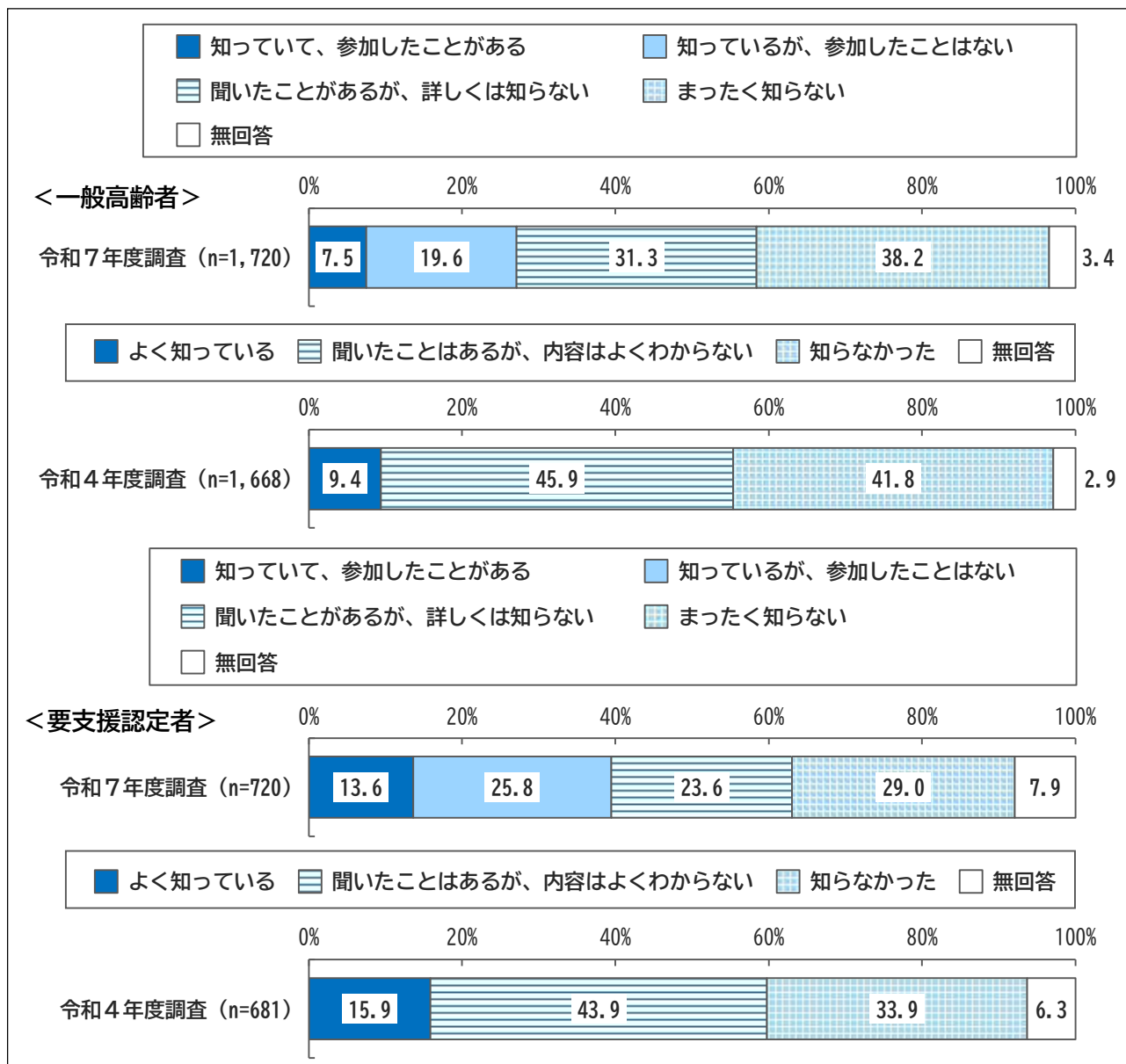
【一般高齢者】

令和 4 年度調査と比較すると、選択肢に違いがありますが、「まったく知らない」（令和 4 年度：「知らなかった」）が 3.6 ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和 4 年度調査と比較すると、選択肢に違いがありますが、「まったく知らない」（令和 4 年度：「知らなかった」）が 4.9 ポイント減少しています。

図表 153 介護予防事業の認知度（前回比較：参考）



問 12（２）介護予防の取り組みを推進することは、大切だと思いますか。

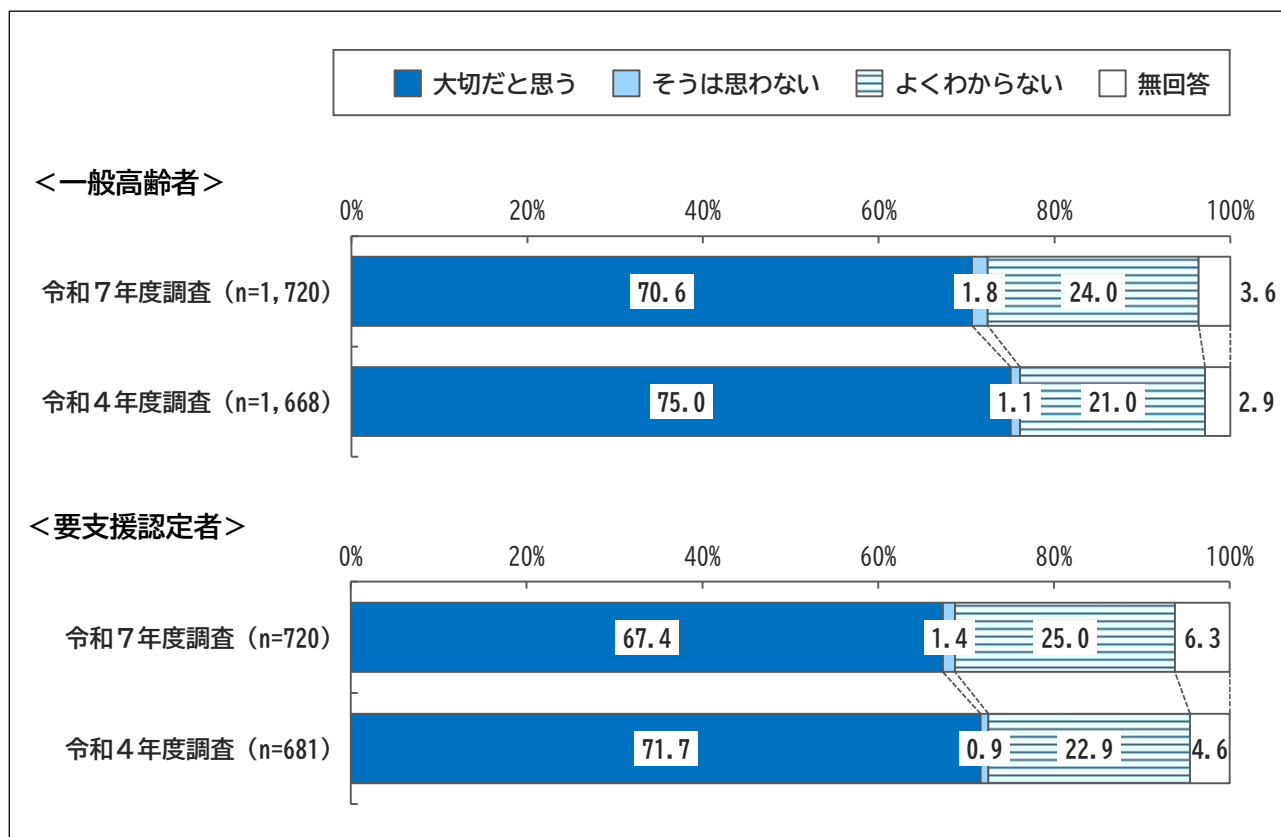
【一般高齢者】

令和４年度調査と比較すると、「大切だと思う」が４.４ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和４年度調査と比較すると、「大切だと思う」が４.３ポイント減少しています。

図表 154 介護予防の取り組み推進は大切だと思うか（前回比較）



問 12（3）将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。
一番近いものを1つだけ選んでください。

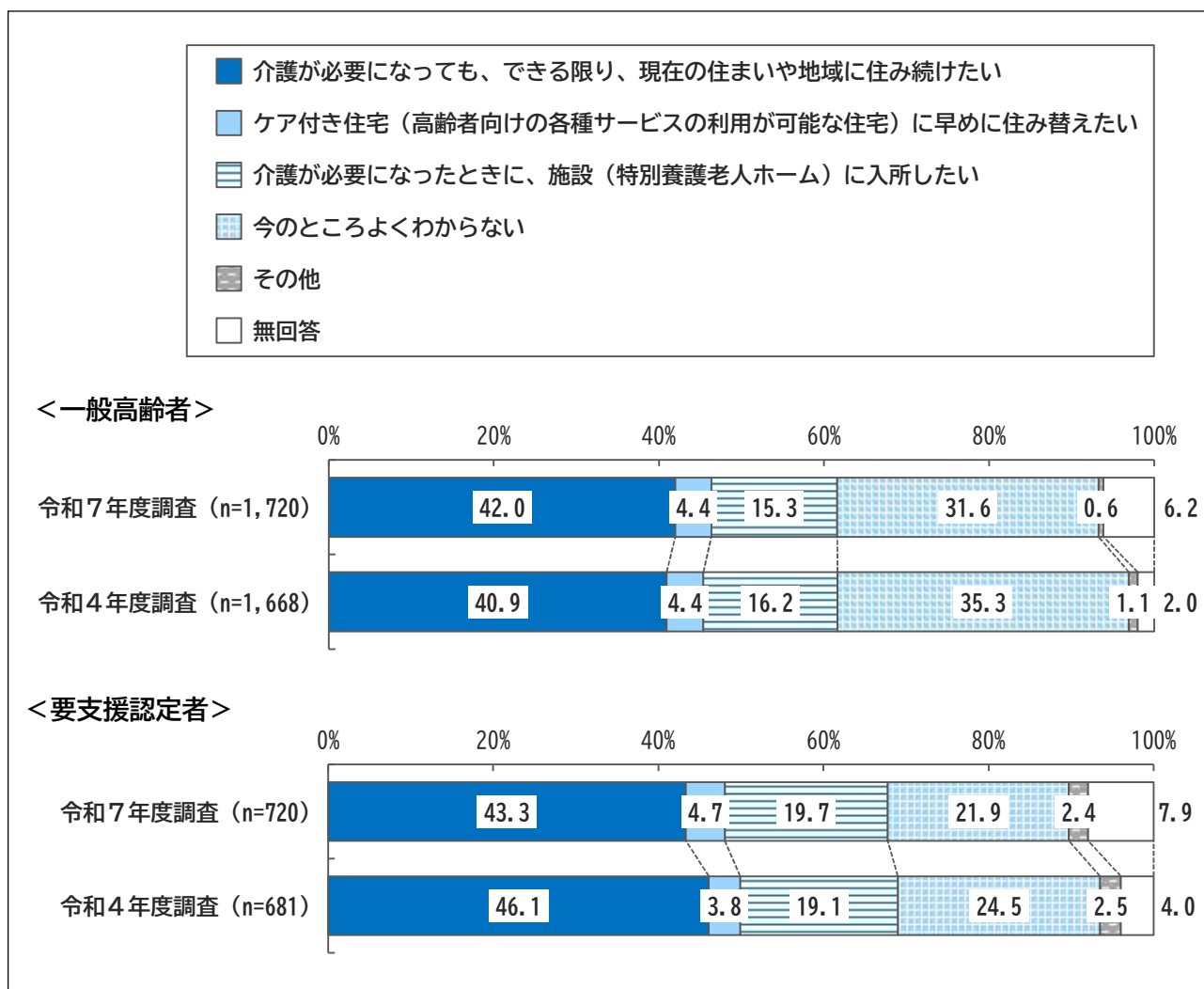
【一般高齢者】

令和4年度調査と比較すると、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が1.1ポイント増加しています。一方、「今のところよくわからない」が3.7ポイント減少しています。

【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい」が0.9ポイント増加しています。一方、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が2.8ポイント、「今のところよくわからない」が2.6ポイント減少しています。

図表 155 将来の住まいと介護サービスの利用について（前回比較）



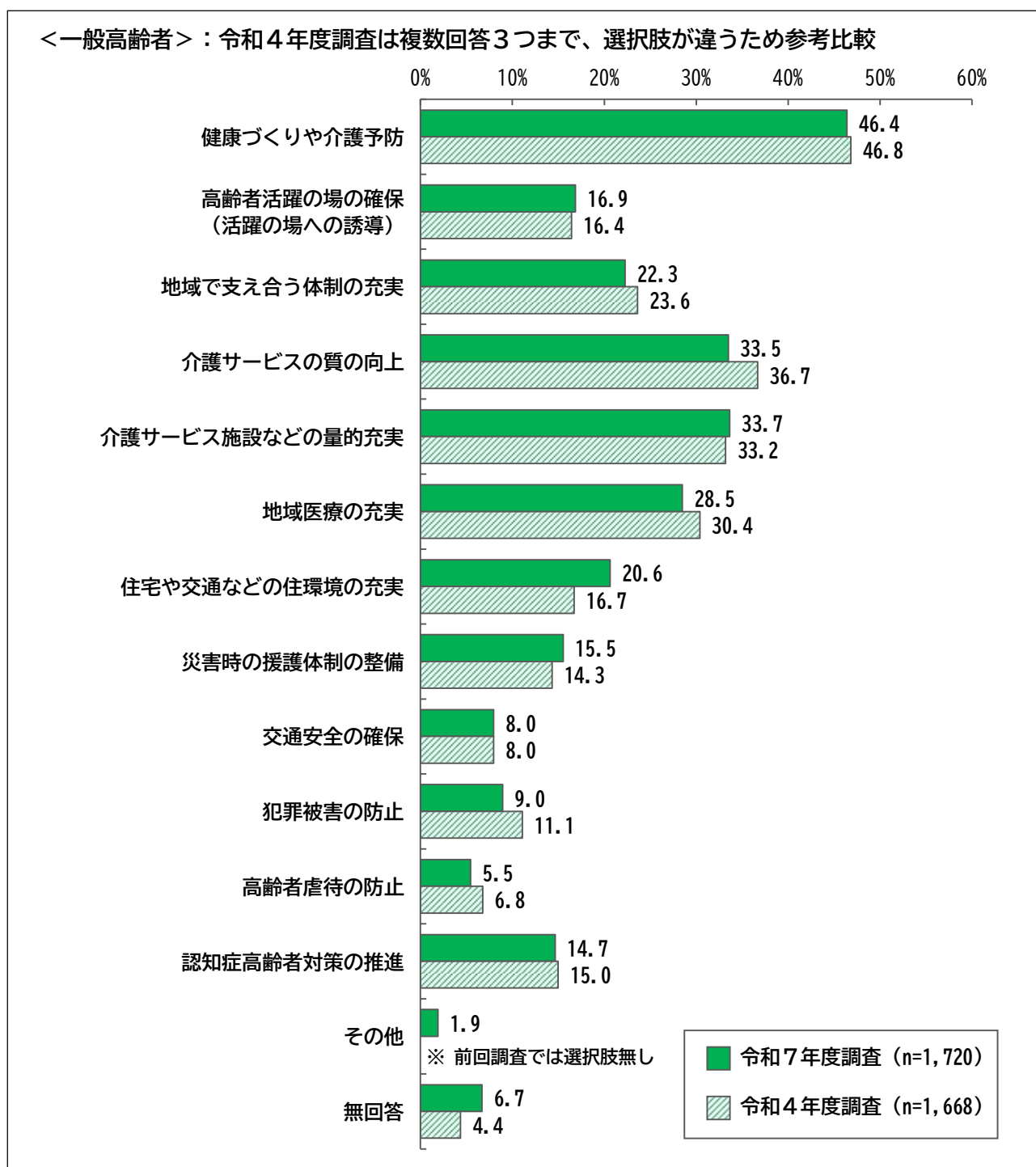
問 12（４）今後も高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策を次の中から３つまで選んでください。

※４つ以上の回答が多かったため、（いくつでも）に変更して集計

【一般高齢者】

令和４年度調査と比較すると、「住宅や交通などの住環境の充実」は 3.9 ポイント増加していますが、「介護サービスの質の向上」が 3.2 ポイント、「犯罪被害の防止」が 2.1 ポイント、「地域医療の充実」が 1.9 ポイント減少しています。

図表 156 高齢化社会において重要な方策（前回比較／複数回答）

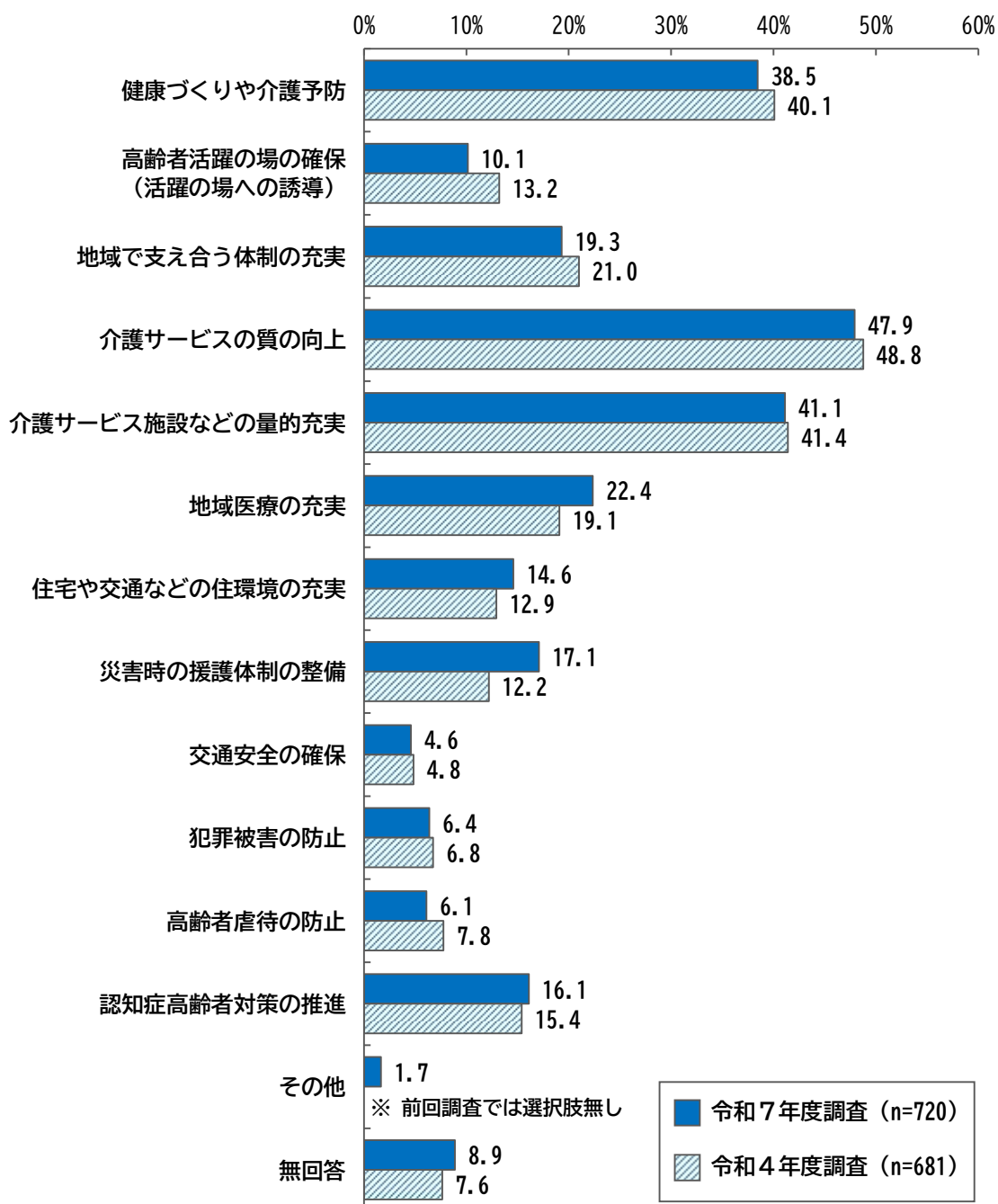


【要支援認定者】

令和4年度調査と比較すると、「災害時の援護体制の整備」が4.9ポイント、「地域医療の充実」が3.3ポイント増加し、「高齢者活躍の場の確保（活躍の場への誘導）」が3.1ポイント減少しています。

図表 157 高齢化社会において重要な方策（前回比較／複数回答）

<要支援認定者>：令和4年度調査は複数回答3つまで、選択肢が異なるため参考比較



V 生活機能評価等に関する分析

I 機能別リスク該当者割合の分析

・リスク判定方法

	問NO.	質問項目	該当する選択肢
運動器の機能低下	問2 (1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	「3. できない」
	問2 (2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	「3. できない」
	問2 (3)	15分位続けて歩いていますか。	「3. できない」
	問2 (4)	過去1年間に転んだ経験がありますか。	「1. 何度もある」 or 「2. 1度ある」
	問2 (5)	転倒に対する不安は大きいですか。	「1. とても不安である」 or 「2. やや不安である」
リスク 転倒	問2 (4)	過去1年間に転んだ経験がありますか。	「1. 何度もある」 or 「2. 1度ある」
閉じこもり 傾向	問2 (6)	週に1回以上は外出していますか。	「1. ほとんど外出しない」 or 「2. 週1回」
状態 低栄養	問3 (1)	身長・体重を教えてください。	BMI <18.5
	問3 (7)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	「1. はい」
口腔機能 低下	問3 (2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	「1. はい」
	問3 (3)	お茶や汁物等でむせることがありますか。	「1. はい」
	問3 (4)	口の渇きが気になりますか。	「1. はい」
認知機能 低下	問4 (1)	物忘れが多いと感じますか。	「1. はい」
うつ 傾向	問8 (3)	この1か月間、気分が沈んだり、 ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	「1. はい」
	問8 (4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、 あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	「1. はい」

■判定方法・・・該当する選択肢を回答した場合を1点としたときの合計点、または該当選択肢を回答した場合

- ①運動器の機能低下・・・該当：3点以上
- ②転倒リスク・・・・・・該当：該当選択肢を回答した場合
- ③閉じこもり傾向・・・・該当：該当選択肢を回答した場合
- ④低栄養状態・・・・・・該当：2点
- ⑤口腔機能の低下・・・・該当：2点以上
- ⑥認知機能の低下・・・・該当：該当選択肢を回答した場合
- ⑦うつ傾向・・・・・・該当：1点以上

(1) 運動器の機能低下

【認定状況別リスク該当状況】

運動器の機能低下のリスク該当者を認定状況別・年齢階級別にみると、事業対象者、要支援認定者では、一般高齢者に比べてリスク該当者の割合が高くなっています。また、一般高齢者、事業対象者、要支援認定者いずれも 85 歳以上での割合が最も高くなっています。

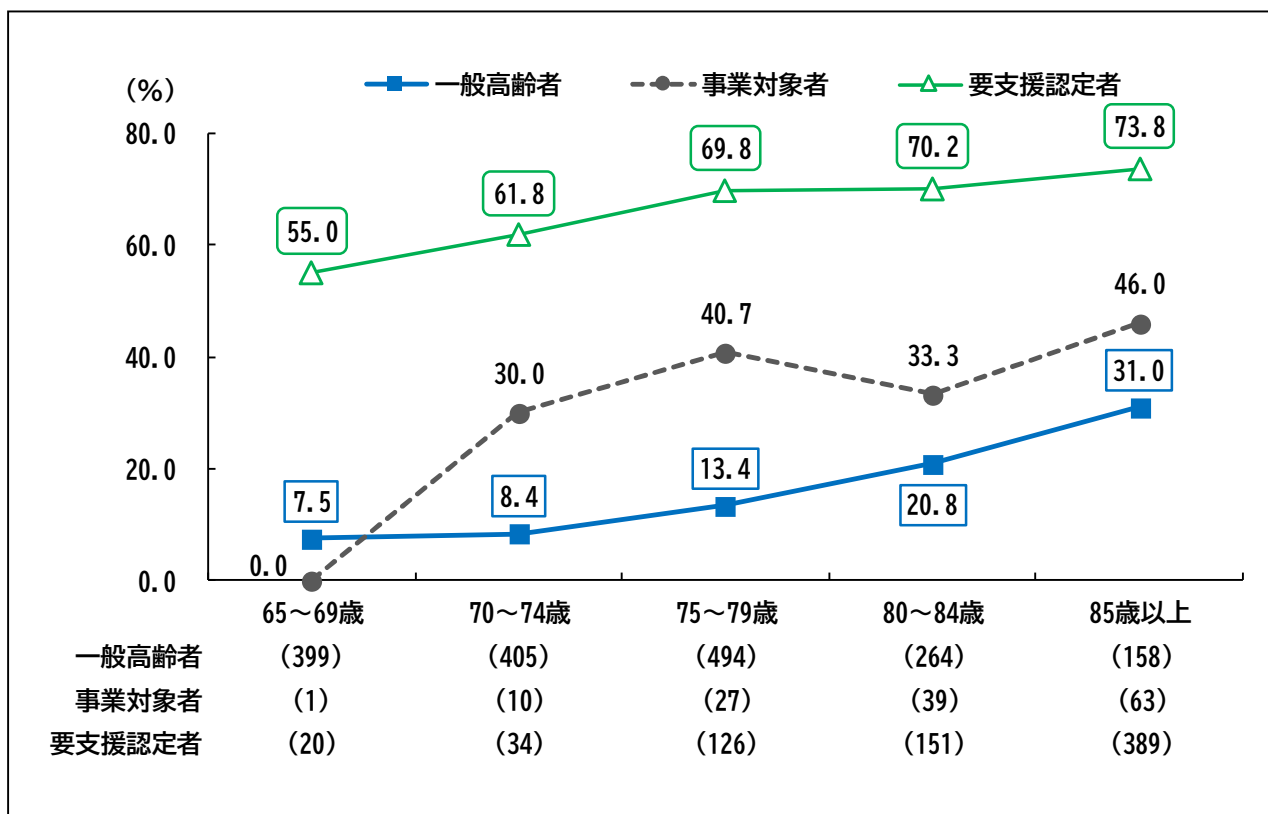
【一般高齢者のリスク該当状況】

一般高齢者のリスク該当者の割合をみると、全体平均は前回調査より 1.3 ポイント低くなり、13.6%となっています。

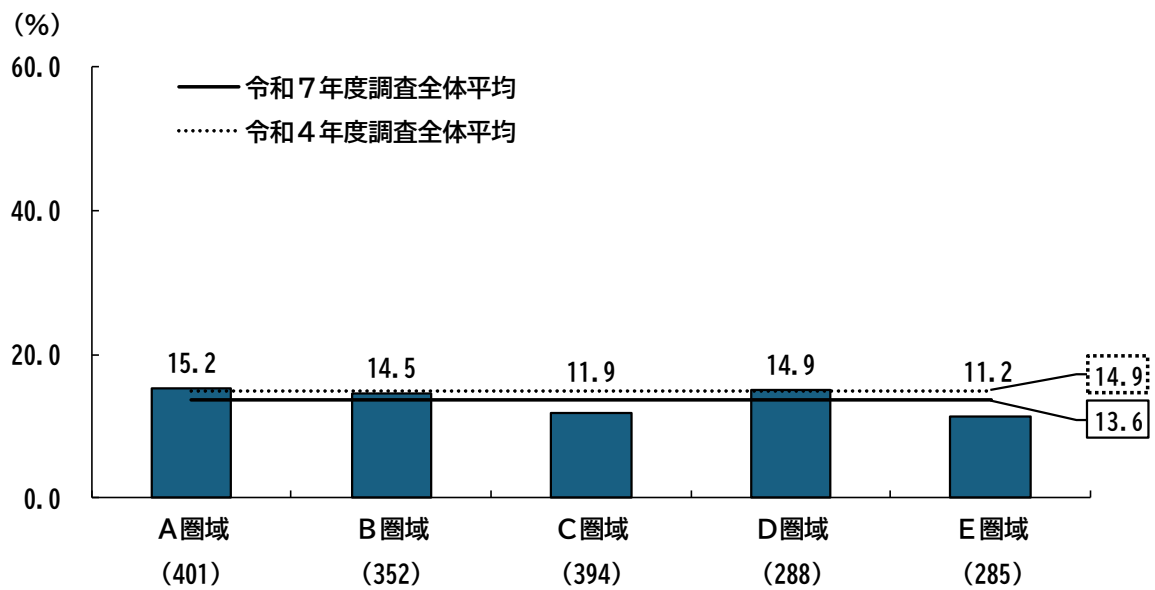
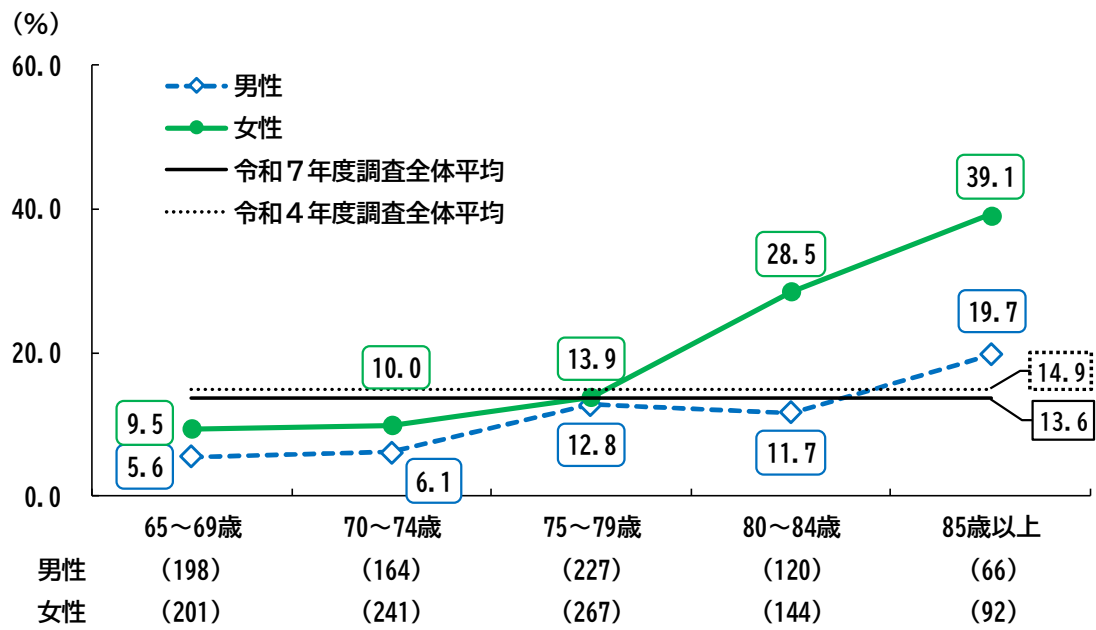
性別にみると、女性は男性に比べてリスク該当者の割合が高く、特に 80 歳以上でその差が顕著となっています。

圏域別にみると、A 圏域、B 圏域、D 圏域で全体平均の 13.6%を超えています。最も割合が低い圏域は E 圏域の 11.2%となっており、最も高い圏域は A 圏域の 15.2%となっています。

図表 158 運動器の機能低下の該当者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 159 運動器の機能低下の該当者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）



（２）転倒リスク

【認定状況別リスク該当状況】

転倒のリスク該当者を認定状況別・年齢階級別にみると、事業対象者、要支援認定者では、一般高齢者に比べてリスク該当者の割合が高くなっています。

また、一般高齢者では 85 歳以上、事業対象者では 70～74 歳、要支援認定者では 80～84 歳で最も割合が高くなっています。

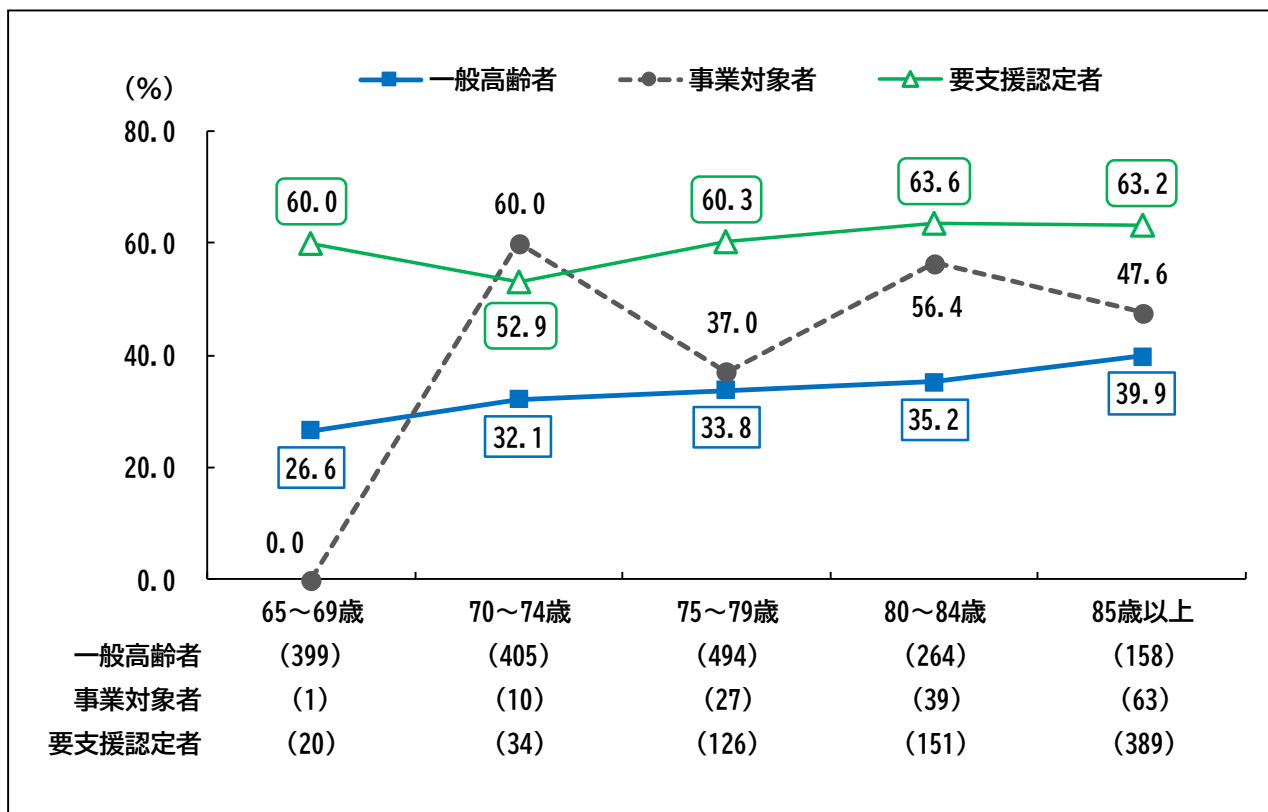
【一般高齢者のリスク該当状況】

一般高齢者のリスク該当者の割合をみると、全体平均は前回調査より 2.0 ポイント低くなり、32.5%となっています。

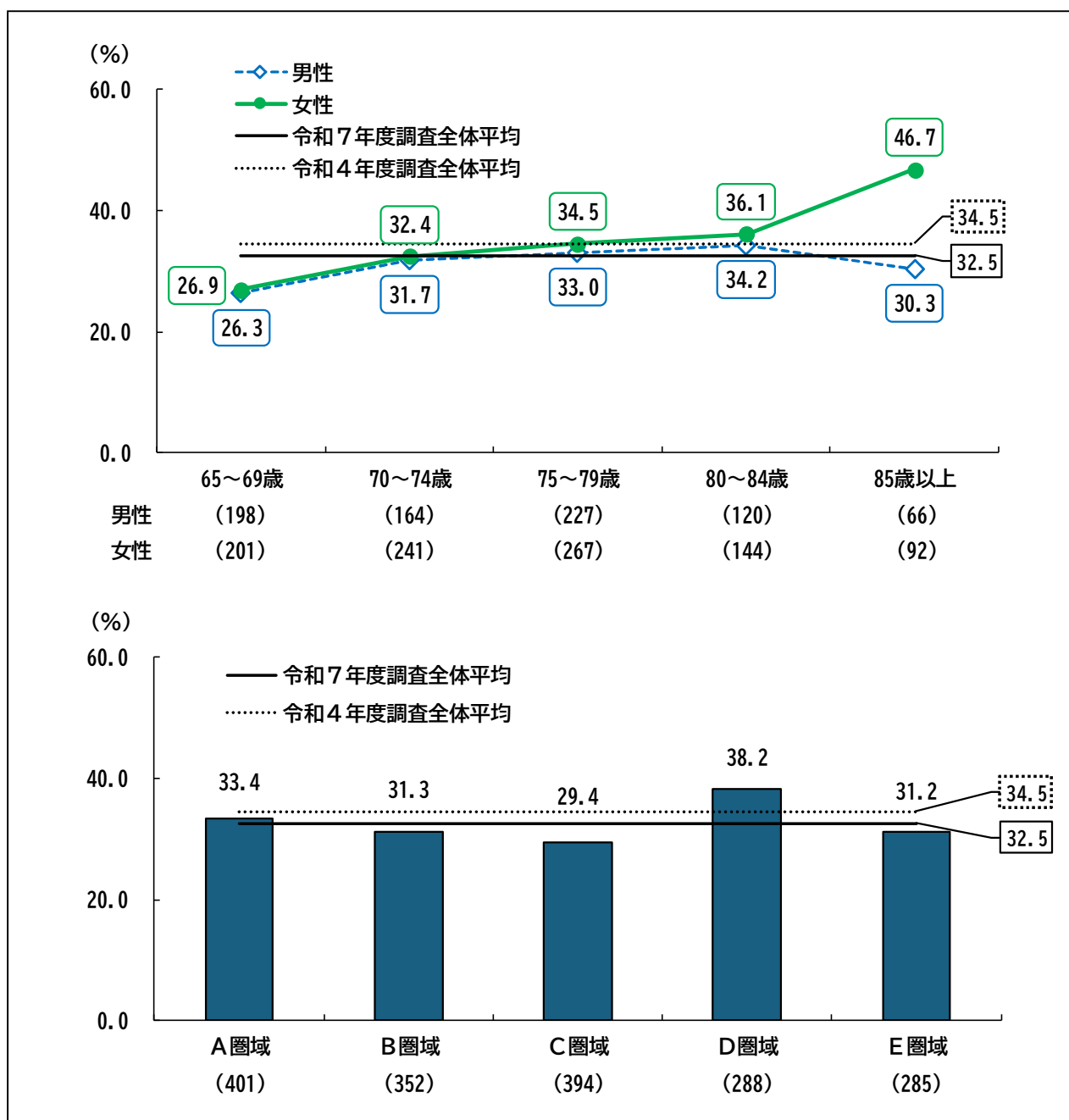
性別にみると、女性は男性に比べてリスク該当者の割合が高く、特に 85 歳以上では 16.4 ポイント差となっています。

圏域別にみると、A 圏域、D 圏域で全体平均の 32.5%を超えています。最も割合が低い圏域は C 圏域の 29.4%となっており、最も高い圏域は D 圏域の 38.2%となっています。

図表 160 転倒リスク該当者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 161 転倒リスク該当者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）



(3) 閉じこもり傾向

【認定状況別リスク該当状況】

閉じこもり傾向のリスク該当者を認定状況別・年齢階級別にみると、70～74歳で事業対象者の割合が高くなっていますが、それ以外の年齢階級では、要支援認定者の割合が最も高くなっています。

また、一般高齢者、要支援認定者では85歳以上でリスク該当者の割合が最も高くなっています。

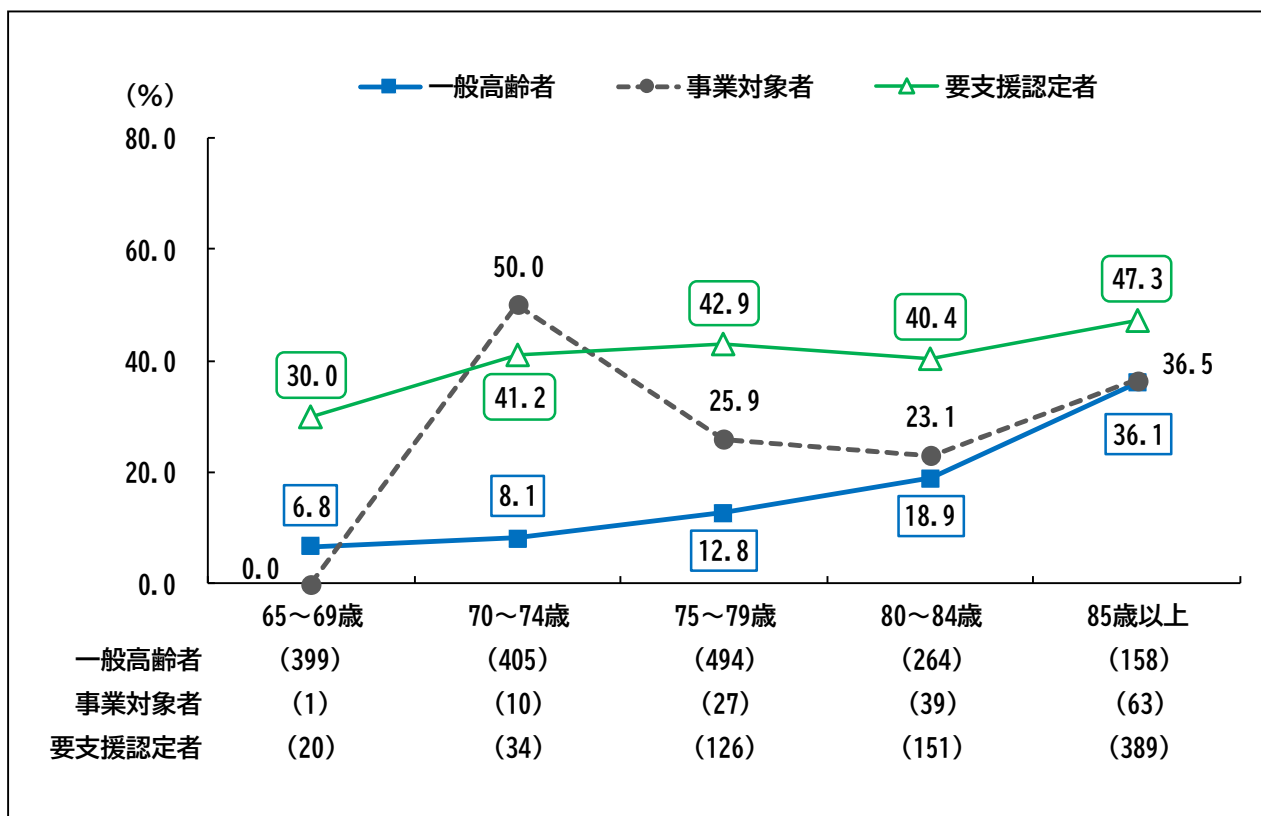
【一般高齢者のリスク該当状況】

一般高齢者のリスク該当者の割合をみると、全体平均は前回調査より0.7ポイント低くなり、13.4%となっています。

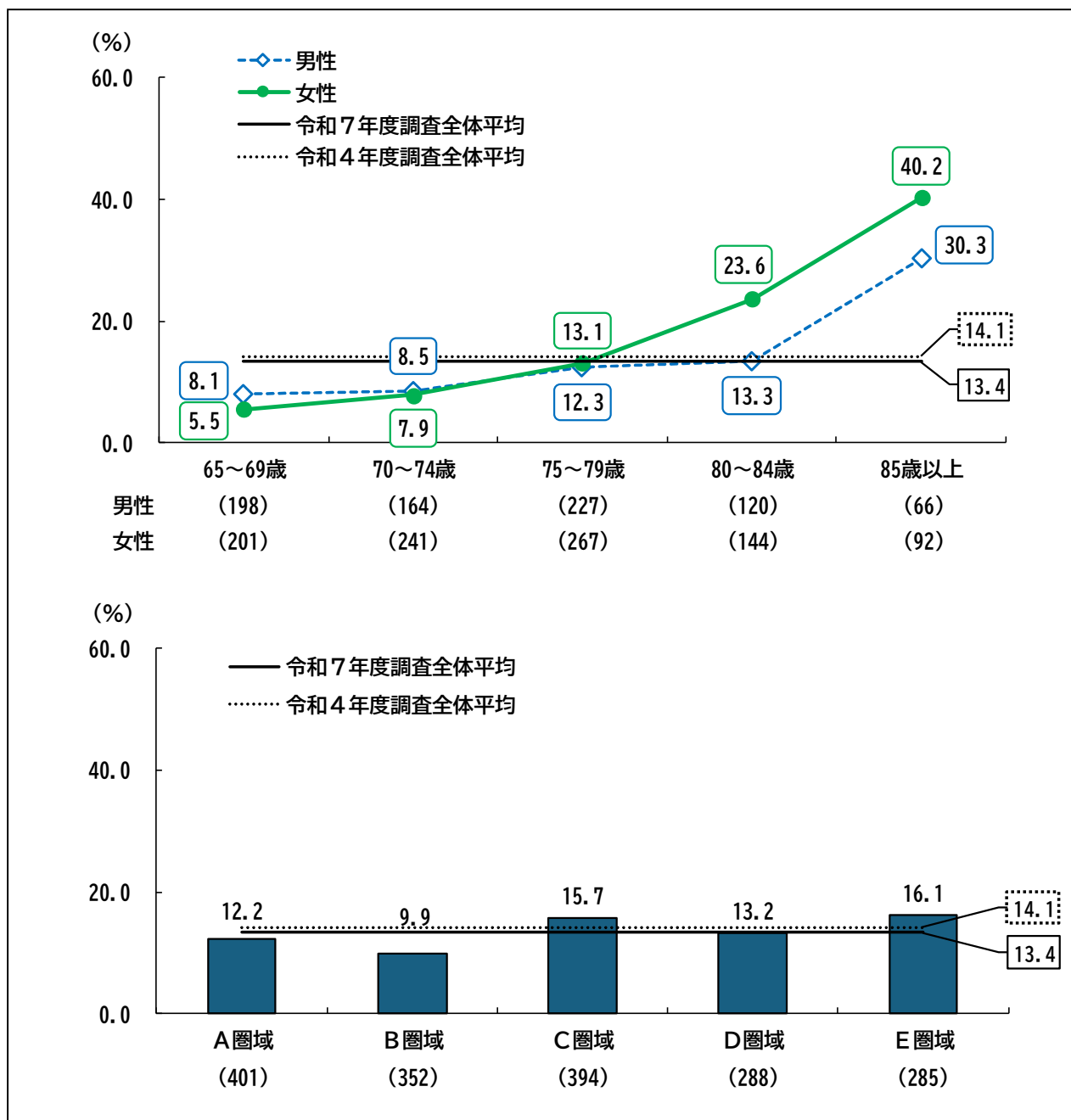
性別にみると、65～79歳までは男女で割合に大差はみられませんが、80歳以上では女性が男性を上回る結果となっています。

圏域別にみると、C圏域、E圏域で全体平均の13.4%を超えています。最も割合が低い圏域はB圏域の9.9%となっており、最も高い圏域はE圏域の16.1%となっています。

図表 162 閉じこもり傾向リスク該当者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 163 閉じこもり傾向リスク該当者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）



(4) 低栄養状態

【認定状況別リスク該当状況】

低栄養状態のリスク該当者を認定状況別・年齢階級別にみると、一般高齢者、事業対象者では65～84歳までは大差はみられませんが、事業対象者の85歳以上では6.3%とリスク該当者の割合が最も高くなっています。

また、要支援認定者の65～69歳では10.0%、70～74歳では5.9%とその割合は突出しています。

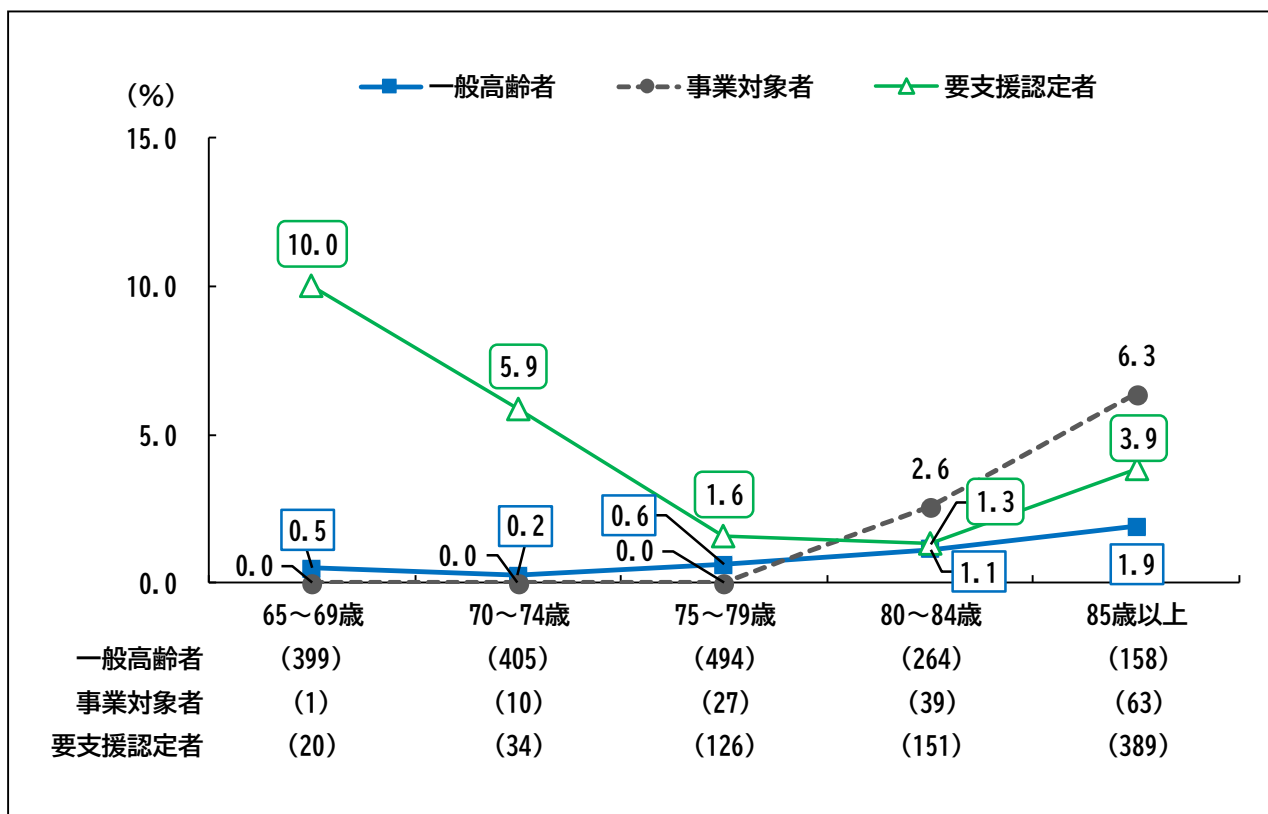
【一般高齢者のリスク該当状況】

一般高齢者のリスク該当者の割合をみると、全体平均は前回調査より0.2ポイント低くなり、0.7%となっています。

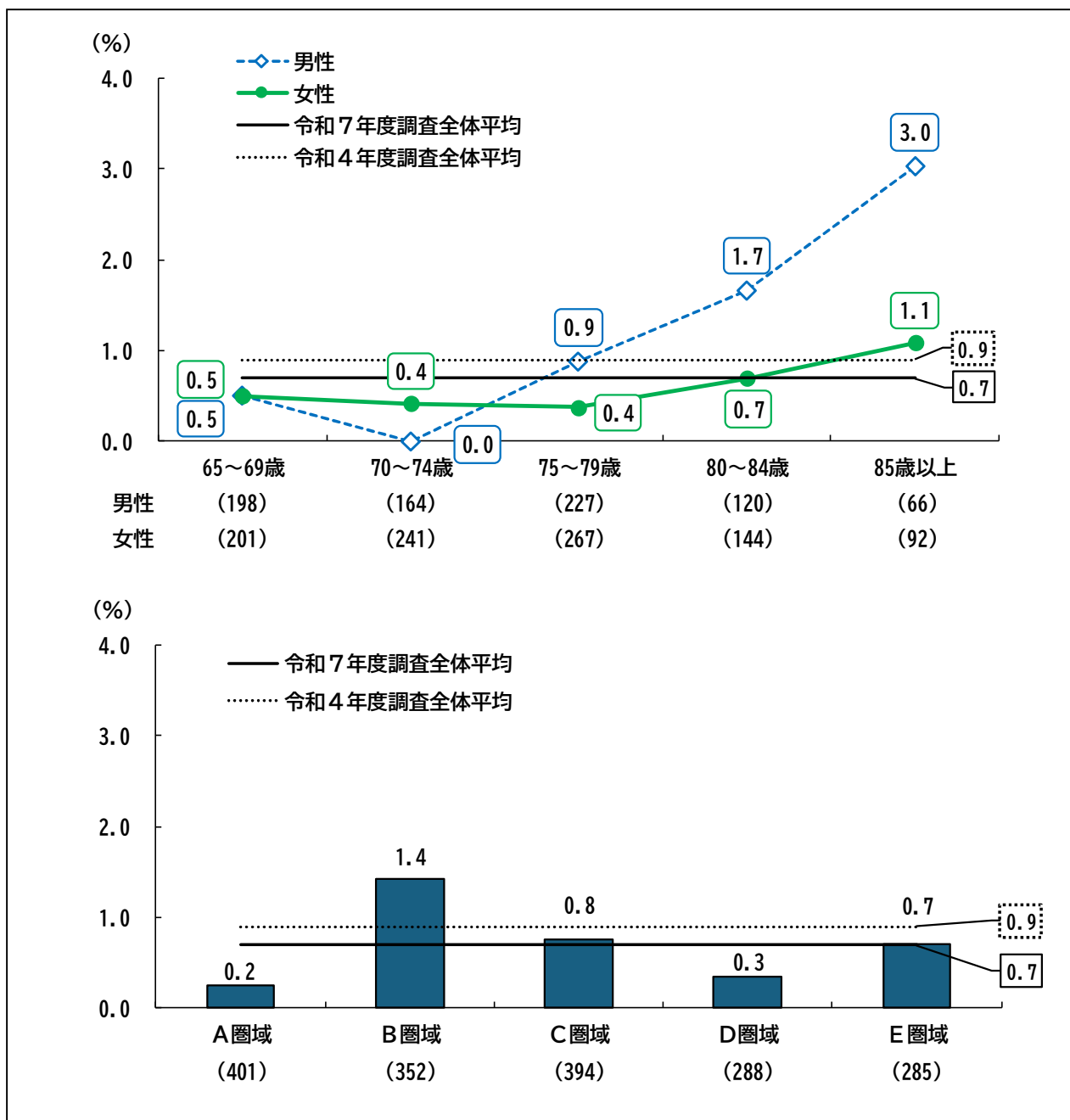
性別にみると、75歳以上では男性が女性を上回っています。

圏域別にみると、B圏域、C圏域で全体平均の0.7%を超えています。最も割合が低い圏域はA圏域の0.2%となっており、最も高い圏域はB圏域の1.4%となっています。

図表 164 低栄養状態リスク該当者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 165 低栄養状態リスク該当者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）



（５）口腔機能低下

【認定状況別リスク該当状況】

口腔機能低下のリスク該当者を認定状況別・年齢階級別にみると、65～74 歳までは一般高齢者、要支援認定者の割合に大差はみられませんが、75 歳以上からは要支援認定者が一般高齢者を大きく上回っています。

また、一般高齢者、要支援認定者では 85 歳以上、事業対象者では 75～79 歳で最も割合が高くなっています。

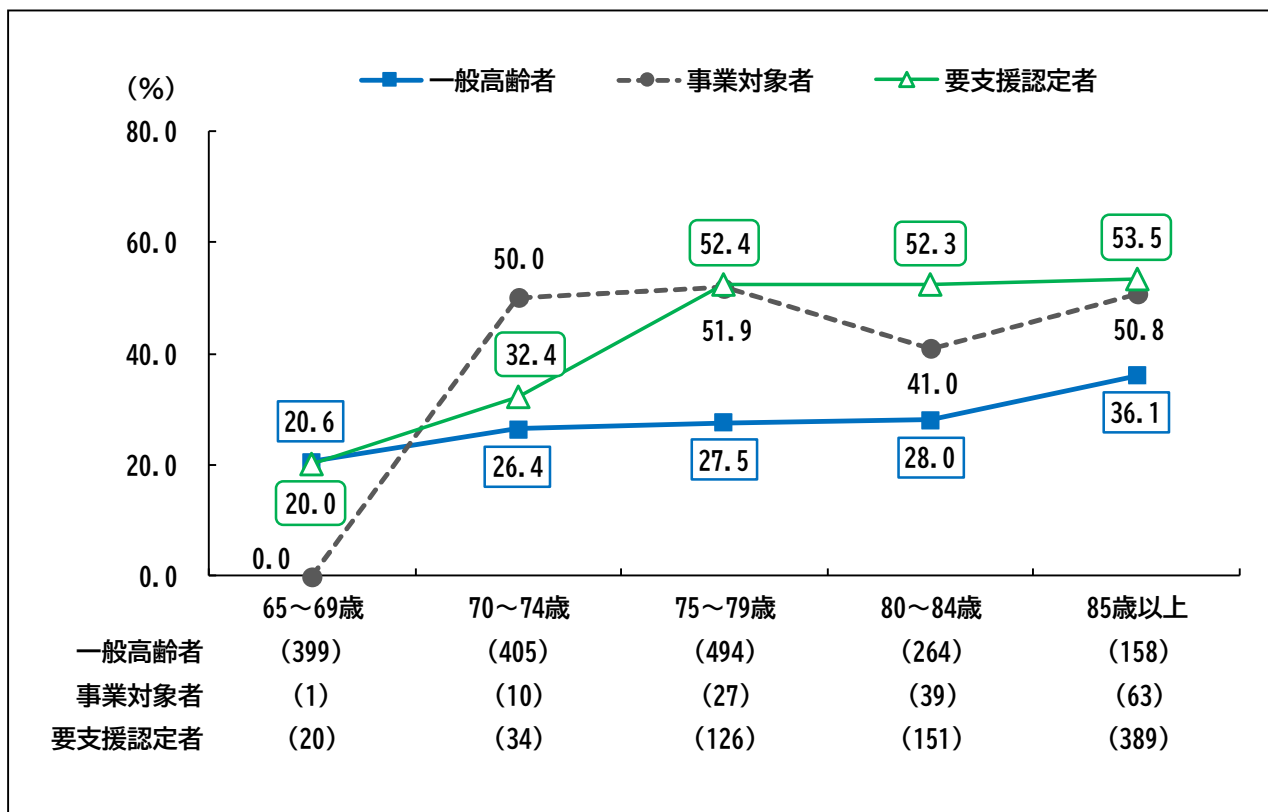
【一般高齢者のリスク該当状況】

一般高齢者のリスク該当者の割合をみると、全体平均は前回調査より 0.2 ポイント低くなり、26.5%となっています。

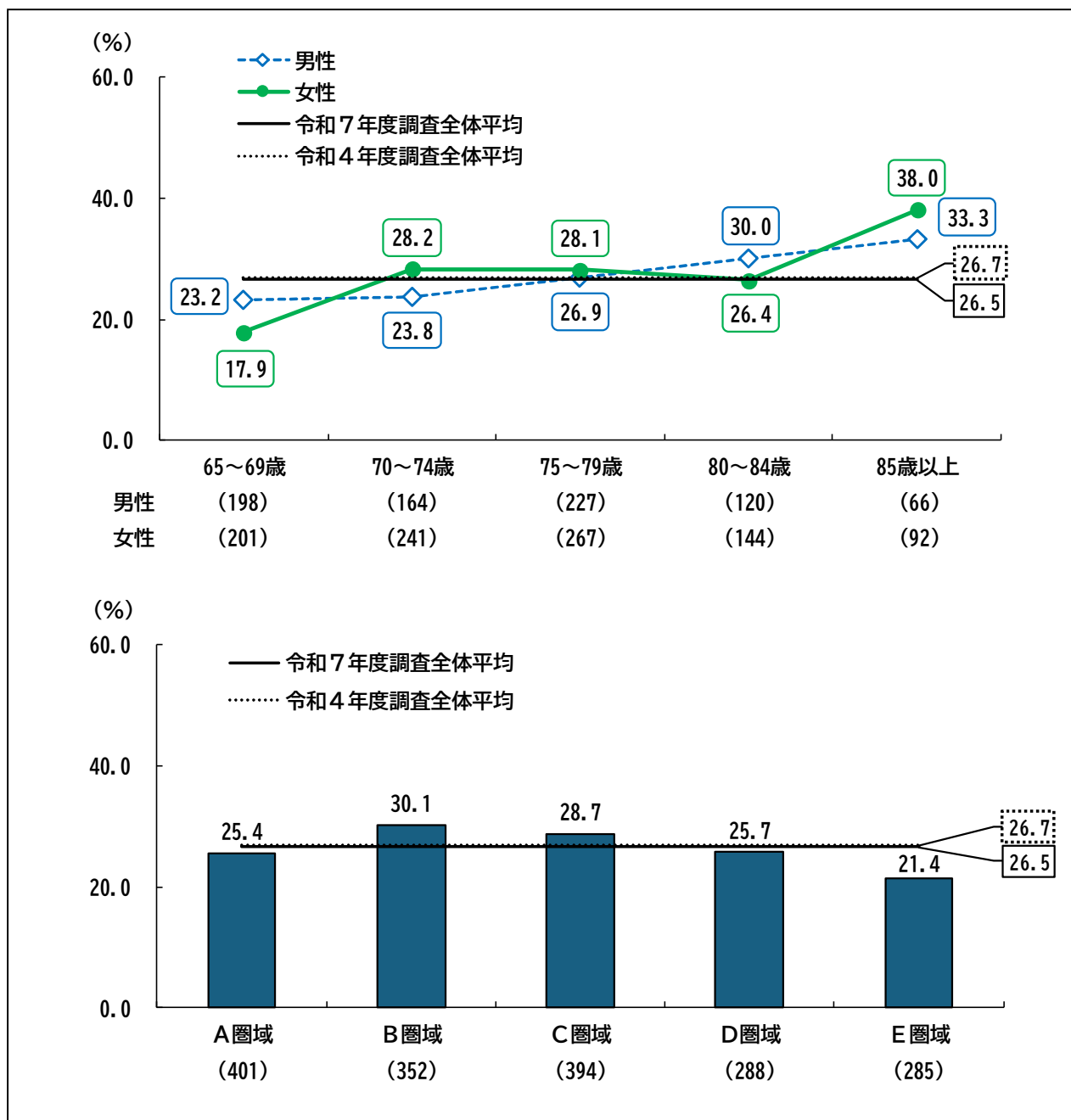
性別にみると、65～69 歳、80～84 歳では、男性のリスク該当者の割合が女性を上回っていますが、70～79 歳、85 歳以上では女性が男性を上回っています。

圏域別にみると、B 圏域、C 圏域で全体平均の 26.5%を超えています。最も割合が低い圏域はE 圏域の 21.4%となっており、最も高い圏域はB 圏域の 30.1%となっています。

図表 166 口腔機能低下リスク該当者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 167 口腔機能低下リスク該当者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）



（６）認知機能低下

【認定状況別リスク該当状況】

認知機能低下のリスク該当者を認定状況別・年齢階級別にみると、65～69 歳以外の年齢階級では、一般高齢者、要支援認定者に比べて、事業対象者でのリスク該当者の割合が高くなっています。80 歳以上の年齢階級では、いずれの認定状況においても、リスク該当者の割合は5 割を超えています。

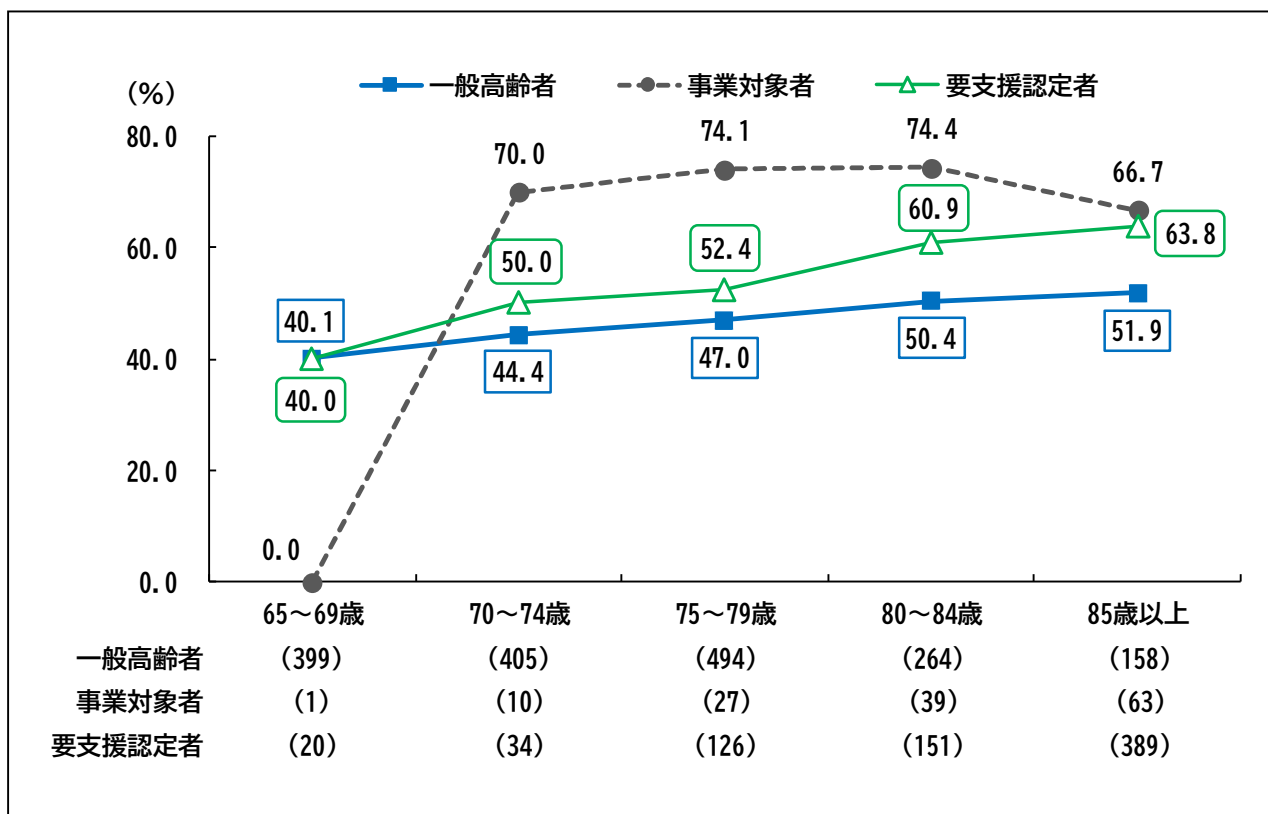
【一般高齢者のリスク該当状況】

一般高齢者のリスク該当者の割合をみると、全体平均は前回調査より 3.1 ポイント高くなり、45.8%となっています。

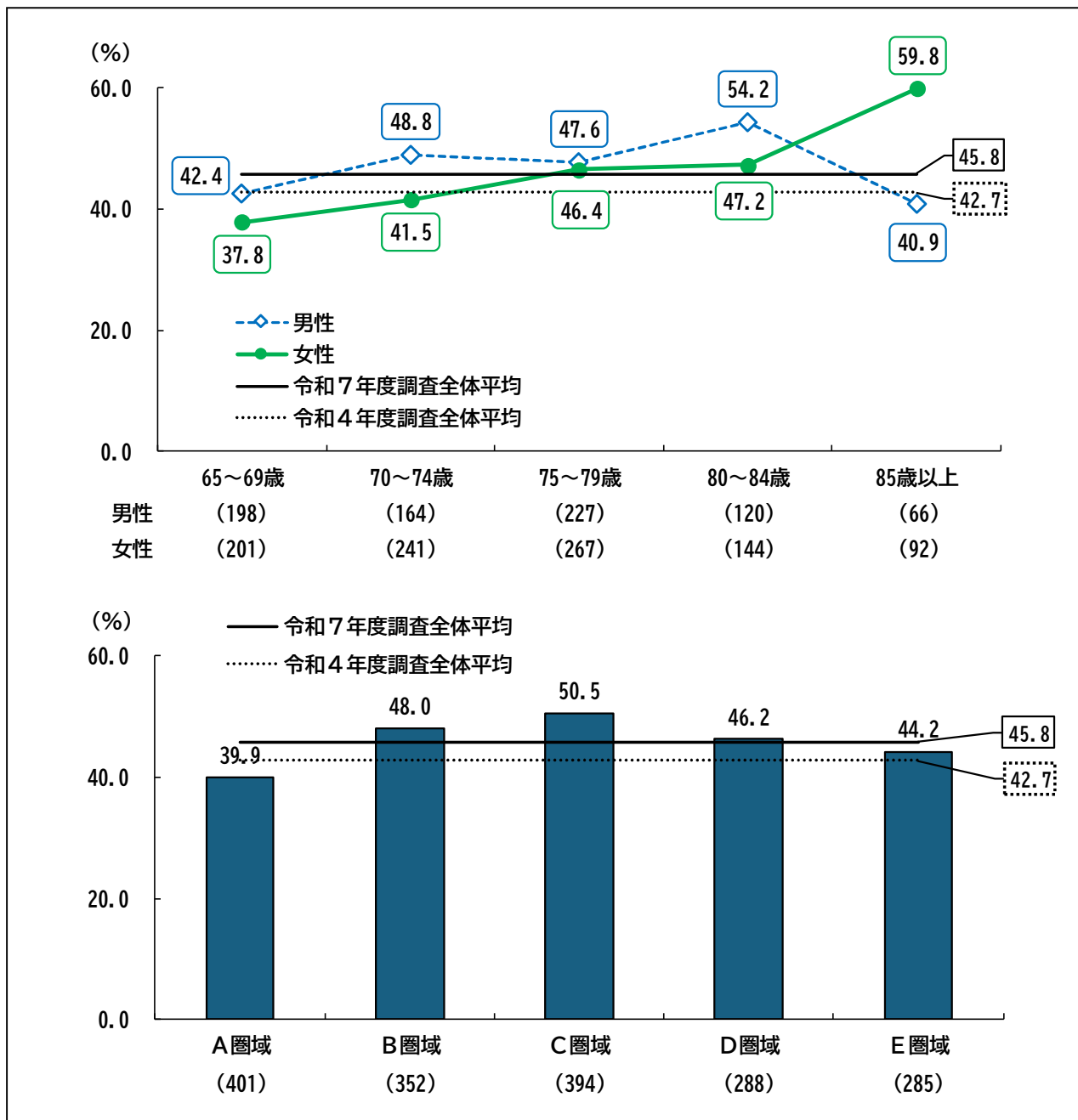
性別にみると、65～84 歳では男性の割合が上回っていますが、85 歳以上では女性が男性の割合を上回っており、その差は 18.9 ポイントとなっています。

圏域別にみると、B 圏域、C 圏域、D 圏域で全体平均の 45.8%を超えています。最も割合が低い圏域は A 圏域の 39.9%となっており、最も高い圏域はC 圏域の 50.5%となっています。

図表 168 認知機能低下リスク該当者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 169 認知機能低下リスク該当者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）



(7) うつ傾向

【認定状況別リスク該当状況】

うつ傾向のリスク該当者を認定状況別・年齢階級別にみると、要支援認定者では、一般高齢者に比べてリスク該当者の割合が高くなっています。

また、事業対象者、要支援認定者では 85 歳以上でリスク該当者の割合は 5 割を超えています。

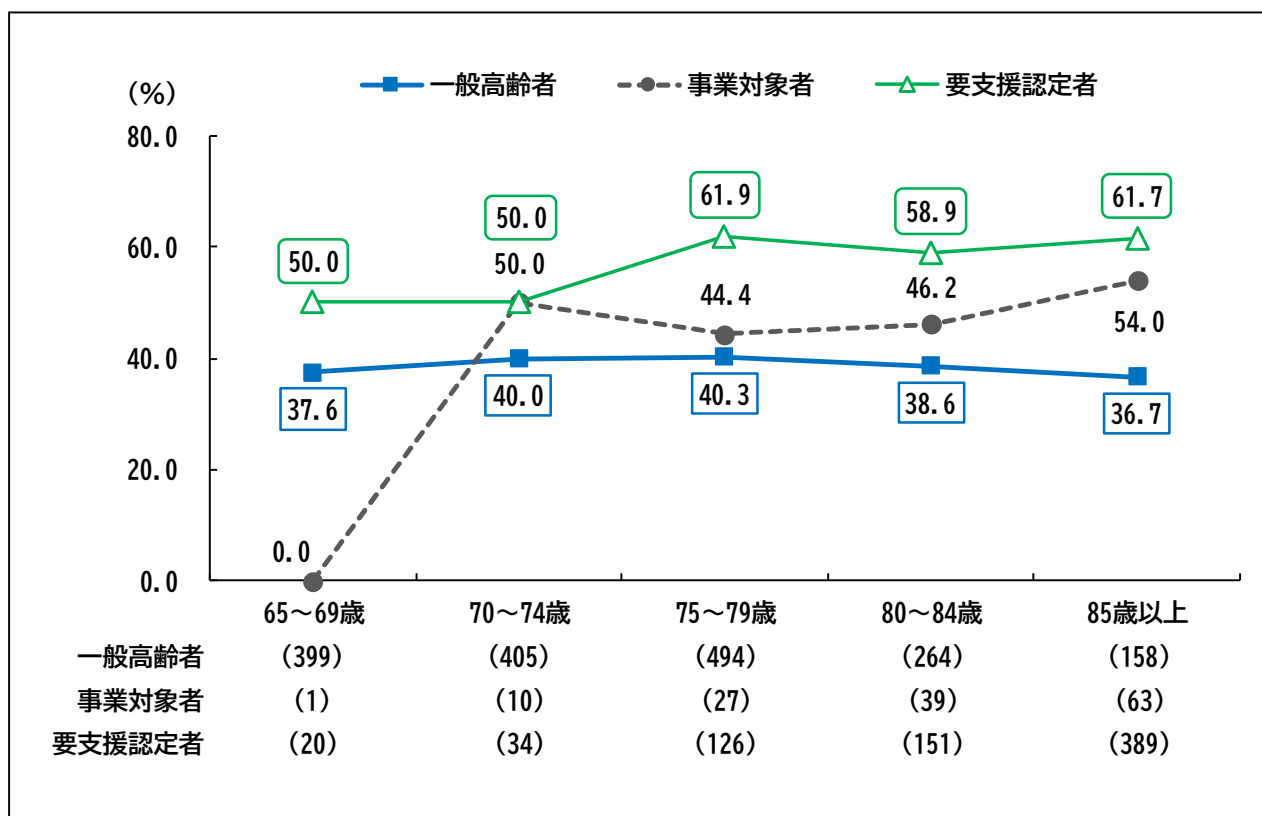
【一般高齢者のリスク該当状況】

一般高齢者のリスク該当者の割合をみると、全体平均は前回調査より 8.0 ポイント低くなり、39.0%となっています。

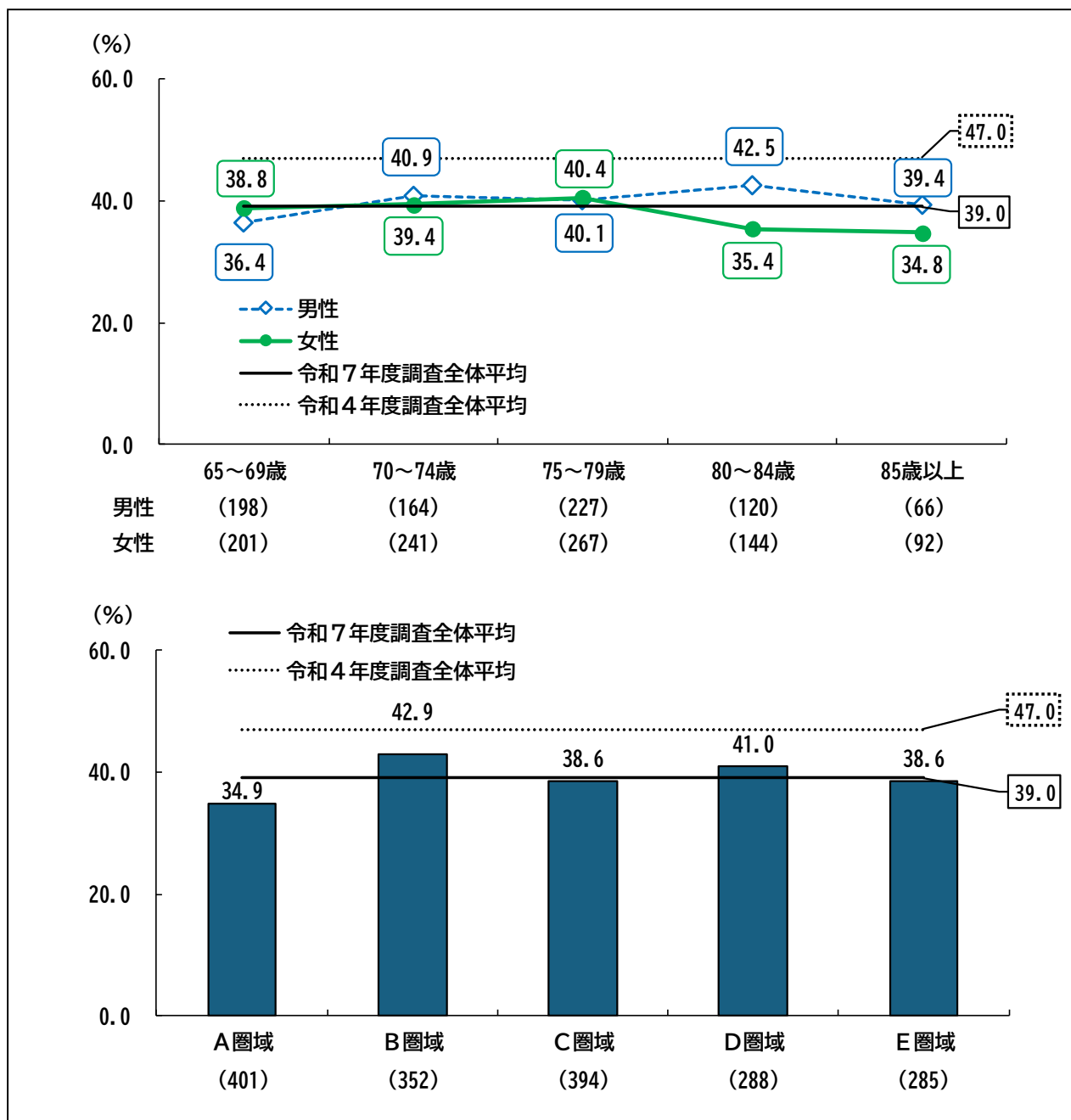
性別にみると、65～69 歳、75～79 歳では、女性のリスク該当者の割合が男性を上回っていますが、70～74 歳、80 歳以上では男性が女性を上回っています。

圏域別にみると、B 圏域、D 圏域で全体平均の 39.0%を超えています。最も割合が低い圏域は A 圏域の 34.9%となっており、最も高い圏域は B 圏域の 42.9%となっています

図表 170 うつ傾向リスク該当者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 171 うつ傾向リスク該当者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）



2 日常生活・社会参加

・判定方法（老研式活動能力指標）

① I A D L（老研指標）

問NO.	質問項目	該当する選択肢
問4（5）	バスや電車を使って1人で外出していますか。（自家用車でも可）	「1. できるし、している」 or 「2. できるけどしていない」 1点
問4（6）	自分で食品・日用品の買物をしていますか。	
問4（7）	自分で食事の用意をしていますか。	
問4（8）	自分で請求書の支払いをしていますか。	
問4（9）	自分で預貯金の出し入れをしていますか。	

- 5点：高い
- 4点：やや低い
- 0～3点：低い

②社会参加

・知的能動性（老研指標）

問NO.	質問項目	該当する選択肢
問4（10）	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。	「1. はい」：1点
問4（11）	新聞を読んでいますか。	
問4（12）	本や雑誌を読んでいますか。	
問4（13）	健康についての記事や番組に関心がありますか。	

- 4点：高い
- 3点：やや低い
- 0～2点：低い

(1) IADL－手段的日常生活動作

【認定状況別手段的自立度低下者の状況】

5点満点の評価のうち、5点を「高い」、4点を「やや低い」、「3点以下」を「低い」と評価しており、ここでは、4点以下を手段的自立度の低下者とし、低下者の割合を示しています。

手段的自立度の低下者の割合を、認定状況別・年齢階級別にみると、要支援認定者では、一般高齢者、事業対象者に比べて自立度の低下者の割合が高くなっています。また、一般高齢者では85歳以上で最も高くなっており、要支援認定者では75～79歳と85歳以上が同率で最も高くなっています。

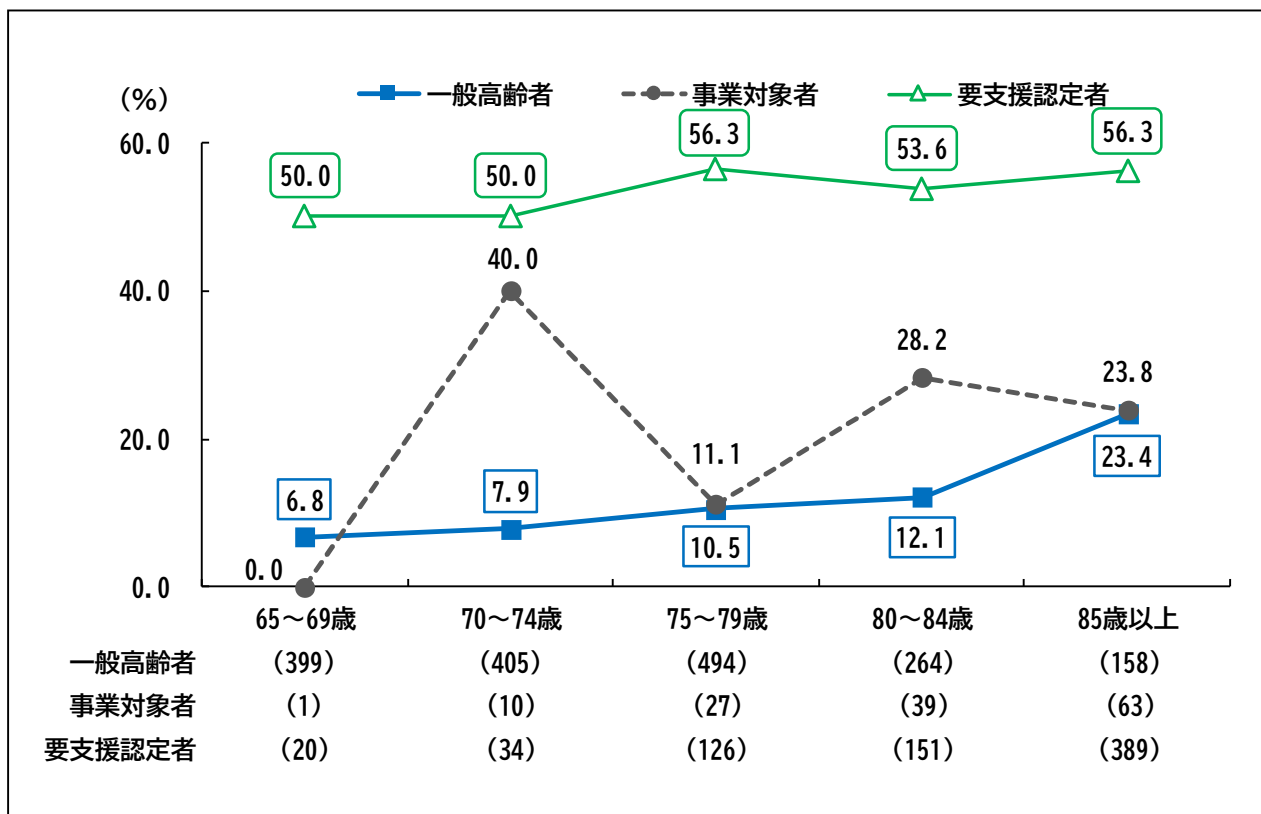
【一般高齢者の手段的自立度低下者の状況】

一般高齢者の手段的自立度の低下者の割合をみると、全体平均は前回調査より0.7ポイント高くなり、10.5%となっています。

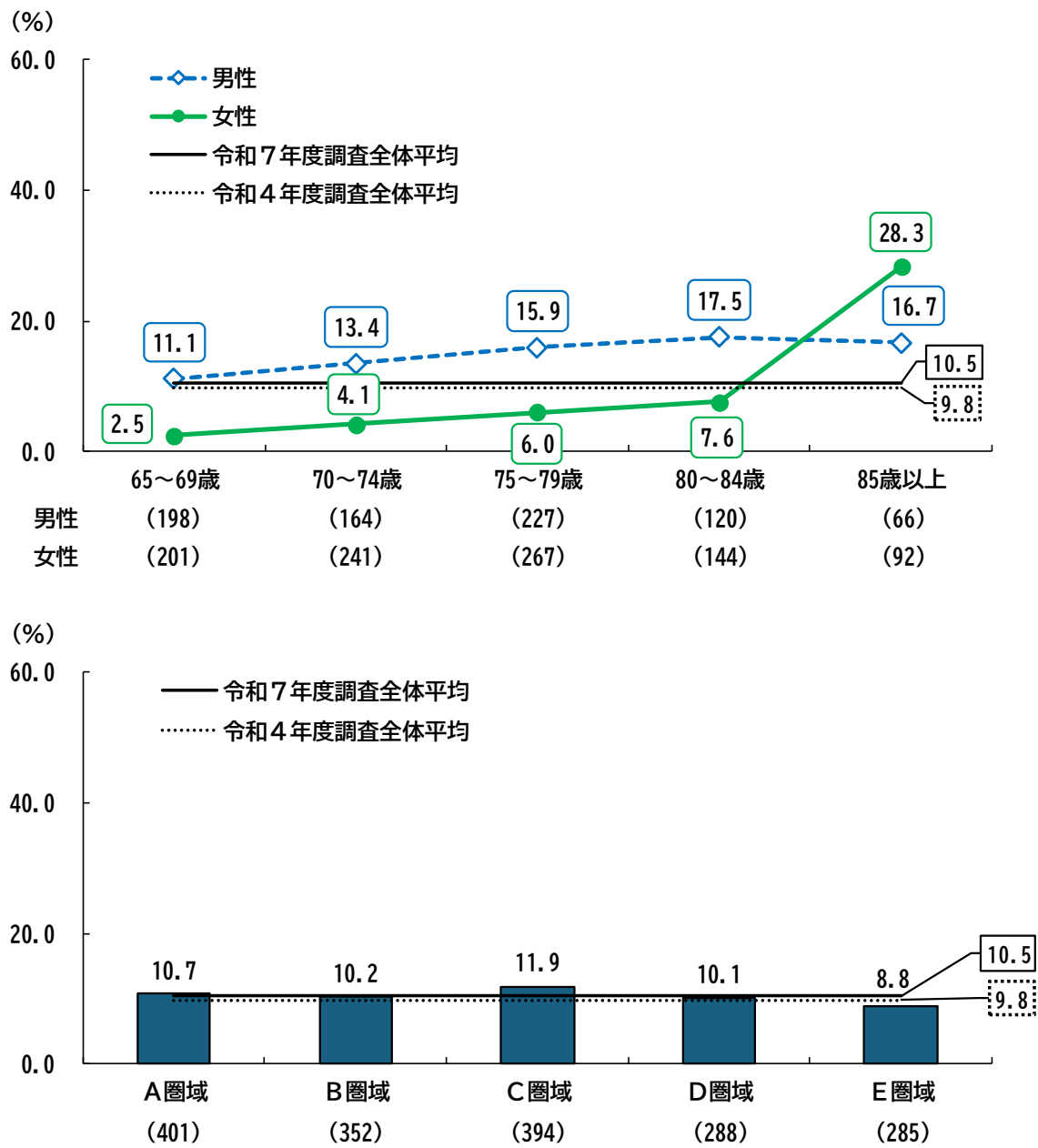
性別にみると、65～84歳までは、男性が女性の割合を上回っています。一方、85歳以上では女性が男性を上回り28.3%となっています。

圏域別にみると、A圏域、C圏域で全体平均の10.5%を超えています。最も割合が低い圏域はE圏域の8.8%となっており、最も高い圏域はC圏域の11.9%となっています

図表 172 IADL（手段的日常生活動作）低下者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 173 IADL（手段的日常生活動作）低下者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）



(2) 知的能動性

【認定状況別知的能動性低下者の状況】

4点満点の評価のうち、4点を「高い」、3点を「やや低い」、「2点以下」を「低い」と評価しており、ここでは、2点以下を知的能動性の低下者とし、低下者の割合を示しています。

知的能動性の低下者の割合を、認定状況別・年齢階級別にみると、一般高齢者、事業対象者に比べて、要支援認定者でのリスク該当者の割合が高くなっています。一般高齢者では70～84歳にかけて知的能動性低下者の割合は減少傾向がみられますが、85歳以上で再び増加しています。

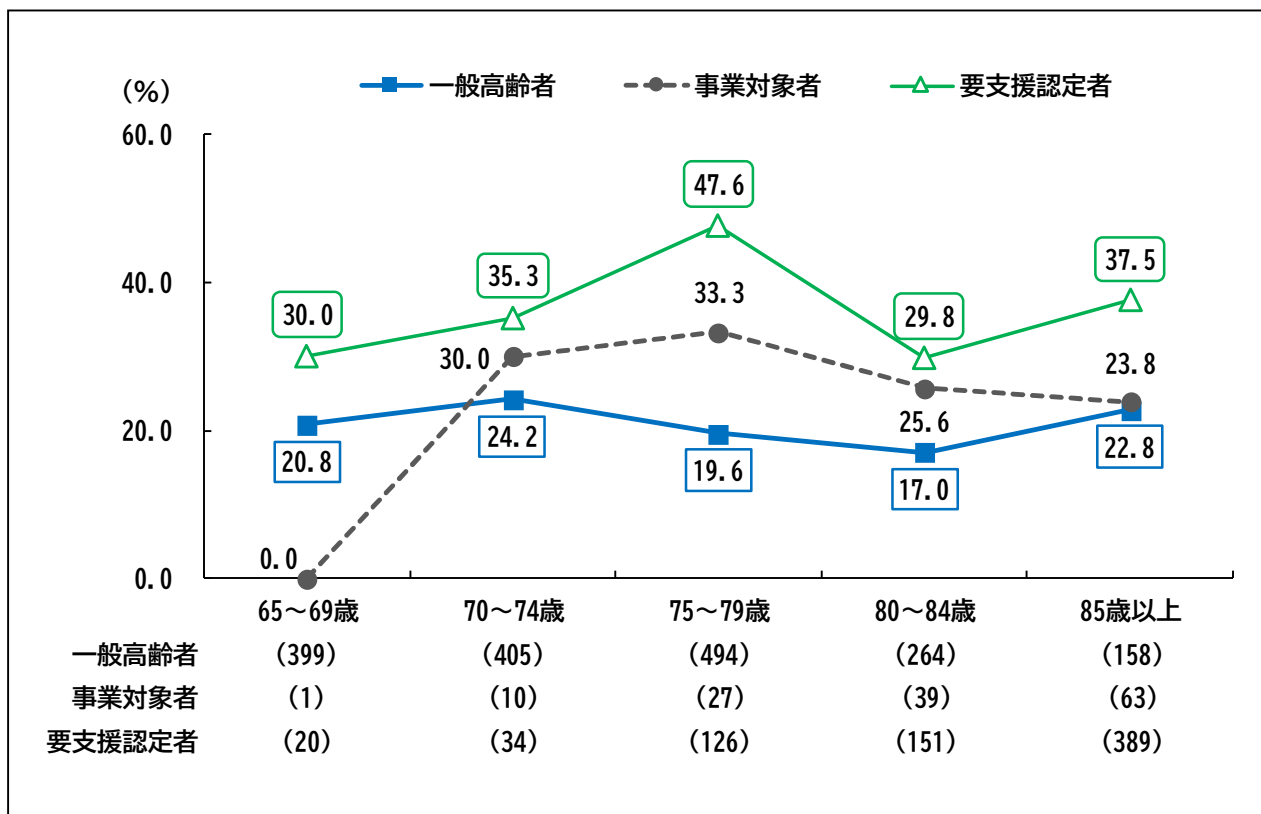
【一般高齢者の知的能動性低下者の状況】

一般高齢者の知的能動性低下者の割合をみると、全体平均は前回調査より4.5ポイント高くなり、20.9%となっています。

性別にみると、65～84歳までは、男性が女性の割合を上回っています。一方、85歳以上では女性が男性を上回り27.2%となっています。

圏域別にみると、B圏域、D圏域で全体平均の20.9%を超えています。最も割合が低い圏域はE圏域の15.8%となっており、最も高い圏域はB圏域の24.7%となっています

図表 174 知的能動性低下者の割合（認定状況別・年齢階級別）



図表 175 知的能動性低下者の割合：一般高齢者のみ（性別・年齢階級別、圏域別）

